

# 平成 26 事業年度 業務実績報告書

第 12 期（平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日まで）

平成 27 年 6 月

独立行政法人日本芸術文化振興会



平成 26 事業年度業務実績報告書

目 次

I	国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	
1	文化芸術活動に対する援助	1
2	伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演	
	伝統芸能の公開	12
	現代舞台芸術の公演	60
	青少年等を対象とした公演	79
	快適な観劇環境の形成	86
	広報・営業活動の充実	95
	劇場施設の使用効率の向上等	106
3	伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修	
	伝統芸能の伝承者の養成	110
	現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修	125
4	伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	
	伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	133
	現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	149
II	業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	157
III	財務内容の改善に関する事項	172
IV	その他主務省令で定める業務運営に関する事項	176



I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため  
とるべき措置

## 文化芸術活動に対する援助

文化芸術活動に対する援助 p.1

- 助成金の交付 p.4
- 助成金に関する情報等の収集・提供 p.8
- 基金の管理運用 p.10



## 1 文化芸術活動に対する援助

### 《中期計画の概要》

#### 1 文化芸術活動に対する援助

##### (1) 助成金の交付

ア 芸術家及び芸術団体等が実施する次に掲げる活動に対する助成金の交付

イ 助成金交付事務の効率化等

- ① 審査方法等選考に関する基準の策定及び事前公表
- ② 助成の成果等に対する評価等を踏まえた客観性・透明性の高い審査
- ③ 助成対象活動の実施状況の調査
- ④ 助成対象分野の現状等の調査
- ⑤ 地方公共団体との連携協力の推進
- ⑥ 情報通信技術等を活用した申請手続き等の合理化

ウ 芸術文化振興基金の管理運用

エ 外部資金の確保

オ 新たな審査・評価の仕組みについての検証、国際芸術交流支援事業の一元化を含む芸術文化振興のための助成事業の在り方の検討

##### (2) 助成に関する情報等の収集及び提供

### 《年度計画の概要》

#### I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

##### 1 文化芸術活動に対する援助

##### (1) 助成金の交付

ア 芸術文化振興基金の運用収入等を財源とし、次に掲げる活動に対して助成金を交付

① 芸術家及び芸術団体が行う芸術の創造又は普及を図るための活動

(a) 現代舞台芸術の公演、伝統芸能の公開その他の活動

(b) 美術の展示、映像芸術の普及その他の活動

(c) 異なる芸術の分野の芸術家又は芸術に関する団体が共同して行う活動、特定の芸術の分野に分類することが困難な活動等

② 地域の文化の振興を目的として行う活動

(a) 文化会館、美術館その他の地域の文化施設において行う公演、展示その他の活動

(b) 伝統的建造物群、遺跡、民俗芸能その他の文化財を保存し、又は活用する活動

③ 文化に関する団体が行う文化の振興又は普及を図るための活動

(a) アマチュア、青少年等の文化団体が行う公演、展示その他の活動

(b) 文化財である工芸技術又は文化財の保存技術の復元、伝承その他文化財を保存する活動

イ 文化芸術振興費補助金を財源とし、次に掲げる活動に対して助成金を交付

① 我が国の舞台芸術の水準を向上させる牽引力となっているトップレベルの芸術団体が国内で実施する舞台芸術の創造活動

② 優れた日本映画の製作活動

ウ 助成金交付事務の効率化等

① 審査方法等に関する基準を策定、公表  
審査基準の事前公表（舞台芸術分野）

② 外部有識者、プログラムディレクター及びプログラムオフィサー等による公演等調査を実施  
補助金を財源とする助成金の舞台芸術分野について事後評価を実施、結果の活用

- ・ 公演等調査：400件以上

③ 職員による会計調査を実施  
助成対象団体との意見交換を実施

- ・ 会計調査：90件以上

- ④ 助成対象分野の現状等の調査分析
- ⑤ 地域の文化振興等の活動について、地方公共団体と連携・協力して効率的な手続きの実施
- ⑥ 応募書類の電子データによる受付等の実施について検討
  - ・ 助成事業の交付申請書受理から交付決定までの期間：35 日以下
- エ 基金の管理運用について、安全性に留意するとともに、資金内容及び経済情勢の把握に努め、資金管理委員会において運用方針、金融商品等の検討を行い、効率的な方法により実施
- オ 芸術文化振興基金賛助会制度及び社会貢献信託制度の周知、芸術文化振興基金の受入拡充
  - ・ 芸術文化復興支援基金による助成事業について周知、必要な資金の確保、助成金の交付方法等について検討
- (2) 助成に関する情報等の収集及び提供
  - ア 文化芸術活動に関する情報を収集、データベース化、ホームページ等を通じて提供
    - ・ ホームページ目標アクセス件数：129,500 件
  - イ ホームページでの情報提供を充実、助成対象活動の事例集を作成・配布
  - ウ 助成対象活動の募集に当たり、芸術関係誌等への広告掲載及びホームページへの情報掲載とともに、地方公共団体及び全国の公立文化施設等へポスター等を配布
  - エ 助成対象活動の募集説明会を、東京、大阪に加え、他地域でも開催

《主要な業務実績》

1. 助成金の交付

- ・ 芸術文化振興基金助成金：交付件数 686 件、助成金交付額 1,133,300 千円
- ・ 文化芸術振興費補助金による助成金：交付件数 339 件、助成金交付額 3,464,910 千円
- ・ 公演等調査 528 件（助成対象活動数。延べ調査回数は 1,168 回）、会計調査 100 件（団体数）を実施
- ・ プログラムディレクター及びプログラムオフィサーと助成対象団体との間で助成対象活動等についての意見交換を実施
- ・ 芸術文化活動に対する助成に関する調査分析を実施
- ・ 「トップレベルの舞台芸術創造事業」の 25 年度の全ての助成対象活動について事後評価を実施

2. 助成に関する情報等の収集・提供

- ・ 日本版アーツカウンシルの取組に関するホームページ及びリーフレットの作成、助成事業について説明する動画の作成及び公開、応募に関する相談会の実施等の新たな取組を実施

3. 基金の管理運用

- ・ 芸術文化振興基金運用益：1,313,979 千円、利回り 1.96%
- ・ 芸術文化振興基金への寄付：26 年度実績 8 件 830,007,906 円
- ・ 芸術文化復興支援基金への寄付：26 年度実績 5,207,028 円

《自己点検評価》

○ 自己評定

・ 項目別評定

助成金の交付	助成に関する情報等の収集・提供	基金の管理運用
B	A	B

・ 総合評定

B
---

(根拠)

- ・ 数値目標を計画どおり達成できた。
- ・ 助成金の交付事務及び助成に関する情報等の収集・提供に関し、新たな取組を実施し、改善を図った。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 助成金の交付事務に関し、審査基準を事前公表する分野の拡大及び助成に関する基礎的情報の収集のための調査研究の実施など、新たな取組を行った。

- ・ 助成に関する情報等の収集・提供に関し、日本版アーツカウンシルの取組状況の周知を図ることにより、助成制度の変化を芸術団体に理解してもらいきっかけとすることができた。
  - ・ 芸術文化振興基金の原資が増えたことにより、今後の基金による助成の充実が図られた。また、芸術文化復興支援基金の財源が増えたことにより、今後検討する被災地の復興支援を目的とする芸術文化活動への支援策の可能性を広げることができた。
- 見直し又は改善を要する点
- ・ 助成対象活動の事後評価や応募件数の増加に向けた広報について、改善を行う必要がある。
  - ・ 「芸術文化振興基金賛助会員制度」の会員数の増加に向けた取組が必要である。

## 1-(1) 助成金の交付

《主要な業務実績》

## 1. 助成金の交付

- ・ 芸術文化振興基金助成金：交付件数 686 件、助成金交付額 1,133,300 千円  
文化芸術振興費補助金による助成金：交付件数 339 件、助成金交付額 3,464,910 千円

## 2. 助成金交付事務の効率化等

- ・ 審査基準を募集時に公表する分野を拡大（舞台芸術分野に加え、芸術文化振興基金による助成「美術の創造普及活動」「地域文化施設公演・展示活動〔美術館等展示活動〕」に係る審査基準を公表）
- ・ 公演等調査 528 件（助成対象活動数。延べ調査回数は 1,168 回）、会計調査 100 件（団体数）を実施。なお、「トップレベルの舞台芸術創造事業」については、全ての助成対象活動について調査を実施
- ・ プログラムディレクター及びプログラムオフィサーが助成対象団体との間で助成対象活動等についての意見交換を実施し、助成対象分野の状況を把握
- ・ 芸術文化活動に対する助成に関する調査分析を実施
- ・ 「トップレベルの舞台芸術創造事業」の 25 年度の全ての助成対象活動について事後評価を実施。結果を団体に伝達するとともに、専門委員会に必要な応じて提示し、27 年度の助成対象活動の審査に活用

《業務実績詳細》

## &lt;1&gt; 助成金の交付

## 1. 26年度助成金の交付実績

## (1) 芸術文化振興基金助成金（芸術文化振興基金の運用収入等を財源）

助 成 対 象 分 野		交付件数(件)	助成金交付額(千円)
芸術創造普及活動	現代舞台芸術創造普及活動	240	576,900
	音楽	(43)	(169,600)
	舞踊	(41)	(72,000)
	演劇	(156)	(335,300)
	伝統芸能の公開活動	40	52,500
	美術の創造普及活動	11	16,900
	多分野共同等芸術創造活動	17	23,000
小 計	308	669,300	
映像芸術創造活動	国内映画祭等の活動	45	75,200
	国内映画祭	(33)	(65,700)
	日本映画上映活動	(12)	(9,500)
	小 計	45	75,200
地域文化振興活動	地域文化施設公演・展示活動	184	261,200
	文化会館公演活動	(114)	(115,300)
	美術館等展示活動	(70)	(145,900)
	歴史的集落・町並み、文化的景観保存活用活動	12	10,100
	民俗文化財の保存活用活動	23	18,300
	小 計	219	289,600
文化振興普及団体活動	アマチュア等の文化団体活動	105	83,900
	伝統工芸技術・文化財保存技術の保存伝承等活動	9	15,300
	小 計	114	99,200
合 計	686	1,133,300	

## (2) 文化芸術振興費補助金による助成金（文化芸術振興費補助金を財源）

助成対象分野		交付件数(件)	助成金交付額(千円)
トップレベルの 舞台芸術創造事業	音楽	113	1,743,700
	舞踊	28	387,200
	演劇	115	780,100
	伝統芸能	31	55,700
	大衆芸能	11	90,000
	小計	298	3,056,700
映画製作への支援	劇映画	20	324,630
	記録映画	14	56,200
	アニメーション映画	7	27,380
	小計	41	408,210
合計		339	3,464,910

## 2. 27年度助成対象活動の募集実績

## (1) 芸術文化振興基金（芸術文化振興基金の運用収入等を財源）

助成対象分野		応募件数(件)	採択件数(件)	助成金交付 予定額(千円)
芸術創造普及活動	現代舞台芸術創造普及活動	551	243	541,446
	音楽	(121)	(48)	(176,756)
	舞踊	(73)	(43)	(60,646)
	演劇	(357)	(152)	(304,044)
	伝統芸能の公開活動	90	41	49,102
	美術の創造普及活動	13	8	17,496
	多分野共同等芸術創造活動	41	16	18,752
	国内映画祭等の活動	46	28	69,000
	小計	741	336	695,796
地域文化振興活動	地域文化施設公演・展示活動	310	185	237,000
	文化会館公演活動	(190)	(110)	(114,647)
	美術館等展示活動	(120)	(75)	(122,353)
	歴史的集落・町並み、文化的 景観保存活用活動	11	11	8,800
	民俗文化財の保存活用活動	28	24	17,500
	小計	349	220	263,300
文化振興普及団体 活動	アマチュア等の文化団体活動	190	110	86,423
	伝統工芸技術・文化財保存技 術の保存伝承等活動	12	10	16,600
	小計	202	120	103,023
合計		1,292	676	1,062,119

注：国内映画祭等の活動には、第2回募集分は含まれていない。

## (2) 文化芸術振興費補助金による助成金（文化芸術振興費補助金を財源）

助成対象分野		応募件数(件)	採択件数(件)	助成金交付 予定額(千円)
トップレベルの 舞台芸術創造事業	音楽	144	109	1,702,318
	舞踊	50	32	536,651
	演劇	187	105	664,692
	伝統芸能	48	20	72,029

	大衆芸能	15	11	152,678
	小 計	444	277	3,128,368
映画製作への支援	劇映画	35	9	144,950
	記録映画	21	6	34,260
	アニメーション映画	9	4	42,150
	小 計	65	19	221,360
合 計		509	296	3,349,728

注：映画製作への支援には、第2回募集分は含まれていない。

## <2>助成金交付事務の効率化等

### 1. 審査に関する基準の策定と公表

#### (1) 27年度助成対象活動の審査状況

芸術文化振興基金運営委員会及び4部会、13専門委員会において、以下のとおり審査を行った。

##### ① 芸術文化振興基金運営委員会

第36回：9月5日、第37回：1月29日、第38回：3月13日

##### ② 舞台芸術等部会（1回開催・3月）

- ・音楽専門委員会（3回開催・8月、12月、2月）
- ・舞踊専門委員会（3回開催・7月、11月、2月）
- ・演劇専門委員会（4回開催・8月（合同）、12月（合同）、2月（第1分科会1回、第2分科会1回））
- ・伝統芸能・大衆芸能専門委員会（3回開催・8月、12月、2月）
- ・美術専門委員会（3回開催・8月、12月、2月）
- ・多分野共同等専門委員会（2回開催・12月・2月）

##### ③ 映像芸術部会（1回開催・3月）

- ・劇映画専門委員会（2回開催・12月、2月）
- ・記録映画専門委員会（2回開催・12月、2月）
- ・アニメーション映画専門委員会（2回開催・12月、2月）
- ・映画祭等専門委員会（2回開催・12月、2月）

##### ④ 地域文化・文化団体活動部会（1回開催・3月）

- ・地域文化活動専門委員会（2回開催・11月、2月）
- ・文化団体活動専門委員会（2回開催・11月、2月）

##### ⑤ 文化財部会（1回開催・3月）

- ・文化財保存活用専門委員会（2回開催・12月、2月）

#### ○審査経過概要

9月5日	第36回芸術文化振興基金運営委員会において、27年度の助成対象活動募集案内の内容等を了承。
11月下旬～12月中旬	各専門委員会において、書面審査及び合議審査に先立ち、「専門委員会における審査の方法等について」を審議、決定。
12月下旬～2月下旬	各専門委員会による応募活動1件ごとの書面審査。
1月29日	第37回芸術文化振興基金運営委員会において、応募状況についての報告及び助成金の分野別配分予算案について審議、決定。
2月上旬～2月下旬	各専門委員会において、書面審査の集計結果をもとに、合議審査により、助成金交付要望書の審査及び助成対象活動を選定。
3月上旬	各部会において助成対象活動の採否及び助成金交付予定額の審議。
3月13日	第38回芸術文化振興基金運営委員会において、助成対象活動及び助成金交付予定額について審議、決定。

#### (2) 選考に関する基準の策定と公表

- ・27年度の審査に関する基準を策定し、ホームページ等で公表した。また、舞台芸術分野の審査基準に加え、新たに芸術文化振興基金による助成のうち「美術の創造普及活動」「地域文化施設公演・展示活動〔美術館等展示活動〕」に係る審査基準を公表した。

- 27年度の芸術文化振興基金による助成対象活動について、審査にあたった委員の氏名、審査の方法等とあわせ、ホームページ等において27年3月27日付けで公表した。文化芸術振興費補助金による助成対象活動については、27年度政府予算の成立後に公表することとした。

(3) 26年度助成対象活動の決定に関する公表状況

- 第1回募集分については26年3月27日付け、映画に関する第2回募集分については26年9月17日付けで、審査にあたった委員の氏名、審査の方法等とあわせてホームページ等で公表した。

2. 助成対象活動の調査

(1) 助成対象活動に対する調査

区 分	実 績
公演等調査 (助成対象活動数)	528 件 (延べ調査回数 1,168 回) (目標：400 件以上)
会計調査 (団体数)	100 件 (助成対象活動数 274 活動) (目標：90 件以上)

- 助成対象活動について、芸術文化振興基金運営委員会の専門委員及び専門調査員並びにプログラムディレクター、プログラムオフィサー及び文化芸術活動調査員による公演等調査を実施した。「トップレベルの舞台芸術創造事業」については、専門委員等及びプログラムディレクター、プログラムオフィサー等のそれぞれが、全ての助成対象活動について調査を実施した。
- 助成金に係る会計処理が適切であったかどうかを確認するため、職員による会計調査を実施した。
- プログラムディレクター及びプログラムオフィサーが助成対象団体との間で助成対象活動等についての意見交換を実施し、助成対象分野の状況把握を行った。

(2) 運営委員会等に対する情報提供

- プログラムディレクター及びプログラムオフィサーから運営委員会等に対し、助成対象活動に対する調査を踏まえた情報提供を行った。

(3) 助成対象活動に対する評価

- 「トップレベルの舞台芸術創造事業」の25年度の全ての助成対象活動について、芸術文化振興基金運営委員会による事後評価を実施した。その結果については、芸術団体の今後の活動に資するよう、プログラムディレクター及びプログラムオフィサーより当該団体に伝達するとともに、専門委員会での27年度の応募活動の審査においても必要に応じて提示し、助成対象活動の審査に活用した。

3. 地方公共団体との協力

- 地域の文化振興等の活動のための助成について、都道府県担当者向けの説明会を実施した。また、都道府県に作成を依頼している書類の見直し等により、都道府県の事務負担の軽減を図った。

4. 事務手続き等の簡素化・合理化

(1) 応募書類の電子データによる受付等の実施についての検討

- 応募書類の電子データによる受付を実施している他団体について調査を行い、実施の可能性について検討した。

(2) 助成金の交付申請書受理から交付決定までの期間の短縮

区 分	実 績	目 標
芸術文化振興基金助成金	33.1 日	35.0 日
文化芸術振興費補助金による助成金	14.9 日	35.0 日
全 体	27.1 日	35.0 日

5. 芸術文化活動に対する助成に関する調査分析

- 助成を受けた芸術団体の助成に対する意識に関する調査分析を実施した。
- 27年度の助成対象活動の応募団体に対し、日本版アーツカウンシルの試行的取組に対する認知度等を

把握するためのアンケート調査を実施し、結果をホームページに公表した。

- ・ 27年度の審査に活用するため、応募のあった助成対象活動に係る申請書類のデータを分析した。
- ・ 上記のほか、助成事業の改善に必要な各種調査研究に着手した。

#### 《数値目標の達成状況》

---

##### 【公演等調査及び会計調査の実施状況】

公演等調査：実績528件／目標400件以上（達成度132.0%）

会計調査：実績100件／目標90件以上（達成度111.1%）

【交付決定に係る期間の効率化の達成状況】 実績27.1日／目標35日以下（達成度129.2%）

#### 《自己点検評価》

---

##### ○ 自己評定

##### ・ 総合評定

B

(根拠)

- ・ 数値目標を計画どおり達成できた。
  - ・ 審査基準を事前公表する分野の拡大、助成に関する調査分析の実施など、新たな取組を行った。
- 良かった点・特色ある点
- ・ 審査基準を事前公表する分野の拡大、助成に関する基礎的な情報の収集のための調査分析の実施など、助成事業を充実させるための新たな取組を行った。
  - ・ 「トップレベルの舞台芸術創造事業」については、専門委員等及びプログラムディレクター、プログラムオフィサー等のそれぞれが、全ての助成対象活動について公演等調査を実施し、調査数を増加させることができた。
  - ・ 「トップレベルの舞台芸術創造事業」に係る芸術文化振興基金運営委員会による事後評価については、24年度助成対象活動では一部の活動のみにしか実施できなかったが、25年度助成対象活動では全ての活動に対して実施できた。
- 見直し又は改善を要する点
- ・ 助成対象活動の事後評価については、芸術団体に対する支援をより有効・適切なものとするよう、実施方法について改善を図る必要がある。
  - ・ 調査分析については、助成事業に有効に活用できるよう内容を見直すとともに、必要なものは継続的に実施する。

---

#### 1-(2) 助成に関する情報等の収集・提供

##### 《主要な業務実績》

---

##### 1. ホームページの利便性の向上

- ・ 26年度アクセス件数：148,541件（目標129,500件）
- ・ 申込みフォームや記事内容等の改善により、利便性を向上

##### 2. 助成事業の周知

- ・ 日本版アーツカウンシルの試行的取組を紹介するページをホームページ上に作成、芸術団体向けのリーフレットを作成、配布【新規】
- ・ パンフレット、ポスター、チラシ等により事業を周知
- ・ 助成対象活動の事例集を作成
- ・ 自治体主催のアートマネジメントフォーラムにおいて広報・説明【新規】

##### 3. 助成対象活動の募集

- ・ 助成事業や応募手続について説明する動画を作成し、ホームページ上で公開【新規】
- ・ 舞台公演情報サイトやチケット販売サイト、検索エンジン等のホームページにおいて、助成対象活動募集のバナー広告を掲載（9月上旬～10月下旬）
- ・ 関係団体の会報やメールマガジンにおいて募集に関する広報を実施【新規】

- ・ これまで都道府県及び政令指定都市に配布していた募集案内をその他の市町村にも送付
4. 助成事業に関する応募相談会等の開催
- ・ 団体の個別の関心事項にきめ細かく対応するための「応募相談会」を全国7会場で実施【新規】

#### 《業務実績詳細》

---

##### 1. ホームページの利便性の向上

- ・ 26年度アクセス件数：148,541件（目標129,500件）
- ・ 助成事業の内容等が分かりやすく伝わるよう、記述内容について全体的に見直しを行った。
- ・ 寄付の申込みフォームについて、より使いやすくなるよう改善した。

##### 2. 助成事業の周知

- ・ 芸術文化振興基金の概要を紹介したパンフレットを作成、配布した。
- ・ 助成事業に関する次のポスター・チラシを作成、配布した。
  - ・ 助成団体に活動時に配布・掲示してもらおう広報用ポスター、チラシ（芸術文化振興基金による助成事業の全ての採択団体に送付）
  - ・ 芸術文化復興支援基金のリーフレット、ポスター、チラシ
  - ・ 芸術文化振興基金賛助会員制度に関するリーフレット
- ・ 日本版アーツカウンシルの試行的取組に関して、趣旨・経緯、取組内容、PDCA サイクル等について解説したページをホームページ上に新規に作成した。
- ・ 日本版アーツカウンシルの試行的取組に関するリーフレットを新規に作成、配布した。
- ・ 助成対象活動の事例集を作成した。
- ・ 「日本芸術文化振興会ニュース」へ、芸術文化振興基金の概要、助成対象活動の募集案内や助成対象活動の事例など、広く助成事業に関する情報を掲載した(毎月)。
- ・ 地域の文化振興等の活動のための助成について、新たに自治体主催のアートマネジメントフォーラムにおいて広報・説明を行った。

##### 3. 助成対象活動の募集

- ・ 27年度助成対象活動の募集に関する特設ページを開設した。
- ・ 助成対象活動の募集に当たり、場所や時間を問わず芸術団体等が基本的な情報を得られるよう、助成事業や応募手続について説明した動画を新規に作成し、ホームページ上で公開した。
- ・ 舞台公演情報サイトやチケット販売サイト、検索エンジン等のホームページにおいて、27年度助成対象活動募集のバナー広告を掲載した。(9月上旬～10月下旬)
- ・ 27年度助成対象活動の募集に関するチラシ及びポスターを都道府県、政令指定都市、公立文化施設、大学などに送付し、広報協力を依頼した。
- ・ 地域の文化振興等の活動のための助成について、新たに関係団体の会報やメールマガジンにおいて募集に関する広報を行うとともに、これまで都道府県及び政令指定都市に配布していた募集案内をその他の市町村にも送付した。また、美術雑誌において広告掲載を行った。

##### 4. 助成事業に関する応募相談会等の開催

- ・ 助成事業の基本的な事項はホームページ上の動画により解説することとし、これまで実施していた「説明会」に代えて、具体的な要望書の作成方法や提出資料の内容など、団体の個別の関心事項にきめ細かく対応するための「応募相談会」を全国7会場（山形、東京、神奈川、大阪、兵庫、香川、福岡）で開催した（※25年度の「説明会」は北海道、東京、大阪、徳島の4会場）。
- ・ 地域の文化振興等の活動のための助成のうち「アマチュア等の文化団体活動」の助成の内定を受けた団体に対して、内定後に必要な手続についての説明会を新たに実施した。

#### 《数値目標の達成状況》

---

【芸術文化振興基金ホームページへのアクセス件数】実績148,541件／目標129,500件（達成度114.7%）

《自己点検評価》

---

○ 自己評定

・総合評定

A

(根拠)

- ・ 事業の周知に広く取り組んだほか、ホームページのアクセス件数については数値目標を大きく上回る実績を達成できた（達成度114.7%）。
- ・ 日本版アーツカウンシルの取組に関するホームページ及びリーフレットを新たに作成し、助成事業の周知を図った。
- ・ 助成事業や応募手続について説明する動画を新たに作成及び公開し、基本的な情報を容易に得られる環境を整備した。さらに応募相談会を新たに実施し、従来の説明会では対応しきれなかった団体の個別の関心事項に対応することができた。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 日本版アーツカウンシルの取組状況の周知を図ることにより、助成制度の変化を芸術団体に理解してもらうきっかけとすることができた。
- ・ 助成事業や応募手続について説明する動画の作成及び公開を行うことにより、場所や時間を問わず芸術団体等が基本的な情報を得られる環境を整備した。
- ・ 従来の説明会に代えて、応募相談会をより多くの会場で実施することにより、団体の個別の関心事項にきめ細かく対応することができた。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 助成対象活動への応募件数が増加するよう、応募が減少している要因を分析するとともに、広報の改善を行う。
- ・ 引き続き日本版アーツカウンシルの試行的取組に関する情報発信に努め、芸術団体に対して周知を図っていききたい。

---

1-(3) 基金の管理運用

《主要な業務実績》

---

1. 芸術文化振興基金の管理運用

- ・ 芸術文化振興基金運用益：1,313,979千円、利回り 1.96%
- ・ 地方債と金融債により運用を行った。

2. 資金の受入拡充

- ・ 芸術文化振興基金への寄付：26年度実績 8件 830,007,906円  
(25年度実績 785,000円、829,222,906円の増)
- ・ 芸術文化復興支援基金への寄付：26年度実績 5,207,028円  
(25年度実績 2,071,964円、3,135,064円の増)
- ・ 3月歌舞伎公演期間中、募金者に出演俳優のサイン入りプロマイド写真を進呈するチャリティー企画を実施（募金額 1,657,588円）

《業務実績詳細》

---

<1> 芸術文化振興基金の管理運用

- (1) 運用益 1,313,979千円
- (2) 利回り 1.96%

基金の管理運用については、安全性を重視するとともに安定した収益の確保によって継続的な助成が可能となるよう、資金の状況及び経済情勢の正確な把握に努めた。

20年4月に設置した資金管理委員会において、運用の基本的考え方を定めるとともに金融商品・運用先等の検討を行うことにより、低金利下においても必要とする運用益が得られるよう、リスクとリターンを考慮しながら引き続き効率的な管理運用に努めた。

## <2>資金の受入拡充

### 1. 資金の受入拡充

#### (1) 寄付先への感謝状の贈呈並びにホームページ等での広報

- 原則 10 万円を超える寄付者(団体)については、通常の礼状に加え感謝状を贈呈したほか、承諾を得た寄付者(団体)については、寄付者(団体)名をホームページで広報するなどの顕彰により、寄付金の増額に向けて取り組んだ。

- ・ 芸術文化振興基金への寄付：8件830,007,906円

(社会貢献寄付信託2件120,000円・賛助会員2件105,000円含む)

(25年度実績785,000円、829,222,906円の増)

#### (2) 「社会貢献寄付信託」の受入に向けた取組

- 三井住友信託銀行の「社会貢献寄付信託」の文化芸術分野の寄付先として、寄付受入に向け関係金融機関と連携し広報活動を行った。

#### (3) 「芸術文化振興基金賛助会員制度」による寄付受入

- 「芸術文化振興基金賛助会員制度」の周知を図るとともに、寄付金受入に向け広報活動を行った。

### 2. 芸術文化復興支援基金による助成

- 東日本大震災における被災地の復興支援を目的とする芸術文化活動の支援に必要な資金確保に向け、広報活動を行った。承諾を得た寄付者(団体)については、寄付者(団体)名をホームページで広報するなど募金活動に努めた。

- 募金箱及び昨年度本館大劇場ロビーに設置した寄付金付き飲料自動販売機による募金活動を引き続き実施した。

- 9月特別企画公演「東北の芸能V」において募金の呼びかけを行った(募金額 135,037円)。

- 3月歌舞伎公演期間中、ロビー中央に募金スペースを設置し、募金者に出演俳優のサイン入りプロマイド写真を進呈するチャリティー企画を実施した(募金額 1,657,588円)。

- ・ 芸術文化復興支援基金への寄付：26年度実績5,207,028円

(25年度実績2,071,964円、3,135,064円の増) (23年度以降の累計11,949,833円)

- 被災地のニーズに合った助成金の交付方法等を検討するため、関係機関と意見交換を行った。

## 《自己点検評価》

### ○ 自己評定

#### ・ 総合評定

B

(根拠)

- ・ 芸術文化振興基金の運用収入は、概ね年度計画予算どおりの実績となった。
- ・ 芸術文化振興基金及び芸術文化復興支援基金において、寄付の受入拡充及び広報等の取組を実施した。

### ○ 良かった点・特色ある点

- ・ 3月の歌舞伎公演で実施したチャリティー企画により寄付金を増加させることができた。
- ・ 芸術文化振興基金の原資が増えたことにより、今後の助成の充実につなげることができた。また、芸術文化復興支援基金の財源が増えたことにより、今後検討する被災地の復興支援を目的とする芸術文化活動への支援策の可能性を広げることができた。

### ○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 「芸術文化振興基金賛助会員制度」の会員数が伸びないことから、積極的な周知に努める。



I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため  
とるべき措置

伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

**伝統芸能の公開** p.12

伝統芸能の公開 p.13

- 歌舞伎 p.17
- 文楽 p.20
- 舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能ほか p.24
  - 舞踊 p.26
  - 邦楽 p.27
  - 雅楽 p.28
  - 声明 p.29
  - 民俗芸能・琉球芸能 p.29
  - 特別企画 p.30
- 大衆芸能 p.33
  - 定席公演（上席・中席） p.36
  - 若手新人公演（花形演芸会） p.37
  - 新春国立名人会／国立名人会 p.38
  - 特別企画公演 p.39
  - 浪曲名人会／浪曲錬声会／上方演芸特選会 p.40
- 能楽 p.42
  - 定例公演 p.44
  - 普及公演 p.45
  - 企画公演 p.45
- 組踊等沖縄伝統芸能 p.48
- 演目の拡充 p.52

伝統芸能の公開に際しての留意事項等 p.55



## 2-(1) 伝統芸能の公開

### 《中期計画の概要》

#### 2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

##### (1) 伝統芸能の公開

- ア 歌舞伎公演 年間 7 公演程度
- イ 文楽公演 年間 10 公演程度
- ウ 舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等公演 年間 21 公演程度
- エ 大衆芸能公演 年間 64 公演程度
- オ 能楽公演 年間 51 公演程度
- カ 組踊等沖縄伝統芸能公演 年間 30 公演程度

##### (4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等

- ア 適切な鑑賞者数の目標設定
- イ 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施
- ウ 伝統芸能の保存振興の中核的拠点としての公演等の実施
  - ① 国、地方公共団体、芸術団体、企業等との連携協力
  - ② 各地の文化施設等における公演等
  - ③ 国等との連携協力による公演等
- エ 国立劇場開場 50 周年記念公演等の各種記念事業の実施

### 《年度計画の概要》

#### 2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

##### (1) 伝統芸能の公開

- ア 伝統芸能の保存と振興を図るため、中期計画の方針に従い、別表 1 のとおり主催公演を実施
- イ 演目の拡充
  - ① (歌舞伎) 「復活上演候補演目一覧」の見直し  
「国立劇場文芸研究会」における上演候補台本準備稿の作成作業  
新作脚本募集の選考及び表彰
  - ② (文楽) 新作の上演  
廃絶演目の復曲作業及び上演に向けた準備作業
  - ③ (大衆芸能) 「講談」の新作脚本募集、選考及び表彰
  - ④ (能楽) 現行曲の演出を能の原点に立ち戻って見直し、上演  
他の能楽堂等で上演された優れた新作・復曲作品の上演
  - ⑤ (組踊等沖縄伝統芸能) 上演機会が少ない優れた演目の上演  
古典の様式を踏まえた新作組踊の再演

##### (4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項

- ア 外部専門家等の意見を聴取、観客へのアンケート調査を適宜実施
- イ 我が国における伝統芸能の保存振興の中核的拠点として、次のとおり公演等を実施
  - ① 共催、受託などによる公演等を別表 5 のとおり実施
  - ② 各地の文化施設等における公演等を別表 6 のとおり実施
  - ③ 国際文化交流の進展に寄与する公演等を別表 7 のとおり実施

## 2-(1)-① 伝統芸能の公開

### 《主要な業務実績》

#### 1. 公演実績

- ・ 歌舞伎 7 公演、文楽 10 公演、舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等 22 公演、大衆芸能 64 公演、能楽 51 公演（以上計 154 公演）、組踊等沖縄伝統芸能 30 公演、合計 184 公演を計画どおり実施
- ・ 上記のほか大衆芸能 1 公演を追加実施（2 月演芸場）
- ・ 伝統芸能分野全体で入場者数、入場率ともに年度計画の目標を達成（達成度 102.2%）
- ・ 文楽、能楽、組踊等沖縄伝統芸能の各分野で入場者数・入場率の目標を達成
- ・ 国立演芸場開場 35 周年記念公演の実施（4～6 月、計 13 公演）
- ・ 国立文楽劇場開場 30 周年記念公演の実施（文楽劇場の全公演、本館 5 月文楽公演）
- ・ 国立劇場おきなわ開場 10 周年記念公演の実施（国立劇場おきなわ 5 公演、本館 4 月琉球芸能公演）

#### 2. 演目の拡充

- ・ 歌舞伎の復活上演候補演目について、上演候補台本準備稿の作成作業を実施
- ・ 歌舞伎の新作脚本募集を実施。佳作 1 篇、清栄会奨励賞特別賞 1 篇を選出
- ・ 文楽において、新作を上演（2 公演）。また、廃絶演目の復曲作業を実施
- ・ 大衆芸能新作脚本募集（講談部門）を実施。優秀作 1 篇、佳作 2 篇、清栄会奨励賞 2 篇を選出
- ・ 能楽における新作及び復曲、演出の見直しによる上演（6 公演）
- ・ 組踊等沖縄伝統芸能における上演機会が少ない優れた演目・新作の上演（8 公演）

### 《業務実績詳細》

#### 1. 公演実績

分野名	公演数 劇場	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
歌舞伎	7 公演	実績	209 回	164 日	214,922 人	(67.7%)	317,680 人
	本館大劇場	計画	212 回	167 日	225,000 人	(69.8%)	322,240 人
文楽	10 公演	実績	388 回	176 日	201,017 人	(79.5%)	252,857 人
	本館小劇場、文楽劇場	計画	388 回	176 日	178,700 人	(70.7%)	252,857 人
舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等	22 公演	実績	34 回	25 日	17,178 人	(73.2%)	23,481 人
	本館大小劇場、文楽劇場	計画	35 回	25 日	18,580 人	(74.3%)	25,001 人
舞踊	5 公演	実績	9 回	6 日	4,358 人	(69.4%)	6,278 人
	本館大小劇場、文楽劇場	計画	10 回	6 日	5,410 人	(69.4%)	7,798 人
邦楽	5 公演	実績	7 回	6 日	3,107 人	(72.4%)	4,293 人
	本館小劇場、文楽劇場	計画	7 回	6 日	3,300 人	(76.9%)	4,293 人
雅楽	2 公演	実績	2 回	2 日	1,108 人	(93.9%)	1,180 人
	本館小劇場	計画	2 回	2 日	1,080 人	(91.5%)	1,180 人
声明	1 公演	実績	1 回	1 日	1,267 人	(78.7%)	1,610 人
	本館大劇場	計画	1 回	1 日	1,330 人	(82.6%)	1,610 人
民俗芸能	2 公演	実績	4 回	2 日	1,608 人	(68.1%)	2,360 人
	本館小劇場	計画	4 回	2 日	1,620 人	(68.6%)	2,360 人
琉球芸能	1 公演	実績	2 回	2 日	972 人	(82.4%)	1,180 人

	本館小劇場	計画	2回	2日	880人	(74.6%)	1,180人
特別企画	6公演	実績	9回	6日	4,758人	(72.3%)	6,580人
	本館大小劇場、文楽劇場	計画	9回	6日	4,960人	(75.4%)	6,580人
大衆芸能	65公演	実績	316回	289日	51,324人	(56.0%)	91,587人
	演芸場、文楽劇場、 文楽劇場小ホール	計画	313回	288日	52,760人	(58.2%)	90,687人
能楽	51公演	実績	60回	55日	36,289人	(96.5%)	37,620人
	能楽堂	計画	60回	55日	35,550人	(94.5%)	37,620人
小計	155公演	実績	1,007回	709日	520,730人	(72.0%)	723,225人
		計画	1,008回	711日	510,590人	(70.1%)	728,405人
組踊等沖縄伝統芸能	30公演	実績	43回	38日	18,139人	(74.2%)	24,450人
	国立劇場おきなわ大小劇場	計画	43回	38日	16,461人	(67.0%)	24,574人
総合計	185公演	実績	1,050回	747日	538,869人	(72.1%)	747,675人
		計画	1,051回	749日	527,051人	(70.0%)	752,979人

- 3月歌舞伎公演「梅雨小袖昔八丈-髪結新三-」「三人形」は、政府主催「東日本大震災四周年追悼式」開催のため、3月10日、11日を休演とした。
- 5月舞踊公演「動物のいる風景」は、出演交渉等の難航により、計画時2回のところ1回で実施した。
- 大衆芸能分野において、追加貸切公演を計2回実施した（10月上席公演）。
- 大衆芸能分野において、2月特別企画公演「嘶家ディキシーバンド 『にゅうおいらんず』特別公演」を追加で実施した。

## 2. 演目の拡充

### (1) 復活上演候補演目の上演候補台本準備稿の作成作業

- 国立劇場文芸研究会が作成する上演用準備台本の原稿として、補綴作業を進めている3作品のうち、「太平記忠臣講釈」の補綴が終わり、上演用準備台本を作成した。
- 復活上演候補作品調査検討委員会において、舞踊の候補作品「命懸色の二番目」の補綴内容について、委員と共に検討を重ねた。
- 従来の「復活上演候補作品一覧」を上演用準備台本の対象候補作品の一覧として見直すに当たり、次世代の俳優による上演を想定して、委員から候補演目の提出を受けた。

### (2) 歌舞伎の新作脚本募集

25年度に受け付けた応募作品166篇の中から、佳作1篇と公益財団法人清栄会奨励賞特別賞1篇を決定した。

佳作「婦学六景重宝記」森真実、清栄会奨励賞特別賞「足軽と局-秋暮宵戯言」齊藤信一

### (3) 文楽における新作の上演及び復曲等の上演準備作業

- 本館9月文楽公演において、新作「不破留寿之太夫」を上演した。舞台装置・美術を担当した石井みつるが、この作品で平成26年度読売演劇大賞優秀スタッフ賞を受賞した。
- 文楽劇場夏休み文楽特別公演第1部「親子劇場」で、小佐田定雄氏の新作文楽「かみなり太鼓」を上演した。また、27年度夏休み文楽特別公演第1部「親子劇場」での上演に向けて、竹田真砂子氏に新作文楽「ふしぎな豆の木」の台本作成を依頼した。
- 文楽劇場では、「蘭奢待新田系図」の「幸内住家の段」の復曲作業が完了した。また、「義経腰越状」の「泉三郎館の段中」の復曲作業を進めた。

### (4) 大衆芸能の新作脚本募集

「講談」部門の脚本を募集した（応募総数76篇）。選考会において優秀作1篇、佳作2篇及び公益財団法人清栄会による奨励賞2篇を決定した。

優秀作「外相の右足」小櫃知克、佳作「箱根の銀鱗」田中哲也、「白魚のおゆき」奥山景布子  
清栄会奨励賞「AID」坂東誠一、「おとめ桜のものがたり・異説」滝沢とも子

(5) 能楽における新作及び復曲、演出の見直しによる上演

- ・ 新作の上演
  - 10月企画公演 新作小舞「雪づくし」「雪逍遥」(国立能楽堂委嘱初演)
- ・ 演出の見直しによる上演
  - 9月企画公演 新演出 観阿弥時代の能「百万」(能を再発見するV-観阿弥時代の百万一)
  - 2月企画公演 新演出 能「古作花筐」(能を再発見するVI-世阿弥の花筐一)
- ・ 他の能楽堂等で上演された優れた新作及び復曲の再演
  - 7月企画公演 復曲能「敷地物狂」
  - 8月企画公演 新作狂言「大和西瓜」
  - 1月特別公演 復曲狂言「茄子」

(6) 組踊等沖縄伝統芸能における新作組踊等の上演

- ・ 上演機会が少ない優れた演目の上演
  - 7月定期公演「月の豊多」
  - 9月定期公演「未生の縁」
  - 1月定期公演「辺戸の大主」
- ・ 新作の上演・再演
  - 5月企画公演 新作組踊「聞得大君誕生」再演、新作舞踊「蓬莱島」
  - 10月企画公演 新作組踊「喜劇『鶴亀二児其ノ後ノ嘶〜続・二童敵討〜』」
  - 10月・11月生徒のための組踊鑑賞教室 新作組踊「組踊版シンデレラ〜ようこそ組踊城へ〜」
  - 12月企画公演「創作舞踊」

《自己点検評価》

○ 自己評定

・ 項目別評定

歌舞伎	文楽	舞踊・邦楽・雅楽・ 声明・民俗芸能ほか	大衆芸能	能楽	組踊等沖縄伝統芸能	演目の拡充
A	A	B	B	A	B	B

・ 総合評定

B
---

(根拠)

- ・ 各分野とも年度計画どおり公演を実施し、大衆芸能分野では追加公演を実施した。
- ・ 伝統芸能分野全体で目標入場者数を達成した(達成度102.2%)。
- ・ 歌舞伎・文楽公演、歌舞伎・邦楽公演での同演目上演、文楽・能楽・組踊等沖縄伝統芸能公演での新作の上演、初心者向けの入門公演〈伝統芸能の魅力〉シリーズの開始など、各分野において国立劇場ならではの企画を実施した。
- ・ 歌舞伎・文楽における復活・復曲に向けた取組や、能楽公演での現行曲の演出の見直し、組踊等沖縄伝統芸能公演での上演機会が少ない優れた演目の上演など、演目の拡充につながる取組を実施した。

○ 良かった点・特色ある点

(本館)

- ・ 9月文楽公演、10月歌舞伎公演において「双蝶々曲輪日記」を、11月歌舞伎公演、12月文楽公演において「伽羅先代萩」を上演し、観客に文楽と歌舞伎で同一演目を比較して楽しんでいただいた。また、10月邦楽公演と初春歌舞伎公演で「八犬伝」を取り上げ、本作品の広がりを示すことができた。いずれも国立劇場ならではの企画として成果を上げた。
- ・ 12月歌舞伎公演では、「岡崎」の場を復活して「伊賀越道中双六」を通して上演した成果が評価され、歌舞伎作品として初めて読売演劇大賞の大賞及び最優秀作品賞を受賞した。
- ・ 9月文楽公演では、新作「不破留寿之太夫」を上演し、新たな観客層の動員に成功した。
- ・ 歌舞伎・文楽公演について、公演演目に因んだイベントの実施や幅広いニーズに応える観劇プランの提供、演劇フリーペーパーへの記事広告掲出など、多様な企画・アプローチによる団体誘客を行った。また、英文スケジュールチラシのデザインを一新し、外国人に対するアピールを強化した。
- ・ 伝統芸能に親しみを感じてもらうための新たな企画として〈伝統芸能の魅力〉シリーズを開始し、6

月の2週にわたり、雅楽・声明・日本舞踊・邦楽の4ジャンルの公演を行った。

(演芸場)

- ・ 4月から6月の間、定席公演5公演、若手新人公演3公演、国立名人会3公演、特別企画公演2公演、計13公演を『国立演芸場開場35周年記念公演』と銘打って実施した。特に6月の定席は、一般社団法人落語協会、公益社団法人落語芸術協会の幹部及び五代目圓楽一門が日替りで出演するなど、記念公演ならではの番組構成となった。
- ・ 特別企画公演では8月に1年半ぶりに「上方落語会」、2月には13年半ぶりに太神楽曲芸を主体とした「太神楽十八番 曲芸フェスティバル」を開催するなど、国立演芸場ならではの特色ある公演を企画することができた。

(能楽堂)

- ・ 5月「演出の様々な形」、9月と2月の「能を再発見する」など、国立能楽堂ならではの特色ある企画公演を実施し、成果を上げた。
- ・ 能楽公演全体で目標入場者数を達成、96.5%という高い入場率を達成した。

(文楽劇場)

- ・ 『国立文楽劇場開場30周年記念公演』として、26年4月から27年3月のすべての主催公演（文楽5公演、舞踊・邦楽等4公演、大衆芸能8公演）において記念公演を行った。
- ・ 文楽、大衆芸能において計画を大きく上回る入場者数を得て好評であった。

(国立劇場おきなわ)

- ・ 26年1月より続く開場10周年記念特別公演の上演と、マスコミの報道を通じた県民の関心の高まり等もあり、年間を通して集客が好調であったため、入場者数（18,139人）及び入場率（74.2%）ともに過去最高を記録することができた。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 歌舞伎、舞踊・邦楽等、大衆芸能分野では目標入場者数を達成することができなかった。企画構成、広報宣伝等について一層の検討を行い、集客増を図っていきたい。

<1> 歌舞伎

《主要な業務実績》

1. 公演実績

- ・ 歌舞伎公演5公演と歌舞伎鑑賞教室2公演を計画どおり実施
- ・ 上演機会の少ない場面等を含む通し狂言の上演（10月「双蝶々曲輪日記」、12月「伊賀越道中双六」、初春「南総里見八犬伝」）
- ・ 12月公演「伊賀越道中双六」は、歌舞伎作品として初めて読売演劇大賞の大賞及び最優秀作品賞を受賞
- ・ 鑑賞教室としては初めて新作歌舞伎を上演（6月「ぢいさんばあさん」）

2. 営業・広報

- ・ マスコミ各社への記者会見や取材依頼のほか、各種媒体により公演情報を周知
- ・ 公演演目に因んだイベントの実施や幅広いニーズに応える観劇プランの提供など、多様な企画による団体誘客
- ・ 英文スケジュールチラシのデザインを一新し、外国人に対するアピールを強化

3. 外部専門家等の意見

- ・ 公演専門委員会を開催し、外部専門家等の意見を聴取して、後の事業運営に活用

4. アンケート調査

- ・ 全7公演で実施(7回)、満足回答率 81.6%

《制作方針》

10月公演は、義太夫狂言の傑作「双蝶々曲輪日記」を11年ぶりに通し狂言として上演する。11月公演は、伊達騒動物の代表作「伽羅先代萩」を16年ぶりに取り上げ、過去2回の上演時にはなかった「竹の間」を場割に加え、通し狂言として上演する。12月公演は、再演が望まれながら44年間上演が途絶えていた「岡崎」を中心に、通し狂言として「伊賀越道中双六」を上演する。平成27年の初春公演は、曲亭馬琴の長編読本「南総里見八犬伝」の刊行200年にちなみ、同名作品を24年ぶりに通し狂言として上演する。3月公演は、中村橋之助、中村錦之助を主軸に、ベテランから若手まで共演者を揃え、世話物の傑作「梅雨小袖昔八丈－髪結新三－」と名作舞踊「三人形」を上演する。

入門公演では、歌舞伎鑑賞教室を実施し、6月には鑑賞教室としては初めて、戦後に書かれた新作歌舞伎「ぢいさんばあさん」を、7月は義太夫狂言の名作として人気の高い「傾城反魂香」を取り上げ、解説を付して歌舞伎の継承、普及を図る。

《業務実績詳細》

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
10月歌舞伎公演 通し狂言「双蝶々曲輪日記」	本館 大劇場	10/4(土)	実績	24回	24日	17,466人	(47.9%)	36,480人
		～27(日)	計画	24回	24日	21,300人	(58.4%)	36,480人
11月歌舞伎公演 通し狂言「伽羅先代萩」		11/2(日)	実績	24回	24日	17,299人	(47.4%)	36,480人
		～25(火)	計画	24回	24日	19,800人	(54.3%)	36,480人
12月歌舞伎公演 通し狂言「伊賀越道中双六」		12/3(水)	実績	24回	24日	20,922人	(57.4%)	36,480人
		～26(金)	計画	24回	24日	23,400人	(64.1%)	36,480人
初春歌舞伎公演 通し狂言「南総里見八犬伝」		1/3(土)	実績	25回	25日	29,128人	(76.7%)	38,000人
		～27(火)	計画	25回	25日	28,000人	(73.7%)	38,000人
3月歌舞伎公演 「梅雨小袖昔八丈－髪結新三－」「三人形」		3/4(水)	実績	22回	22日	15,236人	(45.6%)	33,440人
		～27(金)	計画	25回	25日	18,400人	(48.4%)	38,000人
【歌舞伎公演 小計】	5公演 (計画:5公演)	実績	119回	119日	100,051人	(55.3%)	180,880人	
		計画	122回	122日	110,900人	(59.8%)	185,440人	

6月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」 「ぢいさんばあさん」	本館 大劇場	6/2(月)	実績	46回	23日	53,915人	(77.1%)	69,920人
		～24(火)	計画	46回	23日	53,100人	(75.9%)	69,920人
7/3(木)		実績	44回	22日	60,956人	(91.1%)	66,880人	
～24(木)		計画	44回	22日	61,000人	(91.2%)	66,880人	
【歌舞伎鑑賞教室 小計】 2公演 (計画:2公演)			実績	90回	45日	114,871人	(84.0%)	136,800人
			計画	90回	45日	114,100人	(83.4%)	136,800人
【歌舞伎合計】 7公演 (計画:7公演)			実績	209回	164日	214,922人	(67.7%)	317,680人
			計画	212回	167日	225,000人	(69.8%)	322,240人

※ 3月歌舞伎公演「梅雨小袖昔八丈-髪結新三-」「三人形」は、政府主催「東日本大震災四周年追悼式」開催のため、3月10日、11日を休演とした。

## 2. 営業・広報

- ・ マスコミ各社への出演者・関係者の記者会見及び取材依頼、テレビ出演、ポスター、チラシ、ホームページ、あぜくら会報、振興会ニュース等での広報、また都内の比較的小規模な劇場におけるチラシ設置等により、公演情報の周知拡大を図り、一般の集客に努めた。
- ・ 団体の営業活動として、公演演目に因んだイベントを実施したほか、集客に困難が予想される公演について、観劇団体の幅広いニーズに応える特別価格の「プログラム付きプラン」や付加価値のある「バックステージ付きプラン」「歌舞伎セミナー付きプラン」などの観劇プランを各種提供して、団体客の増加に努めた。
- ・ 海外からの旅行者の観劇を増やすため、旅行代理店・ホテル等との連携強化を一層すすめた。英文スケジュールチラシのデザインを見直し、外国人に対して訴求力のあるものにして、劇場内のほか空港・観光案内所・主要ホテル等に配布した。
- ・ 東京駅前KITTE内観光案内所において、2月文楽公演及び3月歌舞伎公演の期間中(4週間)英文の歌舞伎ポスターを掲示するとともに、チケットの委託販売を行った。
- ・ 職員のコミュニティー等を活用した「おすすめキャンペーン」を引き続き実施し、26年度は特に集客努力が重要となる11月歌舞伎公演と3月歌舞伎公演を「実施重点月」に指定して、理事長及び営業部担当理事のリーダーシップの発揮により、各職員に一層の働きかけを行った。
- ・ 9月文楽公演と10月歌舞伎公演での同一演目上演による観客増加策として、9月文楽公演の観客全員に引換券を配布し、10月歌舞伎公演において引換券を持参された方に筋書をプレゼントするサービスを実施した(配布数2,557部)。
- ・ 10月邦楽公演のテーマと初春歌舞伎公演の演目を同じ「八犬伝」としたため、10月邦楽公演の観客全員に特典付チラシを配布し、初春歌舞伎公演において特典付チラシを持参された方に筋書をプレゼントするサービスを実施した(配布数137部)。
- ・ 11月歌舞伎公演と12月文楽公演での同一演目上演による観客増加策として、公演チラシ、振興会ホームページ、国立劇場メールマガジン、あぜくら会報、振興会ニュースでダブル観劇キャンペーンを周知し、12月文楽公演において両公演のチケットを持参された方に「立版古 仮名手本忠臣蔵」をプレゼントするサービスを実施した(配布数903枚)。

## 3. 外部専門家等の意見

- ・ 公演専門委員会を開催し、外部専門家等の意見を聴取して、後の事業運営に役立てた。

## 4. アンケート調査

全7公演で実施(7回)した。

回答数3,912人(配布数5,230人、回収率74.8%)。回答者の81.6%が概ね満足と答えた(3,193人)。

### 【特記事項】

- ・ 12月公演「伊賀越道中双六」が読売演劇大賞の大賞及び最優秀作品賞を受賞した。
- ・ 平成26年度(第69回)文化庁芸術祭主催公演(10月公演)
- ・ 平成26年度(第69回)文化庁芸術祭協賛公演(11月公演)

- ・ 字幕表示装置により、演奏に合わせて詞章を表示し、鑑賞の助けとした（7月鑑賞教室）。
- ・ 政府主催「東日本大震災四周年追悼式」開催のため、3月10日、11日を中止とした（3月公演）。
- ・ 12月公演及び3月公演において、東日本大震災被災者特別招待を実施した（招待者数12月622名、3月657名）。
- ・ あぜくら会員向けに、「国立劇場12月歌舞伎公演『通し狂言 伊賀越道中双六』を楽しむために」と題した催しを実施した（10月21日、演芸場、参加人数274名）。
- ・ 3月公演において、出演者の協力により、東日本大震災復興支援の募金を行い、募金者にサイン入りブロマイドをプレゼントした。

#### 《数値目標の達成状況》

##### 【目標入場者数の達成状況】

本公演	実績 100,051 人 / 目標 110,900 人（達成度 90.2%）
鑑賞教室	実績 114,871 人 / 目標 114,100 人（達成度 100.7%）
合計	実績 214,922 人 / 目標 225,000 人（達成度 95.5%）

#### 《自己点検評価》

##### ○ 自己評定

##### ・ 総合評定

A
---

（根拠）

- ・ “通し狂言” “復活狂言” という国立劇場が果たすべき役割に基づいた上演方針に従い、各公演とも充実した内容の舞台を制作し、外部専門家等から企画内容を高く評価された。
  - ・ 12月公演において、歌舞伎としては初めて読売演劇大賞の大賞及び最優秀作品賞を受賞した。
  - ・ 歌舞伎鑑賞教室は学生を中心に、親子や社会人も含めて好調な動員を重ねた。
  - ・ 営業・広報に関し、各種の取組により順調に事業を実施した。
- 良かった点・特色ある点
- ・ 各公演とも、役者の芸の継承につながる適材適所の配役や、舞台効果を高めるための工夫を凝らした演出が功を奏した。また、10月・12月・初春公演では、国立劇場文芸研究会の補綴により原作を効果的にアレンジすることで、通し狂言として高い完成度が得られた。
  - ・ 12月公演「伊賀越道中双六」について、戦後3回目となる「岡崎」の久々の上演は、歌舞伎界を中心に演劇界の大きな話題となり、劇評をはじめ、多くの観客からも賞賛の声が寄せられ、読売演劇大賞の大賞及び最優秀作品賞にも輝き、後世に残る作品として高い評価を得た。
  - ・ 各公演とも、公演演目に因んだイベントの実施や幅広いニーズに応える観劇プランの提供など、多様な企画による団体誘客を行った。
  - ・ 英文スケジュールチラシのデザインを一新し、外国人に対するアピールを強化した。
- 見直し又は改善を要する点
- ・ 目標入場者数に及ばなかった。“通し狂言”としての上演や、次世代の俳優の力を引き出した企画などについて、演目の魅力を十分に伝えることができなかった。今後も、企画内容、広報宣伝等の効果的な施策を十分検討していきたい。

## <2>文 楽

### 《主要な業務実績》

#### 1. 公演実績

- ・ (本館) 文楽公演4公演と文楽鑑賞教室1公演を計画どおり実施
- ・ (文楽劇場) 文楽公演 4 公演と文楽鑑賞教室 1 公演を計画どおり実施
- ・ 本館 2 月公演を除く全公演で目標入場者数を達成
- ・ 文楽劇場では目標を大幅に上回る入場者数を達成 (達成度 121.8%)
- ・ 国立文楽劇場開場 30 周年記念公演の実施 (本館 5 月公演及び文楽劇場全公演)
- ・ 新作の上演 (本館 9 月「不破留寿之太夫」、文楽劇場夏休み文楽「かみなり太鼓」)

#### 2. 営業・広報

- ・ マスコミ各社への記者会見や取材依頼のほか、各種媒体により公演情報を周知
- ・ 公演演目に因んだイベントの実施や演劇フリーペーパーへの記事広告掲出など、多様なアプローチによる団体誘客
- ・ 英文スケジュールチラシのデザインを一新し、外国人に対するアピールを強化
- ・ マスコミへの積極的な働きかけ、ホームページの有効活用、地元の関係団体との協力、祭礼行事やイベントへの参加や協力により、効果的に公演を広報

#### 3. 外部専門家等の意見

- ・ 公演専門委員会を開催し、外部専門家等の意見を聴取して、後の事業運営に活用

#### 4. アンケート調査

- ・ (本館) 9 月公演、12 月鑑賞教室で実施(2 回)、満足回答率 81.2%
- ・ (文楽劇場) 本公演において計 4 回実施、満足回答率 93.7%

### 《制作方針》

文楽の保存と振興のため、本館では、名作の上演に留まらず、上演頻度が少ない演目や場面等を積極的に取り上げるように工夫する。同時に、出演者にとっては、次世代への技芸の継承やレパートリーの拡充につながる公演となるように努め、一層の活性化をめざす。9 月公演においては、新作文楽「不破留寿之太夫」を上演し、新たな観客層への訴求力となるような公演を目指す。

文楽劇場では通し狂言の上演や見取り上演により、文楽の観客層を拓げるよう演目構成を工夫する。古典的な演出の継承に留まらず、文楽劇場の舞台機構を生かした演出も試みる。また、夏休み文楽特別公演の第一部「親子劇場」では、親子で楽しめるよう、新作も含めた作品を上演し、観客層の拡充やレパートリーの拡大を通じて、今後の文楽の発展に寄与する公演とする。

### 《業務実績詳細》

#### 1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
5 月文楽公演 「増補忠臣蔵」/「恋女房染分手綱」/「卅三間堂棟由来」/「女殺油地獄」/「鳴響安宅新関」	本館 小劇場	5/10(土)	実績	34 回	17 日	18,602 人	(97.7%)	19,040 人
		~26(月)	計画	34 回	17 日	16,900 人	(88.8%)	19,040 人
9 月文楽公演 「双蝶々曲輪日記」/「近江源氏先陣館」 「日高川入相花王」/「不破留寿之太夫」		9/6(土)	実績	51 回	17 日	23,989 人	(84.0%)	28,560 人
		~22(月)	計画	51 回	17 日	22,700 人	(79.5%)	28,560 人
12 月文楽公演 「伽羅先代萩」/「紙子仕立両面鑑」		12/4(木)	実績	13 回	13 日	7,028 人	(96.5%)	7,280 人
		~16(火)	計画	13 回	13 日	6,700 人	(92.0%)	7,280 人
2 月文楽公演 「二人禿」/「源平布引滝」/「花競四季寿」 「天網島時雨炬燵」/「国性爺合戦」		2/14(土)	実績	51 回	17 日	20,579 人	(72.1%)	28,560 人
		~3/2(月)	計画	51 回	17 日	22,700 人	(79.5%)	28,560 人
【文楽(本館) 小 計】 4 公演 (計画:4 公演)			実績	149 回	64 日	70,198 人	(84.1%)	83,440 人
			計画	149 回	64 日	69,000 人	(82.7%)	83,440 人

12月文楽鑑賞教室 「二人三番叟」解説「文楽の魅力」 「絵本太功記」	本館 小劇場	12/4(木) ～16(火)	実績	24回	13日	13,147人	(99.1%)	13,272人	
			計画	24回	13日	13,100人	(98.7%)	13,272人	
【文楽鑑賞教室(本館)小計】 1公演 (計画:1公演)			実績	24回	13日	13,147人	(99.1%)	13,272人	
			計画	24回	13日	13,100人	(98.7%)	13,272人	
【文楽(本館)合計】 5公演 (計画:5公演)			実績	173回	77日	83,345人	(86.2%)	96,712人	
			計画	173回	77日	82,100人	(84.9%)	96,712人	
4月文楽公演 「通し狂言 菅原伝授手習鑑」	文楽 劇場	4/5(土) ～27(日)	実績	44回	22日	29,973人	(93.2%)	32,164人	
			計画	44回	22日	18,400人	(57.2%)	32,164人	
夏休み文楽特別公演 「かみなり太鼓」解説「ぶんらくってなあに」 「西遊記」/「平家女護島」 「鑓の権三重帷子」/「女殺油地獄」		7/19(土) ～8/4(月)	実績	51回	17日	25,243人	(69.6%)	36,261人	
			計画	51回	17日	20,300人	(56.0%)	36,261人	
11月文楽公演 「双蝶々曲輪日記」/「奥州安達原」		11/1(土) ～24(月・休)	実績	46回	23日	19,177人	(57.0%)	33,626人	
			計画	46回	23日	18,900人	(56.2%)	33,626人	
初春文楽公演 「花競四季寿」 「彦山権現誓助剣」 「義経千本桜」 「日吉丸稚桜」 「冥途の飛脚」		1/3(土) ～26(月)	実績	46回	23日	23,939人	(71.2%)	33,626人	
			計画	46回	23日	21,500人	(63.9%)	33,626人	
【文楽(文楽劇場)小計】 4公演 (計画:4公演)			実績	187回	85日	98,332人	(72.5%)	135,677人	
			計画	187回	85日	79,100人	(58.3%)	135,677人	
6月文楽鑑賞教室 「団子売」解説「文楽へようこそ」 「卍三間堂棟由来」	文楽 劇場	6/6(金) ～19(木)	実績	28回	14日	19,340人	(94.5%)	20,468人	
			計画	28回	14日	17,500人	(85.5%)	20,468人	
【文楽鑑賞教室(文楽劇場)小計】 1公演 (計画:1公演)			実績	28回	14日	19,340人	(94.5%)	20,468人	
			計画	28回	14日	17,500人	(85.5%)	20,468人	
【文楽(文楽劇場)合計】 5公演 (計画:5公演)			実績	215回	99日	117,672人	(75.4%)	156,145人	
			計画	215回	99日	96,600人	(61.9%)	156,145人	
【文楽 総合計】 10公演 (計画:10公演)			実績	388回	176日	201,017人	(79.5%)	252,857人	
			計画	388回	176日	178,700人	(70.7%)	252,857人	

## 2. 営業・広報

(本館)

- ・ マスコミ各社への記者会見及び取材依頼、テレビ出演、ポスター、チラシ、ホームページ、あぜくら会報、振興会ニュース等、また都内の比較的小規模な劇場におけるチラシ設置等により、公演情報の周知拡大を図り、一般の集客に努めた。
- ・ 団体の営業活動として、公演演目に因んだイベントを実施したほか、演劇フリーペーパーへの記事広告掲出、外部団体のメールマガジンへの公演情報掲出協力など、幅広い客層に対して興味を持ってもらえるよう工夫を行った。
- ・ 海外からの旅行者の観劇を増やすため、旅行代理店・ホテル等との連携強化を一層すすめた。英文スケジュールチラシのデザインを見直し、外国人に対して訴求力のあるものにして、劇場内のほか空港・観光案内所・主要ホテル等に配布した。
- ・ 職員のコミュニティー等を活用した「おすすめキャンペーン」を引き続き実施し、理事長及び営業部担当理事のリーダーシップの発揮により、各職員に一層の働きかけを行った。
- ・ 11月歌舞伎公演と12月文楽公演での同一演目上演による観客増加策として、11月歌舞伎公演及び12月文楽公演両方の入場券購入者に、「立版古 仮名手本忠臣蔵」を進呈した(配布数903枚)。

(文楽劇場)

- ・ 11月・初春公演において、公演記録映像を活用して各演目のストーリーを説明するダイジェスト動画を作成し、ホームページで公開した。
- ・ Osaka Book One Project や大阪・光の饗宴に積極的に協力し、これまで未開拓であった書店や観光客に対して重点的に公演PRを行った。
- ・ 壁面広告等の公演PRを文楽協会と協力して行った。
- ・ 大阪市営地下鉄の協力により、文楽公演の大型ポスターや車両内中吊り広告を掲出した。
- ・ ラジオCMを実施するとともに、在阪ラジオ局への働きかけにより、聴取者プレゼントを組み合わせた公演紹介の放送を行った。
- ・ 在阪テレビ及びラジオ放送局に積極的に広報の働きかけを行い、多くの取材を受け入れることによってニュース番組、情報番組を通じて公演PRを行った。
- ・ 地元で行われる祭礼行事などで出演者と一般のお客様との交流の機会を設け、広く一般への普及活動を行った。

### 3. 外部専門家等の意見

- ・ 各館において公演専門委員会を開催し、外部専門家等の意見を聴取して、後の事業運営に役立てた。

### 4. アンケート調査

(本館)

9月公演、12月鑑賞教室で実施(2回)した。

回答数 655人(配布数 895人、回収率 73.2%)。回答者の 81.2%が概ね満足と答えた(532人)。

(文楽劇場)

4月公演、夏休み文楽特別公演、11月公演、初春公演で実施(4回)した。

回答数 1,113人(配布数 1,743人、回収率 63.9%)。回答者の 93.7%が概ね満足と答えた(1,043人)。

#### 【特記事項】

- ・ 国立文楽劇場開場 30周年記念(文楽劇場の全公演及び本館 5月公演)
- ・ 七世竹本住大夫引退公演(文楽劇場 4月公演及び本館 5月公演)
- ・ 平成 26年度(第 69回)文化庁芸術祭主催公演(文楽劇場 11月公演)
- ・ 関西元気文化圏共催事業(文楽劇場の全公演)
- ・ 各公演とも字幕表示装置により、演奏に合わせて義太夫の詞章を表示し鑑賞の助けとした。
- ・ 公演に先立ち、「9月文楽公演 新作文楽スペシャル座談会 文楽×シェイクスピア!? 『不破留寿之太夫』創作の道のり」を開催した(7月9日、本館小劇場、参加人数 507名)。

#### 《数値目標の達成状況》

##### 【目標入場者数の達成状況】

本公演	実績 168,530人／目標 148,100人(達成度 113.8%)
鑑賞教室	実績 32,487人／目標 30,600人(達成度 106.2%)
合計	実績 201,017人／目標 178,700人(達成度 112.5%)

#### 《自己点検評価》

##### ○ 自己評定

- ・ 総合評定

A

(根拠)

- ・ 本館では、9月公演において2年がかりで制作した新作文楽「不破留寿之太夫」を上演し、新たな観客の動員に成功した。美術を担当した石井みつるが、この演目で26年度の読売演劇大賞優秀スタッフ賞を受賞した。また、12月公演では41年ぶりに「紙子仕立両面鑑」を取り上げ、次世代への継承にもつながる有意義な公演となった。
- ・ 営業・広報に関し、各種の取組により順調に事業を実施した。
- ・ 文楽劇場では、開場30周年記念公演の成功に向けて劇場及び技芸員が一丸となって行った、メディアへの働きかけや新作の上演をはじめとする文楽の普及・アピールの努力が、観客層の拡大と集客に結実し、過去最高の入場率を記録した。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 国立劇場が文楽の技芸の継承やレパートリーの拡充に果たす役割について改めてアピールでき、意欲的な公演制作が成果を上げた。

(本館)

- ・ 5月公演で、竹本住大夫引退狂言「杳掛村」を上演し、先代住大夫引退狂言と同演目、人形配役も幹部総出演の豪華キャストで引退の花道を飾ることができた。9月公演では、新作「不破留寿之太夫」を上演し、脚本、作曲、美術に優れた成果を上げ、新たな観客層の動員に成功した。12月公演において、東京では41年ぶりの「紙子仕立両面鑑」を上演し、新たに文楽の作品の魅力を感じてもらう良い機会となった。
- ・ 公演演目に因んだイベントの実施や演劇フリーペーパーへの記事広告掲出など、多様なアプローチによる団体誘客を行った。
- ・ 英文スケジュールチラシのデザインを一新し、外国人に対するアピールを強化した。

(文楽劇場)

- ・ 4月公演は、開場30周年記念公演の幕開けと同時に竹本住大夫の引退公演ともなり、マスコミでも多く取り上げられて観客数が著しく伸び、4月公演としては記録的な大入りとなった。4月公演以降も、夏休み文楽特別公演第1部「親子劇場」での落語作家による新作文楽をはじめ、30周年にふさわしいラインナップを揃えることができた。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 人間国宝クラスの技芸員の高齢化や引退もあり、今後、演目の選定などに影響が生じる可能性がある。世代交代に備え、配役の工夫や調整により、次代を担う技芸員の活躍に繋がる舞台を積極的に作っていかなくてはならない。
- ・ 文楽劇場では、演目や配役をできるだけ早めに決定し、文楽劇場独自の営業・広報をより積極的に働きかけていくなど一層の工夫を心がける。

### <3> 舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能ほか

#### 《主要な業務実績》

##### 1. 公演実績

- ・ 舞踊公演5公演、邦楽公演5公演、雅楽公演2公演、声明公演1公演、民俗芸能公演2公演、琉球芸能公演1公演、特別企画公演6公演を実施
- ・ 雅楽公演、琉球芸能公演で目標入場者数及び入場率を達成、舞踊公演で目標入場率を達成
- ・ 国立文楽劇場開場 30 周年記念公演の実施（文楽劇場の全公演）
- ・ 伝統芸能に親しみを感じてもらうための新たな企画〈伝統芸能の魅力〉シリーズを開始（6 月特別企画公演）
- ・ 17 年ぶりに現代曲のみを取り上げる公演を実施（6 月邦楽公演）
- ・ 東日本大震災復興支援として本館大劇場にて「東北の芸能Ⅴ」を上演（本館 9 月特別企画公演）

##### 2. 営業・広報

- ・ マスコミ各社への記者会見や取材依頼のほか、各種媒体により公演情報を周知

##### 3. 外部専門家等の意見

- ・ 公演専門委員会を開催し、外部専門家等の意見を聴取して、後の事業運営に活用

##### 4. アンケート調査

- ・ 邦楽公演 3 回、雅楽公演 1 回、民俗芸能公演 1 回、琉球芸能公演 1 回、特別企画公演 6 回（計 12 回）実施、満足回答率 84.3%

#### 《実績》

##### 1. 公演実績

公演名	公演数 劇場	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
【舞踊】	5 公演 本館大小劇場・文楽劇場	実績	9 回	6 日	4,358 人	(69.4%)	6,278 人
		計画	10 回	6 日	5,410 人	(69.4%)	7,798 人
【邦楽】	5 公演 本館小劇場・文楽劇場	実績	7 回	6 日	3,107 人	(72.4%)	4,293 人
		計画	7 回	6 日	3,300 人	(76.9%)	4,293 人
【雅楽】	2 公演 本館小劇場	実績	2 回	2 日	1,108 人	(93.9%)	1,180 人
		計画	2 回	2 日	1,080 人	(91.5%)	1,180 人
【声明】	1 公演 本館大劇場	実績	1 回	1 日	1,267 人	(78.7%)	1,610 人
		計画	1 回	1 日	1,330 人	(82.6%)	1,610 人
【民俗芸能】	2 公演 本館小劇場	実績	4 回	2 日	1,608 人	(68.1%)	2,360 人
		計画	4 回	2 日	1,620 人	(68.6%)	2,360 人
【琉球芸能】	1 公演 本館小劇場	実績	2 回	2 日	972 人	(82.4%)	1,180 人
		計画	2 回	2 日	880 人	(74.6%)	1,180 人
【特別企画】	6 公演 本館大小劇場・文楽劇場	実績	9 回	6 日	4,758 人	(72.3%)	6,580 人
		計画	9 回	6 日	4,960 人	(75.4%)	6,580 人
【合計】	22 公演	実績	34 回	25 日	17,178 人	(73.2%)	23,481 人
		計画	35 回	25 日	18,580 人	(74.3%)	25,001 人

※ 5 月舞踊公演「動物のいる風景」は、出演交渉等の難航により、計画時 2 回のところ、1 回で実施した。

##### 2. 営業・広報

- ・ マスコミ各社への記者会見及び取材依頼、テレビ出演、ポスター、チラシ、ホームページ、あぜくら会報、国立文楽劇場友の会会報、振興会ニュース等、また都内の比較的小規模な劇場におけるチラシ設置等により、公演情報の周知拡大を図り、一般の集客に努めた。
- ・ 文楽劇場 7 月邦楽公演「文楽素浄瑠璃の会」では、ラジオ局に働きかけ、技芸員がラジオ番組に出演して公演宣伝を行った。

##### 3. 外部専門家等の意見

- ・ 各館において公演専門委員会を開催し、外部専門家等の意見を聴取して、後の事業運営に役立てた。

#### 4. アンケート調査

邦楽公演 3 回、雅楽公演 1 回、民俗芸能公演 1 回、琉球芸能公演 1 回、特別企画公演 6 回(計 12 回)実施した。

回答者数 3,664 人(配布数 5,258 人、回収率 69.7%)、回答者の 84.3%が概ね満足と答えた(3,088 人)。

##### 【特記事項】

- ・ 平成 26 年度(第 69 回)文化庁芸術祭主催公演(文楽劇場 10 月舞踊公演)
- ・ 平成 26 年度(第 69 回)文化庁芸術祭協賛公演(10 月邦楽 2 公演、11 月民俗芸能公演、11 月舞踊公演)
- ・ 国立文楽劇場開場 30 周年記念(文楽劇場の全公演)
- ・ 国立劇場おきなわ開場 10 周年記念(4 月琉球芸能公演)
- ・ 関西元気文化圏共催事業(文楽劇場の全公演)
- ・ 上演内容に応じて、字幕表示装置により、演奏にあわせて詞章等を表示し鑑賞の助けとした。

##### 《数値目標の達成状況》

##### 【目標入場者数の達成状況】

実績 17,178 人／目標 18,580 人(達成度 92.5%)

##### 《自己点検評価》

##### ○ 自己評定

##### ・ 総合評定

B

##### (根拠)

- ・ 〈伝統芸能の魅力〉と題した、雅楽、声明、日本舞踊、邦楽の4ジャンルの入門公演を開始した。これからの日本文化を担っていく観客に伝統芸能の楽しさを積極的に紹介するもので、国立劇場ならではの公演といえる。
  - ・ 民俗学者の折口信夫が紹介した長野県の「新野の雪祭り」を初めて上演できた。また、東日本大震災復興支援公演を本館大劇場で東北6県の芸能を招き上演し、東北の復興を伝統芸能面から支援した。
  - ・ 文楽劇場では、10月舞踊公演での祇園甲部歌舞会の出演など、開場30周年記念公演ならではの華やかな企画が成功し、好評を得た。
- 良かった点・特色ある点
- ・ 本館の邦楽公演では、古典と両輪をなす、現代の日本の音楽作品のみに焦点をあてた6月公演と、「八犬伝」をテーマに初春歌舞伎公演と連携し、4分野の邦楽で構成した10月公演の企画性の高さが、それぞれ外部専門家や観客から評価を受けた。また、6月〈伝統芸能の魅力〉公演は、伝統芸能に親しみを感じてもらえるよう、雅楽、声明、日本舞踊、邦楽の4ジャンルを2週にわたって取り上げ、入門者向けの新たな企画を開始することができた。9月特別企画公演は、東日本大震災の被災3県だけではなく、東北地方6県すべての芸能が大劇場の舞台に集う「東北の芸能V」を開催し、東北全体がひとつになって復興へ向けて前進する姿を体感していただくことができた。
  - ・ 文楽劇場では、特に10月舞踊公演が目標を大幅に上回る観客を得て好評であった。公演内容も観客の期待に十分に答えるものであった。5月舞踊・邦楽公演、9月特別企画公演では関連プレ講座を実施し、新たな観客層の掘り起こしに努めた。また、7月邦楽公演「文楽素浄瑠璃の会」では、初めての試みとして、鑑賞の手引きとなるように、各演目の演奏前に研究者による演目解説を行った。
- 見直し又は改善を要する点
- ・ 目標入場者数に達しない公演があった。企画立案時より内容や時期等の検討を綿密に行うとともに、観客のニーズに応えられる内容や効果的な広報宣伝ができるよう、担当部署で連携し、一層工夫を図りたい。

**舞 踊**

【制作方針】

本館では、江戸・東京を中心に発展・継承されてきた歌舞伎舞踊と、上方・京阪を中心に発展・継承されてきた上方舞を両輪として、公演ごとにテーマを設けて企画する。現在鑑賞することのできる最高水準の舞台を紹介することを根幹とし、日本舞踊界の第一線で活躍する東西の舞踊家により、国立劇場の独自性を盛り込みながら、広範な観客層への普及を図る。

文楽劇場では、日本舞踊界を代表する東西の名手が一堂に会する「東西名流舞踊鑑賞会」を開催する。開場 30 周年記念公演と銘打つ今回は、例年の方針である地元の京阪四流の競演と東西の重鎮の出演に加え、上方舞の芸の継承の点からも重要視される稀曲上演や花街らしい人気曲も含め、全体として祝賀の色彩に彩られた華やかな番組構成とする。

【実績】

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
5 月舞踊公演 「動物のいる風景」	本館 大劇場	5/24(土)	実績	1 回	1 日	986 人	(64.9%)	1,520 人
			計画	2 回	1 日	2,020 人	(66.4%)	3,040 人
8 月舞踊公演 「花形・名作舞踊鑑賞会」	本館 小劇場	8/24(日)	実績	2 回	1 日	497 人	(47.6%)	1,044 人
			計画	2 回	1 日	740 人	(70.9%)	1,044 人
11 月舞踊公演 「舞の会 -京阪の座敷舞-」		11/22(土)	実績	2 回	1 日	1,007 人	(85.3%)	1,180 人
			計画	2 回	1 日	1,000 人	(84.7%)	1,180 人
3 月舞踊公演 「素踊りの会」		3/14(土) ~15(日)	実績	2 回	2 日	798 人	(67.6%)	1,180 人
			計画	2 回	2 日	800 人	(67.8%)	1,180 人
【舞踊(本館) 小 計】 4 公演 (計画:4 公演)			実績	7 回	5 日	3,288 人	(66.8%)	4,924 人
			計画	8 回	5 日	4,560 人	(70.8%)	6,444 人
10 月舞踊公演 「東西名流舞踊鑑賞会」	文楽 劇場	10/18(土)	実績	2 回	1 日	1,070 人	(79.0%)	1,354 人
			計画	2 回	1 日	850 人	(62.8%)	1,354 人
【舞踊(文楽劇場) 小 計】 1 公演 (計画:1 公演)			実績	2 回	1 日	1,070 人	(79.0%)	1,354 人
			計画	2 回	1 日	850 人	(62.8%)	1,354 人
【舞踊 合 計】 5 公演 (計画:5 公演)			実績	9 回	6 日	4,358 人	(69.4%)	6,278 人
			計画	10 回	6 日	5,410 人	(69.4%)	7,798 人

※ 5 月舞踊公演「動物のいる風景」は、出演交渉等の難航により、計画時 2 回のところ、1 回で実施した。

【特記事項】

- ・ 平成 26 年度(第 69 回)文化庁芸術祭主催公演(文楽劇場 10 月公演)
- ・ 平成 26 年度(第 69 回)文化庁芸術祭協賛公演(本館 11 月公演)
- ・ 国立文楽劇場開場 30 周年記念(文楽劇場 10 月公演)
- ・ 関西元気文化圏共催事業(文楽劇場 10 月公演)
- ・ 字幕表示装置により、演奏に合わせて歌詞を表示して鑑賞の助けとした(本館 4 公演)。

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 本館の公演について、8 月「花形・名作舞踊鑑賞会」では、上演機会の少ない珍しい演目を取り上げる一方で、定番の演目も組み合わせ、バラエティーに富んだ公演となった。11 月「舞の会」は、世代交代が進みつつある上方舞において、ベテランと中堅・若手がバランス良く出演し、それぞれに成果を上げた。
- ・ 文楽劇場の 10 月公演は、祇園甲部歌舞会による華やかな幕開きに、上方舞の稀曲、歌舞伎舞踊、格調高い祝儀曲などを盛り込んだ開場 30 周年記念公演ならではの番組構成で、昨年度までの同一の公演

に比べて大幅な増加を見せた観客の期待にも十分に応える充実した内容となった。また一般、会員の観客や通し券購入客も昨年度に続き伸びを見せており、一般へのアピール力も高かった。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 本館の5月公演において、出演交渉等の難航により、2回公演の予定から1回公演へ変更した。今後はより慎重に計画立案を行うよう努めていきたい。また、他の公演についても、世代交代の進みつつある斯界に配慮しながらも、演目や出演者の選定に一層の吟味を図るとともに、企画性を強く打ち出し、構成を工夫するなどして、日本舞踊の魅力を幅広い観客層へアピールしていきたい。また、広報宣伝と公演周知には今後とも一層の工夫、努力をしていきたい。

**邦 楽**

【制作方針】

邦楽の各ジャンルの特徴や魅力、レパートリーの豊富さをふまえ、その多彩な音楽性をさまざまな視点から楽しんでもらう。出演者については、ベテランに限らず、公演の狙いや曲の性格に適した演奏家の起用を第一に考え、中堅や若手の積極的な出演を図る。そのため、現代曲のみに焦点をあてた公演、「八犬伝」をテーマにした公演、邦楽ファンに向けた聴き応えのある演奏会「文楽素浄瑠璃の会」「長唄の会・三曲の会」を制作する。

文楽劇場7月邦楽公演「文楽素浄瑠璃の会」は、文楽の第一線で活躍する大夫・三味線陣が、それぞれの芸風に相応しい演目で臨む本格的な素浄瑠璃の公演とする。

【実績】

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
6月邦楽公演 「日本音楽の光彩 -現代に息づく響き-」	本館 小劇場	6/21(土)	実績	2回	1日	742人	(62.9%)	1,180人
			計画	2回	1日	750人	(63.6%)	1,180人
10月邦楽公演 「『八犬伝』を聴く」		10/11(土)	実績	1回	1日	410人	(69.5%)	590人
			計画	1回	1日	460人	(78.0%)	590人
10月邦楽公演 「文楽素浄瑠璃の会」		10/25(土)	実績	1回	1日	583人	(98.8%)	590人
			計画	1回	1日	570人	(96.6%)	590人
1月邦楽公演 「邦楽鑑賞会 -長唄の会- -三曲の会-」		1/17(土) ~18(日)	実績	2回	2日	979人	(83.0%)	1,180人
			計画	2回	2日	1,000人	(84.7%)	1,180人
【邦楽(本館) 小計】 4公演 (計画:4公演)			実績	6回	5日	2,714人	(76.7%)	3,540人
			計画	6回	5日	2,780人	(78.5%)	3,540人
7月邦楽公演 「文楽素浄瑠璃の会」	文楽 劇場	7/5(土)	実績	1回	1日	393人	(52.2%)	753人
			計画	1回	1日	520人	(69.1%)	753人
【邦楽(文楽劇場) 小計】 1公演 (計画:1公演)			実績	1回	1日	393人	(52.2%)	753人
			計画	1回	1日	520人	(69.1%)	753人
【邦楽 合計】 5公演 (計画:5公演)			実績	7回	6日	3,107人	(72.4%)	4,293人
			計画	7回	6日	3,300人	(76.9%)	4,293人

【特記事項】

- ・ 平成26年度(第69回)文化庁芸術祭協賛公演(本館10月公演2公演)
- ・ 国立文楽劇場開場30周年記念(文楽劇場7月公演)
- ・ 関西元氣文化圏共催事業(文楽劇場7月公演)
- ・ 豊竹越前少掾没後250年(文楽劇場7月公演)
- ・ 字幕表示装置により、演奏に合わせて歌詞を表示して鑑賞の助けとした(本館10月公演2公演、1月公演)。

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 本館の各公演について、制作意図に沿った出演者、曲目を揃えることができた。演奏やお話も高い水準の舞台が多く、充実した成果を上げることができた。特に6月は、17年ぶりとなる現代曲のみに焦点をあてた公演で、曲調も多彩、出演者も多様な番組構成で、近年の邦楽公演では特色のある番組であった。また10月「『八犬伝』を聴く」は、初春歌舞伎公演と連携した番組構成や広報を実施した。上演頻度が少ない作品や上演が途絶えた作品を節付けするなど、邦楽作品の多様な楽しみ方を提示することができた。
- ・ 文楽劇場7月「文楽素浄瑠璃の会」について、この公演では初めての試みとして、各曲の演奏前に曲目解説を行い、鑑賞の助けとした。演目選定に当たり、没後250年の豊竹越前少掾ゆかりの曲を選び、テーマ性を強調した点に意義があった。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 目標入場者数が達成できなかった公演については、企画立案時において構成等の検討を綿密に行うとともに、内容、時期、媒体等、効果的な広報宣伝について担当部署と相談の上、工夫を図る。また、公演日程、開演時間については、公演ごとの内容や集客について最適となるよう配慮しながら決定していく。
- ・ 文楽劇場では、曲目解説をより充実させるとともに、字幕システムの導入を検討する。

**雅 楽**

【制作方針】

7月公演は国立劇場の復曲をふりかえる「雅楽以前」というテーマで、雅楽演奏家の芝祐靖氏が現代に伝わる雅楽の技法に基づいて廃絶曲を復曲してきた3種の作品で番組を構成する。2月公演は、宮内庁式部職楽部の出演により管絃を取り上げ、一昨年に上演した壺越調と平調に続き、雅楽演奏の基準となる6つの調子から双調と黄鐘調の曲を上演する。

【実績】

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
7月雅楽公演「雅楽以前 一国立劇場の復曲をふりかえる一」	本館 小劇場	7/26(土)	実績	1回	1日	540人	(91.5%)	590人
			計画	1回	1日	540人	(91.5%)	590人
2月雅楽公演「管絃 一 双調と黄鐘調一」		2/7(土)	実績	1回	1日	568人	(96.3%)	590人
			計画	1回	1日	540人	(91.5%)	590人
【雅楽(本館) 合計】 2公演 (計画:2公演)			実績	2回	2日	1,108人	(93.9%)	1,180人
			計画	2回	2日	1,080人	(91.5%)	1,180人

【特記事項】

- ・ 2月公演について、あぜくら会員向けに「『管絃一 双調と黄鐘調一』から知る雅楽の世界」と題した催しを実施した(1月20日、伝統芸能情報館レクチャー室、参加人数125名)。

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 7月公演は、『明治撰定譜』に基づく現行の雅楽とは異なる作品を上演し、いったんは廃れたものの、現代に彩りも豊かに蘇った音楽をお聴きいただく良い機会となった。2月公演は、テーマである双調と黄鐘調の2つの調子を管絃の演奏で紹介した。また、公演プログラムに掲載した楽部首席楽長の文章も好評であった。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 幅広い客層のニーズに応えられるよう、企画内容や広報の手段について一層工夫を図りたい。

## 声 明

### 【制作方針】

9月公演において、宗祖法然が比叡山で修学したことから天台声明の流れを汲み、鎌倉仏教の先駆けとなった浄土宗の声明を取り上げる。天台声明を基にした美しい旋律が特徴の浄土宗を代表する声明曲である「六時礼讃」を上演する。

### 【実績】

#### 1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
9月声明公演「浄土宗総本山 知恩院の声明 一六時礼讃」	本館 大劇場	9/13(土)	実績	1回	1日	1,267人	(78.7%)	1,610人
			計画	1回	1日	1,330人	(82.6%)	1,610人
【声明(本館) 合計】 1公演 (計画:1公演)			実績	1回	1日	1,267人	(78.7%)	1,610人
			計画	1回	1日	1,330人	(82.6%)	1,610人

### 【特記事項】

- ・ 字幕表示装置により、舞台の進行に合わせて式次第と経文を表示して鑑賞の助けとした。

### 《自己点検評価》

- 良かった点・特色ある点
  - ・ 一日六時の法要で唱えられる各礼讃をまとめて聴いていただく貴重な機会となった。この礼讃のほかにも浄土宗所縁の各種念仏や声明曲などを交え、知恩院の声明を楽しんでいただいた。
- 見直し又は改善を要する点
  - ・ 目標入場者数に届かなかった。法要の次第や、声明の礼讃譜の掲載など、プログラムの編集について一層の工夫を図り、観客動員の改善につなげたい。

## 民俗芸能・琉球芸能

### 【制作方針】

本年は、全国各地の芸能を広く一般に紹介し、その理解を深めるという本来の民俗芸能公演の目的に立ち返り、国立劇場で初の上演となる二つの民俗芸能を取り上げる。

11月は、民俗学者の折口信夫が、雪を豊年の兆しとして大切に扱う豊作の祈りを込めた神事であることから「雪まつり」と名付けた、日本の芸能を研究する上で貴重な伝承である「新野の雪祭り」を紹介する。1月は、国の重要無形民俗文化財「土佐の神楽」の中でも最も山深い地域で受け継がれているために素朴な芸態がのこり、また唯一夜神楽を伝承している本川神楽を上演する。

4月琉球芸能公演は、国立劇場おきなわが開場10周年に取り上げた大作である組踊「大川敵討」を、県外で初めて全編上演する。

### 【実績】

#### 1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
11月民俗芸能公演 「新野の雪祭り」	本館 小劇場	11/8(土)	実績	2回	1日	915人	(77.5%)	1,180人
			計画	2回	1日	740人	(62.7%)	1,180人
1月民俗芸能公演 「土佐の神楽 山深き本川の地に伝わる夜神楽」	本館 小劇場	1/24(土)	実績	2回	1日	693人	(58.7%)	1,180人
			計画	2回	1日	880人	(74.6%)	1,180人
【民俗芸能(本館) 合計】 2公演 (計画:2公演)			実績	4回	2日	1,608人	(68.1%)	2,360人
			計画	4回	2日	1,620人	(68.6%)	2,360人
4月琉球芸能公演	本館	4/19(土)	実績	2回	2日	972人	(82.4%)	1,180人

組踊「大川敵討」	小劇場	～20(日)	計画	2回	2日	880人	(74.6%)	1,180人
【琉球芸能(本館) 合計】 2公演 (計画:1公演)			実績	2回	2日	972人	(82.4%)	1,180人
			計画	2回	2日	880人	(74.6%)	1,180人

【特記事項】

- ・ 各公演とも、劇場内にてゆかりの地の物産展を行った。
- ・ 字幕表示装置により解説等を表示し、鑑賞の助けとした（民俗芸能2公演）。
- ・ 11月民俗芸能公演において、あぜくら会員向けに「『新野の雪祭り』の魅力」と題した催しを実施した（10月2日、伝統芸能情報館レクチャー室、参加人数103名）。

(4月琉球芸能公演)

- ・ 国立劇場おきなわ開場10周年記念
- ・ 特別協賛：沖縄県酒造協同組合、オリオンビール株式会社
- ・ 字幕表示装置により歌詞の訳を表示し、鑑賞の助けとした。

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 11月民俗芸能公演の雪祭りは三ヶ所の神楽殿、本殿、庭で行われるもので、これまで外部での上演が困難と言われていたが、今回、舞台装置や構成を工夫し、1つの舞台空間での上演が実現した。1月公演は、地元で奉納される全ての演目を省略することなく上演し、本川神楽の全容を堪能していただく貴重な機会となった。
- ・ 4月琉球芸能公演は、組踊の大作「大川敵討」の県外初の全編上演が好評を得た。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 1月民俗芸能公演が目標入場者数に達しなかった。民俗芸能の宣伝・広報の方法や対象の再検討、また多様なメディアを用いた公演周知を実施できるよう工夫する。

**特別企画**

【制作方針】

本館の4月「明日をになう新進の舞踊・邦楽鑑賞会」は、将来の日本舞踊界・邦楽界を担う新進気鋭の演者が主役や大曲に挑む舞踊と邦楽の合同公演。今年度より新たに、これまでの「新進の会」の出演者による特別公演を実施する。6月は、伝統芸能に親しみを感じてもらえるよう新たに企画した〈伝統芸能の魅力〉シリーズ。雅楽・声明・日本舞踊・邦楽の4ジャンルの公演を2週にわたり上演する。9月は、“東日本大震災復興支援公演”と位置付けた〈東北の芸能〉シリーズの5回目として、東北地方6県すべての県から、それぞれの芸能を取り上げる。

文楽劇場の5月「新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会」は、おもに関西在住の若手を中心とした舞踊家・演奏家を積極的に起用し、将来の舞踊界・邦楽界を展望する公演である。構成面では、後半部分にテーマ性を設けたプログラムを組み込み、道成寺作品（地歌舞と長唄舞踊）を続けて上演してその魅力に迫る。9月特別企画公演「真言宗智山派総本山智積院の声明―常楽会―」では、お逮夜「遺教経」から2日間におたる「常楽会」を、一連のものとして構成し、1日1回の上演とする。また全体の開始前に涅槃図絵解きをおこない、常楽会法要への導入とする。なお智山派声明の本格的な舞台公開は約40年ぶりである。

【実績】

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
4月舞踊・邦楽公演 「明日をになう新進の舞踊・邦楽鑑賞会」	本館 小劇場	4/26(土)	実績	2回	1日	720人	(61.0%)	1,180人
			計画	2回	1日	860人	(72.9%)	1,180人
6月 伝統芸能の魅力 「雅楽を楽しむ」/「声明を楽しむ」		6/7(土)	実績	2回	1日	1,148人	(97.3%)	1,180人
			計画	2回	1日	950人	(80.5%)	1,180人
6月 伝統芸能の魅力 「日本舞踊を楽しむ」/「邦楽を楽しむ」		6/14(土)	実績	2回	1日	570人	(48.3%)	1,180人
			計画	2回	1日	820人	(69.5%)	1,180人
9月特別企画公演	本館	9/27(土)	実績	1回	1日	1,138人	(70.7%)	1,610人

「東日本大震災復興支援 東北の芸能 V」	大劇場		計画	1回	1日	1,150人	(71.4%)	1,610人
【特別企画(本館) 合計】 4公演 (計画:4公演)			実績	7回	4日	3,576人	(69.4%)	5,150人
			計画	7回	4日	3,780人	(73.4%)	5,150人
5月舞踊・邦楽公演 「新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会」	文楽 劇場	5/10(土)	実績	1回	1日	522人	(77.1%)	677人
		計画	1回	1日	450人	(66.5%)	677人	
9月特別企画公演 「真言宗智山派総本山 智積院の声明一 常楽会一」	文楽 劇場	9/13(土)	実績	1回	1日	660人	(87.6%)	753人
		計画	1回	1日	730人	(96.9%)	753人	
【特別企画(文楽劇場) 小計】 2公演 (計画:2公演)			実績	2回	2日	1,182人	(82.7%)	1,430人
			計画	2回	2日	1,180人	(82.5%)	1,430人
【特別企画 合計】 6公演 (計画:6公演)			実績	9回	6日	4,758人	(72.3%)	6,580人
			計画	9回	6日	4,960人	(75.4%)	6,580人

#### 【特記事項】

- ・ 国立文楽劇場開場 30 周年記念(文楽劇場 5 月舞踊・邦楽公演、文楽劇場 9 月特別企画公演)
- ・ 関西元気文化圏共催事業(文楽劇場 5 月舞踊・邦楽公演、文楽劇場 9 月特別企画公演)
- ・ 字幕表示装置により、詞章等を表示し鑑賞の助けとした(本館 4 月舞踊・邦楽公演、6 月〈伝統芸能の魅力〉「雅楽を楽しむ」 「声明を楽しむ」、文楽劇場 9 月特別企画公演)。
- ・ 文楽劇場 5 月舞踊・邦楽公演関連プレ講座「もっと知りたい！お囃子の世界～道成寺の舞踊に関連して～」を開催した(4 月 29 日、小ホール、参加人数 155 名)。
- ・ 文楽劇場 9 月特別企画公演関連プレ講座「四座講式と明恵上人」を開催した(8 月 30 日、小ホール、参加人数 148 名)。

#### (本館 9 月特別企画公演)

- ・ 協賛：三井住友カード株式会社
- ・ 芸術文化復興支援基金「絆」の募金を行った。
- ・ 東日本大震災被災者特別招待を実施した(招待者数 185 名)。
- ・ ロビーで出演 5 県(秋田県を除く)の物産展を行った。

#### 《自己点検評価》

#### ○ 良かった点・特色ある点

##### (本館)

- ・ 4 月舞踊・邦楽公演は、新進の舞踊家・邦楽家が主役を勤め大きな舞台に責任を担う意味でも有意義な公演であった。今回初めて企画した「特別公演」では、キャリアに相応しい上質の舞台が展開された。
- ・ 6 月〈伝統芸能の魅力〉は、解説や体験コーナーなど初心者向けの企画が好評で、継続を望む声が多く寄せられた。
- ・ 9 月公演は、太平洋沿岸に位置する被災三県だけでなく、間近から被災した地域への支援を続けてきた青森県、秋田県、山形県の芸能も集い、東北全体がひとつになって復興へ向けて前進する姿を体感していただくことができた。

##### (文楽劇場)

- ・ 5 月舞踊・邦楽公演では、開場 30 周年記念公演にふさわしい魅力的な実演家が揃ったことや、部分的にテーマ性をもたせた新鮮な番組構成が功を奏し、観客数は目標を大幅に上回った。若手が大きな舞台を踏み、飛躍へとつなげることで、舞踊、邦楽界の充実、発展を目的とする本公演は、特に関西においても重要性を増している。また同時に、今後、同世代の若い観客へのアプローチも継続しておこない、担い手、観客の両面から伝統芸能界を展望していく。
- ・ 9 月特別企画公演では、久しく公開されなかった智山派声明を舞台公開し、講式や和讃、遺教経ほか常楽会でつとめられる声明曲を、その有する音楽的、語学的な価値も含めてまとまった形で紹介することができた。「常楽会」への導入としての涅槃図絵解きや、上演に沿った声明曲の字幕表示などを実施したことも、より深い鑑賞のための手引きとなった。絵解きでは、涅槃図の拡大映像を投影し、見やすさ、わかりやすさに配慮し、好評であった。

#### ○ 見直し又は改善を要する点

##### (本館)

- ・ 4 月舞踊・邦楽公演及び 6 月〈伝統芸能の魅力〉公演の「日本舞踊を楽しむ」「邦楽を楽しむ」につ

いては、目標入場者数を達成することができなかった。公演の意義を広く周知し、宣伝広報に努めるとともに、演目や演出などについてより工夫を重ねていきたい。

(文楽劇場)

- ・ 9月特別企画公演の入場者数は、例年来場のあった大口の団体客がなくなり、新たな観客を得るべく健闘したものの、昨年よりは若干落ち込んだ。一般の観客にも魅力的な企画内容を工夫し、新規団体の開拓や、より効果的な広報活動によって集客に努めたい。

#### <4> 大衆芸能

##### 《主要な業務実績》

##### 1. 公演実績

- ・（演芸場）定席公演 22 公演、若手新人公演 12 公演、新春国立名人会 1 公演、国立名人会 11 公演、特別企画公演 11 公演を実施、うち特別企画 1 公演を追加実施（2 月「噺家ディキシーバンド 『にゅうおいらんず』 特別公演」）
- ・（文楽劇場）浪曲 2 公演、上方演芸特選会 6 公演を実施
- ・演芸場では、若手新人公演、新春国立名人会、国立名人会、特別企画公演で目標入場者数を達成
- ・文楽劇場では全公演で目標入場者数を達成
- ・国立演芸場開場 35 周年記念公演（演芸場 4～6 月）及び国立文楽劇場開場 30 周年記念公演（文楽劇場の全公演）の実施
- ・13 年半ぶりの太神楽曲芸公演の上演（2 月特別企画公演「太神楽十八番 曲芸フェスティバル」）

##### 2. 営業・広報

- ・チラシ、ポスター、ホームページ等による広報、新聞や「東京かわら版」等への広告掲載により公演情報を周知
- ・出演者の出身地の都道府県事務所、出身学校や演目所縁の地域と連携した情報発信

##### 3. 外部専門家等の意見

- ・公演専門委員会を開催し、外部専門家等の意見を聴取、後の事業運営に活用

##### 4. アンケート調査

- ・（演芸場）12 公演で実施（12 回）、満足回答率 90.7%

##### 《制作方針》

寄席で演じられる大衆芸能には、落語・浪曲・講談のほか、太神楽曲芸・漫才・漫談・コント・奇術・ものまね・俗曲といった多種多様な分野の芸能が包括される。国立演芸場では、これらの分野を幅広く取り入れて公演を企画・立案し、その普及・振興とともに演芸家の技芸の継承にも配慮した公演制作をめざす。根幹となる「定席公演」では、一般社団法人落語協会及び公益社団法人落語芸術協会所属の演芸家を中心に番組を構成し、大衆芸能の多様な魅力を幅広い観客層が楽しめる公演を企画する。「若手新人公演（花形演芸会）」は、各分野の若手演芸家の育成を目的に、年間で花形演芸大賞を競う競争性の高い公演で、優秀者に賞を授与することで、その技芸向上をめざすものである。「新春国立名人会」では、春を寿ぐ獅子舞に始まり、各分野の重鎮が一同に会した豪華出演陣の競演による初春に相応しい公演を行う。「国立名人会」は、落語を中心に選りすぐりの出演者の十八番のネタやふだんの寄席ではなかなか演じられない珍しい演目をじっくり楽しむ公演を実施する。「特別企画公演」では、公演ごとにテーマを設定するなど、他の寄席ではみられない企画性の高い公演を実施する。

文楽劇場「浪曲名人会」は関西を代表する浪曲師が顔を揃える恒例の浪曲公演。それぞれの得意の演目を披露する番組構成で、浪曲の魅力を引き出す公演を目指す。5 月「浪曲錬声会」は次代を担う若手浪曲師の「語りを向上させる」ことを目的に、若手を中心とした番組構成で、浪曲の魅力をアピールする公演とする。「上方演芸特選会」は、上方演芸 4 団体（上方落語協会・浪曲親友協会・関西演芸協会・関西芸能親和会）の総力を結集し、落語・漫才・浪曲・太神楽・講談など多彩で昔懐かしい寄席の雰囲気を実現した公演とする。

##### 《業務実績詳細》

##### 1. 公演実績

公演名	公演数 劇場	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
【定席】	22 公演 演芸場	実績	243 回	219 日	33,453 人	(45.9%)	72,900 人
		計画	241 回	219 日	36,000 人	(49.8%)	72,300 人
【花形演芸会】	12 公演 演芸場	実績	12 回	12 日	3,309 人	(91.9%)	3,600 人
		計画	12 回	12 日	3,300 人	(91.7%)	3,600 人
【新春国立名人会】	1 公演 演芸場	実績	8 回	6 日	2,373 人	(98.9%)	2,400 人
		計画	8 回	6 日	2,300 人	(95.8%)	2,400 人

【国立名人会】	11 公演 演芸場	実績	11 回	11 日	3,117 人	(94.5%)	3,300 人
		計画	11 回	11 日	3,080 人	(93.3%)	3,300 人
【特別企画】	11 公演 演芸場	実績	15 回	15 日	4,155 人	(92.3%)	4,500 人
		計画	14 回	14 日	3,850 人	(91.7%)	4,200 人
【大衆芸能(演芸場)合計】	57 公演	実績	289 回	263 日	46,407 人	(53.5%)	86,700 人
		計画	286 回	262 日	48,530 人	(56.6%)	85,800 人
【浪曲名人会】	1 公演 文楽劇場	実績	1 回	1 日	763 人	(101.3%)	753 人
		計画	1 回	1 日	700 人	(93.0%)	753 人
【浪曲錬声会】	1 公演 文楽劇場小ホール	実績	2 回	1 日	338 人	(106.3%)	318 人
		計画	2 回	1 日	290 人	(91.2%)	318 人
【上方演芸特選会】	6 公演 文楽劇場小ホール	実績	24 回	24 日	3,816 人	(100.0%)	3,816 人
		計画	24 回	24 日	3,240 人	(84.9%)	3,816 人
【大衆芸能(文楽劇場)合計】	8 公演	実績	27 回	26 日	4,917 人	(100.6%)	4,887 人
		計画	27 回	26 日	4,230 人	(86.6%)	4,887 人
【大衆芸能 総合計】	65 公演	実績	316 回	289 日	51,324 人	(56.0%)	91,587 人
		計画	313 回	288 日	52,760 人	(58.2%)	90,687 人

※ 定席公演において、追加貸切公演を計2回実施した(10月上席公演)。

※ 2月特別企画公演「嘶家ディキシィバンド 『にゅうおいらんず』特別公演」を追加実施した。

## 2. 営業・広報

- ・ 演芸場では、国立演芸場ガイド(月刊)・チラシ・ポスター・新聞等マスコミへの取材依頼・「東京かわら版」や新聞等への広告掲載・振興会ホームページ・NTJメンバー等へのメール発信を通じて公演の周知に努めた。また、出演者の出身地の都道府県事務所、出身学校や演目所縁の地域からの情報発信も行った。
- ・ 文楽劇場では、広報としてチラシ・ポスター・インターネット・国立文楽劇場友の会会報・振興会ニュースの配布等で公演の周知に努めた。また、地元ラジオ局に働きかけ、演者の番組出演や番組内での聴取者プレゼントによる公演紹介を行った。

## 3. 外部専門家等の意見

- ・ 各館において公演専門委員会を開催し、外部専門家等の意見を聴取して、後の事業運営に役立てた。

## 4. アンケート調査

(演芸場)

12公演で実施(12回)した。

回答数1,836人(配布数3,178人、回収率57.8%)。回答者の90.7%が概ね満足と答えた(1,666人)。

### 【特記事項】

- ・ 国立演芸場開場35周年記念(演芸場4~6月)
- ・ 国立文楽劇場開場30周年記念(文楽劇場全公演)
- ・ 関西元気文化圏共催事業(文楽劇場全公演)
- ・ 平成26年度(第69回)文化庁芸術祭主催公演(10月特別企画公演)
- ・ 平成26年度(第69回)文化庁芸術祭協賛公演(演芸場10月・11月実施の7公演、文楽劇場11月上方演芸特選会)
- ・ 7月中席公演で、東日本大震災被災者特別招待を実施した(招待者数278名)。

《数値目標の達成状況》

### 【目標入場者数の達成状況】

実績51,324人/目標52,760人(達成度97.3%)

《自己点検評価》

---

- 自己評定
- ・ 総合評定

B
---

(根拠)

- ・ 目標を概ね達成した。前年度に比べても入場者数及び入場率を改善できた。
- ・ アンケート調査の回答数及び回収率を改善できた。回答数は25年度から768人(71.9%)の増、回収率は24.2ポイントの増となり、調査の精度を高めることができた。
- ・ 演芸場では、落語協会・落語芸術協会それぞれの幹部の出演や、上方落語や太神楽曲芸の上演など、国立演芸場ならではの企画性の高い公演を制作できた。
- ・ 文楽劇場では、全公演で目標を上回る高い実績を得た。また、上方演芸4団体それぞれの会長が出演するなど、開場30周年にふさわしい記念公演を実施できた。

- 良かった点・特色ある点

(演芸場)

- ・ 定席公演では、落語協会及び落語芸術協会会長が出演した7月中席・8月中席などにおいては、特色のある公演が多くの入場者数を記録し、目標人数を上回る盛況であった。また、国立演芸場開場35周年記念公演は、4月中席では休演した桂歌丸に替わって落語芸術協会等の幹部が日替りで代演を務めたほか、5月中席の落語協会新真打の昇進襲名披露公演、落語芸術協会幹部に加え、五代目圓楽一門会が日替りで務めた6月中席など、国立演芸場開場記念公演に相応しい構成となった。
- ・ 特別企画公演では、国立演芸場ならではの「立川流落語会」を国立演芸場開場35周年記念及び立川流創立30周年記念公演として実施した。また、8月特別企画公演として25年2月以来、1年半ぶりに「上方落語会」を実施した。また、2月には「噺家ディキシーバンド『にゅうおいらんず』特別公演」及び13年半ぶりの太神楽曲芸の公演となる「太神楽十八番 曲芸フェスティバル」を実施するなど、国立演芸場らしい企画性の高い公演を実施することができた。

(文楽劇場)

- ・ 上方演芸特選会は落語、漫才、浪曲、諸芸と特色ある顔ぶれによる文楽劇場ならではの充実した番組を構成できた。特に一般区分での集客が伸びているため、各公演の入場者数も安定しており、目標を上回る結果となった。
- ・ 上方演芸特選会において、大口の団体観劇企画が見直しにより9月公演で終了となり、集客が激減するところであったが、その情報を早期に得て、新たな団体獲得や一般及び友の会会員に対する宣伝営業強化という対策を講じたことにより、11月以降も従前どおりの集客を維持することができた。

- 見直し又は改善を要する点

(演芸場)

- ・ 入場者数が目標に達しなかった公演があった。より魅力ある番組作りとともに新たな集客法の導入を検討していきたい。

(文楽劇場)

- ・ 大衆芸能公演全体に観客の高齢化が目立ってきた。営業や宣伝活動にも工夫を凝らし、新しい観客層の開拓も進めていきたい。

## 定席公演（上席・中席）

## 【制作方針】

一般社団法人落語協会及び公益社団法人落語芸術協会所属の演芸家を中心に番組を構成し、大衆芸能の多様な魅力を幅広い観客層が楽しめる公演を企画する。

## 【実績】

## 1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
4 月上席	演芸場	4/1(火) ～10(木)	実績	11 回	10 日	1,183 人	(35.8%)	3,300 人
			計画	11 回	10 日	1,300 人	(39.4%)	3,300 人
4 月中席		4/11(金) ～20(日)	実績	11 回	10 日	2,033 人	(61.6%)	3,300 人
			計画	11 回	10 日	2,300 人	(69.7%)	3,300 人
5 月中席		5/11(日) ～20(火)	実績	11 回	10 日	1,922 人	(58.2%)	3,300 人
			計画	11 回	10 日	2,000 人	(60.6%)	3,300 人
6 月上席		6/1(日) ～10(火)	実績	11 回	10 日	1,841 人	(55.8%)	3,300 人
			計画	11 回	10 日	2,000 人	(60.6%)	3,300 人
6 月中席		6/11(水) ～20(金)	実績	11 回	10 日	1,749 人	(53.0%)	3,300 人
			計画	11 回	10 日	2,000 人	(60.6%)	3,300 人
7 月上席		7/2(水) ～10(木)	実績	10 回	9 日	1,193 人	(39.8%)	3,000 人
			計画	10 回	9 日	2,000 人	(66.7%)	3,000 人
7 月中席		7/11(金) ～20(日)	実績	11 回	10 日	1,480 人	(44.8%)	3,300 人
			計画	11 回	10 日	1,300 人	(39.4%)	3,300 人
8 月上席		8/1(金) ～10(日)	実績	11 回	10 日	1,405 人	(42.6%)	3,300 人
			計画	11 回	10 日	1,200 人	(36.4%)	3,300 人
8 月中席		8/11(月) ～20(水)	実績	11 回	10 日	3,253 人	(98.6%)	3,300 人
			計画	11 回	10 日	3,200 人	(97.0%)	3,300 人
9 月上席		9/1(月) ～10(水)	実績	11 回	10 日	854 人	(25.9%)	3,300 人
			計画	11 回	10 日	1,200 人	(36.4%)	3,300 人
9 月中席		9/11(木) ～20(土)	実績	11 回	10 日	1,206 人	(36.5%)	3,300 人
			計画	11 回	10 日	1,200 人	(36.4%)	3,300 人
10 月上席		10/1(水) ～10(金)	実績	13 回	10 日	1,172 人	(30.1%)	3,900 人
			計画	11 回	10 日	1,200 人	(36.4%)	3,300 人
10 月中席	10/11(土) ～20(月)	実績	11 回	10 日	853 人	(25.8%)	3,300 人	
		計画	11 回	10 日	1,200 人	(36.4%)	3,300 人	
11 月上席	11/1(土) ～10(月)	実績	11 回	10 日	951 人	(28.8%)	3,300 人	
		計画	11 回	10 日	1,200 人	(36.4%)	3,300 人	
11 月中席	11/11(火) ～20(木)	実績	11 回	10 日	843 人	(25.5%)	3,300 人	
		計画	11 回	10 日	1,200 人	(36.4%)	3,300 人	
12 月上席	12/1(月) ～10(水)	実績	11 回	10 日	868 人	(26.3%)	3,300 人	
		計画	11 回	10 日	1,200 人	(36.4%)	3,300 人	
12 月中席	12/11(木) ～20(土)	実績	11 回	10 日	1,184 人	(35.9%)	3,300 人	
		計画	11 回	10 日	1,200 人	(36.4%)	3,300 人	
1 月中席	1/11(日) ～20(火)	実績	11 回	10 日	2,272 人	(68.8%)	3,300 人	
		計画	11 回	10 日	2,500 人	(75.8%)	3,300 人	
2 月上席	2/1(日) ～10(火)	実績	11 回	10 日	2,020 人	(61.2%)	3,300 人	
		計画	11 回	10 日	1,200 人	(36.4%)	3,300 人	
2 月中席	2/11(水・祝) ～20(金)	実績	11 回	10 日	3,097 人	(93.8%)	3,300 人	
		計画	11 回	10 日	3,000 人	(90.9%)	3,300 人	
3 月上席	3/1(日)	実績	11 回	10 日	1,087 人	(32.9%)	3,300 人	

3月中席		～10(火)	計画	11回	10日	1,200人	(36.4%)	3,300人
		3/11(水)	実績	11回	10日	987人	(29.9%)	3,300人
		～20(金)	計画	11回	10日	1,200人	(36.4%)	3,300人
【定席小計】 22公演 (計画:22公演)			実績	243回	219日	33,453人	(45.9%)	72,900人
			計画	241回	219日	36,000人	(49.8%)	72,300人

※ 追加貸切公演を計2回実施した。(10月上席)

## 2. 営業・広報

- ・ 公演日程に合わせ、学校や各種団体へ企画書を提出し、6月には前年に引き続き「寄席の日」(6月の第1月曜日)に落語協会、落語芸術協会及び都内の4演芸場と提携し、当日券の割引を実施した。
- ・ スタンプラリーを引き続き実施し、リピーターによる観客増につなげるよう努めた(1回の観劇でスタンプを1回押し、スタンプ5個で粗品進呈)。また夜の公演の鑑賞者にはスタンプを2回押して販売促進に努めた。
- ・ 2月上席の節分の日に入場者全員に豆を配布し、舞台からも豆撒きをして大いに喜ばれた。また、3月上席の雛祭には入場者全員に雛あられを配布し、サービスの向上に努めた。

### 【特記事項】

- ・ 国立演芸場開場35周年記念(4～6月)
- ・ 平成26年度(第69回)文化庁芸術祭協賛公演(10月・11月)
- ・ 7月中席公演で、東日本大震災被災者特別招待を実施した(招待者数278名)。

### 《自己点検評価》

#### ○ 良かった点・特色ある点

- ・ 落語協会新会長柳亭市馬がトリを務めた7月中席、落語芸術協会会長桂歌丸が三遊亭圓朝作「怪談牡丹燈籠」を口演した8月中席、三遊亭小遊三、ナイツらが出演した2月上席に加え、恒例の「鹿芝居」を大喜利に上演した2月中席などについては、特色のある公演が多くの入場者数を記録し、目標人数を上回る盛況であった。また、国立演芸場開場35周年記念公演では、4月上席で、林家正蔵をトリに迎え、4月中席では休演の桂歌丸に代わって落語芸術協会副会長の三遊亭小遊三を中心に協会等の幹部が日替りで代演を務めた。5月中席の落語協会新真打襲名披露公演では5名の新真打に加え、師匠及び落語協会幹部が日替りで出演し花を添えた。6月上席では、落語協会幹部が仲入り前を日替りで務め、人気の柳家喬太郎らがトリを務めるなど、国立演芸場開場記念公演に相応しい構成となった。6月中席では、桂歌丸会長はじめ落語芸術協会幹部に加え、五代目圓楽一門会が日替りで高座を務めるなど、こちらも国立演芸場ならではの座組みとなった。このほか、7月上席の落語芸術協会新真打3名の昇進襲名披露公演、9月中席の三遊亭円丈をトリに、仲入り前に川柳川柳のほか、柳家小ゑん、夢月亭夢麿、三遊亭丈二、三遊亭究斗ら新作派のみで定席公演を実施するなど、特色のある公演を制作することができた。

#### ○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 入場者数が目標に達しなかった公演があった。より魅力ある番組作りとともに新たな集客法の導入を検討していきたい。

### 若手新人公演(花形演芸会)

#### 【制作方針】

各分野の若手演芸家の育成を目的に、年間で花形演芸大賞を競う競争性の高い公演を毎月実施するとともに、多種多様な分野からの出演者による構成で上演する。

#### 【実績】

##### 1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
4月花形演芸会(第419回)	演芸場	4/26(土)	実績	1回	1日	296人	(98.7%)	300人
			計画	1回	1日	280人	(93.3%)	300人

5 月花形演芸会(第 420 回)	5/17(土)	実績	1 回	1 日	241 人	(80.3%)	300 人
		計画	1 回	1 日	270 人	(90.0%)	300 人
6 月花形演芸会(第 421 回)	6/21(土)	実績	1 回	1 日	222 人	(74.0%)	300 人
		計画	1 回	1 日	280 人	(93.3%)	300 人
7 月花形演芸会(第 422 回)	7/21(月)	実績	1 回	1 日	293 人	(97.7%)	300 人
		計画	1 回	1 日	280 人	(93.3%)	300 人
8 月花形演芸会(第 423 回)	8/9(土)	実績	1 回	1 日	255 人	(85.0%)	300 人
		計画	1 回	1 日	270 人	(90.0%)	300 人
9 月花形演芸会(第 424 回)	9/23(火・祝)	実績	1 回	1 日	293 人	(97.7%)	300 人
		計画	1 回	1 日	280 人	(93.3%)	300 人
10 月花形演芸会(第 425 回)	10/25(土)	実績	1 回	1 日	295 人	(98.3%)	300 人
		計画	1 回	1 日	270 人	(90.0%)	300 人
11 月花形演芸会(第 426 回)	11/29(土)	実績	1 回	1 日	294 人	(98.0%)	300 人
		計画	1 回	1 日	280 人	(93.3%)	300 人
12 月花形演芸会(第 427 回)	12/13(土)	実績	1 回	1 日	254 人	(84.7%)	300 人
		計画	1 回	1 日	270 人	(90.0%)	300 人
1 月花形演芸会(第 428 回)	1/17(土)	実績	1 回	1 日	294 人	(98.0%)	300 人
		計画	1 回	1 日	270 人	(90.0%)	300 人
2 月花形演芸会(第 429 回)	2/21(土)	実績	1 回	1 日	295 人	(98.3%)	300 人
		計画	1 回	1 日	280 人	(93.3%)	300 人
3 月花形演芸会(第 430 回)	3/7(土)	実績	1 回	1 日	277 人	(92.3%)	300 人
		計画	1 回	1 日	270 人	(90.0%)	300 人
【花形演芸会 小 計】 12 公演 (計画:12 公演)		実績	12 回	12 日	3,309 人	(91.9%)	3,600 人
		計画	12 回	12 日	3,300 人	(91.7%)	3,600 人

【特記事項】

- ・ 国立演芸場開場 35 周年記念 (4～6 月)
- ・ 平成 26 年度花形演芸大賞受賞者  
大賞：ポカスカジャン (ボーイズ)  
金賞：三遊亭歌奴 (落語)、三遊亭萬橘 (落語)、U 字工事 (漫才)  
銀賞：笑福亭たま (上方落語)、柳家小せん (落語)、古今亭志ん陽 (落語)、立川志ら乃 (落語)、桂宮治 (落語)

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 若手新人公演では、花形演芸大賞及び金賞の受賞資格を有する 18 組のレギュラーを中心に公演を企画した。花形演芸大賞の受賞歴のある OB をゲストに招き、若手の熱演とともにベテランの至芸を堪能できる公演として大いに人気を博した。

**新春国立名人会／国立名人会**

【制作方針】

「新春国立名人会」では、落語のみならず各演芸の重鎮が日替りで出演する豪華な顔ぶれに、初春を寿ぐ寿獅子舞を加えて、初春に相応しい華やかな公演を実施する。

「国立名人会」では、落語を中心に選りすぐりの出演者の十八番のネタやふだんの寄席ではなかなか演じられない珍しい演目をじっくり楽しめる公演を実施する。

【実績】

1. 公演実績  
(新春国立名人会)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
新春国立名人会	演芸場	1/2(金) ~7(水)	実績	8回	6日	2,373人	(98.9%)	2,400人
			計画	8回	6日	2,300人	(95.8%)	2,400人

(国立名人会) ※目標入場者数：1公演当り 280人 (93.3%)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
4月国立名人会(第373回)	演芸場	4/27(日)	実績	1回	1日	293人	(97.7%)	300人
5月国立名人会(第374回)		5/31(土)	実績	1回	1日	285人	(95.0%)	300人
6月国立名人会(第375回)		6/22(日)	実績	1回	1日	290人	(96.7%)	300人
7月国立名人会(第376回)		7/27(日)	実績	1回	1日	293人	(97.7%)	300人
8月国立名人会(第377回)		8/24(日)	実績	1回	1日	295人	(98.3%)	300人
9月国立名人会(第378回)		9/28(日)	実績	1回	1日	242人	(80.7%)	300人
10月国立名人会(第379回)		10/18(土)	実績	1回	1日	282人	(94.0%)	300人
11月国立名人会(第380回)		11/30(日)	実績	1回	1日	285人	(95.0%)	300人
12月国立名人会(第381回)		12/21(日)	実績	1回	1日	290人	(96.7%)	300人
2月国立名人会(第382回)		2/22(日)	実績	1回	1日	271人	(90.3%)	300人
3月国立名人会(第383回)		3/22(日)	実績	1回	1日	291人	(97.0%)	300人
【国立名人会 小計】		11公演 (計画:11公演)		実績	11回	11日	3,117人	(94.5%)
	計画			11回	11日	3,080人	(93.3%)	3,300人

【特記事項】

- ・ 国立演芸場開場 35周年記念 (4~6月)
- ・ 平成26年度(第69回)文化庁芸術祭協賛公演(10月・11月)
- ・ 新春国立名人会の初日(1月2日)には、吉例となった鏡開きを行い、観客に樽酒を振る舞った。

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 新春国立名人会は、各分野の重鎮が一同に会し日替りで公演するという豪華な内容で、新年を寿ぐ寿獅子も含めて正月らしい華やかな公演を実施することができた。
- ・ 国立名人会は、落語を中心に、講談、浪曲、漫才など、各分野を代表する演芸家によって番組を構成した。また、一組当たりの出演時間も定席より長めに設定し、得意のネタをたっぷり演じてもらうことによって、大いに客席を楽しませる公演が実施できた。

特別企画公演

【制作方針】

特別企画公演では、公演ごとにテーマを設定するなど、他の寄席ではみられない企画性の高い公演を実施する。

【実績】

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
5月特別企画	演芸場	5/23(金)	実績	3回	3日	883人	(98.1%)	900人

立川流落語会	～25(日)	計画	3回	3日	840人	(93.3%)	900人
6月特別企画 花形演芸会スペシャル～受賞者の会～	6/18(水)	実績	1回	1日	286人	(95.3%)	300人
		計画	1回	1日	280人	(93.3%)	300人
7月特別企画 親子で楽しむ演芸会	7/26(土)	実績	1回	1日	295人	(98.3%)	300人
		計画	1回	1日	280人	(93.3%)	300人
8月特別企画 上方落語会	8/23(土)	実績	1回	1日	290人	(96.7%)	300人
		計画	1回	1日	280人	(93.3%)	300人
9月特別企画 正蔵、正蔵を語る	9/27(土)	実績	1回	1日	221人	(73.7%)	300人
		計画	1回	1日	280人	(93.3%)	300人
10月特別企画 芸術祭寄席	10/26(日)	実績	1回	1日	263人	(87.7%)	300人
		計画	1回	1日	250人	(83.3%)	300人
11月特別企画 五代目圓楽一門会	11/22(土)	実績	3回	3日	753人	(83.7%)	900人
	～24(月・休)	計画	3回	3日	800人	(88.9%)	900人
12月特別企画 芸歴五十周年記念 円丈冬の夜噺 「累ヶ淵 SADAKO3000」をやる会	12/23(火・祝)	実績	1回	1日	291人	(97.0%)	300人
		計画	1回	1日	280人	(93.3%)	300人
2月特別企画 噺家ディキシーバンド 『にゅうおいらんず』特別公演	2/26(木)	実績	1回	1日	292人	(97.3%)	300人
		計画	—	—	—	—	—
2月特別企画 太神楽十八番 曲芸フェスティバル	2/28(土)	実績	1回	1日	291人	(97.0%)	300人
		計画	1回	1日	280人	(93.3%)	300人
3月特別企画 圓朝に挑む！	3/21(土・祝)	実績	1回	1日	290人	(96.7%)	300人
		計画	1回	1日	280人	(93.3%)	300人
<b>【特別企画公演 小 計】</b>	<b>11 公演</b> (計画:10 公演)	実績	15回	15日	4,155人	(92.3%)	4,500人
		計画	14回	14日	3,850人	(91.7%)	4,200人

※ 2月「噺家ディキシーバンド 『にゅうおいらんず』特別公演」を追加で実施した。

#### 【特記事項】

- ・ 国立演芸場開場 35 周年記念 (5 月・6 月公演)
- ・ 平成 26 年度 (第 69 回) 文化庁芸術祭主催公演 (10 月)
- ・ 平成 26 年度 (第 69 回) 文化庁芸術祭協賛公演 (11 月)

#### 《自己点検評価》

##### ○ 良かった点・特色ある点

- ・ 国立演芸場ならではの「立川流落語会」を国立演芸場開場 35 周年記念及び立川流創立 30 周年記念公演として実施した。このほか「花形演芸会スペシャル～受賞者の会～」、「親子で楽しむ演芸会」、「正蔵、正蔵を語る」、「五代目圓楽一門会」、「円丈冬の夜噺『累ヶ淵 SADAKO3000』をやる会」及び「圓朝に挑む！」といった恒例の公演を実施した。また、8 月特別企画公演として 25 年 2 月の「上方若手落語会」以来、1 年半ぶりに「上方落語会」を実施した。2 月には「噺家ディキシーバンド『にゅうおいらんず』特別公演」及び 13 年半ぶりの太神楽曲芸の公演となる「太神楽十八番 曲芸フェスティバル」を実施するなど、国立演芸場らしい企画性の高い公演を実施することができた。

#### 浪曲名人会／浪曲錬声会／上方演芸特選会

##### 【制作方針】

「浪曲名人会」は関西を代表する浪曲師が顔を揃える恒例の浪曲公演。それぞれ得意の演目を披露する番組構成で、浪曲の魅力を引き出す公演を目指す。26 年度は、関西で活躍する若手浪曲師による座談会のコーナーを設け、話題性を高めた。

「浪曲錬声会」は浪曲界の次代を担う若手を中心にした番組構成で、今後の飛躍につながる公演とする。

「上方演芸特選会」は落語、浪曲、漫才、講談、曲芸など多彩な演芸を揃えた番組構成で、温かみのある寄席づくりを目指す。

【実績】

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
浪曲名人会	文楽劇場	2/28(土)	実績	1回	1日	763人	(101.3%)	753人
			計画	1回	1日	700人	(93.0%)	753人
【浪曲名人会 小計】 1公演 (計画:1公演)			実績	1回	1日	763人	(101.3%)	753人
			計画	1回	1日	700人	(93.0%)	753人
浪曲錬声会	文楽劇場 小ホール	5/17(土)	実績	2回	1日	338人	(106.3%)	318人
			計画	2回	1日	290人	(91.2%)	318人
【浪曲錬声会 小計】 1公演 (計画:1公演)			実績	2回	1日	338人	(106.3%)	318人
			計画	2回	1日	290人	(91.2%)	318人
5月上方演芸特選会	文楽劇場 小ホール	5/21(水) ~24(土)	実績	4回	4日	613人	(96.4%)	636人
			計画	4回	4日	540人	(84.9%)	636人
7月上方演芸特選会		7/23(水) ~26(土)	実績	4回	4日	581人	(91.4%)	636人
			計画	4回	4日	540人	(84.9%)	636人
9月上方演芸特選会		9/24(水) ~27(土)	実績	4回	4日	688人	(108.2%)	636人
			計画	4回	4日	540人	(84.9%)	636人
11月上方演芸特選会		11/19(水) ~22(土)	実績	4回	4日	626人	(98.4%)	636人
			計画	4回	4日	540人	(84.9%)	636人
1月上方演芸特選会		1/21(水) ~24(土)	実績	4回	4日	657人	(103.3%)	636人
			計画	4回	4日	540人	(84.9%)	636人
3月上方演芸特選会		3/11(水) ~14(土)	実績	4回	4日	651人	(102.4%)	636人
			計画	4回	4日	540人	(84.9%)	636人
【上方演芸特選会 小計】 6公演 (計画:6公演)			実績	24回	24日	3,816人	(100.0%)	3,816人
			計画	24回	24日	3,240人	(84.9%)	3,816人
【大衆芸能(文楽劇場) 合計】 8公演 (計画:8公演)			実績	27回	26日	4,917人	(100.6%)	4,887人
			計画	27回	26日	4,230人	(86.6%)	4,887人

【特記事項】

- ・ 国立文楽劇場開場 30 周年記念 (全公演)
- ・ 関西元気文化圏共催事業 (全公演)
- ・ 平成 26 年度(第 69 回) 文化庁芸術祭協賛公演(11 月上方演芸特選会)

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 「浪曲名人会」の若手の座談会コーナーの趣向は、観客及び外部専門家等にも高い評価を得た。司会者の進行でのトークショーに加え、演者それぞれが自己紹介を浪曲で披露した結果、場内は大いに沸き、次回の浪曲錬声会の宣伝にもなった。
- ・ 「浪曲錬声会」は、昨年が続いて芸歴 15 年以下の若手に出演者を限定したことにより、「錬声会」らしい公演となった。京山幸太のデビューなど、マスコミへの露出が多かったこと等が今回の盛況につながった。
- ・ 「上方演芸特選会」は全ての回で目標を達成することができた。出演者の選定や企画など工夫を重ね、この好調を維持したい。

## <5> 能 楽

### 《主要な業務実績》

#### 1. 公演実績

- ・ 能楽 51 公演（定例公演 18・普及公演 9・企画公演 23・鑑賞教室 1）を計画どおり実施
- ・ 各公演で目標入場者数を達成、能楽公演全体で 96.5%の高い入場率を達成
- ・ 同一の曲を異流で別の日に上演する「演出の様々な形」（5 月企画公演）、現在の能を見直す新たな視点を提示する「能を再発見する」シリーズ（9 月・2 月企画公演）など、国立能楽堂独自の切り口で特色ある公演を実施
- ・ 座席字幕装置を活用して、日本語（詞章）・英語の 2 チャンネル方式で字幕表示を実施（48 公演）

#### 2. 営業・広報

- ・ マスコミ各社への取材依頼、ポスター、チラシ、インターネット、あぜくら会会報、振興会ニュース等により公演を周知
- ・ 公演内容等に応じて、適宜特別ポスター・特別チラシを作成・配布したほか、ホームページに適宜トピックスを掲載
- ・ 団体観劇への対応として、希望に応じてレクチャーを実施。また適宜英文の特別チラシを作成し、都内の観光情報センター、ホテル、成田空港、大学の留学生センター等に配布・設置して外国人利用者を集客

#### 3. 外部専門家等の意見

- ・ 公演専門委員会を開催し、外部専門家等の意見を聴取して、後の事業運営に活用

#### 4. アンケート調査

- ・ 9 公演にて実施（9 回）、満足回答率 87.0%

### 《制作方針》

定例公演は、能・狂言の伝統的な演目を曲柄や季節、能と狂言のバランスを配慮しつつ、能一番・狂言一番により番組を構成し、初心者にも鑑賞しやすい公演とする。月 2 回のペースで上演し、年間を通して能・狂言の持つ多様な魅力を余すところなく明らかにする。

普及公演は、能一番・狂言一番に事前の解説をつけ、よりわかりやすく、深く鑑賞するための公演とする。能・狂言の伝統的な演目を曲柄や季節、能と狂言のバランスを配慮しつつ上演する。

企画公演は、上演頻度の少ない演目を含めて狂言のみを 3 演目上演する「狂言の会」、能・狂言をたっぷり楽しんでもらう「特別公演」、テーマを持たせて能・狂言の魅力を紹介する「企画公演」を上演する。

### 《業務実績詳細》

#### 1. 公演実績

公演名	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
【定例公演】	18 公演	実績	18 回	18 日	10,599 人	(93.9%)	11,286 人
		計画	18 回	18 日	10,440 人	(92.5%)	11,286 人
【普及公演】	9 公演	実績	9 回	9 日	5,576 人	(98.8%)	5,643 人
		計画	9 回	9 日	5,490 人	(97.3%)	5,643 人
【企画公演】	23 公演	実績	23 回	23 日	13,947 人	(96.7%)	14,421 人
		計画	23 回	23 日	13,570 人	(94.1%)	14,421 人
【鑑賞教室】	1 公演	実績	10 回	5 日	6,167 人	(98.4%)	6,270 人
		計画	10 回	5 日	6,050 人	(96.5%)	6,270 人
【能楽 合計】	51 公演	実績	60 回	55 日	36,289 人	(96.5%)	37,620 人
		計画	60 回	55 日	35,550 人	(94.5%)	37,620 人

#### 2. 営業・広報

- ・ マスコミ各社への取材依頼、ポスター、チラシ、インターネット、あぜくら会会報、振興会ニュース等により、公演の周知を図り、一般の集客に努めた。
- ・ 月毎のポスター・チラシのほか、公演内容等に応じて適宜特別ポスター・特別チラシを作成・配布し、

また公演内容等に応じてホームページに適宜トピックスを掲載して広報・宣伝に努めた。

- ・ 団体観劇への対応として、希望に応じてレクチャーを付けた。また適宜英文の特別チラシを作成し、都内の観光情報センター、ホテル、成田空港、大学の留学生センター等に配布・設置して外国人利用者の集客を図った。

### 3. 外部専門家等の意見

- ・ 公演専門委員会を開催し、外部専門家等の意見を聴取して、後の事業運営に役立てた。

### 4. アンケート調査

9公演にて実施（9回）した。

回答数 2,656 人（配布数 4,416 人、回収率 60.1%）。回答者の 87.0%が概ね満足と答えた（2,310 人）。

#### 【特記事項】

- ・ 平成 26 年度（第 69 回）文化庁芸術祭主催公演（10 月企画公演）
- ・ 平成 26 年度（第 69 回）文化庁芸術祭協賛公演（10 月・11 月実施の 8 公演）
- ・ 座席字幕装置を活用して、11 月企画公演と 2 月企画公演（蠟燭能）を除く 48 公演で、日本語（詞章）・英語の 2 チャンネル方式で字幕表示を実施した。

#### 《数値目標の達成状況》

---

##### 【目標入場者数の達成状況】

実績 36,289 人／目標 35,550 人（達成度 102.1%）

#### 《自己点検評価》

---

##### ○ 自己評定

##### ・ 総合評定

A
---

（根拠）

- ・ 能楽公演全体で、入場率 94.5%の高い目標を超える 96.5%という実績を達成した。また、定例公演、普及公演、企画公演、鑑賞教室の各種公演ごとの合計でもそれぞれ目標を達成した。
- ・ 演出の見直しによる 9 月・2 月企画公演「能を再発見する」シリーズの上演、10 月企画公演における新作小舞の委嘱初演、またその他優れた新作・復曲作品の再演により、レパートリーの拡充につながる成果を上げた。
- ・ 同一の曲の流派等による違いを楽しむ 5 月企画公演「演出の様々な形」や、11 月に 5 公演実施した月間特集「鬼の世界」、震災と復興に関する講演を組み合わせ「復興と文化」など、国立能楽堂独自の切り口で特色ある公演を実施した。
- ・ アンケートの満足回答率が 87.0%となり、前年度の 83.2%を上回った。

##### ○ 良かった点・特色ある点

- ・ 能楽公演全体で高い目標を達成、96.5%という高い入場率を達成した。入場者数では開場 30 周年記念の 25 年度をも上回った。
- ・ 5 月企画公演の「演出の様々な形」では、同一の曲を異流で別の日に上演し、流派や家、小書等による演出の違いを楽しんでいただいた。9 月と 2 月の企画公演「能を再発見する」シリーズでは、現在の能を見直す新たな視点を提示し、レパートリーの拡充にもつながる良い成果を残した。また、11 月には月間特集「鬼の世界」を設定し、能や狂言に多く描かれる鬼を特集して上演するなど、国立能楽堂独自の切り口で特色ある公演を行うことができた。

**定例公演**

**【制作方針】**

定例公演は、能・狂言の伝統的な演目を曲柄や季節、能と狂言のバランスに配慮しつつ、能一番・狂言一番により番組を構成し、初心者にも鑑賞しやすい公演とする。原則として月2回のペースで上演し、年間を通して能・狂言のもつ多様な魅力を余すところなく明らかにする。

**【実績】**

1. 公演実績 ※目標入場者数：1回当たり580人(92.5%)、劇場：能楽堂

公演名	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
狂言「泣尼」、能「屋島 弓流・那須」	4/9(水)	実績	1回	1日	573人	(91.4%)	627人
狂言「酢薑」、能「海士 懐中之舞」	4/18(金)	実績	1回	1日	607人	(96.8%)	627人
狂言「茶壺」、能「俊寛」	5/16(金)	実績	1回	1日	600人	(95.7%)	627人
狂言「無布施経」、能「浮舟 彩色」	5/21(水)	実績	1回	1日	620人	(98.9%)	627人
狂言「縄綱」、能「班女」	6/4(水)	実績	1回	1日	617人	(98.4%)	627人
狂言「右近左近」、能「采女 美奈保之伝」	6/20(金)	実績	1回	1日	619人	(98.7%)	627人
狂言「因幡堂」、能「芭蕉 薬草喻品」	7/16(水)	実績	1回	1日	617人	(98.4%)	627人
狂言「磁石」、能「龍田」	7/25(金)	実績	1回	1日	618人	(98.6%)	627人
狂言「川上」、能「小督 替装束」	9/3(水)	実績	1回	1日	558人	(89.0%)	627人
狂言「薩摩守」、能「是我意 白頭」	9/19(金)	実績	1回	1日	477人	(76.1%)	627人
狂言「鎧」、能「三輪」	10/1(水)	実績	1回	1日	593人	(94.6%)	627人
狂言「吹取」、能「松虫」	10/17(金)	実績	1回	1日	567人	(90.4%)	627人
狂言「蟹山伏」、能「二人静 立出之一声」	12/10(水)	実績	1回	1日	621人	(99.0%)	627人
狂言「塗附」、能「葛城」	12/19(金)	実績	1回	1日	574人	(91.5%)	627人
素謡「神歌」、能「玉井」、間狂言「貝尽」	1/7(水)	実績	1回	1日	621人	(99.0%)	627人
狂言「成上り」、能「山姥 白頭」	1/16(金)	実績	1回	1日	562人	(89.6%)	627人
狂言「延命袋」、能「雲林院」	3/4(水)	実績	1回	1日	614人	(97.9%)	627人
狂言「苞山伏」、能「頼政」	3/20(金)	実績	1回	1日	541人	(86.3%)	627人
【定例公演 小 計】 18 公演 (計画:18 公演)	実績	18回	18日	10,599人	(93.9%)	11,286人	
	計画	18回	18日	10,440人	(92.5%)	11,286人	

**【特記事項】**

- ・ 平成26年度(第69回)文化庁芸術祭協賛公演(10月公演)
- ・ 座席字幕装置を活用して、全公演で、日本語(詞章)・英語の2チャンネル方式で字幕表示を実施した。

《自己点検評価》

- 良かった点・特色ある点
  - ・ 全体として90%を超える高い入場率を維持することができた。4月「海士」・7月「芭蕉」など観客にとって魅力ある演目を上演できたことが成果に繋がった。今後も引き続き、高水準の入場率を保持していきたい。
- 見直し又は改善を要する点
  - ・ 目標入場者数を達成できなかった公演があった。役者の世代交代の時期であるものの、内容の充実をさらに図り、集客に努めたい。

**普及公演**

【制作方針】

普及公演は、能一番・狂言一番に事前の解説をつけ、よりわかりやすく深く鑑賞するための公演として  
いる。能・狂言の伝統的な演目を曲柄や季節、能と狂言のバランスを配慮しつつ上演する。

【実績】

1. 公演実績 ※目標入場者数：1回当たり610人(97.3%)、劇場：能楽堂

公演名	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
解説、狂言「隠狸」、能「高砂」	4/12(土)	実績	1回	1日	623人	(99.4%)	627人
解説、狂言「鐘の音」、能「蟬丸」	5/10(土)	実績	1回	1日	619人	(98.7%)	627人
解説、狂言「止動方角」、能「皇帝」	6/14(土)	実績	1回	1日	620人	(98.9%)	627人
解説、狂言「水掛髻」、能「佐保山」	7/12(土)	実績	1回	1日	620人	(98.9%)	627人
解説、狂言「文荷」、能「阿漕」	9/13(土)	実績	1回	1日	614人	(97.9%)	627人
解説、狂言「鳴子遣子」、能「歌占」	10/11(土)	実績	1回	1日	612人	(97.6%)	627人
解説、狂言「御茶の水」、能「錦木」	12/13(土)	実績	1回	1日	622人	(99.2%)	627人
解説、狂言「禰宜山伏」、能「橋弁慶」	1/24(土)	実績	1回	1日	623人	(99.4%)	627人
解説、狂言「鶯」、能「熊野」	3/7(土)	実績	1回	1日	623人	(99.4%)	627人
【普及公演 小計】	9公演 (計画:9公演)	実績	9回	9日	5,576人	(98.8%)	5,643人
		計画	9回	9日	5,490人	(97.3%)	5,643人

【特記事項】

- ・ 平成26年度(第69回)文化庁芸術祭協賛公演(10月公演)
- ・ 座席字幕装置を活用して、全公演で、日本語(詞章)・英語の2チャンネル方式で字幕表示を実施した。

《自己点検評価》

- 良かった点・特色ある点
  - ・ 全公演で目標入場者数を達成し、9公演で98.8%という高い入場率を達成した。解説では、鑑賞の際に必要な知識を事前に伝えることができた。今後も、馴染みのある演目でも従来とは異なる観点から解説したり、初心者から常連まで満足できる内容の解説を提供したりするなど、普及公演にふさわしい工夫を図りたい。

**企画公演**

【制作方針】

上演頻度の少ない演目を含めて狂言のみを3演目上演する「狂言の会」、能・狂言をたっぷり楽しんでもらう「特別公演」、テーマを持たせて能・狂言の魅力を紹介する「企画公演」を上演する。

## 【実績】

1. 公演実績 ※目標入場者数：1回当たり 590人(94.1%)、劇場：能楽堂

公演名	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
特別公演 松尾芭蕉の見た風景 能「遊行柳 青柳之舞」、狂言「歌争」、能「鶉飼」	4/26(土)	実績	1回	1日	617人	(98.4%)	627人
演出の様々な形 おはなし、仕舞「砧」、狂言「船渡聲」、能「邯鄲 夢中酔舞」	5/29(木)	実績	1回	1日	617人	(98.4%)	627人
演出の様々な形 おはなし、仕舞「砧」、狂言「舟渡聲」、能「邯鄲 傘之出」	5/31(土)	実績	1回	1日	623人	(99.4%)	627人
復曲・再演の会 解説、仕舞「実盛 クセ・キリ」、復曲能「敷地物狂」	7/5(土)	実績	1回	1日	561人	(89.5%)	627人
夏休み親子で楽しむ能の会 おはなし、能「紅葉狩 紅葉ノ舞・群鬼ノ伝」	8/2(土)	実績	1回	1日	623人	(99.4%)	627人
働く貴方に贈る 対談、狂言「盆山」、能「雷電」	8/21(木)	実績	1回	1日	618人	(98.6%)	627人
夏休み親子で楽しむ狂言の会 おはなし、狂言「二人袴」、新作狂言「大和西瓜」	8/23(土)	実績	1回	1日	624人	(99.5%)	627人
狂言と落語・講談 講談「扇的」、落語「宗論」、狂言「宗論」	8/29(金)	実績	1回	1日	620人	(98.9%)	627人
能を再発見するV-観阿弥時代の百万- 仕舞「百万 クセ」、対談、観阿弥時代の能「百万」	9/23(火・祝)	実績	1回	1日	618人	(98.6%)	627人
古典の日記念<雪景色> 新作小舞「雪づくし」「雪遣遥」、舞踊・箏曲「鉢の木」、能「雪 雪踏之拍子」	10/31(金)	実績	1回	1日	607人	(96.8%)	627人
《鬼の世界》 おはなし、狂言「節分」、能「鉄輪」	11/6(木)	実績	1回	1日	552人	(88.0%)	627人
《鬼の世界》 おはなし、狂言「清水」、能「葵上 古式」	11/7(金)	実績	1回	1日	621人	(99.0%)	627人
《鬼の世界》 おはなし、狂言「伯母ケ酒」、能「安達原 白頭・急進之出」	11/8(土)	実績	1回	1日	623人	(99.4%)	627人
《鬼の世界》蠟燭の灯りによる 狂言「杭か人か」、狂言「鬼の継子」、狂言「鬪罪人」	11/27(木)	実績	1回	1日	545人	(86.9%)	627人
《鬼の世界》蠟燭の灯りによる 狂言「八尾」、能「大江山」	11/28(金)	実績	1回	1日	614人	(97.9%)	627人
特別公演 仕舞「善知鳥」、狂言「柑子」、能「大原御幸」	12/6(土)	実績	1回	1日	619人	(98.7%)	627人
特別公演 初夢とともに 能「富士山」、復曲狂言「茄子」、能「野守 黒頭」	1/10(土)	実績	1回	1日	613人	(97.8%)	627人
狂言の会 狂言「鴈磔」、狂言「千鳥」、狂言「賽の目」	1/29(木)	実績	1回	1日	621人	(99.0%)	627人
蠟燭の灯りによる おはなし、謡講形式の素謡「蟬丸」他、能「弱法師」	2/4(水)	実績	1回	1日	550人	(87.7%)	627人

能・狂言に見る危機と機転 おはなし、狂言「武悪」、能「咸陽宮」	2/14(土)	実績	1回	1日	622人	(99.2%)	627人
能を再発見するVI-世阿弥の花筐- 仕舞「花筐 クセ」、対談、能「古作 花筐」	2/19(木)	実績	1回	1日	597人	(95.2%)	627人
働く貴方に贈る 実演解説、狂言「文山立」、能「巴 替装束」	2/27(金)	実績	1回	1日	621人	(99.0%)	627人
復興と文化Ⅲ 講演、狂言「鬼瓦」、能「桜川」	3/15(日)	実績	1回	1日	621人	(99.0%)	627人
【企画公演 小 計】 23 公演 (計画:23 公演)		実績	23回	23日	13,947人	(96.7%)	14,421人
		計画	23回	23日	13,570人	(94.1%)	14,421人

(能楽鑑賞教室)

公演名	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
6月能楽鑑賞教室 解説、狂言「仏師」、能「殺生石」	6/23(月) ~27(金)	実績	10回	5日	6,167人	(98.4%)	6,270人
		計画	10回	5日	6,050人	(96.5%)	6,270人

【特記事項】

- ・ 平成26年度(第69回)文化庁芸術祭主催公演(10月公演)
- ・ 平成26年度(第69回)文化庁芸術祭協賛公演(11月公演)
- ・ 座席字幕装置を活用して、11月及び2月公演(蠟燭能)を除く20公演で、日本語(詞章)・英語の2チャンネル方式で字幕表示を実施した。

《自己点検評価》

- 良かった点・特色ある点
  - ・ 5月企画公演「演出の様々な形」では、能・狂言の同一曲目を異なる流派で上演し、多様な演出を比較して楽しむという国立能楽堂ならではの企画を提示できた。
  - ・ 24年度から続く「能を再発見する」シリーズの最終年度として9月と2月に公演を行った。いずれも周到な準備期間を設けての上演で、現在の能を見直す新たな視点を提示することができた。
  - ・ 11月に月間特集〈鬼の世界〉を設けて、様々な観点から能・狂言に登場する鬼に迫ることができた。
  - ・ 企画公演全体でも90%を越える高い入場率を維持することができた。
- 見直し又は改善を要する点
  - ・ 目標入場者数を達成できなかった公演があった。企画意図が的確に伝わるよう、番組構成や広報を工夫したい。

## <6> 組踊等沖縄伝統芸能

### 《主要な業務実績》

#### 1. 公演実績

- ・ 組踊等沖縄伝統芸能 30 公演（定期公演 19・企画公演 6・研究公演 1・普及公演 4）を計画どおり実施
- ・ 国立劇場おきなわ開場 10 周年記念公演の実施（5 公演）
- ・ 組踊等沖縄伝統芸能公演全体で目標入場者数を達成、入場者数・入場率ともに過去最高を記録
- ・ 沖縄県内他地域で復曲された演目の復活上演（7 月「月の豊多」、9 月「未生の縁」）、第 1 回研究公演で復曲した演目の再演（1 月「辺戸の大主」）
- ・ 解説付き公演の上演（6 月・8 月・10 月・11 月組踊鑑賞教室）

#### 2. 営業・広報

- ・ マスコミ各社への取材依頼、ポスター、チラシ、インターネット、友の会会報等により公演を周知
- ・ 県内約 700 カ所の教育機関、主要企業等、県内約 440 カ所の全公民館、県内 9 カ所の観光施設に設置した当劇場専用ラックにて公演情報や劇場取組を周知
- ・ 公演演目ゆかりの地にある公民館や関係団体等への訪問による誘客
- ・ 県の補助事業を活用した団体送迎バス無料サービスを実施
- ・ 国立劇場おきなわ公式 Facebook ページを開設し情報を発信
- ・ 地元 FM ラジオ局番組内の芸能紹介コーナーにて公演情報を周知

#### 3. 外部専門家等の意見

- ・ 公演専門委員会を開催し、外部専門家等の意見を聴取して、後の事業運営に活用

#### 4. アンケート調査

- ・ 28 公演にて実施（29 回）、満足回答率 74.7%

### 《制作方針》

26 年度は、定期公演、企画公演、研究公演及び普及公演からなる組踊等沖縄伝統芸能の公演を 30 公演行う。

定期公演は、組踊公演、琉球舞踊公演、三線音楽公演、沖縄芝居公演及び民俗芸能公演から構成される。上演機会が少ない優れた演目の上演や、古典の様式を踏まえた新作組踊の上演を行うなど多様な演目の上演に努める。自主公演のうち 5 公演は、10 周年記念特別公演と位置づけ実施する。10 周年記念特別公演として、琉球の三線音楽の他、本土の三味線音楽を紹介する「三線音楽・三味線音楽」、重要無形文化財保持者による「琉球舞踊特選会」、史劇「首里城明け渡し」、アジア・太平洋地域の芸能「宮古の神歌と韓国・珍島シッキムクッ」、民俗芸能「石垣島四ヶ村のプーリィ（豊年祭）」を上演する。その他の自主公演として、組踊公演では、朝薫五番の「執心鐘入」のほかに「月の豊多」、「未生の縁」など上演機会の少ない組踊も広く紹介し、上演する。また、舞台形式に関しては、御冠船踊形式、張り出し形式など、演目に応じた上演の工夫を行う。琉球舞踊公演では、定番となっている「新春琉舞名人選」、「男性舞踊家の会」等のほか、「八重山の踊り」では、石垣島にて活動する実演家を招き、八重山舞踊の魅力を広く披露する。沖縄芝居公演では、人気の高い名作歌劇「奥山の牡丹」を、民俗芸能公演では、沖縄本島南部に位置する八重瀬町に継承される芸能を取り上げる。

企画公演は、23 年度に初演した新作組踊「開得大君誕生」を、主演の坂東玉三郎と中堅・若手の実演家が練り上げて再演するほか、第五回を迎える創作舞踊大賞の入賞作品を中心に構成する「創作舞踊」などを実施し、新たな作品を発信しつつ沖縄伝統芸能の振興に資する。

普及公演では、社会人のための組踊鑑賞教室、親子のための組踊鑑賞教室において、解説プログラムと併せて、組踊を上演する。また、生徒のための組踊鑑賞教室では、古典作品の上演の前に、解説を交えて構成する新作組踊を上演し、組踊の理解を深める工夫を行う。

研究公演では、「村々に伝わる組踊」と題し、村々で継承されてきた組踊の特色を再確認し、御冠船舞台の使用方法や衣装など検証しながら構成・演出を試みる。

### 《業務実績詳細》

#### 1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
組踊「執心鐘入」		4/26(土)	実績	1 回	1 日	376 人	(66.1%)	569 人

			計画	1回	1日	339人	(60.0%)	565人			
琉球舞踊「八重山の踊り」	国立劇場 おきなわ 大劇場	5/31(土)	実績	1回	1日	471人	(75.6%)	623人			
			計画	1回	1日	374人	(60.0%)	623人			
三線音楽「三線音楽・三味線音楽」		6/14(土)	実績	1回	1日	387人	(62.1%)	623人			
			計画	1回	1日	374人	(60.0%)	623人			
民俗芸能「沖縄本島民俗芸能祭(八重瀬町)「やえせの民俗芸能」」		7/12(土)	実績	1回	1日	498人	(88.0%)	566人			
			計画	1回	1日	453人	(80.0%)	566人			
組踊「月の豊多」		7/26(土)	実績	1回	1日	480人	(85.0%)	565人			
			計画	1回	1日	339人	(60.0%)	565人			
琉球舞踊「男性舞踊家の会」		8/16(土)	実績	1回	1日	552人	(89.2%)	619人			
			計画	1回	1日	374人	(60.0%)	623人			
組踊「伏山敵討」		8/24(日)	実績	1回	1日	313人	(55.4%)	565人			
			計画	1回	1日	339人	(60.0%)	565人			
琉球舞踊「琉球舞踊特選会」		9/20(土)	実績	1回	1日	553人	(88.8%)	623人			
			計画	1回	1日	436人	(70.0%)	623人			
組踊「未生の縁」		9/27(土)	実績	1回	1日	286人	(50.6%)	565人			
			計画	1回	1日	339人	(60.0%)	565人			
沖縄芝居 史劇「首里城明け渡し」		10/4(土) ～5(日)	実績	2回	2日	1,095人	(87.3%)	1,254人			
			計画	2回	2日	875人	(69.9%)	1,251人			
民俗芸能「石垣島四カ村のプーリイ(豊年祭)」	12/14(日)	実績	2回	1日	956人	(84.2%)	1,136人				
		計画	2回	1日	876人	(70.0%)	1,251人				
琉球舞踊「新春琉舞名人選一嘉例吉の舞ー/ー新春を寿ぐー」	1/10(土) ～11(日)	実績	2回	2日	623人	(50.0%)	1,246人				
		計画	2回	2日	810人	(65.0%)	1,246人				
組踊「辺戸の大主」	1/24(土)	実績	1回	1日	380人	(67.3%)	565人				
		計画	1回	1日	339人	(60.0%)	565人				
組踊「万歳敵討」	2/28(土)	実績	1回	1日	380人	(66.8%)	569人				
		計画	1回	1日	339人	(60.0%)	565人				
沖縄芝居 歌劇「奥山の牡丹」	3/14(土) ～15(日)	実績	2回	2日	975人	(85.0%)	1,147人				
		計画	2回	2日	687人	(60.0%)	1,145人				
組踊「忠臣身替の巻」	3/21(土・祝)	実績	1回	1日	401人	(70.7%)	567人				
		計画	1回	1日	339人	(60.0%)	565人				
琉球舞踊「琉球舞踊観賞会ーうりずんの舞ー」	国立劇場 おきなわ 小劇場	4/12(土)	実績	1回	1日	160人	(64.3%)	249人			
			計画	1回	1日	149人	(59.8%)	249人			
琉球舞踊「琉球舞踊鑑賞会ー豊穰の舞ー」		9/6(土)	実績	1回	1日	151人	(60.6%)	249人			
琉球舞踊「琉球舞踊鑑賞会ー初春の舞ー」	2/7(土)	計画	1回	1日	149人	(59.8%)	249人				
		実績	1回	1日	210人	(84.3%)	249人				
【定期公演 小 計】			19 公演 (計画:19公演)			実績	23回	22日	9,247人	(73.7%)	12,549人
						計画	23回	22日	8,079人	(63.9%)	12,653人
新作組踊「聞得大君誕生」	国立劇場 おきなわ 大劇場	5/22(木) ～25(月)	実績	4回	4日	2,261人	(90.2%)	2,506人			
			計画	4回	4日	2,013人	(80.0%)	2,515人			
「ゆらていく遊ば」		10/25(土)	実績	1回	1日	505人	(88.9%)	568人			
			計画	1回	1日	311人	(54.9%)	566人			
「国立劇場寄席」		11/8(土)	実績	1回	1日	488人	(78.3%)	623人			
			計画	1回	1日	498人	(79.9%)	623人			
アジア・太平洋地域の芸能 「宮古の神歌と韓国・珍島シッキムクツ」		11/15(土)	実績	1回	1日	339人	(54.8%)	619人			
			計画	1回	1日	371人	(59.9%)	619人			
「創作舞踊」		12/20(土)	実績	1回	1日	365人	(58.6%)	623人			
			計画	1回	1日	310人	(50.1%)	619人			
「神楽～早池峰大償神楽～」(岩手県大償)	2/15(日)	実績	1回	1日	320人	(51.9%)	617人				
		計画	1回	1日	371人	(59.9%)	619人				

【企画公演 小 計】			6 公演 (計画:6 公演)	実績	9 回	9 日	4,278 人	(77.0%)	5,556 人
				計画	9 回	9 日	3,874 人	(69.7%)	5,561 人
「村々に伝わる組踊」	国立劇場 おきなわ 大劇場	5/10(土)		実績	1 回	1 日	305 人	(54.0%)	565 人
				計画	1 回	1 日	433 人	(70.0%)	619 人
【研究公演 小 計】			1 公演 (計画:1 公演)	実績	1 回	1 日	305 人	(54.0%)	565 人
				計画	1 回	1 日	433 人	(70.0%)	619 人
社会人のための組踊鑑賞教室「雪払い」	国立劇場 おきなわ 大劇場	6/28(土)		実績	1 回	1 日	498 人	(86.2%)	578 人
				計画	1 回	1 日	424 人	(75.0%)	565 人
親子のための組踊鑑賞教室「女物狂」	国立劇場 おきなわ 大劇場	8/3(日)		実績	1 回	1 日	434 人	(75.1%)	578 人
				計画	1 回	1 日	424 人	(75.0%)	565 人
生徒のための組踊鑑賞教室「執心鐘入」	国立劇場 おきなわ 大劇場	10/16(木) ～17(金)		実績	4 回	2 日	1,567 人	(67.8%)	2,312 人
				計画	4 回	2 日	1,609 人	(70.0%)	2,299 人
生徒のための組踊鑑賞教室「女物狂」	国立劇場 おきなわ 大劇場	11/27(木) ～28(金)		実績	4 回	2 日	1,810 人	(78.3%)	2,312 人
				計画	4 回	2 日	1,618 人	(70.0%)	2,312 人
【普及公演 小 計】			4 公演 (計画:4 公演)	実績	10 回	6 日	4,309 人	(74.6%)	5,780 人
				計画	10 回	6 日	4,075 人	(71.0%)	5,741 人
【組踊等沖縄伝統芸能 合 計】			30 公演 (計画:30 公演)	実績	43 回	38 日	18,139 人	(74.2%)	24,450 人
				計画	43 回	38 日	16,461 人	(67.0%)	24,574 人

## 2. 営業・広報

- ・ 国立劇場おきなわ友の会会報誌等により公演の周知を図った。
- ・ 毎月、県内約 700 カ所(県、市町村、教育機関、主要企業等)に各公演のチラシを配布するとともに、県内約 440 カ所の全公民館に公演情報や劇場取組を周知し、団体客の誘致に努めた。
- ・ 各公演演目のゆかりの地の公民館や関係団体等への訪問を強化して勧誘に努めた。
- ・ 県内 9 カ所の観光施設に当劇場の専用ラックを設置し、劇場及び公演の周知を図った。
- ・ 7 月公演から、県の補助事業を活用して団体送迎バス無料サービスを行い、団体客の誘致に努めた。
- ・ 11 月に国立劇場おきなわ公式 Facebook ページを開設し、劇場、芸能、公演等に関する情報を発信し、ファンとの交流を図った。
- ・ 11 月から 3 月にかけて、地元 FM ラジオ局番組内の芸能紹介コーナーで自主公演の紹介を行った。
- ・ 1 月定期公演琉球舞踊「新春琉舞名人選」では、公演 2 日間計 200 名に呈茶を実施し、幕間に抽選による観客へのお年玉プレゼント(カレンダー、劇場グッズなどの詰め合わせ)を行い、初春公演の雰囲気盛り上げた。

## 3. 外部専門家等の意見

- ・ 公演専門委員会を開催し、外部専門家等の意見を聴取して、後の事業運営に役立てた。

## 4. アンケート調査

28 公演にて実施(29 回)した。

回答数 4,614 人(配布数 7,093 人、回収率 65.1%)。回答者の 74.7%が概ね満足と答えた(3,447 人)。

### 【特記事項】

- ・ 国立劇場おきなわ開場 10 周年記念特別公演(6 月・9 月・10 月・12 月定期公演、11 月企画公演「アジア・太平洋地域の芸能」)
- ・ 平成 26 年度(第 69 回)文化庁芸術祭主催公演(11 月企画公演「アジア・太平洋地域の芸能」)
- ・ 平成 26 年度(第 69 回)文化庁芸術祭協賛公演(10 月定期公演、10 月企画公演、11 月企画公演「国立劇場寄席」、10 月・11 月普及公演)
- ・ 「国立劇場寄席」公演を除く全公演に字幕で歌詞等を表示し、鑑賞の助けとした。

### 《数値目標の達成状況》

#### 【目標入場者数の達成状況】

実績 18,139 人／目標 16,461 人(達成度 110.2%)

《自己点検評価》

---

○ 自己評定

・ 総合評定

B

(根拠)

- ・ 26年度の目標入場者数を上回ると同時に、過去最高の23年度をも上回る入場者数(18,139人)を達成した。入場率についても過去最高の24年度を上回る実績(74.2%)を達成した。
- ・ 開場10周年記念特別公演をはじめとし、新作組踊「聞得大君誕生」再演、企画公演「ゆらていく遊ば」、上演機会の少ない優れた演目の上演など、企画に工夫を凝らした各公演が好評であった。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 新作組踊「聞得大君誕生」の再演では、主演・演出の坂東玉三郎と沖縄の出演者で練り直しを行い、新作組踊としての完成度を高めることが出来た。また、第二部の新作初演「蓬莱島」においても、古典舞踊を基にした創作舞踊として構成、演出に工夫を凝らし、これまでにないスタイルの琉球舞踊を上演することができた。
- ・ 開場10周年記念特別公演として、6月の「三線音楽・三味線音楽」から12月「石垣島四ヶ村のプーリィ(豊年祭)」まで、好評のうちに上演することができた。
- ・ 10月企画公演「ゆらていく遊ば」は、「琉球芸能の俳優祭」として初の試みとなる企画公演であった。幕間まで含めて出演者と観客が身近に交流する活気あふれる公演となった。
- ・ 開場10周年を迎えて、マスコミ等を通じて県民の関心を高め、年間を通して好調な入場者数を維持した結果、入場者数及び入場率がともに過去最高を記録した。また、25年度に著しく落ち込んだ普及公演の入場率も、前年度からの学校に対するきめ細かな公演周知が功を奏して大幅に改善した。
- ・ 営業面では、沖縄県の補助事業等を活用して24年度より実施している団体送迎バス無料サービスが好評で、入場者数の増加に大きく寄与した。また、一般団体はもとより旅行会社によるツアー企画にも活用することができた。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 全体的には高い値で目標入場者数を達成できたが、アジア・太平洋地域の芸能や本土の民俗芸能公演については、依然として厳しい集客状況のため、新たな観客層の掘り起こしなど営業方法を工夫する必要がある。

---

## <7> 演目の拡充

### 《主要な業務実績》

---

1. 復活上演候補演目の上演候補台本準備稿の作成作業
  - ・ 上演用準備台本「太平記忠臣講釈」の作成
  - ・ 復活上演用準備台本「命懸色の二番目」の内容の検討
2. 歌舞伎の新作脚本募集
  - ・ 佳作1篇と公益財団法人清栄会奨励賞特別賞1篇を決定
3. 文楽における新作の上演及び復曲等の上演準備作業
  - ・ 新作文楽「不破留寿之太夫」（本館9月公演）「かみなり太鼓」（文楽劇場夏休み文楽特別公演）の上演
  - ・ 27年度夏休み文楽特別公演で上演予定の新作文楽「ふしぎな豆の木」上演準備稿の作成
  - ・ 「義経腰越状」の「泉三郎館の段中」の復曲作業
4. 大衆芸能の新作脚本募集
  - ・ 「講談」部門の新作脚本を募集し、優秀作1篇、佳作2篇、公益財団法人清栄会奨励賞2篇を決定
5. 能楽における新作及び復曲、演出及び見直しによる上演
  - ・ 新作及び復曲の上演・再演（4公演）
  - ・ 演出の見直しによる上演（2公演）
6. 組踊等沖縄伝統芸能における新作組踊等の上演
  - ・ 上演機会が少ない優れた演目の上演（3公演）
  - ・ 新作の上演・再演（5公演）

### 《業務実績詳細》

---

1. 復活上演候補演目の上演候補台本準備稿の作成作業
  - ・ 国立劇場文芸研究会が作成する上演用準備台本につき、外部委嘱者に補綴を依頼した3作品のうち、「太平記忠臣講釈」の補綴作業が終わり、上演用準備台本を作成した。また、「銘作切籠曙」「升鯉滝白旗」については、現在提出されている補綴案の内容を検討し、27年度中の完成を目指す。
  - ・ 復活上演候補作品調査検討会において、舞踊の候補演目「命懸色の二番目」の台本準備稿の提出を受け、内容を検討した。27年度に復活上演準備台本を作成する。
  - ・ 17年度作成の「復活上演候補演目一覧」を上演用準備台本の対象候補作品として見直すに当たり、次世代の俳優が演じることを想定して、委員から候補演目の提出を受けた。
2. 歌舞伎の新作脚本募集
  - ・ 25年度に受け付けた応募作品166篇の中から、選考会で討議を重ね、佳作1篇と公益財団法人清栄会奨励賞特別賞1篇を決定した。  
佳作「婦学六景重宝記」森真実、清栄会奨励賞特別賞「足軽と局一秋暮宵戯言」斉藤信一
3. 文楽における新作の上演及び復曲等の上演準備作業
  - ・ 本館9月文楽公演において、新作「不破留寿之太夫」を上演した。舞台装置・美術を担当した石井みつるはこの作品で読売演劇大賞優秀スタッフ賞を受賞した。
  - ・ 26年度夏休み文楽特別公演第1部「親子劇場」で小佐田定雄氏の新作文楽「かみなり太鼓」を上演した。また、27年度夏休み文楽特別公演第1部「親子劇場」での上演に向けて、竹田真砂子氏に新作文楽「ふしぎな豆の木」の台本作成を依頼した。
  - ・ 文楽劇場では、「蘭奢待新田系図」の「幸内住家の段」の復曲作業が完了した。また、「義経腰越状」の「泉三郎館の段中」の復曲作業を進めた。
4. 大衆芸能の新作脚本募集
  - ・ 「講談」部門の新作脚本の応募を8月1日から8月31日まで募集（応募総数76篇）。1月23日に選考会を開催し、優秀作1篇、佳作2篇、公益財団法人清栄会奨励賞2篇を決定した。  
優秀作「外相の右足」小櫃知克、佳作「箱根の銀鱗」田中哲也、「白魚のおゆき」奥山景布子、清栄会奨励賞「AID」坂東誠一、「おとめ桜のものがたり・異説」滝沢とも子

5. 能楽における新作及び復曲、演出の見直しによる上演

- ・ 新作の上演  
10月企画公演 新作小舞「雪づくし」「雪逍遥」(国立能楽堂委嘱初演)
- ・ 演出の見直しによる上演  
9月企画公演 新演出 観阿弥時代の能「百万」(能を再発見するV-観阿弥時代の百万-)  
2月企画公演 新演出 能「古作花筐」(能を再発見するVI-世阿弥の花筐-)
- ・ 他の能楽堂等で上演された優れた新作及び復曲の再演  
7月企画公演 復曲能「敷地物狂」  
8月企画公演 新作狂言「大和西瓜」  
1月特別公演 復曲狂言「茄子」

6. 組踊等沖縄伝統芸能における新作組踊等の上演

- ・ 上演機会が少ない優れた演目の上演  
7月定期公演「月の豊多」  
9月定期公演「未生の縁」  
1月定期公演「辺戸の大王」
- ・ 新作の上演・再演  
5月企画公演 新作組踊「聞得大君誕生」再演、新作舞踊「蓬莱島」  
※なお、6月5日～12日 松竹株式会社主催・京都四條南座「坂東玉三郎特別舞踊公演 組踊と琉球舞踊」においても上演された。  
10月企画公演 新作組踊「喜劇『鶴亀二児其ノ後ノ断～続・二童敵討～』」  
10月・11月生徒のための組踊鑑賞教室 新作組踊「組踊版シンデレラ～ようこそ組踊城へ～」  
12月企画公演「創作舞踊」

《自己点検評価》

○ 自己評定

・ 総合評定

B

(根拠)

- ・ 本館では、歌舞伎の復活上演候補演目の上演候補台本準備稿の作成作業を順調に実施できた。また、新作文楽の上演が好評を得て、再演につながる手応えを得た。
- ・ 大衆芸能の新作脚本募集において、前年度の「浪曲」部門及び前回の「講談」部門(22年度)に比して応募件数が増加した。
- ・ 能楽堂では、新作小舞2番の委嘱初演、「能を再発見する」と題した新演出による上演、他の能楽堂等で上演された優れた新作及び復曲作品の上演など、レパトリーの拡充に努め、各公演とも高い入場率を達成した。
- ・ 文楽劇場では、新作の上演及び復曲作業を順調に実施し、レパトリーの拡充につながる取組を実施できた。
- ・ 国立劇場おきなわでは、組踊の様式を基に練り上げた新作組踊、組踊のパロディーとして遊び心満載に制作した喜劇、組踊の普及を目的に解説等を織り交ぜながら構成した作品など、特色豊かな新作作品を制作した。いずれの作品も観客のニーズに応え、沖縄伝統芸能の発展に寄与する新たな作品を発信することができた。

○ 良かった点・特色ある点

(本館)

- ・ 本館9月文楽公演において、新作「不破留寿之太夫」を上演した。シェイクスピアの世界を文楽の世界に引き入れ、美しく斬新な舞台美術から新作の文楽人形まで作成した舞台は、哀愁のある喜劇となり、レパトリーの充実につながる手応えを得た。

(演芸場)

- ・ 大衆芸能の新作脚本募集において、76篇もの応募を得た。前年度「浪曲」の応募件数に比べ26篇(52.0%)、前回の「講談」(22年度)の応募件数に比べ11篇(16.9%)の増となり、新作脚本募集により多くの関心が寄せられている手応えを得た。

(能楽堂)

- ・ 能楽堂では、10月企画公演において、和泉大蔵両流の人間国宝に雪をテーマに新作小舞2番を委嘱初演し、優れた成果を上げた。また、9月・2月企画公演「能を再発見する」において新演出を試みたほか、他の能楽堂等で上演された優れた新作及び復曲作品を取り上げて上演するなど、レパートリーの拡充に積極的に取り組むことができた。

(文楽劇場)

- ・ 文楽劇場では、夏休み文楽特別公演第1部「親子劇場」において、小佐田定雄氏の新作文楽「かみなり太鼓」を上演した。落語作家の書き下ろした新作だけに笑いも多く、平和でのんびりとした世界観など肩の凝らない内容で、子供も大人も楽しめる朗らかな舞台となり、再演につながる確かな手応えを得た。

(国立劇場おきなわ)

- ・ 新作組踊「聞得大君誕生」の再演においては、出演者が初演の反省点を踏まえ、組踊の様式の中で作品の持つストーリー性をより表現できるよう工夫を重ねた。
- ・ 喜劇「鶴亀二児其ノ後ノ噺」は、企画公演「ゆらていく遊ば」の祝祭的な雰囲気の中、出演者の意外な一面や個性を活かしながらパロディー作品として構成し、従来の組踊ファンばかりではなく、初めて観劇する観客をも魅了した。
- ・ 「組踊版シンデレラ」は、組踊鑑賞教室の第一部として、組踊の楽しみ方、約束事等を「シンデレラ」のストーリーに盛り込み、組踊の様式を用いて楽しく学べる作品として構成した。

○ 見直し又は改善を要する点

(国立劇場おきなわ)

- ・ 新作の制作に取り組むにあたり、作品の質を高めるためには、演出や制作スタッフ陣が十分な準備期間をとった上で制作にあたる必要性を感じた。

## 2-(1)-② 伝統芸能の公開に際しての留意事項等

### 《主要な業務実績》

1. 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施
  - ・ 各分野において専門委員による公演ごとのレポート提出及び年2回の公演専門委員会等の開催
  - ・ アンケート調査の実施（72公演75回、満足回答率82.8%）
2. 共催、受託などによる公演
  - ・ 文化庁芸術祭主催公演7公演、協賛公演26公演を実施
  - ・ 諸団体と良好な協力関係を築き、共催、受託等による公演を積極的に実施
3. 全国各地の文化施設等における公演
  - ・ 歌舞伎鑑賞教室静岡公演、歌舞伎鑑賞教室神奈川公演を実施
  - ・ 受託公演及び制作協力により国立能楽堂制作作品再演等の公演を実施（5公演）
  - ・ 国立劇場おきなわ県外公演を実施
  - ・ 歌舞伎鑑賞教室地方公演等における職員の派遣、現地の技術者への協力のほか、各団体との連携により、舞台技術者を対象とした講座や職員派遣による研修を実施
4. 国際文化交流公演等
  - ・ オーストラリア・シドニーにおいて文化庁海外展「Theatre of Dreams, Theatre of Play: Nō and Kyōgen in Japan」を開催
  - ・ ブラジル2都市、ボリビア3都市において「国立劇場おきなわ琉球芸能南米公演～琉球の新風(みーかじ)・男性舞踊家の競演～」を実施

### 《業務実績詳細》

1. 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施
  - ① 外部専門家等の意見聴取は、専門委員による公演ごとのレポート提出及び年2回の公演専門委員会等の開催により行った。
  - ② アンケート調査の実施

分野	実施回数	回答数	回収率(配布数)	概ね満足との回答(回答数)
歌舞伎	7公演7回	3,912人	74.8%(5,230人)	81.6%(3,193人)
文楽(本館小劇場)	2公演2回	655人	73.2%(895人)	81.2%(532人)
文楽(文楽劇場)	4公演4回	1,113人	63.9%(1,743人)	93.7%(1,043人)
舞踊・邦楽等	10公演12回	3,664人	69.7%(5,258人)	84.3%(3,088人)
大衆芸能(演芸場)	12公演12回	1,836人	57.8%(3,178人)	90.7%(1,666人)
能楽	9公演9回	2,656人	60.1%(4,416人)	87.0%(2,310人)
小計	44公演46回	13,836人	66.8%(20,720人)	85.5%(11,832人)
組踊等沖縄伝統芸能	28公演29回	4,614人	65.1%(7,093人)	74.7%(3,447人)
合計	72公演75回	18,450人	66.3%(27,813人)	82.8%(15,279人)

## 2. 共催、受託などによる公演

### (1) 平成26年度(第69回)文化庁芸術祭

区分	公演名
主催公演	本館大劇場：10月歌舞伎公演 演芸場：10月特別企画公演 能楽堂：10月企画公演 文楽劇場：11月文楽公演、10月舞踊公演 国立劇場おきなわ：11月企画公演
協賛公演	本館大小劇場：11月歌舞伎公演、10月邦楽公演(2公演)、11月民俗芸能公演、11月舞踊公演(5公演) 演芸場：10月・11月定席公演(4公演)、10月・11月国立名人会(2公演)

	<p>11月特別企画公演 (7公演)</p> <p>能楽堂：10月定例公演(2公演)、10月普及公演、11月企画公演(5公演) (8公演)</p> <p>文楽劇場：11月大衆芸能公演 (1公演)</p> <p>国立劇場おきなわ：10月定期公演、10月・11月企画公演、10月・11月普及公演 (5公演)</p>
--	---

- ・ 平成26年度(第69回)文化庁芸術祭オープニング 国際音楽の日記念「伝統芸能の交流—日本・モンゴルの歌と踊り—」  
日時：10月1日、1回  
会場：本館大劇場  
主催：文化庁芸術祭執行委員会  
制作：日本芸術文化振興会  
入場者数：582人(入場率58.6%)

(2) 国・地方公共団体等との後援・協力

ア 鑑賞教室等における地方自治体、教育委員会、専修学校各種学校協会、旅行社等の後援・協力

- ・ 歌舞伎・能楽・文楽(本館)鑑賞教室における後援・協力等  
後援：文化庁、東京都、埼玉県、千葉県、埼玉県教育委員会、千葉県教育委員会、神奈川県教育委員会、全国都道府県教育委員会連合会、公益財団法人日本修学旅行協会  
協力：公益社団法人東京都専修学校各種学校協会、一般社団法人神奈川県専修学校各種学校協会、関東高等学校演劇協議会、東京都高等学校演劇研究会、株式会社ジェイティービー、株式会社日本旅行、近畿日本ツーリスト株式会社、公益財団法人文楽協会(文楽のみ)
- ・ 7月歌舞伎鑑賞教室期間中に実施する「親子で楽しむ歌舞伎教室」における共催・後援等  
共催：東京都教育委員会  
後援：文化庁、千葉県、埼玉県教育委員会、神奈川県教育委員会、一般社団法人東京都小学校PTA協議会、東京都公立中学校PTA協議会、東京私立初等学校協会、一般財団法人東京私立中学高等学校協会
- ・ 文楽劇場6月文楽鑑賞教室における後援・協力等  
後援：文化庁、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、京都府教育委員会、兵庫県教育委員会、奈良県教育委員会、滋賀県教育委員会、和歌山県教育委員会、NHK大阪放送局  
協力：公益財団法人文楽協会

・ 国立劇場おきなわ開場10周年記念特別公演における共催

- 共催：沖縄県
- ・ 組踊鑑賞教室における後援  
後援：沖縄県、沖縄県教育委員会

イ 鑑賞教室地方公演における共催・後援等

- ・ 歌舞伎鑑賞教室静岡公演  
共催：公益財団法人静岡県文化財団、裾野市民文化センター、静岡県  
後援：文化庁、静岡県教育委員会、裾野市教育委員会
- ・ 歌舞伎鑑賞教室神奈川公演  
共催：かながわ伝統芸能祭実行委員会(神奈川県立青少年センター内)  
後援：文化庁、神奈川県教育委員会、神奈川県PTA協議会、神奈川県立高等学校PTA連合会

ウ 社会人のための鑑賞教室公演における後援・協力等

- 後援：一般社団法人日本経済団体連合会、公益社団法人経済同友会、東京商工会議所、公益社団法人東京青年会議所

エ 関西元気文化圏共催事業(文楽劇場の全公演)

オ 関西学院大学との連携協力協定に基づく、大学の授業での文楽技芸員による解説・実演や、学生団体鑑賞等の実施

カ その他の自主公演等における後援・協力等

(本館)

- ・ 本館4月琉球芸能公演における沖縄県酒造協同組合、オリオンビール株式会社の特別協賛
- ・ 本館9月特別企画公演「東日本大震災復興支援 東北の芸能V」における三井住友カード株式会社の協賛

(能楽堂)

- ・ 10月企画公演における古典の日推進委員会の後援

(文楽劇場)

- ・ 大阪の近隣で活動する小劇場、公共ホール、劇団等との活動連携(5～10月むりやり堺筋線演劇祭)
- キ 外部の公演等への後援・協力等

(本館)

- ・ 公益社団法人日本俳優協会、社団法人伝統歌舞伎保存会、松竹株式会社が刊行する「ポケット版『かぶき手帖』2014年版」への協賛(4月1日刊行)
- ・ 公益財団法人馬事文化財団主催の「特別展 歌舞伎と馬」(4月26日～6月8日 馬の博物館)
- ・ 一般社団法人伝統歌舞伎保存会主催の「小学生のための歌舞伎体験教室」(7月6日、12日、31日～8月6日、本館大劇場、本館小劇場、本館稽古場、伝統芸能情報館)への協賛
- ・ チーム鼓舞実行委員会主催の「おが秋の芸祭 鼓舞」(8月23日、旧雄勝総合支所跡地)への協力
- ・ 一般社団法人江戸文化歴史検定協会主催の「第9回江戸文化歴史検定」(8月24日、11月2日)への協力
- ・ 文化庁・公益社団法人全国高等学校文化連盟・東京都教育委員会・東京都高等学校文化連盟主催の「第25回全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演」(8月30日～31日、本館大劇場)への協賛
- ・ 一般社団法人伝統歌舞伎保存会主催の「第14回伝統歌舞伎保存会研修発表会」(10月25日、本館大劇場)への協賛
- ・ よこすか市民会議(YCC)主催の「2014よこすか市民会議まちづくり文化フェア」のうち、「よこすか芸術文化フェア2014」の一環として開催された「伝統文化学習鑑賞会(文楽学習鑑賞会)」(12月11日、伝統芸能情報館レクチャー室)への協力
- ・ 一般社団法人伝統歌舞伎保存会主催の「第15回伝統歌舞伎保存会研修発表会」(1月24日、本館大劇場)への協賛

(文楽劇場)

- ・ 幾竹会主催の「初代豊竹若太夫没後二百五十年追善素浄瑠璃の会」(4月29日)への協力
- ・ パルコほか主催の「其礼成心中」(8月7日～17日)への協力
- ・ 十色会主催の「第13回十色会」(11月27日～28日)への協力
- ・ 毎日放送・朝日放送・関西テレビ放送・読売テレビ放送・テレビ大阪主催の「UMEDA BUNRAKU」(2月6日～8日)への協力
- ・ 日本財団主催の「にっぽん文楽」(3月19日～22日)への協力
- ・ TBS主催の「赤坂サカス文楽」(3月24日～27日)への協力

(国立劇場おきなわ)

- ・ 沖縄県伝統芸能公演実行委員会に参画し、国立劇場おきなわ小劇場における「沖縄県伝統芸能公演」を共催(主催:沖縄県、公益財団法人沖縄県文化振興会)
- ・ 京都四條南座「坂東玉三郎特別舞踊公演 組踊と琉球舞踊」(6月5日～12日)への制作協力
- ・ 沖縄県文化観光戦略推進事業助成事業として以下の特別公演を国立劇場おきなわ小劇場で上演
  - ・ 組踊版「スイミー」(12月6日～9日)
  - ・ 「かりゆし・かりゆし 恋するシーサー」(3月8日～9日)
- ・ 国立劇場おきなわ連携活用事業として以下の公演を上演
  - ・ 男性舞踊家の会・組踊版「スイミー」(主催:沖縄県、金武町教育委員会、11月1日、金武町立中央公民館)
  - ・ 新作組踊「平敷屋朝敏」(主催:沖縄県、北谷町自主文化事業実行委員会、3月22日、ちゃたんニライセンター)
  - ・ 男性舞踊家の会・組踊版「スイミー」(主催:沖縄県、宮古島市教育委員会、3月29日、マティダ市民劇場)

### 3. 全国各地の文化施設等における公演

- ・ 「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」を踏まえ、全国の文化施設等において公演を実施した。
  - ・ 歌舞伎鑑賞教室静岡公演(共催:公益財団法人静岡県文化財団、裾野市民文化センター、6月26日、2回公演、裾野市民文化センター、入場者数:1,106人)
  - ・ 歌舞伎鑑賞教室神奈川公演(共催:かながわ伝統芸能祭実行委員会、7月26日～27日、4回公演、神奈川県立青少年センター、入場者数:1,382人)

- ・ スーパー能「世阿弥」制作協力（①主催：山形県能楽協会、6月8日、山形・山形テルサテルサホール、②主催：九州梅若会、10月12日、大濠公園能楽堂）
- ・ 新作能「紅天女」制作協力（主催：廿日市市文化協会ほか、3月7日、はつかいち文化ホールさくらびあ大ホール）
- ・ 「能・狂言名作鑑賞会」受託公演（主催：コープさっぽろ文化鑑賞会、4月21日～22日、札幌市教育文化会館大ホール）
- ・ スーパー能「世阿弥」受託公演（主催：公益財団法人四日市市文化まちづくり財団ほか、12月9日、四日市市文化会館第1ホール）
- ・ 国立劇場おきなわ県外公演「琉球舞踊と組踊『執心鐘入』」（共催：学校法人瓜生山学園京都造形芸術大学、6月14日、京都芸術劇場春秋座、入場者数494人）
- ・ 歌舞伎鑑賞教室の地方公演や他団体の文楽公演において、職員の派遣を行い、現地の技術者へ協力等を行った。
- ・ 公益社団法人全国公立文化施設協会との共催により、劇場・音楽堂等に勤務する職員を主な対象に、基礎的能力の養成を行う講座を本館大・小劇場で実施（1月14日～15日、受講者75名）したほか、公益社団法人全国公立文化施設協会の依頼により、島根県出雲市に職員2名を派遣し、伝統芸能を支える舞台技術に関する研修を実施した。
- ・ 公益社団法人日本芸能実演家団体協議会の依頼により、沖縄県の観光事業従事者1名の研修を受け入れ、公演営業・宣伝、観客サービス業務の実務研修を実施した。（1月13日～3月20日 ※2月19日～25日を除く）

#### 4. 国際文化交流公演等

##### (1) 海外の芸能関係者等の来場、見学等

- ・ 本館 2件32人  
主な来場者：ロシア連邦サハ共和国文化大臣、東京都歴史文化財団「国際招聘プログラム」参加者
- ・ 文楽劇場 2件3人  
来場者：カナダ文化省助成研修者、駐大阪・神戸米国総領事

##### (2) 海外公演等

###### (能楽堂)

- ・ 文化庁海外展「Theatre of Dreams, Theatre of Play: Nō and Kyōgen in Japan」  
期間：6月14日～9月14日  
共催：文化庁、ニューサウスウェールズ州立美術館（オーストラリア/シドニー）、日本芸術文化振興会  
来場者数：24,034人  
内容：3ヶ月の期間中、国立能楽堂収蔵資料約170点を展示。能楽の海外普及と国際文化交流の進展に寄与した。

###### (国立劇場おきなわ)

- ・ 国立劇場おきなわ琉球芸能南米公演～琉球の新風（みーかじ）・男性舞踊家の競演～  
期間：8月20日～8月29日  
会場：テアトロ・ガゼータ（ブラジル/サンパウロ）、ジダージ・ダス・アルテス（ブラジル/リオデジャネイロ）、オキナワ日ボ協会文化会館（ボリビア/コロニア・オキナワ）、サンタクルス中央日本人会・日ボ交流会館（ボリビア/サンタクルス）、ラパス市立劇場（ボリビア/ラパス）  
主催：独立行政法人国際交流基金  
共催：公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団、在ボリビア大使館、在サンパウロ総領事館他  
入場者数：約2,550人  
内容：日・ボリビア外交関係樹立100周年、コロニア・オキナワ（ボリビア）入植60周年を記念し、若手男性舞踊家による公演及びワークショップを実施した。

《自己点検評価》

- 自己評定
- ・ 総合評定

B

(根拠)

- ・ 諸団体と良好な協力関係を築き、共催、受託等による公演を積極的に実施した。
  - ・ 能楽堂では、スーパー能「世阿弥」及び新作能「紅天女」が各地で再演され、国立能楽堂制作作品をより多くの人に紹介することができた。
  - ・ 国立劇場おきなわでは、自主公演ばかりでなく、組踊をはじめとした沖縄伝統芸能を県内外のみならず海外にでも広く紹介する機会を得て、その普及に貢献することができた。
  - ・ 「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」を踏まえ、全国の文化施設等における公演、舞台技術講座の実施及び国際文化交流公演等を実施した。
- 良かった点・特色ある点
    - ・ 演芸場では、アンケートの調査方法を見直したところ、前年度に比して回答数が71.9%、回収率が24.2ポイント増加し、お客様の生の声をより多く聴取することができた。
    - ・ 歌舞伎鑑賞教室は、都道府県や諸団体との協力により、学生を中心に、親子や社会人向けの公演も含めて好調な動員を重ね、7月公演中に累計550万人を突破した。
    - ・ 能楽堂では、各地の文化団体等と連携・協力して、受託公演及び制作協力により国立能楽堂制作作品再演等の公演を実施した。スーパー能「世阿弥」及び新作能「紅天女」が各地で再演され、国立能楽堂制作作品をより多くの人に紹介することができ、作品も洗練された。また、オーストラリアでの海外展を開催し、能楽の海外普及と国際文化交流の進展に寄与した。ニューサウスウェールズ州立美術館の目標（23,400人）を上回る24,034人の来場者を得て好評であった。
    - ・ 国立劇場おきなわでは、組踊の中堅・若手実演家と歌舞伎俳優・坂東玉三郎による新作組踊「聞得大君誕生」を京都でも上演することができた。沖縄の伝統芸能を県外で紹介できたのみならず、出演者にとっても各自の実演活動や創作活動に大きな影響を与える有意義な公演となった。また、国際交流基金との共催によりブラジル、ボリビアでの海外公演を実施し、好評を得た。
    - ・ 公益社団法人全国公立文化施設協会の依頼により、伝統芸能を支える舞台技術に関する研修のための職員派遣を初めて実施した。
  - 見直し又は改善を要する点
    - ・ 国立劇場おきなわでは、定期公演をはじめとしてより質の高い舞台制作を目指すと同時に、普及公演の充実を図る必要がある。27年度は、沖縄県や教育委員会との協力により、組踊に加えて、琉球舞踊と沖縄芝居の普及公演の実施に取り組む。

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため  
とるべき措置

伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

**現代舞台芸術の公演** p.60

現代舞台芸術の公演 p.61

— オペラ p.63

— バレエ p.66

— 現代舞踊 p.69

— 演劇 p.71

現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等 p.74



## 2-(2) 現代舞台芸術の公演

### 《中期計画の概要》

- 2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演
- (2) 現代舞台芸術の公演
  - ア オペラ公演 年間 12 公演程度
  - イ バレエ公演 年間 6 公演程度
  - ウ 現代舞踊公演 年間 4 公演程度
  - エ 演劇公演 年間 8 公演程度
- (4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等
  - ア 適切な鑑賞者数の目標設定
  - イ 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施
  - ウ 現代舞台芸術の振興普及の中核的拠点としての公演等の実施
    - ① 国、地方公共団体、芸術団体、企業等との連携協力
    - ② 各地の文化施設等における公演等
    - ③ 国等との連携協力による公演等

### 《年度計画の概要》

- 2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演
- (2) 現代舞台芸術の公演
  - 現代舞台芸術の振興と普及を図るため、中期計画の方針に従い、別表 2 のとおり主催公演を実施
- (4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等
  - ア 外部専門家等の意見を聴取、観客へのアンケート調査を適宜実施
  - イ 我が国における現代舞台芸術の振興普及の中核的拠点として、次のとおり公演等を実施
    - ① 共催、受託などによる公演等を別表 5 のとおり実施
    - ② 各地の文化施設等における公演等を別表 6 のとおり実施
    - ③ 国際文化交流の進展に寄与する公演等を別表 7 のとおり実施

## 2-(2)-① 現代舞台芸術の公演

## 《主要な業務実績》

## 1. 公演実績

- ・ オペラ 12 公演、バレエ 7 公演、現代舞踊 4 公演、演劇 8 公演、合計 31 公演を計画どおり実施
- ・ 現代舞台芸術分野全体で入場者数の年度計画の目標を達成（達成度 100.7%）、入場率も概ね目標を達成
- ・ バレエ、現代舞踊の各分野で入場者数・入場率の目標を達成

## 《業務実績詳細》

## 1. 公演実績

分野名	公演数 劇場	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
オペラ	12 公演 オペラ劇場、中劇場	実績	56 回	56 日	73,444 人	(77.0%)	95,351 人
		計画	56 回	56 日	76,332 人	(80.1%)	95,335 人
バレエ	7 公演 オペラ劇場、中劇場	実績	38 回	33 日	47,844 人	(78.7%)	60,804 人
		計画	38 回	33 日	42,400 人	(70.5%)	60,162 人
現代舞踊	4 公演 中劇場、小劇場	実績	10 回	10 日	5,598 人	(87.6%)	6,389 人
		計画	10 回	10 日	4,900 人	(75.5%)	6,494 人
演劇	8 公演 中劇場、小劇場	実績	151 回	136 日	47,995 人	(69.8%)	68,774 人
		計画	151 回	136 日	50,000 人	(74.1%)	67,520 人
総合計	31 公演	実績	255 回	235 日	174,881 人	(75.6%)	231,318 人
		計画	255 回	235 日	173,632 人	(75.7%)	229,511 人

## 《自己点検評価》

## ○ 自己評定

## ・ 項目別評定

オペラ	バレエ	現代舞踊	演劇
B	B	A	B

## ・ 総合評定

B
---

(根拠)

- ・ オペラ 12 公演、バレエ 7 公演、現代舞踊 4 公演、演劇 8 公演、合計 31 公演を年度計画どおり実施できた。
- ・ 現代舞台芸術分野全体で目標入場者数を達成できた（達成度 100.7%）。
- ・ オペラやバレエのレパートリーの充実につながる新制作公演、洋舞の歴史を一望できる現代舞踊公演など、いずれの公演も新国立劇場ならではの多彩かつ意欲的な企画を高い水準で上演でき、評論家、外部専門家、観客から高い評価を得た。

## ○ 良かった点・特色ある点

- ・ いずれの公演も高い水準で上演でき、評論家、外部専門家、観客から高い評価を得た。
- ・ 各公演ともホームページやSNSを活用した広報活動を実施したほか、若年層向け特別優待制度アカデミック・プラン等の実施により観客層の拡大を図った。
- ・ バレエは、積極的な営業活動により、バレエにおける過去最高の団体観客数を達成した。また、現代舞踊については、全公演で目標を大きく上回る実績を得た。

- 見直し又は改善を要する点
  - ・ 知名度の低い作品等については、高い公演水準にも関わらず、集客・訴求が難しく、一般販売数が伸び悩んだ。一朝一夕には成し得ないことを覚悟しつつ、長期的な視点で上演を続けるとともに、作品の魅力を様々な媒体を活用して随時発信することで、作品の知名度の向上に努めたい。

## &lt;1&gt; オペラ

## 《主要な業務実績》

## 1. 公演実績

- ・ 本公演 11 公演と鑑賞教室 1 公演を計画どおり実施
- ・ 「カヴァレリア・ルスティカーナ／道化師」「パルジファル」「マノン・レスコー」を新制作で上演
- ・ 「パルジファル」の成果に対し、飯守泰次郎芸術監督が第 56 回毎日芸術賞（音楽部門）受賞
- ・ 「パルジファル」が、「音楽の友」2 月号「特集 43 人の音楽評論家・記者が選ぶコンサート・ベストテン 2014」において第 1 位を獲得

## 2. 営業・広報

- ・ 画像・動画を多用したホームページ及び SNS（Facebook、Twitter）の活用により、興味を喚起
- ・ 若年層向け特別優待制度アカデミック・プラン等の実施により、学生及び若年層を勧誘

## 3. 外部専門家等の意見

- ・ 専門委員に各公演についてのレポートを依頼し意見を聴取、後の事業運営に活用

## 4. アンケート調査

- ・ 全 12 公演で実施（17 回）、満足回答率 89.5%

## 《制作方針》

## ① スタンダードな作品の上演

名作と呼ばれるような代表的な作品を上演し、それをレパートリーとして蓄積し、繰り返し上演していくことで、オペラを市民生活に普及・定着させる。

## ② 上演機会の少ない優れた作品の上演

優れた作品ながら、さまざまな理由で日本では上演される機会の少なかった作品にも積極的に取り組む。

## ③ 日本の作曲家の作品の上演

欧米の名作ばかりではなく、日本の作曲家のオリジナル作品の上演にも積極的に取り組み、レパートリーとして蓄積していく。

## 《業務実績詳細》

## 1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
「ヴォツェック」	オペラ 劇場	4/5(土)	実績	4 回	4 日	4,279 人	(59.7%)	7,168 人
		～13(日)	計画	4 回	4 日	5,300 人	(73.9%)	7,168 人
「カヴァレリア・ルスティカーナ／道化師」(新制作)		5/14(水)	実績	6 回	6 日	8,044 人	(74.8%)	10,752 人
		～30(金)	計画	6 回	6 日	8,800 人	(81.8%)	10,752 人
「アラベツラ」		5/22(木)	実績	5 回	5 日	5,311 人	(59.3%)	8,960 人
		～6/3(火)	計画	5 回	5 日	6,700 人	(74.8%)	8,960 人
「パルジファル」(新制作)		10/2(木)	実績	5 回	5 日	7,462 人	(83.3%)	8,960 人
		～14(火)	計画	5 回	5 日	7,700 人	(85.9%)	8,960 人
「ドン・ジョヴァンニ」		10/16(木)	実績	5 回	5 日	7,147 人	(79.8%)	8,960 人
		～26(日)	計画	5 回	5 日	7,000 人	(78.1%)	8,960 人
「ドン・カルロ」		11/27(木)	実績	5 回	5 日	6,875 人	(76.7%)	8,960 人
	～12/9(火)	計画	5 回	5 日	7,000 人	(78.1%)	8,960 人	
「さまよえるオランダ人」	1/18(日)	実績	5 回	5 日	6,936 人	(77.4%)	8,960 人	
	～31(土)	計画	5 回	5 日	6,700 人	(74.8%)	8,960 人	
「こうもり」	1/29(木)	実績	5 回	5 日	7,699 人	(88.2%)	8,729 人	
	～2/8(日)	計画	5 回	5 日	6,900 人	(79.1%)	8,727 人	
「マノン・レスコー」(新制作)	3/9(月)	実績	5 回	5 日	7,193 人	(82.0%)	8,770 人	
	～21(土・祝)	計画	5 回	5 日	7,300 人	(83.4%)	8,758 人	

「鹿鳴館」	中劇場	6/19(木)	実績	4回	4日	2,967人	(81.9%)	3,624人
		～22(日)	計画	4回	4日	2,700人	(74.5%)	3,624人
「さまよえるオランダ人」(演奏会形式)		1/16(金)	実績	1回	1日	401人	(45.3%)	886人
			計画	1回	1日	632人	(71.3%)	886人
【オペラ公演 小 計】 11 公演 (計画:11 公演)			実績	50回	50日	64,314人	(75.9%)	84,729人
			計画	50回	50日	66,732人	(78.8%)	84,715人
高校生のためのオペラ鑑賞教室 「蝶々夫人」	オペラ 劇場	7/9(水)	実績	6回	6日	9,130人	(86.0%)	10,622人
		～15(火)	計画	6回	6日	9,600人	(90.4%)	10,620人
【オペラ鑑賞教室 小 計】 1 公演 (計画:1 公演)			実績	6回	6日	9,130人	(86.0%)	10,622人
			計画	6回	6日	9,600人	(90.4%)	10,620人
【オペラ 合 計】 12 公演 (計画:12 公演)			実績	56回	56日	73,444人	(77.0%)	95,351人
			計画	56回	56日	76,332人	(80.1%)	95,335人

## 2. 営業・広報

- ・ 個別演目について、マスコミ各社への情報提供、取材依頼、ポスター、チラシ、DM、ジ・アトレ会報誌、インターネット等により公演周知を行った。
- ・ ホームページ及び SNS (Facebook、Twitter) にて画像、動画、文章を用いて、公演前には過去の公演、リハーサル風景、出演者のインタビューを、公演開始後には舞台写真を掲載し、興味を喚起した。
- ・ 「カヴァレリア・ルスティカーナ／道化師」「パルジファル」については特設サイトを開設し、より強い印象を与えるデザインと内容での公演紹介を行った。
- ・ eメール Club (メールマガジン) 登録者に対し、発売直前に発売情報と聴きどころ観どころ等を、公演直前に舞台稽古の状況等を、公演開始後にお客様の感想等を、ホームページや SNS (Facebook、Twitter) と連動させつつ連続して発信し、興味喚起と勧誘に努めた。
- ・ 音楽ヘッドコーチやオペラ研修修了生を講師に起用したオペラ初級者向けのレクチャー付きの観劇プランや食事付きの観劇プランを実施し、団体誘致を行った。
- ・ 作曲家関連の協会 (ワーグナー協会、ヴェルディ協会、モーツァルト協会、日本アルバン・ベルク協会) の協力を仰ぎ、それぞれ関連する公演のチケット先行発売を実施した。
- ・ 空席がある場合の若年層向け特別優待制度「アカデミック・プラン」、「アカデミック 39」を実施し、学生及び若年層の誘致を行った。

## 3. 外部専門家等の意見

専門委員に各公演についてのレポートを依頼し、意見の聴取を行った。  
また、総括レポートの提出を半期ごとに依頼し、自己点検評価の総括に生かした。

## 4. アンケート調査

全 12 公演で実施 (17 回) した。  
回答数 6,789 人 (配布数 20,242 人、回収率 33.5%)。回答者の 89.5%が概ね満足と答えた (6,075 人)。

### 【特記事項】

- ・ 「パルジファル」が、「音楽の友」2月号「特集 43 人の音楽評論家・記者が選ぶコンサート・ベストテン 2014」において、第 1 位を獲得した。
- ・ 「パルジファル」の成果に対し、飯守泰次郎芸術監督が第 56 回毎日芸術賞 (音楽部門) を受賞した。
- ・ 平成 26 年度 (第 69 回) 文化庁芸術祭主催公演 (「パルジファル」)
- ・ 平成 26 年度 (第 69 回) 文化庁芸術祭協賛公演 (「ドン・ジョヴァンニ」「ドン・カルロ」)
- ・ 全公演において、字幕による歌詞の日本語訳を表示した。

### 《数値目標の達成状況》

#### 【目標入場者数の達成状況】

本公演 実績 64,314 人 / 目標 66,732 人 (達成度 96.4%)  
鑑賞教室 実績 9,130 人 / 目標 9,600 人 (達成度 95.1%)  
合計 実績 73,444 人 / 目標 76,332 人 (達成度 96.2%)

《自己点検評価》

---

○ 自己評定

・ 総合評定

B

(根拠)

- ・ 12公演（本公演11公演、鑑賞教室1公演）を計画どおり実施した。
  - ・ いずれの公演も高い水準で上演され、外部専門家、評論家及び観客の高い評価を得た。「パルジファル」は、「音楽の友」2月号「特集43人の音楽評論家・記者が選ぶコンサート・ベストテン2014」において、第1位を獲得した。
- 良かった点・特色ある点
- ・ いずれの公演も高い水準で上演することができた。とりわけ「パルジファル」は、周到的な準備により世界的に見ても非常に高いレベルでの上演が実現し、外部専門家等の高い評価を得た。
  - ・ 23年3月に東日本大震災の影響で公演中止となった「マノン・レスコー」を、ほぼ同じキャストにより新制作で上演することができた。
- 見直し又は改善を要する点
- ・ 知名度の低い作品については、高い公演水準にも関わらず、集客・訴求が難しく、一般販売数が伸び悩んだ。一朝一夕にはいかないものの、新国立劇場オペラの認知度向上に努めたい。

## <2> バレエ

### 《主要な業務実績》

#### 1. 公演実績

- ・ 本公演 6 公演とこどものためのバレエ劇場 1 公演を計画どおり実施
- ・ バレエ公演全体で目標入場者数を達成（達成度 112.8%）
- ・ 「ファスター」、「眠れる森の美女」、「トリプル・ビル」のうち「トロイ・ゲーム」を新制作で上演

#### 2. 営業・広報

- ・ 画像、動画を多用したホームページ及び SNS（Facebook、Twitter）の活用により、興味を喚起
- ・ 若年層向け特別優待制度アカデミック・プラン等の実施により、学生及び若年層を勧誘
- ・ 積極的な団体観客への営業活動により、バレエにおける過去最高の団体観客数を達成

#### 3. 外部専門家等の意見

- ・ 専門委員に各公演についてのレポートを依頼し意見を聴取、後の事業運営に活用

#### 4. アンケート調査

- ・ 全 7 公演で実施（11 回）、満足回答率 94.9%

### 《制作方針》

#### ① バレエ・レパートリーの充実

多様化する観客のニーズに対応するレパートリーの充実に努めながら、海外有数の劇場と比肩する芸術的水準での舞台制作を目指す。同時に、再演の要望の高いスタンダードな演目を多彩なキャストで上演し、バレエファン層の拡大を図る。

#### ② 国内外の振付家による創作バレエの上演

質の高い創作バレエを企画、上演して、新国立劇場オリジナル作品のレパートリー化を図る。

### 《業務実績詳細》

#### 1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	
「ファスター」(日本初演)／「カルミナ・ブラーナ」	オペラ 劇場	4/19(土) ～27(日)	実績	5 回	5 日	5,581 人	(62.3%)	8,960 人	
			計画	5 回	5 日	5,800 人	(64.7%)	8,960 人	
「パゴダの王子」		6/12(木) ～15(日)	実績	5 回	4 日	5,969 人	(66.6%)	8,960 人	
			計画	5 回	4 日	5,800 人	(64.7%)	8,960 人	
「眠れる森の美女」(新制作)		11/8(土) ～16(日)	実績	6 回	6 日	9,593 人	(89.2%)	10,752 人	
			計画	6 回	6 日	8,100 人	(75.3%)	10,752 人	
「シンデレラ」		12/14(日) ～23(火・祝)	実績	7 回	6 日	11,074 人	(88.3%)	12,544 人	
			計画	7 回	6 日	9,400 人	(74.9%)	12,544 人	
「ラ・バヤデール」		2/17(火) ～22(日)	実績	4 回	4 日	5,704 人	(79.6%)	7,168 人	
			計画	4 回	4 日	5,000 人	(69.8%)	7,168 人	
「トリプル・ビル」 テーマとヴァリエーション/ドウエンデ/トロイ・ゲーム(新制作)		中劇場	3/14(土) ～22(日)	実績	5 回	5 日	2,435 人	(53.8%)	4,530 人
				計画	5 回	5 日	2,900 人	(64.0%)	4,530 人
【バレエ公演 小 計】	6 公演 (計画:6 公演)		実績	32 回	30 日	40,356 人	(76.3%)	52,914 人	
			計画	32 回	30 日	37,000 人	(69.9%)	52,914 人	
こどものためのバレエ劇場「しらゆき姫」	オペラ 劇場	7/25(金) ～27(日)	実績	6 回	3 日	7,488 人	(94.9%)	7,890 人	
			計画	6 回	3 日	5,400 人	(74.5%)	7,248 人	
【バレエ鑑賞教室 小 計】	1 公演 (計画:1 公演)		実績	6 回	3 日	7,488 人	(94.9%)	7,890 人	
			計画	6 回	3 日	5,400 人	(74.5%)	7,248 人	
【バレエ 合 計】	7 公演 (計画:7 公演)		実績	38 回	33 日	47,844 人	(78.7%)	60,804 人	
			計画	38 回	33 日	42,400 人	(70.5%)	60,162 人	

## 2. 営業・広報

- ・ 個別演目について、マスコミ各社への情報提供、取材依頼、ポスター、チラシ、DM、ジ・アトレ会報誌、インターネット等により公演周知を行った。
- ・ ホームページ及び SNS (Facebook、Twitter) にて画像、動画、文章を用いて、公演前には過去の公演、リハーサル風景、出演者のインタビューを、公演開始後には舞台写真を掲載し、興味を喚起した。また、新国立劇場バレエ団ブログにより、継続的に情報を発信した。
- ・ 「ファスター／カルミナ・ブラーナ」「パゴダの王子」「眠れる森の美女」「シンデレラ」については特設サイトを開設し、より見やすいデザインとともに詳しく内容を紹介した。
- ・ eメール Club (メールマガジン) 登録者に対し、発売直前に発売情報と観どころ等を、公演直前に舞台稽古の状況等を、公演開始後にお客様の感想等を、ホームページや SNS (Facebook、Twitter) と連動させつつ連続して発信し、興味喚起と勧誘に努めた。
- ・ 「ファスター／カルミナ・ブラーナ」「パゴダの王子」「眠れる森の美女」において、終演後、オペラ劇場で新国立劇場バレエ団スペシャル映像の上映を行った。出演者のインタビューや公演のダイジェスト映像等をスクリーンで上映し、上演作品やバレエ団の魅力をアピールした。
- ・ 空席がある場合の若年層向け特別優待制度「アカデミック・プラン」「アカデミック 39」「ジュニア・アカデミックプラン」を実施した。
- ・ 学校や官公庁等への積極的な営業活動により、過去最高となる団体観客数 (5,247 人) を達成した。
- ・ 「シンデレラ」において、近隣ホテルと連携し、作品をモチーフにしたクリスマスケーキを開発してもらい、ホテルと当劇場で相互に情報発信を行うとともに、観劇プランを販売した。

## 3. 外部専門家等の意見

専門委員に各公演についてのレポートを依頼し、意見の聴取を行った。  
また、総括レポートの提出を半期ごとに依頼し、自己点検評価の総括に生かした。

## 4. アンケート調査

全7公演で実施 (11回) した。

回答数 3,199 人 (配布数 11,808 人、回収率 27.1%)。回答者の 94.9%が概ね満足と答えた (3,036 人)。

### 【特記事項】

- ・ 平成 26 年度 (第 69 回) 文化庁芸術祭主催公演 (「眠れる森の美女」)
- ・ 「シンデレラ」で各公演の終演後に主演ダンサーによる握手会を開催した。

### 《数値目標の達成状況》

#### 【目標入場者数の達成状況】

本公演	実績 40,356 人／目標 37,000 人 (達成度 109.1%)
こどもバレエ	実績 7,488 人／目標 5,400 人 (達成度 138.7%)
合計	実績 47,844 人／目標 42,400 人 (達成度 112.8%)

### 《自己点検評価》

#### ○ 自己評定

#### ・ 総合評定

B

#### (根拠)

- ・ 7公演を計画どおり実施した。入場者数については目標値を大幅に上回った。
- ・ 古典作品から現代作品まで幅広いレパートリーを、いずれも極めて高い水準で上演し、評論家、外部専門家、観客から高い評価を得た。
- ・ 積極的な営業活動により、年間で過去最高となる団体観客数を達成した。

#### ○ 良かった点・特色ある点

- ・ 入場者数について、目標入場者数を大幅に超える実績を達成した。
- ・ 古典作品から現代作品まで幅広い演目を上演し、そのいずれも極めて高い水準であり、評論家、外部専門家、観客から極めて高い評価を得た (アンケート満足回答率94.9%)。
- ・ 公演の終演後に行った新国立劇場バレエ団のスペシャル映像上映では、上演作品やバレエ団の魅力をアピールすることができた。

- 学校や官公庁等への積極的な営業活動により、「シンデレラ」等において多くの団体観客を獲得した結果、年間で過去最高となる団体観客数を達成した。
  - 積極的な若手の抜擢やスタッフの徹底指導により、ソリストやコール・ド・バレエの技術や表現力が飛躍的に向上し、外部専門家等からも高い評価を得た。
- 見直し又は改善を要する点
- 有名古典作品以外については集客が難しく、2公演において目標入場者数に達しなかった。観客育成は一朝一夕に成し得ないことを覚悟しつつ、長期的な視点で上演を続けることで、新国立劇場バレエの認知度向上に努めたい。

### <3> 現代舞踊

#### 《主要な業務実績》

##### 1. 公演実績

- ・ 4公演を計画どおり実施
- ・ 全公演が目標入場者数を大幅に達成
- ・ 現代舞踊公演全体で目標入場者数を達成（達成度 114.2%）
- ・ 洋舞の歴史を一望した「ダンス・アーカイヴ in JAPAN」、海外で活躍する日本人ダンサーによる質の高い作品となった「JAPON dance project CLOUD/CROWD」など、新国立劇場ならではの公演を高い水準で上演

##### 2. 営業・広報

- ・ 画像、動画等を多用したホームページ及び SNS（Facebook、Twitter）の活用により、興味を喚起

##### 3. 外部専門家等の意見

- ・ 専門委員に各公演についてのレポートを依頼し意見を聴取、後の事業運営に活用

##### 4. アンケート調査

- ・ 全4公演で実施（4回）、満足回答率 94.7%

#### 《制作方針》

特徴あるスタイルを持つ振付家による新国立劇場ならではの斬新な企画で、ダンスが持つ自由な発想や身体表現の可能性を追求するとともに、新国立劇場バレエ団内から振付者を輩出する企画を通じて、現代舞踊の裾野を広げる。

#### 《業務実績詳細》

##### 1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	
ダンス・アーカイヴ in JAPAN —未来への扉— a Door to the Future	中劇場	6/6(金)	実績	3回	3日	2,011人	(89.0%)	2,259人	
		~8(日)	計画	3回	3日	1,800人	(76.1%)	2,364人	
JAPON dance project CLOUD/CROWD		8/30(土)	実績	2回	2日	1,394人	(88.5%)	1,576人	
		~31(日)	計画	2回	2日	1,200人	(76.1%)	1,576人	
ダンス・アーカイヴ in JAPAN 2015		3/7(土)	実績	2回	2日	1,389人	(88.1%)	1,576人	
		~8(日)	計画	2回	2日	1,200人	(76.1%)	1,576人	
DANCE to the Future ~Third Steps~		小劇場	1/16(金)	実績	3回	3日	804人	(82.2%)	978人
			~18(日)	計画	3回	3日	700人	(71.6%)	978人
【現代舞踊 合計】	4公演 (計画:4公演)		実績	10回	10日	5,598人	(87.6%)	6,389人	
			計画	10回	10日	4,900人	(75.5%)	6,494人	

##### 2. 営業・広報

- ・ 個別演目について、マスコミ各社への情報提供、取材依頼、ポスター、チラシ、DM、ジ・アトレ会報誌、インターネット等により公演周知を行った。
- ・ ホームページ及び SNS（Facebook、Twitter）にて画像、動画、文章を用いて、公演前には過去の公演、リハーサル風景、出演者のインタビューを、公演開始後には舞台写真を掲載し、興味を喚起した。
- ・ eメール Club（メールマガジン）登録者に対し、発売直前に発売情報と観どころ等を、公演直前に舞台稽古の状況等を、公演開始後にお客様の感想等を、ホームページや SNS（Facebook、Twitter）と連動させつつ連続して発信し、興味喚起と勧誘に努めた。

##### 3. 外部専門家等の意見

専門委員に各公演についてのレポートを依頼し、意見の聴取を行った。  
また、総括レポートの提出を半期ごとに依頼し、自己点検評価の総括に生かした。

#### 4. アンケート調査

全4公演で実施(4回)した。

回答数377人(配布数2,343人、回収率16.1%)。回答者の94.7%が概ね満足と答えた(357人)。

《数値目標の達成状況》

【目標入場者数の達成状況】

実績5,598人/目標4,900人(達成度114.2%)

《自己点検評価》

○ 自己評価

・ 総合評価

A
---

(根拠)

- ・ 4公演を計画どおり実施し、入場者数は4公演すべてで目標を大幅に上回った。
- ・ いずれの公演も画期的で多彩な企画内容と高い水準に外部専門家や観客から極めて高い評価を得た(アンケート満足回答率94.7%)。
- ・ 過去の作品と現代の作品を同時に上演することで日本における洋舞の歴史を一望した「ダンス・アーカイヴ in JAPAN」は、国立の劇場にふさわしい意義の深い企画として、外部専門家、観客など各方面から高い評価を得た。
- ・ アンケートの満足回答率が高い水準に改善された(前年度89.5%)。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ いずれの公演も80%を超える高い入場率を達成した。「ダンス・アーカイヴ in JAPAN」は、企画発表時には2日2回公演を予定していたが、一般発売後短期間で完売したため、追加公演を実施した。結果として、追加公演分を含めた目標入場者数も大きく上回る集客を達成した。
- ・ 過去の作品と現代の作品を同時に上演し洋舞の歴史を一望した「ダンス・アーカイヴ in JAPAN」「ダンス・アーカイヴ in JAPAN 2015」、海外で活躍する日本人ダンサーによる質の高い作品となった「JAPON dance project CLOUD/CROWD」、新国立劇場バレエ団が自ら振付を行いその力量を発揮した「DANCE to the Future ~Third Steps~」のいずれも画期的な企画内容が高い水準で上演され、新国立劇場ならではの公演として、外部専門家、観客から高い評価を得た。

#### <4> 演劇

##### 《主要な業務実績》

1. 公演実績
  - ・ 8公演を計画どおり実施
  - ・ 「二人芝居—対話する力—」シリーズにおいて新進演出家を起用、「星ノ数ホド」は90%を超える高い入場率を達成
2. 営業・広報
  - ・ 画像・動画を多用したホームページ及びSNS（Facebook、Twitter）の活用により、興味を喚起
  - ・ 若年層向け特別優待制度等の実施により、学生及び若年層を勧誘
  - ・ 出演者のファンクラブや旅行代理店、企業、大学等に対し、公演ごとに多彩な営業活動を展開し勧誘
  - ・ テーマや期間毎に2種類の通し券を販売
3. 外部専門家等の意見
  - ・ 専門委員に各公演についてのレポートを依頼し意見を聴取、後の事業運営に活用
4. アンケート調査
  - ・ 全8公演で実施（16回）、満足回答率83.0%

##### 《制作方針》

###### ① 新作の上演

現代舞台芸術とは常に時代と向き合うものであるという視点から、独自の新作上演を積極的に企画し、発信する。

###### ② 海外の才能との積極的な交流

広く才能のある海外の演劇人や集団との共同作業により、現代演劇として意義のある優れた作品を企画し、上演する。

##### 《実績》

###### 1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
「マニラ瑞穂記」	小劇場	4/3(木) ～20(日)	実績	16回	16日	3,294人	(62.8%)	5,248人
			計画	16回	16日	3,700人	(70.9%)	5,216人
「十九歳のジェイコブ」(新作)		6/11(水) ～29(日)	実績	20回	17日	3,791人	(57.8%)	6,564人
			計画	20回	17日	4,900人	(75.2%)	6,520人
「永遠の一瞬 —Time Stands Still—」 (日本初演)		7/8(火) ～27(日)	実績	20回	18日	3,339人	(50.3%)	6,640人
			計画	20回	18日	4,900人	(75.2%)	6,520人
二人芝居—対話する力— Vol.1 「プレス・オブ・ライフ～女の肖像～」 (日本初演)		10/8(水) ～26(日)	実績	18回	17日	4,612人	(78.5%)	5,876人
			計画	18回	17日	4,200人	(71.6%)	5,868人
二人芝居—対話する力— Vol.2 「ご臨終」		11/5(水) ～24(月・休)	実績	20回	18日	4,630人	(66.5%)	6,960人
			計画	20回	18日	4,700人	(72.1%)	6,520人
二人芝居—対話する力— Vol.3 「星ノ数ホド」(日本初演)	12/3(水) ～21(日)	実績	22回	17日	7,232人	(92.9%)	7,782人	
		計画	22回	17日	5,600人	(78.1%)	7,172人	
「テンペスト」	中劇場	5/15(木) ～6/1(日)	実績	17回	16日	10,389人	(77.6%)	13,396人
			計画	17回	16日	9,800人	(73.2%)	13,396人
[JAPAN MEETS...—現代劇の系譜をひもとく—]IX 「三文オペラ」(新訳上演)		9/10(水) ～28(日)	実績	18回	17日	10,708人	(65.7%)	16,308人
			計画	18回	17日	12,200人	(74.8%)	16,308人
【演劇合計】	8公演 (計画:8公演)	実績	151回	136日	47,995人	(69.8%)	68,774人	
		計画	151回	136日	50,000人	(74.1%)	67,520人	

###### 2. 営業・広報

- ・ 個別演目について、マスコミ各社への情報提供、取材依頼、ポスター、チラシ、DM、ジ・アトレ会報

誌、インターネット等により公演周知を行った。

- ・ ホームページ及び SNS (Facebook、Twitter) にて画像、動画、文章を用いて、公演前にはリハーサル風景、出演者等のインタビューを、公演開始後には舞台写真を掲載し、興味を喚起した。
- ・ 「テンペスト」、「三文オペラ」については、特設サイトを開設し、より強い印象を与えるデザインとともに詳しく内容を紹介し、ブログにおいてきめ細かい公演情報を提供した。
- ・ 「三文オペラ」については、特別支援企業グループである TBS テレビの共催、TBS ラジオの後援を仰ぎ、テレビコマーシャル、TBS オンラインチケット会員へのチケット販売の実施をはじめ各種プロモーションを実施した。
- ・ 「十九歳のジェイコブ」については、原作者の中上健次の出身県である和歌山県の協力を仰ぎ、県広報誌等への公演情報の掲載や、県人会関連団体でのチケット販売の実施、公演会場での県特産品の販売など、各種連携をした。また、出演者が京王電鉄のイメージガールであったので、駅でのポスター掲示やグループ各社でのチケット販売等の協力を得た。
- ・ eメール Club (メールマガジン) 登録者及び演劇 DM 登録者に対し、先行発売情報、発売直前に発売情報と観どころ等、公演直前に舞台稽古の状況等、公演開始後にお客様の感想等、またトークなどのイベント情報を、ホームページや Facebook と連動させつつ発信し、興味喚起と勧誘に努めた。
- ・ テーマや期間毎に 4 公演をまとめた通し券「世界を観る…春から夏」及び「名作と二人芝居を堪能する～秋から冬～」を発売した。
- ・ 演劇鑑賞団体やカード会社、生活協同組合などに対して団体販売を行った。また、出演者のファンクラブや旅行代理店、企業、大学等に対し、公演ごとに多彩な切り口で積極的に営業活動を行った。
- ・ 空席がある場合の若年層向け特別優待制度「アカデミック・プラン」、外部の演劇俳優養成所等に所属する研究生を対象とした「ユース・アクターズ・プラン」を実施し、学生及び若年層の勧誘を行った。

### 3. 外部専門家等の意見

専門委員に各公演についてのレポートを依頼し、意見の聴取を行った。

また、総括レポートの提出を半期ごとに依頼し、自己点検評価の総括に生かした。

### 4. アンケート調査

8 公演で実施 (16 回) した。

回答数 1,014 人 (配布数 4,745 人、回収率 21.4%)。回答者の 83.0%が概ね満足と答えた (842 人)。

#### 【特記事項】

- ・ 「星ノ数ホド」に出演の浦井健治が第 22 回読売演劇大賞最優秀男優賞 (「星ノ数ホド」ほかの演技に対して) を受賞した。
- ・ 平成 26 年度 (第 69 回) 文化庁芸術祭主催公演 (「ブレス・オブ・ライフ～女の肖像～」)
- ・ 平成 26 年度 (第 69 回) 文化庁芸術祭協賛公演 (「ご臨終」)

#### 《数値目標の達成状況》

##### 【目標入場者数の達成状況】

実績 47,995 人 / 目標 50,000 人 (達成度 96.0%)

#### 《自己点検評価》

##### ○ 自己評定

##### ・ 総合評定

B

(根拠)

- ・ 8 公演を計画どおり実施した。
  - ・ 上演が稀な名作に研修所修了生を起用した「マニラ瑞穂記」、新訳により作品本来の魅力を伝えた「三文オペラ」、新進演出家を起用した「二人芝居ー対話するカー」シリーズなど、新国立劇場ならではの多彩かつ意欲的な企画による公演が高い水準で上演された。
- 良かった点・特色ある点
- ・ 上演が稀な名作に研修所修了生を起用した「マニラ瑞穂記」、古典作品を斬新に描いた「テンペスト」、中上健次の小説を舞台化した「十九歳のジェイコブ」、欧米の同時代作品を紹介した「永遠の一瞬ーTime Stands Stillー」、新訳により作品本来の魅力を伝えた「三文オペラ」、新進演出家を起用した「二人芝居ー対話するカー」シリーズと、新国立劇場ならではの多彩かつ意欲的な企画と評価される高水準

の公演を上演することができた。

○ 見直し又は改善を要する点

- 演目によっては販売数が伸び悩んだ。今後もより一層、作品の魅力を様々な媒体を活用して随時発信し、早い時期から周知、営業活動が十分にできるよう心がけたい。

## 2-(2)-② 現代舞台芸術の公演に際しての留意事項等

## 《主要な業務実績》

1. 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施
  - ・ 各分野において専門委員に公演ごとのレポートを依頼し意見を聴取、後の事業運営に活用
  - ・ 全 31 公演 48 回でアンケート調査を実施、満足回答率 90.6%
2. 共催、受託などによる公演
  - ・ 文化庁芸術祭主催公演 3 公演、協賛公演 3 公演を実施
  - ・ 地域招聘公演（バレエ 1 公演）を実施
  - ・ 大学との積極的な連携、協力を実施
3. 全国各地の文化施設等における公演
  - ・ オペラ 2 公演、バレエ 3 公演、演劇 5 公演、合計 10 公演を実施
  - ・ 合唱団、バレエ団は 15 の外部公演に出演
  - ・ 「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」をふまえ、地域の公立文化施設に技術者を講師として派遣する等、連携を強化
  - ・ 公益社団法人日本芸能実演家団体協議会や公益社団法人全国公立文化施設協会、劇場・音楽堂等連絡協議会、公共劇場舞台技術者連絡会、公益社団法人日本照明家協会等と連携しフォーラムを開催
4. 国際文化交流公演等
  - ・ 海外劇場等との情報交換や訪問受入れによる文化交流の実施
  - ・ 在日各国大使のオペラ・バレエ鑑賞プログラムの実施

## 《業務実績詳細》

1. 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施
  - ① 外部専門家等の意見聴取
    - 各部門の専門委員に各公演についてのレポート提出を依頼し、意見の聴取を行った。
    - また、総括レポートの提出を半期ごとに依頼し、自己点検評価の総括に活かした。
  - ② アンケート調査の実施

分野	実施回数	回答数	回収率(配布数)	概ね満足との回答 (回答数)
オペラ	12 公演 17 回	6,789 人	33.5%(20,242 人)	89.5%( 6,075 人)
バレエ	7 公演 11 回	3,199 人	27.1%(11,808 人)	94.9%( 3,036 人)
現代舞踊	4 公演 4 回	377 人	16.1%( 2,343 人)	94.7%( 357 人)
演劇	8 公演 16 回	1,014 人	21.4%( 4,745 人)	83.0%( 842 人)
合 計	31 公演 48 回	11,379 人	29.1%(39,138 人)	90.6%( 10,310 人)

## 2. 共催、受託などによる公演

## (1) 平成 26 年度（第 69 回）文化庁芸術祭

区分	公演名
主催 公演	オペラ劇場：オペラ「パルジファル」、バレエ「眠れる森の美女」、 小劇場：演劇「ブレス・オブ・ライフ～女の肖像～」
協賛 公演	オペラ劇場：オペラ「ドン・ジョヴァンニ」、「ドン・カルロ」 小劇場：演劇「ご臨終」

## (2) 国・地方公共団体等との後援・協力

## (バレエ)

- ・ 地域招聘公演
  - 樋笠バレエ団文化芸術国際交流バレエ公演「Color of Dance カラー・オブ・ダンス」
  - 1 月 11 日、1 回、新国立劇場中劇場
  - 主催：樋笠バレエ団

共催：香川県、公益財団法人新国立劇場運営財団

入場者数：850名（入場率82.5%）

(3) 大学との連携・協力

- ・ 東京藝術大学、学校法人武蔵野音楽学園（武蔵野音楽大学）、国立音楽大学、東京音楽大学、大阪音楽大学、桐朋音楽大学、北海道教育大学、昭和音楽大学と、連携・協力に関する協定を締結しており、新たに学校法人洗足学園（洗足学園音楽大学）とも協定を締結した。
- ・ オペラ劇場の舞台において、大学声楽科学生の実習が行われた（東京藝術大学、武蔵野音楽大学、昭和音楽大学）。
- ・ 北海道教育大学との共同企画公演「北の大地に響くオペラ合唱名場面集～新国立劇場合唱団とのコラボ・夢の饗宴～」を8月7日に実施した。
- ・ 大学からのインターンシップ生の受入れを行ったほか、大学のアートマネジメントに関する講義等に、講師として新国立劇場職員を派遣した（東京藝術大学、国立音楽大学、昭和音楽大学、大阪音楽大学ほか）。

3. 全国各地の文化施設等における公演

(1) オペラ

① 高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演「夕鶴」

11月5日・6日、2回、尼崎市総合文化センター あましんアルカイックホール

主催：尼崎市、公益財団法人尼崎市総合文化センター、公益財団法人新国立劇場運営財団

入場者数：3,007人

② 「沈黙」＜演奏会形式＞

2月15日、1回、長崎ブリックホール 大ホール

主催：長崎県、長崎市、公益財団法人新国立劇場運営財団、オペラ「沈黙」＜演奏会形式＞実行委員会

入場者数：1,487人

(2) バレエ

① こどものためのバレエ劇場「しらゆき姫」

- ・ 8月3日、1回、柏崎市文化会館アルフォーレ 大ホール

主催：新潟県、柏崎市文化会館アルフォーレ、新潟県舞踊芸術普及育成事業実行委員会

入場者数：511人

- ・ 8月9日、1回、フェスティバルホール

主催：大阪府文化芸術創造発信事業実行委員会

入場者数：2,395人

- ・ 8月17日、1回、アルカス SASEBO 大ホール

主催：アルカス SASEBO

入場者数：1,087人

- ・ 8月23日、1回、サンポートホール高松 3階大ホール

主催：公益財団法人高松市文化芸術財団、高松市

入場者数：965人

- ・ 9月6日、1回、滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール 大ホール

主催：滋賀県、公益財団法人びわ湖ホール

入場者数：1,349人

② 「眠れる森の美女」より第3幕「オーロラの結婚」、ジェシカ・ラング「暗やみから解き放たれて」

11月22日、1回、新潟県民会館 大ホール

主催：新潟県、公益財団法人新潟県文化振興財団、新潟県舞踊芸術普及育成事業実行委員会

入場者数：962人

③ 「シンデレラ」

12月27日、1回、上田市交流文化芸術センター サントミューゼ 大ホール

主催：上田市、上田市教育委員会

入場者数：1,150人

(3) 演劇

① 「十九歳のジェイコブ」

7月5日・6日、2回、兵庫県立芸術文化センター 阪急 中ホール

主催：兵庫県、兵庫県立芸術文化センター

入場者数：716人

② 「こころで聴く三島由紀夫Ⅲ リーディング『邯鄲』」

- 7月20日、1回、山中湖村公民館  
 主催：山中湖文学の森 三島由紀夫文学館、山中湖村教育委員会
- ③ 「永遠の一瞬—Time Stands Still—」  
 8月2日、1回、兵庫県立芸術文化センター 阪急 中ホール  
 主催：兵庫県、兵庫県立芸術文化センター  
 入場者数：289人
- ④ 「プレス・オブ・ライフ～女の肖像～」  
 11月1日、1回、兵庫県立芸術文化センター 阪急 中ホール  
 主催：兵庫県、兵庫県立芸術文化センター  
 入場者数：774人
- ⑤ 「星ノ数ホド」  
 12月27日、1回、兵庫県立芸術文化センター 阪急 中ホール  
 主催：兵庫県、兵庫県立芸術文化センター  
 入場者数：705人
- (4) 連携・協力大学との合同演奏会  
 「北の大地に響くオペラ合唱名場面集～新国立劇場合唱団とのコラボ・夢の饗宴～」  
 8月7日、1回、函館市芸術ホール  
 主催：北海道教育大学・岩見沢校、公益財団法人新国立劇場運営財団  
 入場者数：454人
- (5) 新国立劇場合唱団外部出演公演
- ① 上田市内高等学校 音楽鑑賞会  
 (6月4日・5日、4回、上田市民会館、主催：上田市教育委員会)
- ② 読売日本交響楽団第538回定期演奏会 ヴェルディ「レクイエム」  
 (6月12日、1回、サントリーホール、主催：公益財団法人読売日本交響楽団 (ほか))
- ③ 小山市内高等学校音楽鑑賞会 <中止>  
 (7月11日、1回、小山市立文化センター、主催：小山市教育委員会)
- ④ 読響シンフォニックライブ フォーレ「レクイエム」  
 (7月24日、1回、新宿文化センター 大ホール、主催：日本テレビ放送網)
- ⑤ 東京都交響楽団第774回定期演奏会 Bシリーズ マルティヌー「花束」  
 (9月8日、1回、サントリーホール、主催：公益財団法人東京都交響楽団)
- ⑥ 平成26年度文化芸術による子供の育成事業  
 (10月16日～2月26日、18回、神奈川県及び中部各県の小・中学校内体育館、主催：文化庁)
- ⑦ 東京フィルハーモニー交響楽団演奏会 スクリャービン「交響曲第1番 ホ長調 作品26」  
 (10月21日・24日、2回、サントリーホール/東京オペラシティ コンサートホール、主催：公益財団法人東京フィルハーモニー交響楽団)
- ⑧ 読売日本交響楽団演奏会 ベートーヴェン「第九」特別公演  
 (12月7日、1回、所沢市民文化センター ミューズアークホール、主催：所沢ミューズ)
- ⑨ 昭和女子大学文化研究講座 読売日本交響楽団ベートーヴェン「第九」  
 (12月8日、1回、昭和女子大学 人見記念講堂、主催：学校法人昭和女子大学)
- ⑩ 東京文化会館 舞台芸術創造事業 日本舞踊×オーケストラ Vol.2  
 (12月13日・14日、2回、東京文化会館 大ホール、主催：東京文化会館)
- ⑪ 読売日本交響楽団演奏会 ベートーヴェン「交響曲第9番 合唱付き」  
 (12月18日 東京芸術劇場 コンサートホール、19日 サントリーホール、20日 東京芸術劇場 コンサートホール、22日 サントリーホール、23日 横浜みなとみらいホール、25日 東京オペラシティ コンサートホール、26日 ザ・シンフォニーホール、主催：公益財団法人読売日本交響楽団 (ほか))
- ⑫ 第58回NHKニューイヤーオペラコンサート  
 (1月3日、1回、NHKホール、主催：日本放送協会、NHKプロモーション)
- ⑬ みずほフィナンシャルグループ 第26回成人の日コンサート2015  
 (1月12日、1回、サントリーホール、主催：みずほフィナンシャルグループ、TOKYO FM)
- ⑭ NHKエンタープライズ30周年記念「N響スペクタクル・コンサート」  
 (3月19日、1回、NHKホール、主催：NHKエンタープライズ)
- (6) 新国立劇場バレエ団外部出演公演  
 NHKバレエの饗宴2015「眠れる森の美女 第3幕」  
 (3月28日、1回、NHKホール、主催：日本放送協会、NHKプロモーション)

#### (7) 地方との連携強化

- ・ 全国公演の際、制作及び技術職員間で情報交換を行った。
- ・ 新しい会館や地方自治体の職員を対象に、バックステージツアーや研修を行った。
- ・ 「劇場、音楽堂等の事業の活性化のための取組に関する指針」を踏まえ、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会や公益社団法人全国公立文化施設協会、劇場・音楽堂等連絡協議会、公共劇場舞台技術者連絡会、公益社団法人日本照明家協会等と連携してフォーラムを開催し、他劇場との交流を図った。
- ・ 地方の公立文化施設で開催された技術職員研修会等へ講師を派遣した。

#### 4. 国際文化交流公演等

##### (1) 海外劇場等との交流

- ・ オペラ・アメリカ及びオペラ・ヨーロッパ、アジア太平洋パフォーミング・アーツ・センター連盟(AAPPAC)の本部事務局と定期的に連絡を取り合い、機関誌等の送付・受領を始め情報交換に努めた。また、新国立劇場の運営状況に関する統計資料の提供依頼に応じて、必要資料を提出した。
- ・ 海外の劇場との情報交換に努め、また海外より当劇場訪問の際には劇場見学、質疑応答など交流の進展を図った。

##### (2) 海外からの講師・研修生の受入れ

- ・ 文化庁「外国人芸術家・文化財専門家招へい事業」により来日した芸術家1名の受入れを行い、演劇研修所での講義や研修生への指導、情報交換などを実施した。

##### (3) 海外からの訪問受入れ

- ・ 海外から劇場関係者など9カ国13団体87名の訪問受入れを行った。  
主な来場者：スウェーデン王立ドラマ劇場ドラマターグ、ベトナム国立青年劇場関係者、韓国公立文化会館協会関係者ほか

##### (4) 在日各国大使のオペラ・バレエ鑑賞プログラム

- ・ 「在日各国大使のオペラ・バレエ鑑賞プログラム」を実施し、新国立劇場が内外で高い評価を受けるオペラ専門劇場を有しており、質の高いオペラ・バレエを制作し、上演していることを国際的に発信した。また、芸術・文化面における新たな観点からの日本に対する理解の増進を図り、国際交流の振興に寄与した。実施公演と参加国（大使／大使館文化担当官・文化機関）は以下のとおり。
  - ① バレエ「ファスター／カルミナ・ブラーナ」 4月19日（9カ国／7カ国）
  - ② オペラ「カヴァレリア・ルスティカーナ／道化師」 5月14日（11カ国／4カ国）
  - ③ オペラ「パルジファル」 10月5日（8カ国／3カ国）
  - ④ バレエ「眠れる森の美女」 11月8日（13カ国／3カ国）

#### 【特記事項】

- ・ 文化庁芸術祭主催公演「パルジファル」に皇太子殿下の行啓があった。
- ・ 7月11日に予定されていた新国立劇場合唱団による小山市内高等学校音楽鑑賞会が、台風の影響により中止となった。

#### 《自己点検評価》

##### ○自己評定

##### ・総合評定

B

(根拠)

- ・ 国内外の劇場等と良好な協力関係を築き、共催、受託などによる公演を積極的に実施した。地方公演については計画を上回る公演数となった。
- ・ 「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」を踏まえた全国の公立文化施設等との交流に積極的に取り組んだ。

##### ○良かった点・特色ある点

- ・ 全演目でアンケート調査を実施し、多くの観客の声を収集することができた。
- ・ 地方公演の展開に精力的に取り組んでおり、26年度については、年度計画を上回る公演数となった。
- ・ 「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」を踏まえた全国の公立文化施設等との交流に積極的に取り組んだ。
- ・ 地方公演と合わせて、バレエ団員によるワークショップ等、公演に関連したイベントの拡充を行い、現代舞台芸術の普及に努めた。

- ・ 新国立劇場バレエ団が出演する地方公演が増えたため、バレエ団の若手ダンサーが大いに成長する機会となり、バレエ団のレベルの向上につながった。
- 見直し又は改善を要する点
  - ・ 地方公演は新国立劇場の重要な使命であり、積極的に拡大に取り組んでいるところであるが、職員の負担も大きいとため、限られた人員でより大きな効果が出せるよう引き続き検討していきたい。



## I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため とるべき措置

伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

### 青少年等を対象とした公演

青少年等を対象とした公演 p.79

### 快適な観劇環境の形成

快適な観劇環境の形成 p.86

- 快適で安全な観劇環境の提供、外国人利用者への対応 p.88
- 多様な購入方法の提供によるチケット販売の促進 p.91
- 公演内容等の理解促進のための取組 p.91
- 意見・要望等の把握と対応 p.93

### 広報・営業活動の充実

広報・営業活動の充実 p.95

- 効果的な広報・営業活動の展開 p.98
- 会員組織の運営、会員向けサービスの充実 p.101

### 劇場施設の使用効率の向上等

劇場施設の使用効率の向上等 p.106



## 2-(3) 青少年等を対象とした公演

### 《中期計画の概要》

- 2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演
- (3) 青少年等を対象とした公演
- ア 青少年を対象とした伝統芸能公演を年間6公演程度実施  
社会人や親子を対象とする入門企画の実施  
各公演等の連携協力の強化
- イ 青少年を対象とした現代舞台芸術公演を年間3公演程度実施  
各公演の連携協力の強化

### 《年度計画の概要》

- 2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演
- (3) 青少年等を対象とした公演
- ア 伝統芸能を次世代に伝え、新たな観客層の育成を図るため、主に青少年を対象とした公演を別表3のとおり実施  
社会人や親子を対象とした入門企画を別表4のとおり実施  
各公演等の連携協力を強化
- イ 青少年等が現代舞台芸術に触れる機会を確保し、新たな観客層の育成と現代舞台芸術の普及を図るため、主に青少年を対象とした公演を別表3のとおり実施  
各公演の連携協力を強化

### 《主要な業務実績》

#### 1. 主に青少年を対象とした公演

##### (伝統芸能分野)

- 歌舞伎鑑賞教室2公演、文楽鑑賞教室2公演(本館、文楽劇場)、能楽鑑賞教室1公演、生徒のための組踊鑑賞教室2公演、合計7公演を計画どおり実施
- 主に青少年を対象とした公演全体で目標入場者数を達成(達成度101.9%)

##### (現代舞台芸術分野)

- オペラ鑑賞教室1公演、こどものためのバレエ1公演、合計2公演を計画どおり実施
- 主に青少年を対象とした公演全体で目標入場者数を達成(達成度110.8%)

#### 2. 社会人や親子を対象とした入門企画・公演

##### (本館)

- 6月と7月の歌舞伎鑑賞教室で「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」を、7月歌舞伎鑑賞教室で「親子で楽しむ歌舞伎教室」を実施
- 12月文楽鑑賞教室で「社会人のための文楽鑑賞教室」を実施
- 6月〈伝統芸能の魅力〉「雅楽を楽しむ」「声明を楽しむ」「日本舞踊を楽しむ」「邦楽を楽しむ」を新たに実施

##### (演芸場)

- 7月特別企画公演「親子で楽しむ演芸会」を実施

##### (能楽堂)

- 8月企画公演において「夏休み親子で楽しむ能の会」「働く貴方に贈る」「夏休み親子で楽しむ狂言の会」、2月企画公演において「働く貴方に贈る」を実施

##### (文楽劇場)

- 6月文楽鑑賞教室で「社会人のための文楽入門」を実施
- 夏休み文楽特別公演の第1部を親子劇場として実施し、新作文楽を上演

##### (国立劇場おきなわ)

- 6月普及公演において「社会人のための組踊鑑賞教室」を、8月普及公演において「親子のための組踊鑑賞教室」を実施

《制作方針》

伝統芸能を次世代に伝え、新たな観客層の育成を図るため、中高生をはじめ青少年を対象とした入門公演を実施する。また、日頃伝統芸能に触れる機会の少ない社会人等を対象とした公演や、親子を対象とした公演を実施する。

本館では、歌舞伎鑑賞教室を実施し、6月には鑑賞教室としては初めて、戦後に書かれた新作歌舞伎「ぢいさんばあさん」を、7月は義太夫狂言の名作として人気の高い「傾城反魂香」を取り上げ、解説を付して歌舞伎の継承、普及を図る。また、文楽鑑賞教室では、文楽の保存と振興のため、名作の上演に留まらず、上演頻度が少ない演目や場面等を積極的に取り上げるように工夫する。なお、各教室において開演時間を遅くした社会人のための公演を上演するほか、夏休み期間には、割安な親子セット料金を設定した「親子で楽しむ歌舞伎教室」を上演する。さらに、伝統芸能に親しみを感じてもらえるよう新たに企画した〈伝統芸能の魅力〉シリーズを開始し、舞踊・邦楽・雅楽・声明の4ジャンルを上演する。

演芸場では、寄席及び寄席で上演される大衆芸能（落語、太神楽曲芸、マジック、コント等）を子供たちに知ってもらうため、夏休み期間中に解説付きの公演「親子で楽しむ演芸会」を実施する。

能楽堂では、6月には能楽鑑賞教室を実施し、わかりやすい狂言「仏師」、動きに変化のある能「殺生石」に、学生が体験出演する解説を付け、学生が親しみを持てるよう配慮する。8月には親子向けの公演「親子で楽しむ能の会」「親子で楽しむ狂言の会」を、また8月と2月には仕事帰りの社会人向けの公演「働く貴方に贈る」を実施し、初心者への啓蒙、普及の公演とする。

文楽劇場では、6月に文楽鑑賞教室を実施し、わかりやすい演目に学生・生徒が体験出演する解説を付け、親しみが持てるように配慮する。また公演中の2回を「社会人のための文楽入門」として夜公演とし、勤め帰りに気軽に文楽鑑賞を体験できるよう工夫する。7、8月の夏休み文楽特別公演の第一部「親子劇場」では、親子で楽しめるよう、新作も含めた作品の上演を試みる。

国立劇場おきなわでは、10月・11月に「生徒のための組踊鑑賞教室」を実施し、今年度は古典作品の前に解説を交えて構成する新作組踊を上演し、組踊の理解を深める工夫を行う。また、6月には社会人、8月には親子を対象とした組踊鑑賞教室を上演する。

新国立劇場では、青少年を対象とした鑑賞教室等を実施し、新たな観客層の育成を図るとともに、現代舞台芸術の普及と理解促進を図る。

《業務実績詳細》

1. 公演実績

(1) 主に青少年を対象とした公演(再掲)

公演名		劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
歌舞伎	6月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」「ぢいさんばあさん」	本館 大劇場	6/2(月)	実績	46回	23日	53,915人	(77.1%)	69,920人
			~24(火)	計画	46回	23日	53,100人	(75.9%)	69,920人
	7月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」「傾城反魂香」		7/3(木)	実績	44回	22日	60,956人	(91.1%)	66,880人
			~24(木)	計画	44回	22日	61,000人	(91.2%)	66,880人
文楽	12月文楽鑑賞教室「二人三番叟」 解説「文楽の魅力」「絵本太功記」	本館 小劇場	12/4(木)	実績	24回	13日	13,147人	(99.1%)	13,272人
			~16(火)	計画	24回	13日	13,100人	(98.7%)	13,272人
	6月文楽鑑賞教室「団子売」解説「文楽へようこそ」「卍三間堂棟由来」		6/6(金)	実績	28回	14日	19,340人	(94.5%)	20,468人
			~19(木)	計画	28回	14日	17,500人	(85.5%)	20,468人
能楽	6月能楽鑑賞教室 解説「能楽のたのしみ」狂言「仏師」能「殺生石」	能楽堂	6/23(月)	実績	10回	5日	6,167人	(98.4%)	6,270人
			~27(金)	計画	10回	5日	6,050人	(96.5%)	6,270人
組	生徒のための組踊鑑賞教室	国立劇場	10/16(木)	実績	4回	2日	1,567人	(67.8%)	2,312人

踊	解説「組踊版シンデレラーようこそ組踊城へー」「執心鐘入」	おきなわ大劇場	～17(金)	計画	4回	2日	1,609人	(70.0%)	2,299人			
	生徒のための組踊鑑賞教室		11/27(木)	実績	4回	2日	1,810人	(78.3%)	2,312人			
	解説「組踊版シンデレラーようこそ組踊城へー」「女物狂」		～28(金)	計画	4回	2日	1,618人	(70.0%)	2,312人			
【伝統芸能分野 合計】				7公演 (計画:7公演)			実績	160回	81日	156,902人	(86.5%)	181,434人
							計画	160回	81日	153,977人	(84.9%)	181,421人
オペラ	高校生のためのオペラ鑑賞教室 「蝶々夫人」	オペラ劇場	7/9(水)	実績	6回	6日	9,130人	(86.0%)	10,622人			
			～15(火)	計画	6回	6日	9,600人	(90.4%)	10,620人			
バレエ	こどものためのバレエ劇場 「しらゆき姫」		7/25(金)	実績	6回	3日	7,488人	(94.9%)	7,890人			
			～27(日)	計画	6回	3日	5,400人	(74.5%)	7,248人			
【現代芸術分野 合計】				2公演 (計画:2公演)			実績	12回	9日	16,618人	(89.8%)	18,512人
							計画	12回	9日	15,000人	(83.9%)	17,868人
【青少年公演 総合計】				9公演 (計画:9公演)			実績	172回	90日	173,520人	(86.8%)	199,946人
							計画	172回	90日	168,977人	(84.8%)	199,289人

(2) 社会人や親子を対象とした入門企画・公演 (一部再掲)

公演名		劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
歌舞伎	6月歌舞伎鑑賞教室 「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」	本館大劇場	6/13(金)・20(金)	実績	2回	2日	1,732人	(57.0%)	3,040人
	7月歌舞伎鑑賞教室 「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」		7/11(金)・18(金)	実績	2回	2日	1,866人	(61.4%)	3,040人
	7月歌舞伎鑑賞教室 「親子で楽しむ歌舞伎教室」		7/18(金)～24(木)	実績	13回	7日	19,520人	(98.8%)	19,760人
文楽	12月文楽鑑賞教室 「社会人のための文楽鑑賞教室」	本館小劇場	12/5(金)・8(月)・12(金)・15(月)	実績	4回	4日	2,168人	(98.0%)	2,212人
	6月文楽鑑賞教室 「社会人のための文楽入門」	文楽劇場	6/9(月)・18(水)	実績	2回	2日	1,181人	(80.8%)	1,462人
	夏休み文楽特別公演(第一部 親子劇場) 「かみなり太鼓」解説「ぶんらくってなあと」 「西遊記」		7/19(土)～8/4(月)	実績	17回	17日	8,748人	(72.4%)	12,087人
舞踊・邦楽等	6月 伝統芸能の魅力 「雅楽を楽しむ」/「声明を楽しむ」	本館小劇場	6/7(土)	実績	2回	1日	1,148人	(97.3%)	1,180人
	6月 伝統芸能の魅力 「日本舞踊を楽しむ」/「邦楽を楽しむ」		6/14(土)	実績	2回	1日	570人	(48.3%)	1,180人
大衆芸能	【特別企画公演】親子で楽しむ演芸会	演芸場	7/26(土)	実績	1回	1日	295人	(98.3%)	300人
能楽	【企画公演】親子で楽しむ能の会	能楽堂	8/2(土)	実績	1回	1日	623人	(99.4%)	627人
	【企画公演】親子で楽しむ狂言の会		8/23(土)	実績	1回	1日	624人	(99.5%)	627人

	【企画公演】働く貴方に贈る		8/21(木)	実績	1回	1日	618人	(98.6%)	627人
	【企画公演】働く貴方に贈る		2/27(金)	実績	1回	1日	621人	(99.0%)	627人
組踊等	社会人のための組踊鑑賞教室 「雪払い」	国立劇場 おきなわ 大劇場	6/28(土)	実績	1回	1日	498人	(86.2%)	578人
	親子のための組踊鑑賞教室 「女物狂」		8/3(日)	実績	1回	1日	434人	(75.1%)	578人

(3) 全国各地の文化施設等における公演（再掲）

- ① 6月歌舞伎鑑賞教室静岡公演  
6月26日、2回、裾野市民文化センター  
共催：(公財) 静岡県文化財団、裾野市民文化センター、静岡県  
入場者数：1,106人
- ② 7月歌舞伎鑑賞教室神奈川公演  
7月26日～27日、4回、神奈川県立青少年センター  
共催：かながわ伝統芸能祭実行委員会  
入場者数：1,382人
- ③ 高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演「夕鶴」  
11月5日～6日、2回、尼崎市総合文化センター あましんアルカイックホール  
共催：尼崎市、(公財) 尼崎市総合文化センター  
入場者数：3,007人
- ④ こどものためのバレエ劇場「しらゆき姫」
  - ・8月3日、1回、柏崎市文化会館アルフォーレ 大ホール  
主催：新潟県、柏崎市文化会館アルフォーレ、新潟県舞踊芸術普及育成事業実行委員会  
入場者数：511人
  - ・8月9日、1回、フェスティバルホール  
主催：大阪府文化芸術創造発信事業実行委員会  
入場者数：2,395人
  - ・8月17日、1回、アルカス SASEBO 大ホール  
主催：アルカス SASEBO  
入場者数：1,087人
  - ・8月23日、1回、サンポートホール高松 3階大ホール  
主催：(公財) 高松市文化芸術財団、高松市  
入場者数：965人
  - ・9月6日、1回、滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール大ホール  
主催：滋賀県、(公財) びわ湖ホール  
入場者数：1,349人
- ⑤ 新国立劇場合唱団外部出演公演
  - ・上田市内高等学校 音楽鑑賞会  
6月4日～5日、4回、上田市民会館  
主催：上田市教育委員会
  - ・平成26年度文化芸術による子供の育成事業  
10月16日～2月26日、18回、神奈川県及び中部各県の小・中学校内体育館  
主催：文化庁
  - ・小山市内高等学校音楽鑑賞会 <中止>  
7月11日、1回、小山市立文化センター  
主催：小山市教育委員会

## 2. 営業・広報

- 各館が行う親子を対象とした公演について、振興会ホームページにそれぞれの親子企画を紹介するサイトを設置し、あわせてトップページのバナーから誘導することにより対象者に狙いを絞った広報を行った。また、親子特別料金を設定して販売促進を図った。
- マスコミへの宣伝材料の提供、ポスター・チラシ・インターネット・あぜくら会会報・振興会ニュースの配信・配布、新聞広告等により公演の周知を図り、集客に努めた。

### (本館)

- 社会人のための歌舞伎鑑賞教室において、若年層を対象とした周知のため、視覚的な訴求力をねらい、イラストを取り入れた専用チラシを作成し、場内設置のほか、都内主要駅・小劇場を中心に配付した。また、公演当日、チラシ持参者に対し国立劇場グッズをプレゼントした。
- 親子で楽しむ歌舞伎教室において、専用チラシを東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県の小中学校及び教育委員会に送付したほか、ぬりえコンテストや顔だし看板、伝統芸能クイズなど、子供向けの各種イベントを開催した。

### (能楽堂)

- 6月能楽鑑賞教室では、特別チラシ(7,000枚)を作成し、都内・近県の学校及び過去の利用団体に配布して集客を図った。
- 8月企画公演「夏休み親子で楽しむ能の会」「夏休み親子で楽しむ狂言の会」では、特別チラシ(15,000枚)を作成し、渋谷区内の全小学校ほかに配布・設置して集客を図った。
- 8月・2月企画公演「働く貴方に贈る」では、特別チラシ(10,000枚)を作成・配布して集客を図った。

### (文楽劇場)

- 学校へ団体観劇案内のダイレクトメールを送付する他、「社会人のための文楽入門」への集客のために、大阪府教育委員会の協力を得て、同会の府立高校教職員向けHP(ポータルサイト)に案内を掲載した。
- 大阪市主催の親子劇場優待事業による販売促進のために専用チラシを作成し、市内小学校・中学校他へ配布した。また、近隣市の小・中学校の生徒へ子ども向けチラシを配布した。

### (国立劇場おきなわ)

- 社会人のための組踊鑑賞教室「雪払い」では、チラシ2種(仮チラシ3,500枚、本チラシ13,000枚)を作成・配布した。
- 親子のための組踊鑑賞教室「女物狂」では、チラシ2種(仮チラシ3,500枚、本チラシ13,000枚)を作成し、県内全小中学校や近隣市学童クラブ等へ配布した。

### (新国立劇場)

- 高校生のためのオペラ鑑賞教室「蝶々夫人」では、前年度の9月に首都圏全域、約1,300校に募集要項を送付し、学校単位の受付を行った。
- こどものためのバレエ劇場「しらゆき姫」では、マスコミ各社への情報提供、ポスター、チラシ、DM、インターネット、会員会報誌等により、公演の周知を図り、集客に努めた。さらにSNS(Twitter、Facebook)やメール(eメールClub、アカデミック・プランメンバー、バレエ/ダンスDMメンバー)を活用し、公演の興味喚起を図った。

## 3. アンケート調査

### (本館)

- 6月歌舞伎鑑賞教室で実施(6月6日)。  
回答数470人(配布数694人、回収率67.7%)。回答者の83.2%が概ね満足と答えた(391人)。
- 7月歌舞伎鑑賞教室で実施(7月17日)。  
回答数934人(配布数992人、回収率94.2%)。回答者の84.6%が概ね満足と答えた(790人)。
- 12月文楽鑑賞教室で実施(12月8日)。  
回答数385人(配布数491人、回収率78.4%)。回答者の83.9%が概ね満足と答えた(323人)。
- 6月伝統芸能の魅力「雅楽を楽しむ」「声明を楽しむ」で実施(6月7日)。  
回答数839人(配布数1,098人、回収率76.4%)。回答者の87.1%が概ね満足と答えた(731人)。
- 6月伝統芸能の魅力「日本舞踊を楽しむ」「邦楽を楽しむ」で実施(6月14日)。  
回答数350人(配布数596人、回収率58.7%)。回答者の83.7%が概ね満足と答えた(293人)。

(演芸場)

- ・ 7月特別企画公演「親子で楽しむ演芸会」で実施（7月26日）。  
回答数 95 人（配布数 152 人、回収率 62.5%）。回答者の 93.7%が概ね満足と答えた（89 人）。

(能楽堂)

- ・ 8月企画公演「夏休み親子で楽しむ能の会」で実施（8月2日）。  
回答数 127 人（配布数 213 人、回収率 59.6%）。回答者の 92.1%が概ね満足と答えた（117 人）。
- ・ 8月企画公演「働く貴方に贈る」で実施（8月21日）。  
回答数 308 人（配布数 551 人、回収率 55.9%）。回答者の 84.7%が概ね満足と答えた（261 人）。
- ・ 8月企画公演「夏休み親子で楽しむ狂言の会」で実施（8月23日）。  
回答数 161 人（配布数 235 人、回収率 68.5%）。回答者の 92.5%が概ね満足と答えた（149 人）。

(国立劇場おきなわ)

- ・ 社会人のための組踊鑑賞教室「雪払い」で実施（6月28日）。  
回答数 172 人（配布数 250 人、回収率 68.8%）。回答者の 70.3%が概ね満足と答えた（121 人）。
- ・ 親子のための組踊鑑賞教室「女物狂」で実施（8月3日）。  
回答数 203 人（配布数 300 人、回収率 67.7%）。回答者の 85.7%が概ね満足と答えた（174 人）。

(新国立劇場)

- ・ 高校生のためのオペラ鑑賞教室「蝶々夫人」実施（全日程）。  
回答数 3,998 人（配布数 9,130 人、回収率 43.8%）。回答者の 88.7%が概ね満足と答えた（3,547 人）。
- ・ こどものためのバレエ劇場「しらゆき姫」で実施（7月25日）。  
回答数 103 人（配布数 1,080 人、回収率 9.5%）。回答者の 100.0%が概ね満足と答えた（103 人）。

【特記事項】

- ・ 公演内容等の理解を促進するため、「親子で楽しむ歌舞伎教室」「能楽鑑賞教室」「夏休み親子で楽しむ能の会」「夏休み親子で楽しむ狂言の会」「生徒のための組踊鑑賞教室」「親子のための組踊鑑賞教室」では、イラスト入りの分かりやすいパンフレットを作成し、無料配布した。
- ・ 座席字幕装置を活用して、「能楽鑑賞教室」では中・高生向けチャンネルを、「夏休み親子で楽しむ能の会」「夏休み親子で楽しむ狂言の会」では子ども向けチャンネルを追加して3チャンネル方式とし、分かりやすい解説を表示した。

《数値目標の達成状況》

【目標入場者数の達成状況】

伝統芸能分野	実績 156,902 人／目標 153,977 人（達成度 101.9%）
現代舞台芸術分野	実績 16,618 人／目標 15,000 人（達成度 110.8%）
合計	実績 173,520 人／目標 168,977 人（達成度 102.7%）

《自己点検評価》

○ 自己評定

・ 項目別評定

伝統芸能分野	現代舞台芸術分野
B	B

(根拠)

(伝統芸能分野)

- ・ 各分野とも年度計画どおり公演を実施し、伝統芸能分野全体で目標入場者数を達成した（達成度 101.9%）。
- ・ 〈伝統芸能の魅力〉シリーズを新たに開始し、舞踊・邦楽・雅楽・声明の入門公演を実施した。

(現代舞台芸術分野)

- ・ 2公演を年度計画どおり実施し、入場者数についても目標を達成した。
- ・ 「こどものためのバレエ劇場」について、これまでの中劇場からオペラ劇場に移し、90%以上の高い入場率を得て、こどもバレエ公演として過去最大の観客動員数を達成した。

・総合評定

B
---

(根拠)

- ・ 各分野とも年度計画どおり公演を実施し、主に青少年を対象とする公演全体で目標入場者数を達成した(達成度 102.7%)。

○ 良かった点・特色ある点

(本館)

- ・ 歌舞伎鑑賞教室は学生を中心に、親子や社会人も含めて好調な動員を重ね、7月公演中に累計550万人を突破した。
- ・ 「社会人のための文楽鑑賞教室」が2回増え4回となったが、入場券がほぼ売り切れとなった。一般客の関心の高さが窺え、集客に関して満足のいく結果を得られた。

(演芸場)

- ・ 「親子で楽しむ演芸会」では、子供たちにクイズを出題するなど、解説の桂宮治が客席と一体になって大いに場を盛り上げた。また、時代劇コントのカンカラも客席から子供を舞台上げ、舞台と客席の一体感が一層深まった。親子で楽しむ演芸会の名に相応しく、和やかな雰囲気の中公演を終了できた。
- ・ ロビーに風船や造花を飾り付けて、雰囲気を盛り上げ、子供たちに喜ばれた。

(能楽堂)

- ・ 能楽鑑賞教室の解説では生徒の代表者3~4名が舞台上がり、それぞれに謡や所作を体験し、実際の能舞台の雰囲気を味わってもらった。客席の生徒たちにとっても興味深い体験となった。狂言「仏師」ではよく笑いが起きていた。能「殺生石」は短縮版にしたこともあり、スピーディーな展開となった。観客は総じてよいマナーで舞台を鑑賞していた。
- ・ 公演内容等の理解を促進するため、「能楽鑑賞教室」「夏休み親子で楽しむ能の会」「夏休み親子で楽しむ狂言の会」ではイラスト入りの分かりやすいパンフレットを作成し無料配布した。また、座席字幕装置を活用して、「能楽鑑賞教室」では中・高生向けチャンネルを、「夏休み親子で楽しむ能の会」「夏休み親子で楽しむ狂言の会」では子ども向けチャンネルを追加して3チャンネル方式とし、分かりやすい解説を表示して、観客層に合わせたきめ細かい字幕表示が好評であった。

(文楽劇場)

- ・ 6月文楽鑑賞教室の「卅三間堂棟由来」において、「平太郎住家より木遣り音頭の段」の前段にあたり文楽本公演でも上演されることが少ない「鷹狩の段」を上演することにより、物語の理解を深めることができた。
- ・ 夏休み文楽特別公演の第一部「親子劇場」では、オリジナル新作「かみなり太鼓」を上演した。好評を博し、レパトリーの拡充に繋がった。作者の落語作家小佐田定雄氏の全面協力を得、舞台制作のみならず宣伝広報の面でも大きな協力を得た。

(国立劇場おきなわ)

- ・ 「生徒のための組踊鑑賞教室」では、解説の代わりに組踊版「シンデレラ」を上演することで、ストーリーの流れにあわせ、組踊の見方や約束事を楽しく学ぶ、という普及公演のひとつのスタイルを創り出した。誰でも知っている内容であることと、観客の一人をシンデレラ役として実演に参加してもらうことで観客の興味をひきつけ、スムーズに鑑賞してもらうことが出来た。
- ・ 各公演で実施した出演者による来場者見送りの、組踊を身近に感じるファンサービスとして好評だった。

(新国立劇場)

- ・ 「こどものためのバレエ劇場」については、これまで中劇場で公演を実施してきたものを、今年度よりオペラ劇場に移し、総席数が大幅に増加した。積極的な営業活動の推進により、こどもバレエ公演として過去最大の観客動員数を達成した。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 「高校生のためのオペラ鑑賞教室」は目標に達しなかった。今後は、学校団体の状況も把握しつつ、新規学校団体の獲得に努めるとともに、高校生個人向けのプロモーションも強化し、観客増加につなげたい。

## 2-(4) 快適な観劇環境の形成

### 《中期計画の概要》

#### 2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

##### (5) 快適な観劇環境の形成

観客本位の快適な環境の形成のため、次のとおりサービスの向上に努め、観客の満足度の向上を図る。

- ア 高齢者、身体障害者、外国人等の利用にも配慮した快適で安全な劇場施設の整備、各種サービスの充実
- イ 入場券販売において、利用者にとって利便性の高い多様な購入方法を提供
- ウ 解説書等の作成、音声同時解説や字幕表示、公演内容の説明会等などのサービスの提供
- エ アンケート調査や劇場モニターの活用等

### 《年度計画の概要》

#### 2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

##### (5) 快適な観劇環境の形成

- ア 売店・レストラン等におけるサービスの充実
  - 観劇時のマナーの呼びかけ
  - ロビー等観客用設備の適切な維持管理
  - 外国人の観客に対する劇場内外の案内表示の整備等サービスの充実
- イ 入場券販売において、観客の利用形態に応じた多様な購入方法を提供
  - 新たなチケット販売システムの運用を開始
- ウ 公演内容に応じて、解説書等の作成並びに音声同時解説及び字幕表示を実施
  - 鑑賞団体等に対し、公演内容の事前説明会や施設見学会を開催
- エ 意見・要望を一元的に管理、対応の迅速化及び職員間の情報共有の強化
  - アンケート調査や劇場モニターの活用等により、観客等の要望、利用実態等を把握・活用

### 《主要な業務実績》

#### 1. 快適な観劇環境の提供、外国人利用者への対応

- ・ 観客用設備の適切な維持管理・改善を実施
- ・ 各館の売店・レストランのサービス改善のため、アンケート調査及び委託業者との定期的な会議を実施
- ・ その他、観客サービスの向上につながる取組を適宜実施
- ・ 職員や委託業者などによる消防訓練、避難訓練等を実施するとともに、利用者の安全を確保するための設備改修等を実施
- ・ 外国人利用者への対応として、劇場内外の案内表示の整備、外国語によるチラシ・リーフレット等を提供

#### 2. 多様なチケット購入方法の提供

- ・ 親子企画公演の親子先行発売を実施
- ・ チケットセンターホームページに各館の親子企画を紹介するサイトを設置
- ・ 文楽劇場では、文楽本公演において幕見席を販売
- ・ 新国立劇場において、交通系電子マネー等によるチケット決済サービスを開始

#### 3. 公演内容等の理解促進のための取組

- ・ 公演内容に適した解説書等を作成
- ・ 歌舞伎・本館文楽公演にて音声同時解説を実施、伝統芸能分野 103 公演、現代舞台芸術分野 12 公演において字幕表示を実施
- ・ 公演内容の事前説明会を 261 件 12,638 人、施設見学会を 71 件 677 人、バックステージツアーを 137 件 5,422 人に対し開催

#### 4. 意見・要望等の把握と対応

- ・ 意見・要望等を一元的に把握し、迅速に対応
- ・ 対応状況に関し全役職員及び委託業者で情報を共有

- ・ 意見・要望等を踏まえサービス等を改善

《自己点検評価》

○ 自己評定

・ 総合評定

伝統芸能分野
B

(根拠)

- ・ 快適で安全な観劇環境の提供のため、設備等の整備やサービスの改善を適切に実施した。
- ・ 観客の利用傾向や要望に応じて、親子を対象とする公演の先行販売等、チケット購入における利便を図った。
- ・ 公演内容に応じて、解説書や音声同時解説、字幕表示、公演説明会等のサービスを実施し、公演内容の理解のための一助とした。
- ・ 意見・要望等に迅速に対応し、サービスの向上等業務改善を図った。

現代舞台芸術 分野
B

(根拠)

- ・ 快適で安全な観劇環境の提供のため、避難体験オペラコンサート等の新たな取組や公演内容にあわせたサービスの提供を行った。英語版WEBサイトのリニューアルなど、特に外国人利用者の利便性の向上を図った。
- ・ 観客の利用傾向や要望に応じて、チケット購入における利便性を向上させた。
- ・ 公演内容に応じて、解説書や字幕表示、公演説明会等のサービスを実施し、公演内容の理解のための一助とした。
- ・ 観客からのご意見・要望について、各部署での情報共有を行った。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 公演内容に応じた解説書等の作成や字幕表示サービス、観劇団体等の要望に応じた公演説明会等を実施し、公演内容の理解促進を図った。
- ・ 観客からのご意見・要望を関係部署で共有し、迅速な回答を行った。また、設備の適切な整備やサービスの改善につなげた。

(伝統芸能分野)

- ・ 親子を対象とする公演について、本館・演芸場・能楽堂・文楽劇場の4館が合同で販売キャンペーンを実施し、「親子を対象とする伝統芸能の公開」という振興会の事業を推進することができた。
- ・ 社会人向け講座シリーズ「国立劇場 in 丸の内」について、規模、内容を一新した。また、シリーズ開始に先立ち、オープニングイベントを開催し、関係者や報道機関に対してコンセプト等を周知した。

(現代舞台芸術分野)

- ・ 避難体験オペラコンサートにおいて、一般のお客様の協力を得て避難訓練を実施し、産業技術総合研究所とともにデータを分析したことにより、防災マニュアルおよび避難計画の改善につなげることができた。
- ・ 英語版 WEB サイトのリニューアルにより、外国人を含めたより多くのお客様にアクセスいただく機会を創出した。
- ・ チケット決済方法の選択肢を広げることで、サービスを拡充した。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ バリアフリー化等、引き続き劇場施設の改善を検討する。
- ・ サービスの質の維持・向上について、引き続き検証・改善に努める。

## 2-(4)-① 快適で安全な観劇環境の提供、外国人利用者への対応

### 《業務実績詳細》

#### 1. 設備等の環境整備

##### (本館)

- ・ 客席内階段での転倒防止のため、注意喚起の表示を設置した。
- ・ プログラム売り場の照度向上のため、照明器具を配置した。

##### (文楽劇場)

- ・ 観客からのご意見に対応して、トイレ個室の荷物掛けフック及び荷物置き棚を増設した。
- ・ 1階エントランスホール誘導サインの英語表記を拡充した。

##### (国立劇場おきなわ)

- ・ 昨年度に引き続き、共通ロビーの照明器具の一部をLEDに取り替え、省エネルギー及び照度の向上に努めた。

##### (新国立劇場)

- ・ 衛生環境の改善のため、オペラ劇場、中劇場、小劇場の洋式便器に洗浄便座を取り付け、手洗い水道栓を自動水栓に整備する工事を行った。また、託児室利用者のために子ども用トイレを設置した。
- ・ オペラ劇場及び中劇場の客席椅子について、観劇環境の向上及び予防保全の観点から補修を行った。
- ・ 5F情報センター横女性用トイレ内に新たにベビーシートを設置し、乳幼児連れのお客様に対応した。
- ・ 中劇場、小劇場ホワイエに天井コンセントを増設し、ホワイエ内のディスプレイ等の活性化に寄与した。
- ・ オペラ劇場、中劇場、小劇場及びレストランマエストロの厨房機器を更新し、お客様サービスの向上に寄与した。

#### 2. 観客サービスの充実

- ・ 一年の幕開けを寿ぎ、鏡開きや手拭いまきなど、各館で正月のイベントを実施した。
- ・ 総合チケットシステムの導入及び運用開始に合わせてチケットのサイズを変更し、チケット券面の印字が大きく見やすくなるように工夫した（本館・演芸場・能楽堂・文楽劇場）。

##### (本館)

- ・ 劇場内掲示タイムテーブルに劇場バス情報を記載した。
- ・ 開演前の客席において、場内案内係による口頭での観劇マナーに関する注意喚起を開始した。
- ・ 保護者・子供向けのマナーチラシ・ポスターを作成した。
- ・ 難聴者用ポータブル字幕の試用、熱中症対策ミストの設置等を行った。
- ・ 文楽劇場プログラムの販売を開始した。
- ・ レストラン「十八番」においてアンケートを実施し、観客からの意見を踏まえ、食堂業者及び担当部署との定期的な会議を開始した。
- ・ 公演内容にちなんで、各地の観光協会等の協力により、劇場ロビー内に特設会場を設けて物産品等販売した。
- ・ 国立劇場により親しんでもらうため、「国立劇場さくらまつり」を開催した。
- ・ 歌舞伎・文楽公演において託児サービスを行い、観客の利便を図った。また利用希望に応じ、その他の公演でも公演内容によって非開設日にサービスを提供した。

##### (演芸場)

- ・ 観客サービスの改善のため、チケットケースの内側に座席表を印刷した。

##### (能楽堂)

- ・ 能面・能装束等をデザイン化したオリジナルグッズを、能楽堂内売店及び国立劇場売店で引き続き販売した。
- ・ 食堂、売店に関するアンケート調査を9月と3月に実施して利用者の要望等を収集し、調査結果について関係部署、食堂・売店業者間で意見交換を行い、一層のサービス向上に努めるよう指導した。
- ・ レストランは公演状況に応じ開場前及び終演後も営業を行い、また売店は、公演中は一般の来場者でも買物ができるようにして、利用者の利便を図った。

##### (文楽劇場)

- ・ 1月に食事に関するアンケート調査を実施して観劇時の食事に対するニーズ等を収集し、食堂業者との

意見交換の上アンケート結果をメニューに反映するなど、サービスの充実について指導した。

(国立劇場おきなわ)

- ・ 共通ロビーのカフェにおいて提供する食事を充実させ、サービスの向上を図った。
- ・ 昨年に引き続き、7月公演より、沖縄県の補助事業を活用して団体送迎バス無料サービスを行った。

(新国立劇場)

- ・ オペラ劇場の夜公演時に、劇場内で人数限定のブッフェ「パレスサロン」を行い、飲食サービスを提供した。
- ・ 2013/2014 シーズンシートまたはオペラ・シーズンセット券購入者を対象に、出演者との懇親を図るイベントとして、「お客様と出演者の集い」を行った。その際、オペラ「アラベッタ」の雰囲気に合わせてカクテルを提供した。また、オペラのイベントで行った記念撮影の集合写真には、寄せ書きのようにレイアウトした出演者のサインを組み合わせ送付した。
- ・ 2013/2014 シーズンシートまたはバレエ・シーズンセット券購入者を対象に、出演者との懇談を図るイベントとして、「バレエ・シーズンエンディングパーティー」を行った。
- ・ オペラ「パルジファル」にて、休憩時にレストランとブッフェにて特製メニューを用意した。また、東海旅客鉄道株式会社の協力で、東海道新幹線 50 周年記念弁当を販売した。
- ・ ビントレー前舞踊芸術監督のシーズン最終公演となったバレエ「パゴダの王子」終演後に、ミニトークイベントを行った。
- ・ バレエ「シンデレラ」で各公演の終演後に主演ダンサーによる握手会を開催した。
- ・ バレエ「シンデレラ」にて、オペラ劇場ホワイエ内をクリスマスツリーの設置やクリスマス関連の飾りで装飾するとともに、ネイルアートやボディペインティングコーナーを設置した。
- ・ メインエントランスの一角にある売店の営業を再開し、オペラ劇場公演日に劇場関連グッズ、公演プログラムのバックナンバー等を販売した。

### 3. 安全な観劇環境の確保

(本館)

- ・ 客席内階段の安全対策を実施した。
- ・ 職員、委託業者など全職域が参加する自衛消防訓練を3月に実施した。

(能楽堂)

- ・ 職員、委託業者など全職域が参加する自衛消防訓練を年2回実施した。避難誘導等の実地訓練及び渋谷消防署原宿出張所職員によるお話(10月)を実施して職員等の防災意識を高め、避難誘導等の実地訓練及び消防署職員による AED 講習(3月)を行って救急対応について再確認することができた。
- ・ 職員、委託業者など全職域が参加して、火災・地震等の緊急時の対応について確認・検討する能楽堂舞台運営安全会議を10月に実施した。

(文楽劇場)

- ・ 6月に団体観劇の高校生と教職員(計337名)の協力を得て、避難誘導訓練を実施した。2月には、職員及び委託業者社員が消防署制作のビデオを鑑賞し消防活動について学んだあと、避難誘導訓練を実施した。

(国立劇場おきなわ)

- ・ 共通ロビー・客席天井脱落防止対策の改修工事を行って建物の耐震性を高め、より安全性の高い劇場空間を構築した。
- ・ 職員、委託業者など全職域が参加する自衛消防訓練を年2回実施して、避難訓練、消火器の取扱い等について実地訓練を行った。

(新国立劇場)

- ・ 大規模地震等の対策として、オペラ劇場及び中劇場の各ホワイエとメインエントランスの天井脱落防止対策工事を行った。
- ・ 8月31日に「あっ！その時どうする・・・避難体験オペラコンサート」を実施した。事前申込制で一般の方々にご参加いただき、コンサート上演中に地震が発生した想定で実際に避難を体験していただくとともに、避難する際の動線やアナウンスの聞こえ具合等を様々な事項を確認、記録し、今後の緊急時対応に役立てられるよう分析を行った(協力：産業技術総合研究所)。
- ・ 日頃の消防訓練の成果を発表する場として、渋谷消防署の主催する自衛消防訓練審査会に防災センター要員が参加した。

#### 4. 外国人利用者への対応

##### (本館)

- ・ 劇場内案内看板の英語表記を修整した。
- ・ レストランメニューに英語表記を追加した。
- ・ 歌舞伎・文楽公演では解説書（有料）に英文あらすじを掲載し、舞踊や邦楽等の短期公演では英文リーフレット（無料）を配布した。
- ・ 歌舞伎・文楽の英文スケジュールチラシのデザインを見直し、外国人に対して訴求力のあるものに改良して、劇場内のほか空港・観光案内所・主要ホテル等に配布した。
- ・ 英語のイヤホンガイドサービスを引き続き実施した。

##### (能楽堂)

- ・ 英文による演目解説リーフレット、年間公演予定表、施設紹介パンフレットの作成・配布、英語による案内表示、場内アナウンスなどのサービスを提供し、引き続き外国人の利用環境の充実を図った。
- ・ 座席字幕装置設置を明記した英文チラシを作成し、ホテル・観光情報センター・空港等に配布して海外からの観光客への周知・集客に努めた。
- ・ 座席字幕装置を活用して、11月・2月企画公演（蠟燭能）を除く48公演で英語の字幕表示を実施した。

##### (文楽劇場)

- ・ 文楽劇場の文楽公演では、英語に加え、中国語（簡体字）、韓国語の解説リーフレットを引き続き作成・配布した。
- ・ 1階エントランスホールの文楽劇場・小ホール・展示室の誘導サインに英語表記を加え、外国人利用者の利便性を高めた。

##### (国立劇場おきなわ)

- ・ 組踊公演について、外国人利用者向けにあらすじ等を英文で記したチラシを作成・配布した。

##### (新国立劇場)

- ・ 英語版WEBボックスオフィスを新設し、海外からのチケット購入等を可能にした。
- ・ 英語版WEBサイトをリニューアルし、公演詳細やチケットの購入方法など、必要な情報がすぐ分かるシンプルな構成とした。閲覧数の多い劇場アクセスについては、中国語版とドイツ語版の案内を開始した。
- ・ 公演プログラムに英文による物語解説を掲載した。
- ・ 英語での対応ができる劇場案内スタッフを配置した。
- ・ シーズンガイドの英語版を作成し、広く公演概要を周知した。
- ・ 外国人向けフリーペーパーに劇場及び公演の情報を掲載し、周知に努めた。

#### 【特記事項】

- ・ 新国立劇場では、8月31日にオペラパレスにて「あっ！その時どうする・・・避難体験オペラコンサート」を行った。約1,300名が参加し、センサーやカメラ50台で人流測定を行ったほか、参加者へのアンケートも実施した。データは産業技術総合研究所とともに分析し、防災マニュアル、避難計画の改善を行った。

#### 《自己点検評価》

---

##### ○ 良かった点・特色ある点

- ・ 文楽劇場では、トイレ個室内の荷物掛けの増設等、利用者の要望にすぐに対応して快適性を高めることができた。
- ・ 国立劇場おきなわでは、共通ロビーの照明器具の一部をLEDに取り替えることで、省エネルギーに努めるとともに、共通ロビーが明るくなり、より快適な観劇環境を提供することができた。
- ・ 新国立劇場では、「あっ！その時どうする・・・避難体験オペラコンサート」を行い、防災マニュアル及び避難計画の改善につなげることができた。
- ・ 新国立劇場では、国内外の外国人利用者のために英語版WEBサイトをリニューアルしたほか、海外からの英語でのチケット購入が可能になった。

##### ○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 高齢者等の観客に留意し、バリアフリー化等、引き続き劇場施設の改善を検討する。
- ・ 英語圏以外の方を含めた外国人の観客に対し、周知、勧誘、利便の向上を図るべく、引き続き検討する。
- ・ サービスの質の維持・向上について、引き続き検証・改善に努める。

---

## 2-(4)-② 多様な購入方法の提供によるチケット販売の促進

### 《業務実績詳細》

---

- ・ 親子を対象とする公演のインターネット販売では、本館・演芸場・能楽堂の各公演は、会員及び一般発売に先行して発売した。文楽劇場の公演は一般発売に先行して会員発売日と同日に発売した。
- ・ チケットセンターホームページに各館の親子企画を紹介するサイトを設置し、さらに、振興会トップページのバナーから誘導した。
  - 1) 「親子で楽しむ歌舞伎教室」(7月18日～24日)  
インターネット販売は5月26日に開始、電話予約は翌27日に開始  
予約結果：インターネット予約2,274件(7,221枚)、電話予約846件(2,567枚)
  - 2) 「親子で楽しむ演芸会」(7月26日)  
インターネット販売は5月28日に開始、電話予約は翌29日に開始  
予約結果：インターネット予約54件(153枚)、電話予約35件(110枚)
  - 3) 「夏休み親子のための能の会」(8月2日)及び「夏休み親子のための狂言の会」(8月23日)  
インターネット販売は5月28日に開始、電話予約は翌29日に開始  
予約結果：「夏休み親子のための能の会」インターネット予約104件(287枚)、電話予約17件(46枚)、「夏休み親子のための狂言の会」インターネット予約116件(341枚)、電話予約60件(168枚)
  - 4) 「文楽親子劇場」(7月19日～8月4日)  
インターネット販売は6月2日に開始、電話予約は翌3日に開始  
予約結果：インターネット予約130件(212枚)、電話予約58件(93枚)
- ・ 文楽劇場では文楽本公演において幕見席を販売した。
- ・ 新国立劇場では、ボックスオフィス各窓口において、交通系電子マネー(Suica・PASMO等)、iD、楽天Edy、WAONでのチケット決済が可能となった。また銀聯カードの利用も可能になった。また、英語版WEBボックスオフィスを新設し、海外からのチケット購入を可能にした。

### 《自己点検評価》

---

- 良かった点・特色ある点
  - ・ 振興会の「親子企画」として、販売に先立ちインターネット販売システムに専用ページを設け、本館・演芸場・能楽堂・文楽劇場の4館が合同でインターネットを活用した販売キャンペーンを行ったことにより、多くの親子がこの企画を利用し、「親子を対象とした伝統芸能の公開」という振興会の事業を推進することができた。
  - ・ 新国立劇場では、ボックスオフィス各窓口において、交通系電子マネー、iD、楽天Edy、WAONでのチケット決済が可能となった。また銀聯カードの利用も可能になり、利便性の向上を図った。
- 見直し又は改善を要する点
  - ・ 情報技術の発展に鑑み、今後も利便性の向上に努める。

---

## 2-(4)-③ 公演内容等の理解促進のための取組

### 《業務実績詳細》

---

#### 1. 解説書等の作成

- ・ 本館の各公演において解説書を作成し、公演内容等に応じて以下の工夫を行った。
  - ・ 4月琉球芸能公演において、上演詞章(現代語訳付き)を別冊で添付
  - ・ 5月文楽公演において、解説書に竹本住大夫引退記念の特別付録小冊子を封入
  - ・ 9月文楽公演において、通常解説書とは別に、第3部新作文楽専用の解説書を作成
  - ・ 歌舞伎鑑賞教室、文楽鑑賞教室において、来場者全員に解説書および読本を無料配布
  - ・ 今年度より始まった〈伝統芸能の魅力〉公演において、初心者向けに図版等を多数盛り込んだ解説書を無料配布
- ・ 演芸場では、出演者の顔写真や略歴を載せた公演ガイドを毎月作成して、無料で配布を行い、公演内容の理解を図った。
- ・ 能楽堂では、公演内容等の理解を促進するため公演解説書(プログラム)「国立能楽堂」(月刊・年12

回)を作成し、全主催公演の解説を施した。また、公演内容に応じて、「能楽鑑賞教室」「夏休み親子で楽しむ能の会」「夏休み親子で楽しむ狂言の会」ではイラスト入りの分かりやすいパンフレットを作成し、無料配布した。

- ・ 文楽劇場では、「上方演芸特選会」を除く各公演において解説書を作成した。
- ・ 国立劇場おきなわでは、公演解説書ステージガイド「華風」(月刊)を作成した。
- ・ 新国立劇場では、全ての主催公演について公演解説書(プログラム)を作成した。

## 2. 音声同時解説・字幕表示の活用

### (1) イヤホンガイドサービスの実施

- ・ 歌舞伎・文楽の全公演で、日本語と英語によるイヤホンガイドサービスを実施した(文楽鑑賞教室は日本語版のみ)。

### (2) 字幕表示の実施

ジャンル	実施公演数	内 訳
歌舞伎公演(鑑賞教室含む)	1公演	7月鑑賞教室
文楽公演(鑑賞教室含む)	10公演	全公演
舞踊・邦楽・声明・民俗芸能・琉球芸能・特別企画公演	15公演	5月舞踊公演、8月舞踊公演、11月舞踊公演、3月舞踊公演
		10月邦楽公演(2公演)、1月邦楽公演
		9月声明公演
		11月民俗芸能公演、1月民俗芸能公演
		4月琉球芸能公演
4月舞踊・邦楽公演、6月〈伝統芸能の魅力〉公演(2公演)、9月特別企画公演(文楽劇場)		
能楽公演(鑑賞教室含む)	48公演	11月・2月企画公演(蠟燭能)を除く全公演
組踊等沖縄伝統芸能公演(鑑賞教室含む)	29公演	11月企画公演「国立劇場寄席」を除く全公演
オペラ公演(鑑賞教室含む)	12公演	全公演

#### 【特記事項】

- ・ 6月歌舞伎鑑賞教室において、聴覚障害者等に対応して「無線小型ポータブル字幕機」の貸出しを試験的に行った。
- ・ 能楽堂の貸劇場公演において、座席字幕装置の利用が1件あった。

## 3. 公演説明会・施設見学等の実施

### (1) 公演説明会の実施

区 分	件 数	参加人数
本館・演芸場	181件	6,696人
能楽堂	8件	353人
文楽劇場	59件	1,969人
新国立劇場	13件	3,620人
合 計	261件	12,638人

### (2) 施設見学の実施

区 分	件 数	参加人数
本館・演芸場	10件	117人
能楽堂	3件	19人
文楽劇場	2件	4人
国立劇場おきなわ	36件	329人
新国立劇場	20件	208人
合 計	71件	677人

### (3) バックステージツアーの実施

区分	件数	参加人数
本館・演芸場	118件	4,746人
能楽堂	3件	96人
文楽劇場	1件	5人
国立劇場おきなわ	4件	195人
新国立劇場	10件	340人
合計	137件	5,422人

#### 【特記事項】

- ・ 上記施設見学のほか、新国立劇場では13件87名の外国からの見学者受入れを行った。

### (4) 劇場外での伝統芸能講座の実施

- ・ 社会人向け講座シリーズ「国立劇場 in 丸の内」を実施した（会場：新丸の内ビルディング エコツェリア）。伝統芸能を観る機会の少ないビジネスパーソンを対象に、歌舞伎、文楽、能楽を中心とした伝統芸能の知識を得る機会を提供した（3回、参加者数計152人）。

#### 《自己点検評価》

##### ○ 良かった点・特色ある点

- ・ 能楽堂では、座席字幕装置を活用して、11月・2月企画公演（蛸燭能）を除く48公演で日本語（詞章）・英語の2チャンネル方式で字幕表示を実施した。また、能楽鑑賞教室では中・高生向けチャンネルを、「夏休み親子で楽しむ能の会」「夏休み親子で楽しむ狂言の会」では子ども向けチャンネルを追加して3チャンネル方式とし、分かりやすい解説を表示して、観客層に合わせたきめ細かい字幕表示を実施し好評を得た。
- ・ 文楽劇場では、7月邦楽公演「文楽素浄瑠璃の会」において、専門家によるお話（解説）を付けて鑑賞の一助とした。
- ・ 国立劇場おきなわでは、公演内容等に応じて、上演に先立ちレクチャーやシンポジウムなどを開催し、鑑賞の一助とした。
- ・ 新国立劇場のバックステージツアーは、普段は観る機会のない舞台機構を解説付きで見学できるため、参加者に非常に好評であった。今後も積極的に実施していきたい。
- ・ 新国立劇場では、学校団体での芸術鑑賞や関西オペラ鑑賞教室において、事前に学校訪問をして、作品解説等の事前レクチャーを実施した。
- ・ 「国立劇場 in 丸の内」の開催に当たっては、丸の内地区の関係団体からの協力を得て会場を新丸の内ビルディング「エコツェリア」に移し、規模、内容を一新した。また、講座シリーズ開始に先立ちオープニングイベントを開催し、関係者、報道機関を招待して「国立劇場 in 丸の内」のコンセプト、今後の展開等を周知した。

##### ○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 新国立劇場では、外国人来場者のため、外国語の字幕の対応について、外国人来場者の意向を調査しつつ、引き続き検討を行う必要がある。

## 2-(4)-④ 意見・要望等の把握と対応

### 1. 意見・要望等への対応体制

- ・ 各館において、ご意見箱や観客へのアンケート調査により、観客の意見・感想・要望・利用実態等の把握に努めている。寄せられた観客の意見・感想・要望については、迅速な対応を図るとともに、対応状況の把握と、職員や案内業務委託業者への周知を行い、サービス・ホスピタリティの向上・改善に活用するよう努めている。

#### (新国立劇場)

- ・ 全演目でアンケート調査日を設定し、入場時にアンケート用紙を配布、終演後に粗品と引換に回収する形で実施した。アンケート調査日以外においても、劇場各所にアンケート用紙を設置した。

- アンケート結果については、関係部署間で共有した。また、来場者アンケートに記載されたお客様の声のうち、掲載を許可されたコメントについて、ホームページにアップした。
- 意見・要望については、委託業者も交えて必要な対応を行い、提供するサービスの質の向上に努めた。
- 主催公演において、公演会場に職員が劇場支配人として立ち会い、委託業者とともに観客と直接コミュニケーションを図るとともに、不測の事態に常に備えた。

## 2. 意見・要望等への対応状況

区分		受付件数	回答件数
ご意見箱	本館	153 件	89 件
	演芸場	30 件	14 件
	能楽堂	35 件	13 件
	文楽劇場	67 件	43 件
	国立劇場おきなわ	17 件	0 件
	合計	302 件	159 件
メールによるご意見	振興会	143 件	123 件
	国立劇場おきなわ	5 件	4 件
	新国立劇場	209 件	73 件
	合計	357 件	200 件

### 主な対応・改善例

- 本館大・小劇場の手摺金具を照明が反射しない素材に交換
- 能楽堂展示室の夜間開室についてホームページに情報を掲載
- 文楽劇場女性トイレ個室に荷物掛け用フックを増設
- チケットセンターホームページ内のNTJメンバー会員登録フォームに入力方法に関する注釈を掲載し、誤入力を防止
- 新国立劇場のキッズクッションの貸出対応条件を身長 120cm までから 140cm までに変更
- 新国立劇場ホームページ内「アクセス」のページにフロアマップを追加

### 《自己点検評価》

- 良かった点・特色ある点
  - 意見・要望等に迅速に対応し、サービスの向上等業務改善を図った。
  - 新国立劇場では、劇場支配人が主催公演会場に常に立ち会い率先して観客対応を行うことにより、担当職員、委託業者ともに高いおもてなしの精神をもって観客対応を行うことができた。
- 見直し又は改善を要する点
  - 様々な価値観を持つ多数の観客に一度に対応するため、業務全般に一定の緊張感を持ちつつ常に検証・改善し、劇場体験の満足度向上に資するよう努める。

## 2-(5) 広報・営業活動の充実

### 《中期計画の概要》

#### 2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

##### (6) 広報・営業活動の充実

より多くの人々が幅広い分野の公演を鑑賞することを目標として、次の取組により一層効果的な広報・営業活動を展開

- ア 公演内容に応じた効果的な宣伝活動
- イ 観客の需要を的確に捉えた営業活動
- ウ 会員に向けた各種サービスの提供による会員の観劇機会の増加

### 《年度計画の概要》

#### 2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

##### (6) 広報・営業活動の充実

##### ア 効果的な広報・営業活動の展開

- ① 公演内容に応じて、記者会見・取材等によるマスメディアを通じた広報や、インターネット広告等の多様な媒体を活用して、広報活動を効果的に実施

国立演芸場開場 35 周年及び国立文楽劇場開場 30 周年の記念公演について、広報を強化

- ② 振興会各種事業に関する広報の充実を努め、ホームページ等を活用して随時最新の情報を提供  
ホームページについて、各種情報の早期掲載及び内容の充実、アクセス動向等を分析  
英語版ホームページの内容を見直し、外国人に対する情報発信を強化  
メールマガジンにより公演等の情報を随時配信

国立劇場開場 50 周年に向けて、ホームページリニューアル等の検討を開始

- ・ 日本芸術文化振興会ホームページ目標アクセス件数：2,100,000 件
- ・ 国立劇場おきなわホームページ目標アクセス件数：236,000 件
- ・ 新国立劇場ホームページ目標アクセス件数：3,600,000 件

- ③ 振興会各種事業に関する広報誌を次のとおり発行
  - ・ 日本芸術文化振興会ニュース（毎月発行）
  - ・ 国立劇場おきなわ情報誌「華風」（毎月発行）
  - ・ 新国立劇場情報誌「ジ・アトレ」（毎月発行）

- ④ シーズンシートやセット券を企画・販売

- ⑤ 団体観劇を促進するため、公演内容に応じた営業活動を展開、旅行代理店・ホテル等との連携を強化

法人を対象とする会員制度の創設、会員の募集、サービスの提供を開始

- ⑥ 大学等を対象とする会員制度「キャンパスメンバーズ」の創設、会員の募集、サービスの提供を開始

- ⑦ 全職員が積極的に団体観劇を勧誘する「おすすめキャンペーン」を引き続き実施

##### イ 個人を対象とする会員組織の会員に対し、会報による情報提供を定期的 to 実施

入場券の会員先行販売や会員向けイベント等の各種サービスを提供

アンケート調査の結果や劇場モニターの意見内容について検討し、会員向けサービスの充実に活用  
会員向けサービスの周知による、新規会員の増加

- ① あぜくら会（本館・演芸場・能楽堂）

- ・ 会報「あぜくら」（毎月発行）
- ・ 会員向けイベント：年 9 回程度
- ・ 目標会員数：18,000 人

- ② 国立文楽劇場友の会

- ・ 「国立文楽劇場友の会会報」（年 6 回発行）
- ・ 会員向けイベント：年 6 回程度

- ・ 目標会員数：7,700人
- ③ 国立劇場おきなわ友の会
  - ・ 「国立劇場おきなわ友の会会報」(年4回発行)
  - ・ 会員向けイベント：年3回程度
  - ・ 目標会員数：2,200人
- ④ クラブ・ジ・アトレ(新国立劇場)
  - ・ 会報「ジ・アトレ」(毎月発行)
  - ・ 会員向けイベント：年11回程度
  - ・ 目標会員数：9,500人

《主要な業務実績》

1. 効果的な広報・営業活動の展開

- ・ 団体観劇を促進するため、公演内容に応じた営業活動を展開
- ・ 演芸場開場35周年記念及び文楽劇場開場30周年記念の公演について、マスコミへの情報提供・取材依頼、ポスター、チラシ等により広報を強化
- ・ 英語版ホームページの改善、公演情報の早期掲載、特設ウェブサイトの開設、SNS(Facebook、Twitter)の活用等によりホームページの内容を充実化、メールマガジンを随時配信
- ・ 振興会、国立劇場おきなわ、新国立劇場の各ホームページにおいて目標アクセス件数を大幅に達成
- ・ 「日本芸術文化振興会ニュース」、国立劇場おきなわ会報誌「華風」、新国立劇場情報誌「ジ・アトレ」等の広報誌を発行
- ・ 公演内容に応じて各種セット券等を販売
- ・ 旅行代理店・ホテル等との連携を強化
- ・ 法人を対象とする事前登録制の団体チケット販売システムの運用開始に向けて検討・準備
- ・ 大学等を対象とする会員制度「国立劇場キャンパスメンバーズ」制度の運用を開始し、サービスを提供
- ・ 全職員が積極的に観劇を勧誘する「おすすめキャンペーン」を引き続き実施

2. 会員組織の運営、会員向けサービスの充実

- ・ 会員組織の会員に対し、会報による情報提供及び先行販売、会員向けイベント等のサービスを実施
- ・ 国立文楽劇場友の会、クラブ・ジ・アトレにおいて目標会員数を達成
- ・ 会員サービスの充実及び新規入会キャンペーン等による入会促進

《数値目標の達成状況》

【ホームページへのアクセス状況】

日本芸術文化振興会ホームページの年間アクセス件数：実績2,876,551件／目標2,100,000件(達成度137.0%)  
 国立劇場おきなわホームページの年間アクセス件数：実績373,859件／目標236,000件(達成度158.4%)  
 新国立劇場ホームページの年間アクセス件数：実績4,364,070件／目標3,600,000件(達成度121.2%)

【会員数】

あぜくら会：実績17,934人／目標18,000人(達成度99.6%)  
 国立文楽劇場友の会：実績8,148人／目標7,700人(達成度105.8%)  
 国立劇場おきなわ友の会：実績1,952人／目標2,200人(達成度88.7%)  
 クラブ・ジ・アトレ：実績9,668人／目標9,500人(達成度101.8%)

《自己点検評価》

○ 自己評定

・ 総合評定

伝統芸能分野
B

(根拠)

- ・ 各種キャンペーン等、公演内容に応じた広報・営業活動を実施した。演芸場開場35周年及び文楽劇場開場30周年の記念公演については、広報活動を一層強化し、演芸場では前年度を上回る集客が見られ、文楽劇場

では開場以来最高の入場率という好結果を得た。

- ・ 振興会及び国立劇場おきなわホームページについて、目標値を大きく超えるアクセスがあった。
- ・ 事業や公演の内容に応じてホームページに特設サイトを開設し、情報の充実に努めた。また、英語版ホームページの改善やSNS（Facebook）の活用等によりホームページの内容を充実させることができた。
- ・ 「国立劇場キャンパスメンバーズ」制度の運用を開始し、サービスの拡充を行った。
- ・ 会員組織については、会員向けイベントの開催等、サービスの充実に努め、好評であった。

現代舞台芸術 分野
B

(根拠)

- ・ 公演内容に応じて、様々な媒体による広報・営業活動を実施した。
- ・ 英文サイトを含めたホームページのデザイン改修、全ジャンルでのFacebook、Twitterの活用や、様々な媒体による動画配信により、これまで以上に多くの情報を随時発信することができ、年間アクセス件数も年度計画目標を大きく上回った。
- ・ 会員向けのイベントをより多く実施する等、会員向けサービスの充実に図った結果、クラブ・ジ・アトレ会員は9,668人となり、目標を達成することができた。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 振興会ホームページにおいて英語による情報を充実させ、外国人利用者の利便性の向上を図った。
- ・ 「国立劇場キャンパスメンバーズ」のサービス提供を開始し、対象公演の拡充等を通じて、新たな観客層の育成に着手できた。
- ・ 文楽劇場開場30周年記念公演について、それぞれ30周年にふさわしい公演内容を効果的にPRすることができた。特にホームページにおいて、文楽劇場独自のコンテンツである「文楽かんげき日誌」の充実や、11月・初春公演の公演記録映像を活用した各演目のダイジェスト版動画による公演PRで宣伝効果を高めることができた。

(新国立劇場)

- ・ ホームページのデザイン改修、全ジャンルでのFacebook、Twitterの活用や、様々な媒体による動画配信等により、これまで以上に多くの情報を随時発信でき、結果としてホームページへの年間アクセス件数は目標を大きく上回る4,364,070件を達成することが出来た。
- ・ 英文サイトのリニューアルを行い、利便性を高めた。劇場アクセスについては、中国語とドイツ語での案内も開始し多言語化を図った。
- ・ クラブ・ジ・アトレ入会促進キャンペーンにおいては、従来のゲネプロ見学への招待等に加えて、ランチタイムコンサート、特別バックステージツアーなど新規イベントを多く盛り込み、内容の充実に図った。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 今後もジャンルや演目の特性を見据え、きめ細かな広報宣伝営業活動を続ける必要がある。
- ・ 引き続き、各会員組織において入会キャンペーン等の実施により新規会員の増加を図るとともに、会員向けサービスの一層の充実に努めたい。

## 2-(5)-① 効果的な広報・営業活動の展開

### 1. 公演内容に応じた効果的な広報活動

#### (本館)

- ・ マスコミ各社への記者会見及び取材依頼、テレビ出演、ポスター、チラシ、ホームページ、あぜくら会報、振興会ニュース等、また都内の比較的小規模な劇場におけるチラシ設置等により、公演情報の周知拡大を図り、一般の集客に努めた。
- ・ 9月文楽公演と10月歌舞伎公演、10月邦楽公演と初春歌舞伎公演、11月歌舞伎公演と12月文楽公演をそれぞれ同一演目としたことから、ダブル観劇キャンペーンを実施した。

#### (演芸場)

- ・ 開場35周年記念公演を広く周知するため、マスコミに対し情報提供に努め、新聞記事等の掲載により集客を図った。また各種団体にも積極的に働きかけを行い、前年度に比較し団体客が35%増加した。
- ・ 新聞や「東京かわら版」等への広告掲載、NTJメンバー等へのメール発信、ダイレクトメール送付に加え、公演内容に応じて、出演者の出身地の都道府県事務所、出身学校や演目所縁の地域からの情報発信を行った。

#### (能楽堂)

- ・ チラシ、ポスター、ホームページ、広報誌等による通常の広報とともに、公演によっては企画性を周知するため、特別チラシを配布するほか、ホームページにトピックス等を掲載した。
- ・ 座席字幕装置設置を明記した英文チラシを作成し、ホテル・観光情報センター・空港等に配布して海外からの観光客への周知・集客に努め、引き続き広報活動を図った。

#### (文楽劇場)

- ・ マスコミへの積極的な働きかけを実施したほか、文楽協会や大阪市営地下鉄との協力により、壁面広告や大型ポスター、車両内中吊り広告等による公演PRを行った。
- ・ ラジオCMを実施するとともに、在阪ラジオ局への働きかけにより、聴取者プレゼントを組み合わせた公演紹介の放送を行った。

#### (国立劇場おきなわ)

- ・ 各公演演目のゆかりの地の公民館や関係団体等への訪問を強化して集客に努めた。

#### (新国立劇場)

- ・ 演目の制作発表やフォトコール（報道写真撮影会）を行い、積極的な情報提供に努めた。
- ・ 演目別の広報については、プレスリリース、個別インタビュー、稽古場取材の実施など、きめ細かいマスコミ対応により、記事掲載の促進を行った。
- ・ 公演開始後、早い段階から舞台写真や動画等を掲載し、観劇意欲の促進を図った。
- ・ 公演会場ホワイエ内で、ジ・アトレ会報誌の記事やポスターなどを利用して、今後の主催公演に関する情報のパネル掲示を行った他、レパトリー公演のダイジェスト映像やスタッフ、キャストのインタビュー映像を上映し、観客の興味を喚起した。
- ・ オペラ「パルジファル」「さまよえるオランダ人」では飯守芸術監督のピアノ演奏、解説による「音楽講座」の動画などを掲載し、作品への理解を深めるとともに期待感の醸成につなげた。
- ・ バレエ公演終演後に、新国立劇場バレエ団のスペシャル映像や、今後のバレエ公演の予告映像を上映し、迫力ある映像で観客に作品の魅力をアピールした。
- ・ 演劇「十九歳のジェイコブ」においては、作品の舞台である和歌山県の広報協力を得ることができ、アンテナショップでのチラシ配置やホームページへの掲載のほか、県庁からプレスリリースが配信された。
- ・ 現代舞踊「CLOUD/CROWD」や演劇「テンペスト」において、ライブストリーミングサイト「DOMMUNE」にて生放送番組を制作し放映した。出演者や演出家、評論家等によるトークを行い、多くの視聴者を得た。
- ・ オペラ「ドン・ジョヴァンニ」「ドン・カルロ」「さまよえるオランダ人」「マノン・レスコー」等において、インターネットラジオ「OTTAVA」にて特集番組を放送した。制作スタッフのピアノ演奏による解説やトークを行い、多くの視聴者を得た。
- ・ 1月のオペラ「さまよえるオランダ人」と2月のバレエ「ラ・バヤデー」のそれぞれの終演後において各1回、オペラ芸術監督、舞踊芸術監督による次シーズンのラインアップ説明会を実施した。
- ・ 1月以降のオペラ劇場でのオペラ及びバレエ公演において、各作品につき1回、休憩時と終演時に劇場ロビー内にてモバイル端末や無線LANを用いて、次回作品等のチケットを販売した。

- ・ 1月20日からのオペラ及び舞踊のシーズンセット券の発売に合わせ、約2か月間にわたりオペラパレスのロビー内にてセット券の案内カウンターを設け、担当者が申込方法等の問い合わせに対応するなど販売促進にあたった。

## 2. ホームページにおける情報の内容の充実、メールマガジンの配信

### (1) ホームページアクセス件数

日本芸術文化振興会ホームページの年間アクセス件数：2,876,551件（目標2,100,000件）

（内、36,524件が携帯電話からのアクセス）

国立劇場おきなわホームページの年間アクセス件数：373,859件（目標236,000件）

新国立劇場ホームページの年間アクセス件数：4,364,070件（目標3,600,000件）

### (2) ホームページの内容の充実

- ・ 振興会ホームページにおいて歌舞伎公演、文楽公演のあらすじを英語で掲載した。
- ・ 文楽劇場開場30周年記念や3月歌舞伎公演、9月文楽公演など、事業や公演の内容に応じて特設ウェブサイトを開設し、興味喚起を図った。
- ・ 能楽堂の公演情報として、27年1月に27年度の全主催公演の番組を掲載し、団体観劇の受付を開始して、集客を図った。
- ・ 文楽劇場では、11月・初春文楽公演の公演記録映像を活用したダイジェスト版動画による公演PR、文楽劇場独自のコンテンツである「文楽かんげき日誌」の充実等、ホームページの活用による効果的な宣伝及び新しい観客層の開拓を行った。

#### (国立劇場おきなわ)

- ・ 各種事業に関する広報の充実に努め、各種情報の早期掲載及び内容の充実に努め、随時最新の情報を提供した。
- ・ 26年11月、公演案内をはじめとする沖縄伝統芸能などに関する情報の提供、国立劇場おきなわファンとのコミュニケーションを図ることを目的に、国立劇場おきなわ公式Facebookページを開設した。

#### (新国立劇場)

- ・ 英語版WEBボックスオフィスを導入し、合わせてホームページの英文サイトをリニューアルした。
- ・ ホームページの利便性を高めるため、トップページをより見やすいレイアウトにする等のデザイン改修を行った。
- ・ 演目によって特設ウェブサイトを開設し、画像や動画の掲載を更に充実させるとともに、コラムの連載等、より多くの情報発信を行い、一層の興味喚起を図った。
- ・ 新国立劇場バレエ団ページを改修し、ダンサープロフィール等の内容の充実に努めた。
- ・ ホームページやSNS（Facebook、Twitter）を活用し、公演ごとに画像、動画、文章を用いて、過去の公演、リハーサル風景、出演者のインタビューを随時発信し、興味喚起に努めた。
- ・ 動画中継システム（USTREAM）を用いて、トークイベントなどの一般観客向け企画をインターネット上で生中継した。

### (3) メールマガジンの配信

- ・ 国立劇場メールマガジン：毎月2回、主催公演や関連イベント、その他事業等の情報を配信  
27年3月末登録者数：55,291人（対前年度+9,897人）
- ・ 国立劇場おきなわメールマガジン：毎月1回、主催公演や貸劇場公演に関する情報を配信  
27年3月末登録者数：500人（対前年度△5人）
- ・ 新国立劇場eメールClub（メールマガジン）：発売直前に発売情報と観どころ等を、公演直前に舞台稽古の状況等を、公演開始後にお客様の感想等を、ホームページやSNS（Facebook、Twitter）と連動させつつ発信

## 3. 広報誌の発行

以下の広報誌等を作成した。

- ・ 「日本芸術振興会ニュース」（毎月発行）
- ・ 「独立行政法人日本芸術文化振興会概要（日本語）」（26年6月発行）
- ・ 「独立行政法人日本芸術文化振興会概要（英語）」（26年7月発行）
- ・ 「独立行政法人日本芸術文化振興会要覧」（26年8月発行）

- ・ 「独立行政法人日本芸術文化振興会年報 平成 25 年度」(26 年 11 月発行)
- ・ 国立劇場おきなわ情報誌「華風」(毎月発行)
- ・ 「公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団要覧」(26 年 9 月発行)
- ・ 新国立劇場情報誌「ジ・アトレ」(毎月発行)
- ・ 「新国立劇場 2014/2015 シーズンガイド」(26 年 6 月発行)
- ・ 「新国立劇場 平成 25 年度年報」(26 年 10 月発行)

#### 4. シーズンシートやセット券等の販売

- ・ あぜくら会員に対して、各歌舞伎公演の初日から三日目の入場券をセットにした「三日目の会」の入場券の販売を行った。(10 月～1 月の 4 公演分 2,040 枚)
- ・ 入場券のセット購入者に対する割引を公演形態に合わせて実施した。歌舞伎 4 公演特別セット券の販売を限定ステージで行った(10 月～1 月の 4 公演分 352 枚)。また、舞踊や邦楽、能楽等の短期の公演でも、内容の異なる 2 回公演の場合は同時に購入すると割引となるセット割引を行った(5 月企画公演(能楽堂)16 枚、6 月伝統芸能の魅力(雅楽・声明)138 枚、6 月伝統芸能の魅力(舞踊・邦楽)56 枚、6 月邦楽公演42 枚、10 月舞踊公演(文楽劇場)182 枚、11 月舞踊公演 50 枚、11 月民俗芸能公演 212 枚、1 月民俗芸能公演 168 枚、3 月舞踊公演 20 枚)。

##### (新国立劇場)

- ・ 親子を対象とする公演において、親子セットの割引料金を設定して好評を得た。
- ・ オペラ、バレエ、現代舞踊の 2014/2015 シーズンセット券の販売を 26 年 1 月 20 日より継続して行い、2015/2016 シーズンセット券の販売を 27 年 1 月 20 日より行った。
- ・ 演劇公演において、芸術監督が企画するテーマに沿った演目をセットにし「世界を観る…春から夏」(「マニラ瑞穂記」「テンペスト」「十九歳のジェイコブ」「永遠の一瞬 -Time Stands Still-」の 4 公演)、「名作と二人芝居を堪能する～秋から冬～」(「三文オペラ」「プレス・オブ・ライフ～女の肖像～」「ご臨終」「星ノ数ホド」の 4 公演)と題し、特別割引通し券として販売した。

#### 5. 団体観劇の促進、法人会員制度についての検討

##### (1) 団体観劇の促進、旅行代理店・ホテル等との連携強化

- ・ 団体の営業活動として、公演演目に因んだイベントなどを実施したほか、演劇フリーペーパーへの記事広告掲出、外部団体のメールマガジンへの公演情報掲出など、幅広い客層に対して興味を持ってもらえるよう工夫を行った。
- ・ 集客に困難が予想される公演について、観劇団体の幅広いニーズに応える特別価格の「プログラム付きプラン」や付加価値のある「ボックスステージツアー付きプラン」「歌舞伎セミナー付きプラン」などの観劇プランを各種提供して、団体客の増加に努めた。
- ・ 海外からの旅行者の観劇を増やすため、旅行代理店・ホテル等との連携強化を一層すすめた。英文スケジュールチラシのデザインを見直し、外国人に対して訴求力のあるものにして、国立劇場、羽田空港・成田空港・東京都庁各観光案内所(東京観光財団運営)、有楽町 TIC(日本政府観光局運営)、東京駅前 TIC TOKYO(森ビル運営)、東京駅前 KITTE 内観光案内所(日本郵便・JTB 運営)、都内主要ホテルに配布した。
- ・ 東京駅前 KITTE 内観光案内所において、2 月文楽及び 3 月歌舞伎公演の期間中(4 週間)、英文の歌舞伎ポスターを掲示するとともに、チケットの委託販売を行い、国立劇場公演の周知と集客を図った。
- ・ 歌舞伎及び文楽の各国語版リーフレット(英語・フランス語・中国語繁体字・中国語簡体字・韓国語)を増刷し、国立劇場チケット売場に専用ラックを設置したほか、観光案内所等に配布した。
- ・ 国立劇場おきなわでは、県の助成事業を活用した団体送迎バス無料サービスを旅行代理店等に PR することで、団体観劇を促進した。

##### (新国立劇場)

- ・ 都内ホテル、百貨店、高級呉服店、自動車のオーナークラブ、社交クラブ、不動産オーナー及び外部 WEB サイトの会員組織等と連携した観劇プランを実施した。
- ・ 修学旅行誘致及びラインアップ発表のための DM を全国の旅行代理店各支店宛に行った。

##### (2) 法人会員制度についての検討

- ・ 法人を対象とする事前登録制の団体チケット販売システムの運用開始に向けて検討・準備を行った。

## 6. キャンパスメンバーズサービスの提供

- ① 加入校：7 校（東京海洋大学、東京学芸大学、東京藝術大学音楽学部、東京工業大学、獨協大学、日本大学芸術学部、一橋大学）
- ② 利用枚数：197 枚
- ③ 会員限定イベントの実施：5 回実施（参加者数：73 名）  
文楽入門講座（5 月）、新作文楽脚本家トーク（9 月）、舞台見学（12 月）、  
文楽人形遣い芸員レクチャー（2 月）、歌舞伎入門講座（3 月）
- ④ サービスの拡充
  - ・ 対象公演を当初大・小劇場の歌舞伎・文楽の本公演のみとしていたが、大・小劇場の短期公演（4 月～）、演芸場の全公演（11 月～）、能楽堂の定例公演（27 年 4 月～）にも順次拡大
  - ・ 電話予約受付開始（11 月～）
  - ・ 教職員に対してご優待キャンペーンを実施（11 月、12 月、3 月歌舞伎公演）

## 7. おすすめキャンペーンの実施

- ・ 職員のコミュニティー等を活用した「おすすめキャンペーン」については、26 年度は特に集客努力が重要となる 11 月歌舞伎公演と 3 月歌舞伎公演を「実施重点月」に指定して、理事長及び営業部担当理事のリーダーシップの発揮により、各職員に一層の働きかけを行った。（26 年度実績：2,081 枚）

## 《自己点検評価》

---

### ○ 良かった点・特色ある点

- ・ 振興会ホームページにおいて英語による情報を充実させ、外国人利用者の利便性の向上を図った。また、公演の内容を勘案して、新しい観客開拓も含めより多くの人に舞台へ興味を持ってもらえるように、ホームページに特設サイトを開設し、多くのアクセスを得た。
- ・ 振興会ホームページ、国立劇場おきなわホームページへの年間アクセス件数がそれぞれ目標を大きく上回った。
- ・ 「国立劇場キャンパスメンバーズ」制度の運用開始及びサービスの拡充を行った。

### (新国立劇場)

- ・ バレエ公演終演後における予告映像等の上映や、インターネットラジオ「OTTAVA」、ライブストリーミングサイト「DOMMUNE」での番組放映、飯守芸術監督の音楽講座の動画配信等、新たな試みを積極的に実施し、券売に結びつけた。
- ・ 情報発信について、ホームページのデザイン改修、全ジャンルでの Facebook、Twitter の活用等により、これまで以上に多くの情報を随時発信できた。また、SNS（Facebook、Twitter）上で情報が共有、拡散され、大きな宣伝効果を得た。
- ・ ホームページへの年間アクセス件数は目標を大きく上回る 4,364,070 件を達成することが出来た。
- ・ 英文サイトのリニューアルを行い、画像を多用して見やすくしたほか、公演詳細やチケット購入方法、劇場アクセスなど必要な情報がすぐ分かる構成とした。なお、劇場アクセスについては、中国語とドイツ語での案内も開始した。
- ・ 子どものうちに本物の舞台芸術に触れてもらいたいという意図のもと、親子を対象とした公演についてセット券の販売を行った。

### ○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 今後もジャンルや演目の特性を見据え、きめ細かな広報宣伝営業活動を続ける必要がある。

---

## 2-(5)-② 会員組織の運営、会員向けサービスの充実

### 1. あぜくら会

#### (1) 会員向けサービスの充実

- ・ 25 年度に実施したあぜくら会員向けバックステージツアーが好評であったため、26 年度は募集人数を増やし、内容を充実させ、1 日 2 回実施し好評を得た。
- ・ イベントに参加できなかった会員のために、振興会ホームページ上の会員向けページにイベントレポートを掲載し、併せてインターネットを利用しない会員のために、会報にもレポートを掲載した。

- ・ 文楽劇場開場 30 周年記念として、国立文楽劇場友の会とあぜくら会の合同で、会員限定プレゼントとして国立文楽劇場来場記念スタンプ画シール（原画・桐竹勘十郎）を作製し、11月号の会報に同封し全会員に配布した。
  - ・ あぜくら会入会キャンペーンを27年1月～3月末日まで実施し、期間内に入会申込書が届いた新規入会者に特製クリアファイルプレゼントを行った。併せてあぜくら会員による「お友達紹介キャンペーン」も実施し、紹介した会員にも特製クリアファイルプレゼントを行った。
- (2) 会報の発行（計画：毎月発行）
- ・ 「あぜくら」を毎月25日に発行した。（計12回）
- (3) 会員向けイベント（計画：年9回程度）
1. 国立演芸場開場三十五周年記念「五代目柳家小さん名演集と座談会」  
6月27日、演芸場、参加者234人（応募者347人、当選者310人（同伴者含む））  
出演＝三遊亭金馬、柳家小さん、柳家小里ん、太田博  
アンケートの実施：回答数152人（配布数234人、満足回答率79.6%）
  2. 「9月文楽公演 新作文楽スペシャル座談会  
文楽×シェイクスピア！？『不破留寿之太夫』創作の道のり」  
7月9日、本館小劇場、有料、指定席、販売枚数556枚（会員417枚、一般124枚、出演者15枚）  
出演＝鶴澤清治、鶴澤勘十郎、河合祥一郎（東京大学教授）、石井みつる（舞台美術家）、児玉竜一（早稲田大学演劇博物館副館長）  
アンケートの実施：回答数316人（配布数507人、満足回答率90.5%）
  3. 「あぜくら会会員特別バックステージツアー」  
7月27日（2回）、本館大劇場、参加者368人（応募者542人、当選者420人）  
アンケートの実施：回答数355人（配布数368人、満足回答率95.2%）
  4. 「新野の雪祭り」の魅力  
10月2日、伝統芸能情報館レクチャー室、参加者103人（応募者104人、当選者133人（同伴者含む））  
出演＝小川直之（國學院大學教授）  
アンケートの実施：回答数91人（配布数103人、満足回答率95.6%）
  5. 「『通し狂言 伊賀越道中双六』を楽しむために」  
10月21日、演芸場、有料、指定席、販売枚数288枚（会員288枚）  
出演＝対談：中村吉右衛門、小玉祥子（毎日新聞社学芸部編集委員）、鑑賞ガイド：岡野豪  
アンケートの実施：回答数187人（配布数284人、満足回答率82.9%）
  6. 「豊竹咲甫大夫を迎えて」  
12月15日、伝統芸能情報館レクチャー室、参加者137人（応募者314人、当選者169人）  
出演＝豊竹咲甫大夫、亀岡典子（産経新聞大阪本社文化部編集委員）  
アンケートの実施：回答数120人（配布数137人、満足回答率86.6%）
  7. 「『管絃－双調と黄鐘調－』から知る雅楽の世界」  
1月20日、伝統芸能情報館レクチャー室、参加者125人（応募者216人、当選者166人）  
出演＝豊英秋、安齋省吾、大窪永夫  
アンケートの実施：回答数120人（配布数125人、満足回答率86.7%）
  8. 「三味線と絹糸－文楽を支えるものづくり－」  
2月24日、伝統芸能情報館レクチャー室、参加者126人（応募者293人、当選者166人）  
出演＝竹澤宗助、橋本英宗（丸三ハシモト株式会社社長）  
アンケートの実施：回答数106人（配布数126人、満足回答率89.6%）
- (4) アンケート調査
- ・ 「あぜくらの集い」について毎回アンケート調査を行った。（配布数1,884枚、回答数1,447枚）
  - ・ アンケート結果として、「あぜくらの集い」は概ね好評で満足度も高かった。開催日時について、他の公演や催しと重ならないよう希望する意見があった。
- (5) 会員数

在籍者数（対前年度）	目標会員数
17,934人（△1人）	18,000人

## 2. 国立文楽劇場友の会

### (1) 会員向けサービスの充実

- ・ 国立文楽劇場開場 30 周年記念として、国立文楽劇場友の会新規入会キャンペーンを実施。既存会員については、国立劇場あぜくら会と共同制作の国立文楽劇場来場記念スタンプ画シール（原画・桐竹勘十郎）を会員限定でプレゼントした。

### (2) 会報の発行（計画：年 6 回発行）

- ・ 文楽本公演に合わせて年 4 回発行した。

### (3) 会員向けイベント（計画：年 6 回程度）

#### 1. お話「文楽と落語」、対談「夏休み親子劇場の新作文楽について」

6 月 25 日、文楽劇場小ホール、参加者 152 人（応募者 197 人、当選者 170 人）

出演＝小佐田定雄、鶴澤清介

#### 2. お話『「双蝶々曲輪日記」の魅力』、公演記録映像 歌舞伎 通し狂言「双蝶々曲輪日記」、対談「石清水八幡宮の放生会と源義家」

10 月 21 日、文楽劇場小ホール、参加者 140 人（応募者 242 人、当選者 175 人）

出演＝宮辻政夫、西中道

アンケートの実施：回答数 109 人（配布数 140 人、満足回答率 77.1%）

#### 3. 初春文楽公演「冥途の飛脚」ゆかりの地バスツアー

12 月 17 日、奈良県橿原市（新口町善福寺）、桜井市（大神神社、三輪の茶屋跡）、有料参加者 45 人（応募者 90 人、当選者 45 人）

出演＝荻田清

#### 4. 公演記録映像「一谷嫩軍記」熊谷陣屋の段、お話「二代目吉田玉男襲名を控えて」

3 月 25 日、文楽劇場小ホール、参加者 151 人（応募者 404 人、当選者 175 人）

出演＝亀岡典子、吉田玉女

### (4) 会員数

在籍者数（対前年度）	目標会員数
8,148 人（+306 人）	7,700 人

## 3. 国立劇場おきなわ友の会

### (1) 会員向けサービスの充実

- ・ 前年度に引き続き、チケット購入時に押されるスタンプをためて割引券などがもらえるポイントカード制度や、会員対象の講演会・バスツアー・公演後の出演者によるアフタートークを実施した。また、今年度より会員向けに主催公演の先行販売及びキャンセル待ちのサービスを開始した。

### (2) 会報の発行（計画：年 4 回発行）

- ・ 「国立劇場おきなわ友の会会報」を 6、9、12、3 月に発行した（計 4 回）。

### (3) 会員向けイベント（計画：年 3 回程度）

#### 1. 友の会半日バスツアー、研究公演「村々に伝わる組踊」鑑賞

5 月 10 日、朝薫生誕記念碑、万寿寺跡等、有料、参加者 40 人（先着順）

講師＝嘉数道彦

アンケートの実施：回答数 28 人（配布数 40 人、満足回答率 100.0%）

#### 2. アフタートーク（交流会）

7 月 26 日、国立劇場おきなわ大劇場ホワイエ、参加者 38 人（応募者 38 人）

出演＝宮城茂雄

#### 3. 友の会バスツアー「朝薫五番をめぐる旅」

11 月 22 日、屋良ムルチ、勝連城址他、有料、参加者 36 人（先着順）

講師＝垣花武信

アンケートの実施：回答数 30 人（配布数 36 人、満足回答率 96.7%）

#### 4. 友の会新春講演会

1 月 24 日、国立劇場おきなわ大劇場、参加者 75 人（応募者 75 人）

出演＝嘉数道彦

アンケートの実施：回答数 64 人（配布数 75 人、満足回答率 95.3%）

5. 「万歳敵討」アフタートーク

2月28日、国立劇場おきなわ大劇場ホワイエ、参加者43人  
出演＝玉城盛義

(4) アンケート調査

- ・ バスツアー・新春講演会で実施した。満足回答率96.7%。

(5) 会員数

在籍者数（対前年度）	目標会員数
1,952人（△121人）	2,200人

4. 新国立劇場クラブ・ジ・アトレ

(1) 会員向けサービスの充実

- ・ 10%割引価格にて先行販売（郵送申込及びインターネット申込による「会員抽選受付」並びに電話、窓口及びインターネット申込による「先行受付」）を行った。一般発売後は5%割引を実施した。
- ・ シーズンセット券を10%から最大25%の割引価格にて優先的に販売した。また2015/2016シーズンバレエセット券から、主役キャスト決定後に別キャストへの日程変更が可能な、会員限定の「キャストセレクトサービス」を新たに導入した。
- ・ 購入金額に応じて加算されるポイントの数字に応じて、ポイントアップサービスを実施した。具体的には、チケット購入時の優待サービス、各種クーポン、グッズの提供や、ゲネプロ見学や公演への招待を実施した。
- ・ 三井住友カード株式会社との提携による入会・カード利用促進キャンペーン（各イベントへの招待、新国立劇場バレエ団ダンサーサイン入りグッズ贈呈等）を11月から3月にかけて実施し、会員募集に努めた。

(2) 会報の発行（計画：毎月発行）

- ・ 新国立劇場月刊会報誌「ジ・アトレ」を毎月発行した。（計12回）

(3) 会員向けイベント（計画：年11回程度）

- ・ 新制作オペラ、レパートリー作品のバレエにおいて、会員から希望を募り、抽選でゲネプロに招待する見学会を8回（オペラ3演目、バレエ5演目）実施した。
- ・ 2013/2014シーズンオペラお客様と出演者の集い、2013/2014シーズンバレエエンディングパーティーを開催した。
- ・ 入会・カード利用促進キャンペーンの一貫として、特別バックステージツアーを実施した。

(4) サービスに対する意見収集

- ・ 今後の運営に活用するため、公演会場でのアンケートやポイントアップサービス等を通じて、各種サービスに対する会員の興味・関心の把握に努めた。

(5) 会員数

在籍者数（対前年度）	目標会員数
9,668人（+198人）	9,500人

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 国立文楽劇場友の会について、開場30周年ということもあり、入場者数の好調に伴って会員数の大幅な増がみられた。
- ・ 国立劇場おきなわ友の会について、26年度は、半日バスツアーの講師を劇場職員が務めたことで、劇場と観客の距離を縮めることができ、劇場を身近に感じてもらう機会となった。また、26年度より、公演後に開催する出演者によるアフタートークイベントを開始した。演者に直接質問できる機会を設け、参加者からは好評であった。
- ・ 新国立劇場クラブ・ジ・アトレの入会促進キャンペーンにおいては、従来のゲネプロ見学への招待等に加えて、オペラ研修所修了生によるオペラユニット PIVOT! のランチタイムコンサートや、特別バックステージツアー等、イベントを多く盛り込み、内容の充実を図った。
- ・ ジ・アトレ会員数は9,668人となり、目標会員数を達成した。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ あせくら会会員向けイベントについて、出演者の調整がつかず、実施できなかった舞踊公演関連のイベ

ントが1件あり、目標実施回数を達成することができなかった。チケットの販売促進も視野に入れ、できるだけ公演内容に関連したイベントをチケット販売開始前に設定すべく企画してきたが、公演内容の決定時期が遅い場合、公演関連イベントは実施が不可能になることも考えられる。

今まで実施したイベントの中で好評だった「バックステージツアー」や「文楽を支える人々」等、公演内容決定時期と関係なく準備が進められるイベントも年間計画に取り入れていく。

- あぜくら会について、新規入会キャンペーンを実施して会員増を図ったが、会員数の目標を達成することができなかった。会員の動向を分析したところ、会員の平均年齢が年々高くなっており、全退会者のうち、高齢や死亡による退会が多い傾向にある。会員組織の将来を見据え、チケットのプレリザーブ（先行抽選販売）やキャンパスメンバーズとの連携等、若い年齢層の会員の積極的な獲得方法を検討する。
- 国立文楽劇場友の会について、近年高齢化により退会者が増加しているため、新規入会の増加に安心せずサービスの向上に努めて会員を繋ぎ止めたい。また、文楽のみならず、近年増加していると思われる演芸ファンの会員に対するサービスも検討する。
- 国立劇場おきなわ友の会では、年会員の更新率の低さを改善するために、新システムの導入とともに年会費の自動口座引き落としの導入を検討する。
- 新国立劇場では、引き続き、入会キャンペーン等の実施により新規会員の増加を図るとともに、既存会員の方に新国立劇場の大切な固定客として定着いただけるよう、会員向けサービスの一層の充実に努めたい。

## 2-(6) 劇場施設の使用効率の向上等

## 《中期計画の概要》

## 2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

## (7) 劇場施設の使用効率の向上等

## ア 劇場施設の使用効率の向上

伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及等を目的とする事業に対し、劇場施設を貸与

## イ 利用方法、空き日情報等をホームページ等により提供

利用者に対して提供するサービスの向上

## 《年度計画の概要》

## 2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

## (7) 劇場施設の使用効率の向上等

## ア 劇場施設の使用効率の向上

伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及等を目的とする事業に対し、劇場施設を貸与

区分	貸与日数	使用効率
本館大劇場	79日	80%
本館小劇場	146日	76%
演芸場	100日	87%
能楽堂本舞台	180日	70%
文楽劇場	105日	71%
文楽劇場小ホール	120日	66%
国立劇場おきなわ大劇場	74日	42%
国立劇場おきなわ小劇場	99日	55%
新国立劇場オペラ劇場	50日	48%
新国立劇場中劇場	179日	73%
新国立劇場小劇場	106日	73%
(合計)	1,238日	68%

※ 使用効率は、使用可能日数のうち鑑賞機会の提供（主催公演、主催公演関連企画、貸し劇場公演）を行った日数の割合。

## イ 各施設の利用促進を図るため、次の取組を実施

- ① 各施設の設定備等の概要、利用方法及び空き日等の情報をホームページへ掲載
- ② パンフレットやダイレクトメールによる広報
- ③ 利用希望者への説明・見学等
- ④ 利用者に対しアンケート調査を実施、その調査結果を踏まえたサービスの充実
- ⑤ 他の劇場施設等の利用方法、利用料金等の調査、調査結果の検討・活用

## 《主要な業務実績》

## 1. 劇場施設の貸与、使用効率の向上

- ・ 伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及等を目的とする事業に対し、劇場施設を貸与
- ・ 現代舞台芸術分野は貸与日数・使用効率ともに年度計画目標を達成
- ・ 伝統芸能分野も貸与日数・使用効率の目標を概ね達成

## 2. 劇場施設の利用促進を図るための取組

- ・ 施設利用に関する情報を、ホームページ・パンフレット・専門誌等で随時発信
- ・ サービス向上のため、利用者へのアンケートや他劇場調査を実施

## 《業務実績詳細》

## 1. 劇場施設の貸与、使用効率の向上

劇場	貸与日数		使用効率		(参考) 劇場稼働率
	実績	目標	実績	目標	
本館大劇場	88日	79日	81.4%	80%	95.4%

本館小劇場	140日	146日	74.1%	76%	92.0%
演芸場	99日	100日	87.9%	87%	95.2%
能楽堂	173日	180日	64.2%	70%	82.9%
文楽劇場	97日	105日	68.0%	71%	82.5%
文楽劇場小ホール	108日	120日	59.7%	66%	73.8%
小計	705日	730日	73.1%	76%	87.5%
国立劇場おきなわ大劇場	67日	74日	43.6%	42%	80.0%
国立劇場おきなわ小劇場	127日	99日	70.4%	55%	77.9%
小計	194日	173日	55.9%	48%	79.0%
伝統芸能分野 合計	899日	903日	69.6%	70%	85.8%
新国立劇場オペラ劇場	51日	50日	49.3%	48%	99.7%
新国立劇場中劇場	191日	179日	77.6%	73%	98.8%
新国立劇場小劇場	116日	106日	77.8%	73%	97.4%
現代舞台芸術分野 合計	358日	335日	68.8%	65%	98.6%
総合計	1,257日	1,238日	69.4%	68%	89.4%

## 2. 劇場施設の利用促進を図るための取組

### ① ホームページ、パンフレット等による広報、説明会等の実施

- 施設、設備等の概要及び利用手続き方法、空き日情報、貸劇場公演情報等をホームページに掲載した。
- 劇場利用パンフレットを作成して過去の利用者・利用団体・関係団体等に配布・送付した。
- 施設申込受付期間の案内を、過去の劇場利用者へのダイレクトメールや専門誌に掲載して広報を行った。
- 施設申込受付期間や申込方法を、楽屋・稽古場等に掲示して周知を図った。
- 舞台の保守点検日や整備期間の設定について、関係部署と調整しながら貸与希望者の使用希望日に沿うように調整した。

#### (本館)

- 劇場利用パンフレット及び使用申込書を新たに振興会ホームページに掲載し、利用者の利便を図った。
- 小劇場利用希望者に対し、申込受付開始前に、申込手続きについての説明及び施設・設備の見学会を開催し、劇場利用者の増加に努めた。
- 大劇場・小劇場とも、初めての利用者や利用を検討している方からの希望に応じて、随時劇場見学等の案内を行った。

#### (文楽劇場)

- 劇場内にチラシ・ポスターを掲出した。
- 芸術団体が多く来訪する芸術文化振興基金の応募相談会で、受付を出して劇場利用案内を行った。
- 団体営業と連携して観劇団体等へも劇場利用をPRした。

#### (国立劇場おきなわ)

- ホームページやパンフレットによる広報に加えて、国立劇場おきなわ友の会会報誌に貸劇場利用に関する情報を掲載し、一般・会員等への広報宣伝を行った。

#### (新国立劇場)

- 関係団体への郵送やホームページでの公開により使用方法や貸与可能日の状況を広く周知し、利用の促進を図った。
- 劇場カレンダーへの反映、団体ホームページへのリンクの貼付、チラシ画像・座席表の掲載など、利用団体の公演情報について劇場ホームページに掲載する情報をより充実させた。

### ② アンケート調査の実施

(本館・演芸場) 配布数 174 件、回答数 23 件 (回収率 13.2%)、満足回答率 83%

- 「舞台・受付のスタッフが親切」「他の劇場では、舞台・照明・音響のスタッフを主催者自身で手配しなければならないが、国立劇場は安心して任せられるので、非常に助かる」という意見があった。

(能楽堂) 配布数 81 件、回答数 27 件 (回収率 33.3%)、満足回答率 96.3%

- 劇場利用係の対応が良かった、今後も使用したいなど好評の回答を得た。

(文楽劇場) 配布数 120 件、回答数 63 件 (回収率 52.5%)、満足回答率 88.7%  
 (国立劇場おきなわ) 配布数 73 件、回答数 24 件 (回収率 32%)、満足回答率 96%  
 (新国立劇場)

- ・ 施設利用者にアンケート用紙を渡し、ご意見を伺った。施設・スタッフの対応いずれも良好の回答であった。
- ③ 利用方法、利用料金等の検討
  - ・ 他劇場の施設見学・貸館事務手続き、舞台設備使用料 (音響機材料金) 等について調査し、料金改定等について検討を行った。
  - ・ 文楽劇場では、利用申込みの受付開始日を早めて申込みの増加を図った。
  - ・ 国立劇場おきなわでは、講演会や研修等での一般利用について規程を整備した。

《数値目標の達成状況》

【劇場施設の貸与状況】

伝統芸能分野	実績69.6% / 目標70% (達成度99.4%)
現代舞台芸術分野	実績68.8% / 目標65% (達成度105.8%)
合計	実績69.4% / 目標68% (達成度102.1%)

《自己点検評価》

○ 自己評定

・ 項目別評定

伝統芸能分野	現代舞台芸術分野
B	B

(根拠)

(伝統芸能分野)

- ・ 伝統芸能の保存振興等を目的とする事業に対し、劇場施設を積極的に貸与した。
- ・ 各劇場の貸与日数・使用効率は、全体ではほぼ年度計画の目標を達成できた。
- ・ 国立劇場おきなわでは、小劇場の貸与日数は目標を大幅に上回った。使用効率は、大、小劇場ともに目標を上回った。

(現代舞台芸術分野)

- ・ 舞台の安全と公演の質に留意しつつ貸与可能日を確保し、オペラ劇場、中劇場、小劇場とも年度計画の目標を上回る日数を芸術団体等へ貸与することが出来た。

・ 総合評定

B
---

(根拠)

- ・ 全館において貸与日数・使用効率ともに年度計画の目標を上回った。
- ・ 全体で前中期目標期間の実績を上回っており、順調に推移している。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 本館では、28年度の施設使用の申込みを26年12月に受付けた。26年度分より受付期間を従来の2ヶ月間より1ヶ月間に短縮しているが、利用者にも広く浸透してきている。
- ・ 演芸場の施設使用の申込みについては、26年度の使用分より申込み受付開始を早期化しているが、28年度の受付においても、館内に受付案内を置いたり、利用実績のある顧客にDMを送付したりすることで、貸与日数の増加に努めた。
- ・ 本館では、28年度小劇場使用日選定抽選会の会場に施設利用システム搭載のパソコン等を設置し、受付から抽選、施設使用申込書や内定通知書発行まで、短時間で処理することができた。
- ・ 本館・演芸場では、従来紙媒体のみで配布していた劇場利用パンフレット及び使用申込書を振興会ホームページに掲載し、利用者の利便を図った。

(文楽劇場)

- ・ 特に小ホールの利用促進に注力し、劇場内にチラシ・ポスターを掲出した。

- ・ 芸術団体が多く来訪する芸術文化振興基金の応募相談会で劇場利用案内の受付を出し、冊子の配布や相談に応じた。
- ・ 団体営業と連携して観劇団体等へも劇場利用をPRした。

(国立劇場おきなわ)

- ・ ホームページに施設利用案内パンフレットを掲載し、利用希望者の利便性を向上した。

(新国立劇場)

- ・ オペラ劇場、中劇場、小劇場とも、舞台の安全と公演の質に留意しつつ可能な範囲で貸与可能日を確保し、年度計画の目標日数を達成することができた。特に、オペラ劇場においては公演期間中の休演日を連携している芸術大学・音楽大学へ貸与し、教育的見地からも劇場を有効活用することができた。
- ・ 各劇場の主催者控室に新たにネットワーク配線及びネットワーク機器を設置し、利用者の利便性を向上することができた。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 本館小劇場、能楽堂、文楽劇場、文楽劇場小ホールの使用効率が目標に届かなかった。劇場利用について一層周知に努め、利用の増加を図りたい。
- ・ 新国立劇場では、劇場利用については芸術団体への一層の周知に努めるとともに、ホワイエを使用するイベント等についても貸出を行うなど、更に劇場の有効活用を図っていきたい。



I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため  
とるべき措置

伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

## 伝統芸能の伝承者の養成

- 伝統芸能の伝承者の養成 p.110
  - 養成研修の実施 p.117
  - 既成者研修 p.120
  - 実施に当たっての留意事項 p.122

## 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

- 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修 p.125
  - 研修の実施 p.129
  - 実施に当たっての留意事項 p.131



### 3- (1) 伝統芸能の伝承者の養成

#### 《中期計画の概要》

#### 3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

##### (1) 伝統芸能の伝承者の養成

伝統芸能を長期的な視点に立って保存振興し、各分野の伝承者を安定的に確保するため、伝承者の養成を次のとおり実施

ア 国としての支援が必要となる分野に限定し、外部専門家等から、我が国の伝統芸能を保持するために引き続き伝承者を養成する必要があるとの意見が示された、歌舞伎、大衆芸能、能楽、文楽、組踊の各分野について実施

実施に当たっては、各分野の充足状況等を把握するとともに、研修修了後の就業機会確保のための関係団体等との協議、外部専門家等からの伝統芸能の伝承状況等の意見等を踏まえ、養成すべき分野、人数、研修期間等を定めた上で計画的に実施

また、毎年度実施する際は、研修修了生の動向把握等により成果の検証を行い、伝承者の充実のため、対象とする分野、人数等について不断の見直し

イ 伝統芸能の各分野の伝承者について、重要無形文化財保持者等を講師として、実技研修・研修発表会等を中心とする実践的・体系的なカリキュラムにより、中期目標の期間中に次の人数の研修修了を目標とした養成研修を実施

- ① 歌舞伎俳優、音楽伝承者養成：18人程度（研修期間2年間又は3年間）
- ② 大衆芸能伝承者養成：8人程度（研修期間2年間又は3年間）
- ③ 能楽伝承者養成：基礎課程5人程度（研修期間：基礎課程3年間、専門課程3年間）
- ④ 文楽伝承者養成：6人程度（研修期間2年間）
- ⑤ 組踊伝承者養成：18人程度（研修期間3年間）

ウ 研修修了生を中心に伝承者の技芸の向上を図るため、次のとおり既成者研修を実施する。

- ① 既成者研修発表会
  - ・ 歌舞伎俳優既成者研修発表会（年2回程度）
  - ・ 歌舞伎音楽既成者研修発表会（年1回程度）
  - ・ 能楽既成者研修発表会（年3回程度）
  - ・ 文楽既成者研修発表会（年3回程度）
  - ・ 組踊既成者研修発表会（年1回程度）

② 能楽研究課程（1年間）

##### (3) 実施に当たっての留意事項

ア 養成研修事業についての国民の関心を喚起するため、広報活動を充実

イ 研修生等が実演経験を積む機会の充実及び学校等との連携による波及効果の拡大を図るため、児童・生徒等の体験学習や劇場外における様々な文化普及活動へ参画

ウ 伝統芸能の担い手を確保するための効果的かつ効率的な取組について検討

エ 合同講義の実施等、伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の相互交流を実施

オ 国立劇場、新国立劇場等の人材や施設を活用し、公演制作者や舞台技術者等の実地研修等の受入れ、協力

#### 《年度計画の概要》

#### 3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家等その他の関係者の研修

##### (1) 伝統芸能の伝承者の養成

ア 中期計画の方針に従い、次のとおり養成研修を実施

##### ① 歌舞伎俳優・音楽

（歌舞伎俳優）

- (a) 歌舞伎俳優第21期生（研修期間2年、7名）の2年目の養成
- (b) 歌舞伎俳優第22期生の募集

- (歌舞伎音楽)
- (c) 竹本第 21 期生（研修期間 2 年、2 名）の 2 年目の養成
  - (d) 竹本第 22 期生の募集
  - (e) 鳴物第 15 期生の募集
  - (f) 長唄第 6 期生（研修期間 3 年、1 名）の 2 年目の養成
- ② 大衆芸能
- (a) 寄席囃子第 13 期生（研修期間 2 年、6 名）の 1 年目の養成
- ③ 能楽（ワキ・囃子・狂言：研修期間 6 年）
- (a) 第 9 期生（4 名）の 1 年目の養成
- ④ 文楽（大夫、三味線、人形：研修期間 2 年）
- (a) 第 26 期生（3 名）の 2 年目の養成
  - (b) 第 27 期生の募集
- ⑤ 組踊（立方・地方：研修期間 3 年）
- (a) 第 4 期生（10 名）の 1 年目の養成
- イ 研修修了生を中心に伝承者の技芸の向上を図るため、次のとおり既成者研修を実施
- ① 既成者研修発表会
- (a) 歌舞伎俳優既成者研修発表会（2 公演実施）
    - ・ 歌舞伎会・稚魚の会合同公演（本館小劇場）8 月 15 日～18 日、8 回
    - ・ 上方歌舞伎会（文楽劇場）8 月 23 日～24 日、4 回
  - (b) 歌舞伎音楽既成者研修発表会（1 公演実施）
    - ・ 音の会（本館小劇場）8 月 9 日～10 日、2 回
  - (c) 能楽既成者研修発表会（3 公演実施）
    - ・ 若手能（京都：観世会館）6 月 28 日、1 回
    - ・ 若手能（大阪：大槻能楽堂）1 月 31 日、1 回
    - ・ 若手能（東京：能楽堂）2 月 28 日、1 回
  - (d) 文楽既成者研修発表会（4 公演実施）
    - ・ 文楽若手会（文楽劇場）6 月 21 日～22 日、2 回
    - ・ 文楽若手会（本館小劇場）6 月 28 日～29 日、2 回
    - ・ 若手素浄瑠璃の会（文楽劇場小ホール）8 月 29 日、1 回
    - ・ 若手素浄瑠璃の会（文楽劇場小ホール）3 月 6 日、1 回
  - (e) 組踊既成者研修発表会（1 公演実施）
    - ・ 若手伝承者発表会（国立劇場おきなわ大劇場）1 月 31 日、1 回
- ② 能楽研究課程を開講
- ウ 各分野の充足状況等の把握、研修修了後の就業機会確保のための関係団体等との協議、外部専門家等からの伝統芸能の伝承状況等の意見等の聴取により、養成すべき分野、人数、研修期間等を定めた上で計画的に実施
- 研修修了生の動向把握等により成果を検証、対象とする分野、人数等について不断の見直し
- (3) 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修の実施に当たっての留意事項
- ア 養成研修事業についての国民の関心を喚起するため、ホームページ等を活用し、事業の周知を促進  
研修生募集について、様々な広報活動により周知
  - イ 研修生及び研修修了生によるワークショップ等を全国の文化施設、学校等と協力して実施  
外部公演への出演等、文化普及活動への参画
  - ウ 伝統芸能・現代舞台芸術双方の研修生を対象とした特別合同講義を実施
  - エ 国立劇場、新国立劇場等の人材や施設を活用した公演制作者や舞台技術者等の実地研修等の受入れ、協力

《主要な業務実績》

1. 養成研修の実施

- ・ 歌舞伎俳優第 21 期生（研修期間 2 年、7 名）の 2 年目の研修を実施、修了
  - ・ 竹本第 21 期生（研修期間 2 年、1 名）の 2 年目の研修を実施、修了  
（1 名が 7 月に研修を辞退）
  - ・ 長唄第 6 期生（研修期間 3 年、1 名）の 2 年目の研修を実施
  - ・ 寄席囃子第 13 期生（研修期間 2 年、6 名）の 1 年目の研修を実施
  - ・ 能楽第 9 期生（研修期間 6 年、3 名）の 1 年目の研修を実施  
（1 名が 9 月に研修を辞退）
  - ・ 文楽第 26 期生（研修期間 2 年、3 名）の 2 年目の研修を実施、修了
  - ・ 組踊第 4 期生（研修期間 3 年、10 名）の 1 年目の研修を実施
  - ・ 歌舞伎俳優研修あげざらい（2 回）、歌舞伎俳優・歌舞伎音楽（竹本・長唄）・大衆芸能（寄席囃子）  
研修の新人研修発表会（1 回）、能楽研修発表会（3 回）、文楽研修修了発表会（1 回）、組踊研修発表  
会（2 回）を実施
2. 既成者研修
- ・ 歌舞伎俳優既成者研修発表会「稚魚の会・歌舞伎会合同公演」「上方歌舞伎会」を実施
  - ・ 歌舞伎音楽既成者研修発表会「音の会」を実施
  - ・ 能楽既成者研修発表会「若手能（京都公演・大阪公演・東京公演）」を実施
  - ・ 文楽既成者研修発表会「文楽若手会（大阪公演・東京公演）」「若手素浄瑠璃の会（2 公演）」を  
実施
  - ・ 組踊既成者研修発表会「若手伝承者発表会」を実施
  - ・ 能楽研究課程を引き続き開講（受講者 37 名、実施回数 340 回）
3. 実施に当たっての留意事項
- ・ 歌舞伎鑑賞教室、既成者研修発表会及び研修発表会のロビーで養成研修を紹介する DVD を映写し、事  
業を周知
  - ・ 文楽劇場では、各種広告、マスコミ各社に対する文楽研修に関する取材の申し入れ、イベントの開催  
などにより募集情報を周知
  - ・ 研修修了生を中心とした若手能楽師が全国の学校・文化施設等に出向いて行うワークショップ等を 35  
件実施
  - ・ 国立劇場おきなわでは、修了生が県内外において公演を実施したほか、国際交流基金主催の南米公演  
に参加
  - ・ 五館合同特別講義、研修生交流会を開催し、伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の相互交流を実施
  - ・ 歌舞伎鑑賞教室地方公演及び他団体の文楽公演において、職員の派遣、現地の技術者へ協力等を実施
  - ・ 各団体との連携により、舞台技術者を対象とした講座や職員派遣による研修を実施
4. 外部専門家等の意見
- ・ 養成事業委員会を開催し、外部専門家等の意見を聴取して、後の事業運営に活用

《業務実績詳細》

---

1. 養成研修の実施

(1) 養成研修の実施状況

- ・ 歌舞伎俳優（研修期間 2 年）：第 21 期生 7 名の 2 年目の研修を実施し、修了。
- ・ 歌舞伎音楽・竹本（研修期間 2 年）：第 21 期生 1 名の 2 年目の研修を実施し、修了。  
年度当初の 2 名のうち 1 名が 7 月に研修を辞退した。
- ・ 歌舞伎音楽・長唄（研修期間 3 年）：第 6 期生 1 名の 2 年目の研修を実施。
- ・ 寄席囃子（研修期間 2 年）：第 13 期生 6 名の 1 年目の研修を実施。
- ・ 能楽（三役）（研修期間 6 年）：第 9 期生 3 名の 1 年目の研修を実施。  
年度当初の 4 名のうち 1 名が 9 月に研修を辞退した。
- ・ 文楽（三業）（研修期間 2 年）：第 26 期生 3 名の 2 年目の研修を実施し、修了。
- ・ 組踊（研修期間 3 年）：第 4 期生 10 名の 1 年目の研修を実施。

(2) 研修発表会等の実施

- ・ 第 1 回あげざらい（9 月 5 日、本館大稽古場）（一般非公開）  
歌舞伎俳優研修生：歌舞伎「毛抜」（市川團蔵＝指導）
- ・ 第 2 回あげざらい（10 月 20 日、本館大稽古場）（一般非公開）

歌舞伎音楽（竹本）研修生：箏曲「千鳥の曲」（川瀬露秋＝指導）、胡弓「八千代獅子」（高橋翠秋＝指導）

歌舞伎俳優研修生：歌舞伎「修禅寺物語」（澤村田之助、尾上松太郎＝指導）

・ 新人研修発表会（3月19日、本館小劇場）

歌舞伎俳優第21期生・歌舞伎音楽（竹本）第21期生修了発表会、歌舞伎音楽（長唄）第6期生・大衆芸能（寄席囃子）第13期生研修発表会を合同で実施。

・ 青翔会3回（6月9日・10月20日・3月9日、能楽堂）、東西合同研究発表会1回（8月26日、能楽堂）

・ 第26期文楽研修修了発表会（1月28日、文楽劇場）

・ 第4期組踊研修生第1回発表会（10月9日、国立劇場おきなわ大劇場）、第4期組踊研修生第2回発表会（3月5日、国立劇場おきなわ大劇場）

### (3) 適性審査の実施

・ 大衆芸能（寄席囃子）第13期生：受験者6名、合格者6名

・ 能楽（三役）第9期生：受験者3名、合格者3名

・ 組踊第4期生：受験者10名、合格者10名

### (4) 募集・選考の状況

・ 歌舞伎俳優第22期生：受験者12名、合格者10名（合格後辞退者1名）

・ 歌舞伎音楽（竹本）第22期生：受験者3名、合格者3名

・ 歌舞伎音楽（鳴物）第15期生：受験者1名、合格者1名

・ 文楽第27期生：受験者4名、合格者4名

## 2. 既成者研修の実施

### (1) 既成者研修発表会の実施

区分	実績	年度計画	公演名
歌舞伎俳優既成者研修発表会	2公演	2公演	「稚魚の会・歌舞伎会合同公演」「上方歌舞伎会」
歌舞伎音楽既成者研修発表会	1公演	1公演	「音の会」
能楽既成者研修発表会	3公演	3公演	「若手能」（京都公演・大阪公演・東京公演）
文楽既成者研修発表会	4公演	4公演	「文楽若手会」（大阪公演・東京公演）「若手素浄瑠璃の会(2月、3月)」
組踊既成者研修発表会	1公演	1公演	「若手伝承者発表会」

### (2) 能楽研究課程の開講

能楽の既成者研修として引き続き、研修修了生と能楽師子弟を対象に研究課程を開講した。（受講者37名、実施回数340回）

## 3. 伝承者の充実のための、対象とする分野・人数・研修内容等についての見直しに関する取組

・ 各研修コースにおいて、関係団体と協議の上、伝承者の人数、年齢構成、公演の実施状況等を調査し、将来にわたる中長期的予測・展望の下に、外部専門家等の意見を踏まえながら、実施内容の見直しを行っている。

・ 大衆芸能（太神楽）研修については、関係団体と協議した結果、現時点では充足していると考えられるため、第7期生の修了（26年3月）をもって、26年度から当分の間休止することとした。

## 4. 実施に当たっての留意事項

### (1) 広報活動の充実、応募者増加のための活動

（歌舞伎俳優・音楽、大衆芸能）

・ 歌舞伎鑑賞教室、音の会、稚魚の会・歌舞伎会合同公演、研修発表会のロビーで養成研修を紹介するDVDを映写し、事業の周知に努めた。

・ 次期募集のコースを主とした、養成内容を説明する「研修見学会」を3回実施した（参加者延べ100名）。DVDや過去の自主公演の舞台映像も使用して、研修コースの内容や特徴を説明し、応募対象者だけでなく、伝統芸能に関心を持つ参加者にも養成研修の意義・必要性を伝え、事業の普及に努めた。

・ 企業が行う就職説明会に参加し、国立劇場の養成事業についてDVDにてポスター・チラシ等を使用

して紹介した。

- ・ 次期開講予定の研修生募集について、従来のポスター・チラシによる掲出や配布、新聞・雑誌の広告、ホームページなどによる告知に加え、新たに、若者の利用率の高い就職サイトにバナー広告を掲載した（10月15日～1月30日）。

#### （文楽）

- ・ 第27期文楽研修生募集の広報活動として、近畿圏を中心とした学校並びに全国のマスコミや劇場施設等へのダイレクトメール、近畿圏を中心とした地域でのポスターの駅貼り、新聞広告、雑誌広告、文楽劇場外での各種文楽公演・イベント等でのチラシの配布等を実施し、募集情報の周知に努めた。
- ・ 文楽研修に関する取材の申し入れをマスコミ各社に対して行い、新聞1社、TV局1社にて文楽研修が紹介された。
- ・ 文楽研修を中心とした振興会の養成事業に関し、職員によるレクチャー（参加者35名）、文楽芸員による文楽研修見学会（参加者延べ78名）を実施し、文楽研修の広報及び募集情報の周知に努めた。

#### （組踊）

- ・ ホームページに「組踊伝承者養成」のページを設け、研修概要、研修修了生の活動状況等を引き続き掲載し、組踊研修概要リーフレットの活用や研修見学の案内などと併せ、研修事業の広報に努めている。さらに、県内外のテレビ・ラジオ・新聞の取材を可能な限り受け入れ、研修制度について広く宣伝周知した。また、県内小学生の施設見学時には修了生との交流の場を設けるなど、将来の研修生応募に繋がるよう取り組んでいる。

#### （2）研修生の実演機会の充実及び伝統芸能の振興・普及のための活動

- ・ 日本体育大学体操部主催の演技発表会に歌舞伎俳優研修生7名が出演し、「歌舞伎立廻り」を披露した。また、同会場でプログラムに次期研修生募集チラシを挟み込み、研修生募集の告知も行った。
- ・ 能楽研修において20年度から継続している振興・普及活動は、26年度実施分までを合わせて1道1都2府19県に及び、好評を得ている。26年度は研修修了生を中心とした若手能楽師によるワークショップを35件実施した。
- ・ 文楽劇場では、文楽研修イベント「文楽研修 ～これまで、これから～」（参加者70名）を実施し、文楽研修修了者に各研修期間の研修内容を振り返って研修の意義を語ってもらうことにより、養成事業の実績と役割のPRに貢献した。
- ・ 国立劇場おきなわでは、公演の解説役や伝統芸能公開講座（こども琉舞体験教室）の講師などに組踊研修修了生を起用した。劇場外では研修修了生で構成する「子の会」が「組踊等教育普及事業」として県内複数箇所での組踊の学校鑑賞会に出演し、文化普及活動への参画に努めたほか、紀尾井ホールにて行われた東京無形文化祭の関連公演に出演した。さらに、国際交流基金が主催する国立劇場おきなわ琉球芸能南米公演に研修修了生が参加した。

#### （3）伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の相互交流

- ・ 五館合同特別講義、研修生交流会 12月10日  
講師：宮城能鳳（組踊立方、組踊研修主任講師）  
講義内容：「良き舞台人になるために」  
参加者：研修生48名

#### （4）公演制作者・舞台技術者等の研修の受入れ、協力

- ・ 歌舞伎鑑賞教室の地方公演、他団体の文楽公演において、職員の派遣を行い、現地の技術者へ協力等を行った。
- ・ 各団体との連携により、舞台技術者を対象とした講座・職員派遣による研修を実施した。

#### 5. 外部専門家等の意見

- ・ 養成事業委員会を開催し、外部専門家等の意見を聴取して、後の事業運営に活用した。

#### 【特記事項】

- ・ 歌舞伎音楽（鳴物）研修については、23年度から3年間、合格者なし或いは応募者なしのため開講できなかったが、26年度の募集で1名が合格し、27年度に4年振りに開講することとなった。
- ・ 第12期修了（17年3月）以来10年振りの開講となった大衆芸能（寄席囃子）研修については、6名全員が1年目の研修を修了した。

- ・ 国立劇場おきなわにおいて、養成事業委員会を新たに設置し、外部有識者から組踊養成事業についての意見を聴取した。

《自己点検評価》

- 自己評定
- ・ 総合評定

B

(根拠)

- ・ 新人研修、研修発表会及び既成者研修等について、計画どおり実施した。
- ・ 既成者研修発表会の上演成果や意義について、外部専門家から高い評価を得た。
- ・ 歌舞伎俳優研修発表会の入場率が 92.8%、能楽研修発表会が平均 88.0%、能楽既成者研修発表会が平均 102.8%など、会の周知に成功した。
- ・ 公演制作者・舞台技術者等の研修については、国立劇場が蓄積した、伝統芸能を支える舞台技術の人材とノウハウを活かして、講座の開催や職員派遣による研修等の活動を展開できた。

- 良かった点・特色ある点

(歌舞伎俳優・音楽、大衆芸能)

- ・ 3月の新人研修発表会では、難しい演目や演奏に取り組み、各研修生はいずれも予想を上回る到達度を披露することができた。
- ・ 稚魚の会・歌舞伎会合同公演は、普段は脇役に徹している役者たちが大きな役をこなすことで、演目の理解も深まり、今後主役たちを支えるための勉強の場として有意義な会となった。外部専門家からは、「単なる力演に終わらせることなく、各人が工夫を加えての熱演となった。情熱が客席まで伝わって来るようだ。」などとの評価を得た。また「音の会」は、歌舞伎公演に欠くことの出来ない、竹本・鳴物・長唄の研修生の修了後の勉強の発表の場として極めて重要であり、外部専門家からは「長唄の修了生は4人ともすでに一線の演者としての力量が備わって来ているのではないか。」との評価を得た。
- ・ 歌舞伎音楽（竹本）研修生に1名辞退者が出たが、歌舞伎俳優7名、竹本1名の8名が無事研修を修了するとともに、それぞれの所属先が決定し、修業の機会を確保することができた。
- ・ 27年度開講予定の歌舞伎俳優、歌舞伎音楽（竹本）及び（鳴物）については、募集、選考を経ていずれも合格者を得ることができたため、計画どおり開講することができた。

(能楽)

- ・ 計画どおりに能楽研修発表会・能楽既成者研修発表会を実施した。若手能楽師が大役に挑戦し、研鑽の成果を発表する機会を提供した。
- ・ 能楽研修発表会の有料入場率が平均で 88.0%、能楽既成者研修発表会は平均で 102.8%を達成した。

(文楽)

- ・ 文楽研修においては、辞退者を出さず、3名の研修生を修了させることができた。
- ・ 通常の実技研修や講義に加え、公演の演目にゆかりのある地を訪ねる部外研修を積極的に行い、芸能に関する理解を深めさせることができた。
- ・ 20年度（第24期生）より2回行っている募集受付・選考試験を、26年度も引き続き実施した。複数の応募機会を設けることにより、1次募集の2名応募に加え、2次募集でも2名の応募を得ることができた。

(組踊)

- ・ 組踊研修においては、26年度から研修を開始した、高校生2名を含む第4期生10名全員が適性審査に合格した。立方と地方について概ね順調に研修を実施できた。
- ・ 組踊研修修了生が、既成者研修発表会のほか、自主公演や県内離島を含む高等学校等の芸術鑑賞会へ出演し、普及活動を充実させた。また、研修中の第4期生や将来の研修候補生にとっても、具体的な将来像を提示することになり、良い刺激となった。

- 見直し又は改善を要する点

- ・ 発表会の入場者数が伸びなかったものについては、より多くの観客に対して技芸を披露できるよう、出演の既成者とも協力して周知方法などを検討し、集客に努める。
- ・ 応募者の増加を図るため、募集時期の見直し、広報活動や研修見学会の充実等の方策を検討する。
- ・ 文楽研修においては、中期計画達成の見込みは立ったものの、種々の広報施策を実施したにも関わら

ず第 27 期文楽研修生選考試験への応募は 4 名と伸び悩み、問合せも少なかった。社会情勢によるところも大きいと思われるが、応募資格を有するより多くの方々に向けて募集情報を周知するために、状況に応じたより効果的な広報の方法を検討したい。

- 組踊研修では、研修修了生で構成する「子の会」の公演活動が盛んになるに伴って、上演に必要な組踊衣裳、道具等の貸出利用頻度が高くなっていることから、必要な協力体制を充実させていきたい。

3-(1)-① 養成研修の実施

《研修方針》

歌舞伎俳優、歌舞伎音楽（竹本）、歌舞伎音楽（鳴物）、大衆芸能（寄席囃子）研修においては、1年目に基礎研修、2年目には、専門研修と並行して、実践の場においてすぐに役立つ実技研修を実施する。歌舞伎音楽（長唄）においては、1年目に基礎研修、2年目に専門研修を行い、3年目に実践の場においてすぐに役立つ実技研修を実施する。

能楽（三役）研修においては、能楽を長期的な視点に立って保存振興し、各役の伝承者を安定的に確保するため、基礎課程3年、専門課程3年の研修を実施する。

文楽（三業）研修においては、本館、文楽劇場等で開催する文楽公演における大夫・三味線・人形の後継者を育成するため、2年間の基礎的な研修を行う。

組踊研修においては、国立劇場おきなわ等で組踊の保存振興に寄与することを目的とし、将来にわたって継続的に組踊を支えうる、質の高い優れた立方・地方を養成するため、1年目は、組踊実技を中心にして、琉球舞踊・胡弓等の副実技、発声訓練等の基礎実技、詞章研究等の講義等バランスのとれたカリキュラムで基礎的な実力を養う。

《業務実績詳細》

1. 養成研修の実施

区分	研修期間	研修実績	うち 修了者	年度計画	中期計画(25～29年度)		
					修了者累計	目標	
歌舞伎 俳優・音楽	俳優 21期(2年次)	2年	7名	7名	7名	8名	18名 程度
	竹本 21期(2年次)	2年	1名	1名	2名		
	鳴物(休止)	—	—	—	—		
	長唄 6期(2年次)	3年	1名	—	1名		
大衆芸能	太神楽(休止)	—	—	—	2名	2名	8名 程度
	寄席囃子 13期(1年次)	2年	6名	—	6名		
能楽	9期(1年次)	基礎課程3年 専門課程3年	3名	—	4名	1名	基礎課程 5名程度
文楽	26期(2年次)	2年	3名	3名	3名	3名	6名 程度
組踊	4期(1年次)	3年	10名	—	10名	9名	18名 程度

2. 主な授業及び回数

区分	授業内容	
歌舞伎俳優 計 732 回	実技 計 577 回	歌舞伎実技、立廻り・とんぼ、日本舞踊、義太夫、長唄、鳴物、下座音楽、箏曲
	その他 計 155 回	作法・講義、五館合同特別講義、体操、公演・稽古見学、衣裳・化粧・かつら、部外研修、発表会、あげざらい
竹本 計 511 回	実技 計 333 回	義太夫、義太夫三味線、箏曲・胡弓
	その他 計 178 回	作法・講義、五館合同特別講義、体操、公演・稽古見学、部外研修、発表会、あげざらい
長唄 計 596 回	実技 計 468 回	長唄、鳴物
	その他 計 128 回	作法・講義、五館合同特別講義、体操、公演・稽古見学、部外研修、発表会
寄席囃子 計 463 回	実技 計 355 回	寄席囃子、長唄、小唄・俗曲、日本舞踊、鳴物
	その他 計 108 回	作法・講義、五館合同特別講義、体操、稽古見学、部外研修、発表会

能楽 計 468 回	実技 計 416 回	シテ謡、ワキ実技、笛実技、太鼓実技、狂言実技
	その他 計 52 回	講義、五館合同特別講義、公演・稽古見学
文楽 計 771 回	実技 計 121 回	義太夫、義太夫三味線、人形実技
	その他 計 650 回	日本舞踊、狂言・謡、体操、講義、五館合同特別講義、作法、実習、公演・稽古見学、部外研修
組踊 計 465 回	実技 計 432 回	組踊実技、副実技、基礎実技
	その他 計 33 回	講義、五館合同特別講義、鑑賞・見学研修等、その他（発表会等）

### 3. 研修発表会

- ・ 第1回あげざらい（一般非公開）  
9/5、本館大稽古場  
歌舞伎俳優研修生：歌舞伎「毛抜」（市川團藏＝指導）
- ・ 第2回あげざらい（一般非公開）  
10/20、本館大稽古場  
歌舞伎音楽（竹本）研修生：箏曲「千鳥の曲」（川瀬露秋＝指導）、  
胡弓「八千代獅子」（高橋翠秋＝指導）
- ・ 歌舞伎俳優第21期生・竹本第21期生修了発表会、長唄第6期生・大衆芸能（寄席囃子）第13期生  
研修発表会（合同）  
3/19、本館小劇場、入場料：無料、入場者数：491人  
歌舞伎俳優研修生：歌舞伎「双蝶々曲輪日記」八幡の里引窓の場、日本舞踊「元禄花見踊」、立  
廻り「小金吾の立廻り」  
竹本研修生：歌舞伎「双蝶々曲輪日記」八幡の里引窓の場、義太夫「団子売」  
長唄研修生：長唄「鏡獅子 下」、長唄「秋色種」  
寄席囃子研修生：長唄「吾妻八景」、小唄「並木駒形、初出見よとて」他7曲、寄席囃子「太神  
楽曲芸」
- ・ 能楽研修発表会  
第4回青翔会  
6/9、能楽堂、入場料：正面1,500円 脇正面1,000円 中正面700円（学生 脇正面700円 中  
正面500円）、入場者数：552人  
狂言「入間川」、舞囃子「養老」「船弁慶後」、能「羽衣」  
第5回青翔会  
10/20、能楽堂、入場料：正面1,500円 脇正面1,000円 中正面700円（学生 脇正面700円 中  
正面500円）、入場者数：489人  
狂言「地蔵舞」、舞囃子「芦刈」「雲雀山」、能「菊慈童」  
第6回青翔会  
3/9、能楽堂、入場料：正面1,500円 脇正面1,000円 中正面700円（学生 脇正面700円 中  
正面500円）、入場者数：615人  
狂言「仏師」、舞囃子「半蔀」「三輪」、能「田村」  
第45回東西合同研究発表会  
8/26、能楽堂、入場料：無料、入場者数：451人  
舞囃子「龍田」「松虫」、能「箆」、狂言「呼声」、舞囃子「唐船」「忠度」、  
独吟「竹生島」「鶴之段」、舞囃子「葛城」「海士」、能「小鍛冶」
- ・ 第26期文楽研修修了発表会  
1/28、文楽劇場、入場料：無料、入場者数：429人  
大夫・人形専攻：「花競四季寿」より万才

大夫専攻：素浄瑠璃「仮名手本忠臣蔵」殿中刃傷の段

人形専攻：「日吉丸稚桜」駒木山城中の段

- 第4期組踊研修生第1回発表会  
10/9、国立劇場おきなわ大劇場、入場料：無料、入場者数：412人  
組踊「執心鐘入」
- 第4期組踊研修生第2回発表会  
3/5、国立劇場おきなわ大劇場、入場料：無料、入場者数：360人  
組踊「二童敵討」、舞踊「かぎやで風」「かせかけ」「汀間当」

#### 4. 適性審査の実施

コース	試験日	受験者数	合格者数
寄席囃子	9月26日	6名	6名
能楽（三役）	9月29日	3名	3名
組踊（立方・地方）	8月25日	10名	10名

#### 5. 募集・選考の状況、今後の募集に向けた取組・検討

コース	選考日	応募者数	受験者数	合格者数
歌舞伎俳優	2月27日	15名	12名	10名 ※
歌舞伎音楽（竹本）	3月6日	4名	3名	3名
歌舞伎音楽（鳴物）	3月6日	2名	1名	1名
文楽（三業）	10月28日、 3月12日	4名	4名	4名

※歌舞伎俳優研修生の合格者1名が合格発表後辞退し、9名となった。

#### 【特記事項】

- 歌舞伎俳優研修生7名が、本館大劇場の初春歌舞伎公演「南総里見八犬伝」に捕手で出演し、彼らを含めた「『芳流閣』の捕手一同（立廻りに対して）」が国立劇場特別賞を受賞した。
- 第21期歌舞伎俳優研修が、第17期研修修了（16年3月）以来、10年ぶりに研修期間が3年間から2年間になった。
- 大衆芸能（太神楽）研修は、関係団体と協議し、第7期研修修了（26年3月）後、当面休止する。
- 大衆芸能（寄席囃子）研修は、第12期修了（17年3月）後、10年ぶりに開講した。
- 本館の全コースの研修生を引率して、10月28日に両国・深川の史跡を巡る部外研修を実施した。
- 寄席囃子研修生は、11月20日～21日に大阪（文楽劇場「上方演芸特選会」、天満天神繁昌亭「昼席」など）の部外研修を行った。
- 国立劇場おきなわにおいて、養成事業委員会を新たに設置し、外部有識者から組踊養成事業についての意見を聴取した。

#### 《自己点検評価》

##### ○ 良かった点・特色ある点

（歌舞伎俳優・音楽、大衆芸能）

- 歌舞伎俳優研修は、関係団体と協議した結果、歌舞伎俳優の現状に鑑み出来るだけ若い時期に歌舞伎界に入った方が有効との観点から、第21期より研修期間を3年から2年に短縮して実施した。研修生7名は全員が無事研修を修了するとともに、各自入門先が決まって、それぞれの師匠のもとで4月から舞台で活躍することとなった。
- 歌舞伎俳優の研修期間を1年短縮したことでカリキュラムを見直し、前期まで年に1回としていた「あげざらい」を年2回実施することで研修成果の発表の機会を確保して、研修内容の質の維持に努めた。
- 第21期歌舞伎音楽（竹本）修了生1名は、第15期研修修了（11年3月）以来、15年ぶりに三味線弾きとして送り出すことができた。
- 両国・深川の史跡巡り（江戸東京博物館・回向院・吉良邸跡・深川江戸資料館・富岡八幡宮など）は、講師の講義を受けながら、実際の史跡を見、歩くことで芝居の舞台背景を身近に感じる事が出来て有

意義であった。

- ・ 寄席囃子の研修生は、11月の部外研修で、寄席囃子の発祥の地である大阪の芸能を見（文楽劇場上方演芸特選会・11月文楽公演、天満天神繁昌亭昼席）、歴史についての地元講師の講義を受け、上方落語の実演に触れたことで、落語に関わる東西の寄席囃子の違いについて学べて有意義であった。

（能楽）

- ・ 能楽研修発表会は、年間3回で1,656人の有料入場者を数え、入場率の平均は88.0%になった。振興会ホームページに「青翔会」の見どころや解説、出演者の紹介などを掲載し、集客を図った成果と思われる。

（文楽）

- ・ 文楽研修においては、辞退者を出すことなく、3名の研修生を修了させることができた。
- ・ 通常の実技研修や講義に加え、公演の演目にゆかりのある地を訪ねる部外研修を積極的に行い、芸能に関する理解を深めさせることができた。

（組踊）

- ・ 26年度より開始した組踊研修第4期生は、高校生2名を含む10名全員が適性審査に合格し、立方と地方について概ね順調に研修が実施できた。
- ・ 地方の三線において、流派毎の研修講師を設けたことにより、円滑な組踊実技研修の実施が図れた。

#### ○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 歌舞伎音楽（竹本）研修生1名が7月に辞退した。研修内容が充分履修できないことが主な要因であるが、16歳という若い年齢だけに再度の応募も可能と伝えた。若い研修生については積極的にコミュニケーションをとり、早期に問題を取り除くように努めたい。
- ・ 能楽研修では、応募者の増加を図るため、募集時期の見直し、広報活動や研修見学会の充実等の方策を検討する。
- ・ 能楽研修第9期では、1名が選考試験合格後「演劇をやってみたいと思い志望したが、実際に受講して、思い描いていたものと違っていた」などの理由から、適性審査前に辞退してしまった。今後は、事前に応募者への聞き取りを密にするなど改善していきたい。
- ・ 組踊研修第4期生の中には高校生が2名いるので、引き続き保護者とも連携し、円滑な研修が進められるよう、対応を図っていきたい。

---

### 3-(1)-② 既成者研修

《研修方針》

研修修了生の技芸の一層の向上を図るとともに、就業者としての意識の向上を促すため、既成者研修発表会等の公演を行う。さらに、既成者の技芸の向上のため、必要に応じて各種研修を適宜実施する。

#### 1. 発表会

引き続き既成者研修発表会を実施する。

歌舞伎俳優2公演・歌舞伎音楽1公演・能楽3公演・文楽4公演・組踊1公演

#### 2. 能楽の研究課程の開講

能楽の既成者研修として、引き続き、研修修了生と能楽師子弟を対象に研究課程を開講し、研修機会の拡大と伝承者間の交流を図る。

《業務実績詳細》

#### 1. 既成者研修発表会の実施

##### (1) 歌舞伎俳優既成者研修発表会

- ・ 第20回稚魚の会・歌舞伎会合同公演

8/14～18、5日5回、本館小劇場、入場料：4,100円（学生2,900円）、障害者2割引、入場者数：2,423人（入場率92.8%）

「菅原伝授手習鑑」吉田社頭車引の場（中村又五郎＝監修・指導）、佐太村賀の祝の場（中村梅玉・中村魁春＝監修・指導）、芹生の里寺子屋の場（中村吉右衛門・中村魁春・中村又五郎＝監修・指導）

- ・ 第24回上方歌舞伎会

8/23～24、2日4回、文楽劇場、入場料：4,100円（学生2,900円）、入場者数：2,518人（入場率93.0%）

「信州川中島合戦」輝虎配膳の場（片岡我當・片岡秀太郎＝指導）、「義経千本桜」下市村椎の木の場、同 竹藪小金吾討死の場、下市村釣瓶鮎屋の場（片岡仁左衛門・片岡秀太郎＝指導）

(2) 歌舞伎音楽既成者研修発表会

・ 第16回音の会

8/9～10、2日2回、本館小劇場、入場料：2,600円（学生1,800円）、障害者2割引、入場者数：482人（入場率46.2%）

長唄「鶴亀」、歌舞伎「恋飛脚大和往来」新口村の場（片岡仁左衛門・片岡秀太郎＝監修・指導）

(3) 能楽既成者研修発表会

・ 第24回能楽若手研究会：「若手能」京都公演

6/28、1日1回、京都観世会館、入場料：3,100円（当日）、2,600円（前売・一般）、1,500円（学生）、入場者数：510人（入場率107.6%）

能「杜若」、舞囃子「自然居士」「弱法師」「船弁慶」、狂言「鎌腹」、能「阿漕」

・ 第24回能楽若手研究会：「若手能」大阪公演

1/31、1日1回、大槻能楽堂、入場料：3,100円（当日）、2,800円（前売・一般）、1,500円（学生）、入場者数：508人（入場率101.2%）

能「百万」、狂言「附子」、仕舞「嵐山」「雲雀山」「船橋」、能「野守」

・ 第24回能楽若手研究会：「若手能」東京公演

2/28、1日1回、国立能楽堂、入場料：正面3,100円 脇正面2,600円 中正面2,100円（学生 脇正面1,800円 中正面1,500円）

障害者2割引、入場者数：624人（入場率99.5%）

能「敦盛」、狂言「昆布売」、能「葵上」

(4) 文楽既成者研修発表会

・ 第14回文楽若手会

6/21～22、2日2回、文楽劇場、入場料：2,100円（学生1,400円）、入場者数：1,376人（入場率94.1%）

「万才」、「菅原伝授手習鑑」寺入りの段、寺子屋の段、「卅三間堂棟由来」平太郎住家より木遣り音頭の段

・ 第2回文楽若手会

6/28～29、2日2回、本館小劇場、入場料：2,600円（学生1,800円）、入場者数：1,091人（入場率98.6%）

「万才」、「菅原伝授手習鑑」寺入りの段、寺子屋の段、「卅三間堂棟由来」平太郎住家より木遣り音頭の段

・ 若手素浄瑠璃の会

2/6、1日1回、文楽劇場小ホール、入場料：1,000円（学生700円）、入場者数：149人（入場率93.7%）

「一谷嫩軍記」組討の段、「摂州合邦辻」合邦庵室の段

・ 若手素浄瑠璃の会

3/6、1日1回、文楽劇場小ホール、入場料：1,000円（学生700円）、入場者数：156人（入場率98.1%）

「菅原伝授手習鑑」天拝山の段、「妹背山婦女庭訓」金殿の段

(5) 組踊既成者研修発表会

・ 第4回若手伝承者発表会

1/31、1日1回、国立劇場おきなわ大劇場、入場料：2,100円（学生1,000円）、入場者数：286名（入場率49.5%）

組踊「孝行の巻」、琉球舞踊「かぎやで風」「女こてい節」「高平良万歳」「久志の若按司道行口説」、斉唱「宮城こはでさ節」

2. 能楽研究課程の開講

能楽の既成者研修として、引き続き、研修修了生と能楽師子弟を対象に研究課程を開講し、研究生37

名が受講した（実施回数：340回）。

本課程では、若手能楽師が専門以外の副科（シテ謡・笛・小鼓・大鼓・太鼓）を受講し、他役・他流との交流を経験し研鑽を積んだ。

#### 《自己点検評価》

##### ○ 良かった点・特色ある点

- ・ 既成者研修については、既成者研修発表会など計画どおり実施した。特に第20回稚魚の会・歌舞伎会合同公演では、入場者数2,423人（入場率92.8%）と多くの集客を記録した。また、普段は脇役に徹している役者たちが大きな役をこなすことで、演目の理解も深まり、今後主役たちを支えるための勉強の場として有意義な会となった。外部専門家からは、「単なる力演に終わらせることなく、各人が工夫を加えての熟演となった。情熱が客席まで伝わって来るようだ。」などとの評価を得た。
- ・ 「第24回上方歌舞伎会」出演者一同が、その舞台成果により大阪府、大阪市及び公益財団法人関西・大阪21世紀協会が共同で実施している「平成26年度大阪文化祭賞」の奨励賞を受賞した。
- ・ 「音の会」では、入場者数が482人（入場率46.2%）にとどまったものの、歌舞伎公演に欠くことの出来ない、竹本・鳴物・長唄の研修生の修了後の勉強の発表の場として極めて重要であり、外部専門家からは「長唄の修了生は4人ともすでに一線の演者としての力量が備わって来ているのではないか。」との評価を得た。
- ・ 若手能（京都・大阪・東京）では、若手能楽師が大曲に挑戦し、日頃の研鑽の成果を発揮した。また3公演とも99%以上の入場率を得た。
- ・ 組踊既成者研修発表会では第3期修了生も加わり、実演者層の厚みを感じさせる公演が実施できた。

##### ○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 「音の会」等発表会の入場者数が伸びなかったものは、より多くの観客に対して技芸を披露できるよう、出演の既成者とも協力して周知方法などを検討し、集客に努める。
- ・ 組踊既成者研修発表会の入場率が低かったため、今後、発表会名称を集客効果のあるものへ変更することも検討していく。

### 3-(1)-③ 実施に当たっての留意事項

#### 《業務実績詳細》

##### 1. 広報活動の充実、応募者増加のための活動

(歌舞伎俳優・音楽、大衆芸能)

- ・ 歌舞伎鑑賞教室、音の会、稚魚の会・歌舞伎会合同公演、研修発表会のロビーで養成研修を紹介するDVDを映写し、事業の周知に努めた。
- ・ 次期募集のコースを主とした、養成内容を説明する「研修見学会」を3回実施した。(11月22日 参加者：27人、12月21日：27人、1月25日：46人)
- ・ 企業が行う就職説明会に参加し、国立劇場の養成事業についてDVD等を使用して紹介した。(9月26日東京ダンス&アクターズ専門学校、12月17日・18日新宿エルタワー30階サンスカイルーム)
- ・ 次期開講予定の研修生募集については、従来のポスター・チラシによる掲出や配布、新聞・雑誌の広告、ホームページなどによる告知に加え、新たに、若者の利用率の高い就職サイトにバナー広告を掲載した。(10月15日～1月30日)

(能楽)

- ・ 振興会ホームページの活用とともに、「体験教室」等で小・中・高校を廻り地道に広報を続けている。
- ・ 応募者の増加を図るため、募集時期の見直し、広報活動や研修見学会の充実等の方策を検討する。

(文楽)

- ・ 第27期文楽研修生募集の広報活動として、近畿圏を中心とした学校並びに全国のマスコミや劇場施設等へのダイレクトメール、近畿圏を中心とした地域でのポスターの駅貼り、新聞広告、雑誌広告、文楽劇場外での各種文楽公演・イベント等でのチラシの配布等を実施し、募集情報の周知に努めた。
- ・ 文楽研修に関する取材の申し入れをマスコミ各社に対して行い、新聞1社（読売新聞、8月11日夕刊）、TV局1社（毎日放送、1月27日放映「VOICE」）にて、文楽研修が紹介された。
- ・ 文楽研修を中心とした振興会の養成事業に関し、職員によるレクチャー（6月25日、大阪府立東住吉

高等学校、参加者 35 名)、文楽技芸員による文楽研修見学会(11月8日・23日、文楽劇場研修室、参加者延べ78名)を実施し、文楽研修の広報及び募集情報の周知に努めた。

- ・ 文楽研修のPRビデオを製作するための映像素材の収録を、前年度に引き続き実施した。

(組踊)

- ・ ホームページに「組踊伝承者養成」のページを設け、研修概要、研修修了生の活動状況等を引き続き掲載し、組踊研修概要リーフレットの活用や研修見学の案内などと併せ、研修事業の広報に努めている。さらに、県内外のテレビ・ラジオ・新聞の取材を可能な限り受け入れ、研修制度について広く宣伝周知した。また、県内小学生の施設見学時には修了生との交流の場を設けるなど、将来の研修生応募に繋がるよう取り組んでいる。
- ・ 組踊研修を題材としたドキュメンタリー番組の制作に協力し、研修事業について広く周知した。(NHK沖縄、10月17日放映「沖縄の歌と踊り」)

## 2. 研修生の実演機会の充実及び伝統芸能の振興・普及のための活動

- ・ 日本体育大学体操部主催の第46回演技発表会(12月14日、国立代々木競技場第2体育館)に歌舞伎俳優研修生7名が出演し、「歌舞伎立廻り」を披露した。また、同会場でポスター・チラシにより研修生募集の告知も行った。
- ・ 能楽堂において20年度から継続している振興・普及活動は、26年度実施分までを合わせて1道1都2府19県に及び、好評を得た。26年度は以下のとおり研修修了生を中心とした若手能楽師によるワークショップを35件実施した。
  - ① 「届けます。体験教室」25件  
全国の小中学校・高校へ出向いて、学生・生徒を対象とするもの。
  - ② 「楽しもう!能と狂言」7件  
全国の文化施設・ホール等と連携して、主に大人を対象とするもの。
  - ③ 「楽しもう!能の世界」3件  
国立能楽堂の研修能舞台で、自主公演の鑑賞とセットで、または能楽器の連続講座を有料で行うもの。
- ・ 文楽劇場では、文楽研修イベント「文楽研修 ～これまで、これから～」(11月28日、文楽劇場エントランスホール特設ステージ、登壇者:文楽技芸員(文楽研修修了者)及び第26期文楽研修生、参加者70名)を実施し、文楽研修修了者に各研修期間の研修内容を振り返って研修の意義を語ってもらうことにより、養成事業の実績と役割のPRに大いに貢献した。
- ・ 国立劇場おきなわでは、「社会人のための組踊鑑賞教室『雪払い』」(6月28日)や「生徒のための組踊鑑賞教室『執心鐘入』」(10月16・17日)に研修修了生を起用した。また、国立劇場おきなわ自主公演への出演のみならず、普及公演での解説役や伝統芸能公開講座(こども琉舞体験教室)の講師など幅広い活躍の場を提供している。劇場外でも、研修修了生で構成する「子の会」が「組踊等教育普及事業」として久米島高校、与那国小中学校など県内離島5か所での組踊の学校鑑賞会(12月12日~2月19日)に出演し、文化普及活動への参画に努めた。県外においても、紀尾井ホールで行われた東京無形文化祭の関連公演(7月29日)で「執心鐘入」を上演した。また、国際交流基金が主催した国立劇場おきなわ琉球芸能南米公演(8月20~29日)に研修修了生が参加するなど、国内外で活発な活動を展開した。

## 3. 伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の相互交流

幅広い分野で養成・研修事業を実施している振興会の特長を生かし、各分野の研修生が一堂に会して一流の舞台芸術家から舞台に対する心構えを学ぶとともに、伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の相互交流を図った。

- ・ 五館合同特別講義、研修生交流会  
12月10日16:00~18:30  
講義:伝統芸能情報館レクチャー室(3階)、交流会:向日葵(本館大劇場3階)  
講師:宮城能鳳(組踊立方、組踊研修主任講師)  
講義内容:「良き舞台人になるために」  
参加者:研修生48名(歌舞伎俳優7名、竹本2名、長唄1名、寄席囃子6名、能楽3名、文楽1名、組踊10名、オペラ5名、バレエ5名、演劇8名)

#### 4. 公演制作者・舞台技術者等の研修の受入れ、協力

- ・ 歌舞伎鑑賞教室の地方公演や他団体の文楽公演において、職員の派遣を行い、現地の技術者へ協力等を行った。
- ・ 公益社団法人全国公立文化施設協会との共催により、劇場・音楽堂等に勤務する職員を主な対象に、基礎的能力の養成を行う講座を本館大・小劇場で実施した。(1月14日～15日、受講者75名)
- ・ 公益社団法人全国公立文化施設協会の依頼により、島根県出雲市に職員2名を派遣し、伝統芸能を支える舞台技術に関する研修を実施した。
- ・ 公益社団法人日本芸能実演家団体協議会の依頼により、沖縄県の観光事業従事者1名の研修を受け入れ、公演営業・宣伝、観客サービス業務の実務研修を実施した。(1月13日～3月20日 ※2月19日～25日を除く)

#### 【特記事項】

- ・ 次期開講の研修生募集にあたり、初めてインターネットを利用してバナー広告を行った結果、振興会のホームページの研修生募集画面は掲載期間中に約27,000件のアクセス数を得た。

#### 《自己点検評価》

---

##### ○ 良かった点・特色ある点

- ・ 研修見学会では、DVDや過去の自主公演の舞台映像も使用して、それぞれの研修コースの内容や特徴を説明した。また、入所後の不安を解消するため、研修内容や修了後の就業及び宿舎の入居方法の説明も行った。
- ・ 次期開講の歌舞伎俳優、歌舞伎音楽(竹本)の地方出身の研修生計5名から振興会宿舎への入居希望があった。全員分の宿舎の確保ができ、研修生の経済的負担の軽減を図ることができた。
- ・ 文楽研修の募集においては、20年度(第24期生)より2回行っている募集受付・選考試験を、26年度も引き続き実施した。複数の応募機会を設けることにより、1次募集の2名応募に加え、2次募集でも2名の応募を得ることができ、中期計画達成の見込みが立った。
- ・ 文楽劇場では、文楽研修見学会や文楽研修イベントの実施、文楽研修に関する新聞・TVでの取り扱い、その他各種広報活動を通じて、養成事業及び文楽研修生募集情報について、広く一般の方々への周知に努めた。
- ・ 組踊研修の広報活動について、沖縄県や教育機関等へ働きかけを行ったほか、第4期生や既成者研修発表会の新聞取材を可能な限り受け入れ、発表会の告知と組踊研修事業を広く周知した。
- ・ 組踊研修がNHK沖縄のドキュメンタリー番組に取り上げられ、研修事業について広く周知することができた。また、組踊研修発表会について広報することができた。
- ・ 国立劇場おきなわホームページでは、組踊研修修了生による学校公演や研修生の活動等の写真を掲載し、充実した広報ができた。
- ・ 公益社団法人全国公立文化施設協会の依頼により、伝統芸能を支える舞台技術に関する研修のための職員派遣を初めて実施した。

##### ○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 本館で新たに実施したバナー広告については、数多くの訪問数を得て養成研修事業の周知に成果をあげたが、結果として応募者増につながらなかった。インターネットを利用した募集告知については、実施方法を工夫しながら継続して実施することとしたい。
- ・ 文楽研修では、種々の広報施策を実施したにも関わらず、応募が伸び悩んだ。社会情勢によるところも大きいと思われるが、応募資格を有するより多くの方々に向けて募集情報を周知するために、状況に応じたより効果的な広報の方法を検討したい。

### 3- (2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

#### 《中期計画の概要》

#### 3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

##### (2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

高い技術と豊かな芸術性を備えた実演家等を育成するため、実演家等の研修を次のとおり実施

ア 実演家等の研修実施に当たっては、民間団体の役割を踏まえつつ、グローバルな視点に立った体系的なカリキュラム等により、安定的、継続的に実演家の育成を行うよう留意

また、実施する際は、外部専門家等の意見を聴取し、成果の検証を行い、成果が不十分なものについては廃止を含め、長期的視点を踏まえて対象とする分野、人数などについて不断の見直し

イ オペラ研修及びバレエ研修については、国際的な活躍が期待できる水準の実演家を育成することを目標とし、演劇研修については、確かな演技力等を備えた次代の演劇を担う実演家を育成することを目標として、第一線で活躍する各分野の専門家等を講師として、実践的・体系的なカリキュラムにより、中期目標の期間中に次の人数の研修修了を目途とした研修を実施

① オペラ研修：25人程度（研修期間3年間）

② バレエ研修：30人程度（研修期間2年間）

③ 演劇研修：60人程度（研修期間3年間）

##### (3) 実施に当たっての留意事項

ア 養成研修事業についての国民の関心を喚起するため、広報活動を充実

イ 研修生等が実演経験を積む機会の充実及び学校等との連携による波及効果の拡大を図るため、児童・生徒等の体験学習や劇場外における様々な文化普及活動へ参画

エ 合同講義の実施等、伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の相互交流を実施

オ 国立劇場、新国立劇場等の人材や施設を活用し、公演制作者や舞台技術者等の実地研修等の受入れ、協力

#### 《年度計画の概要》

#### (2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

ア 中期計画の方針に従い、次のとおり研修を実施

##### ① オペラ研修（研修期間3年）

(a) 第15期生（5名）の3年目の研修（修了）

(b) 第16期生（5名）の2年目の研修

(c) 第17期生（5名）の1年目の研修

(d) 第18期生（5名程度）の募集

(e) 研修発表会等（3公演実施）

- ・ 試演会（新国立劇場中劇場）8月2日～3日、2回
- ・ 研修所公演（新国立劇場小劇場）2月20日～22日、3回
- ・ 歌唱コンサート（新国立劇場中劇場を予定）冬季、1回

(f) 海外研修の実施（9月）

##### ② バレエ研修（研修期間2年）

(a) 第10期生（6名）の2年目の研修（修了）

(b) 第11期生（5名）の1年目の研修

(c) 第12期生（6名程度）の募集

(d) バレエ予科生について、次のとおり研修及び募集を実施

- ・ 第5期生（3名）の2年目の研修
- ・ 第6期生（3名）の1年目の研修
- ・ 第7期生（若干名）の募集

(e) 研修発表会等（3公演実施）

- ・ 発表公演（新国立劇場中劇場）10月4日～5日、2回
- ・ 修了公演（新国立劇場中劇場）2月28日～3月1日、2回
- ・ 「バレエ・アステラス★2014」（新国立劇場オペラ劇場）7月20日、1回

### ③ 演劇研修（研修期間3年）

- (a) 第8期生（9名）の3年目の研修（修了）
- (b) 第9期生（9名）の2年目の研修
- (c) 第10期生（12名）の1年目の研修
- (d) 第11期生（12名程度）の募集
- (e) 研修発表会等（3公演実施）
  - ・ 試演会（新国立劇場小劇場）9月6日～10日、5回（予定）
  - ・ 修了公演（新国立劇場小劇場）3月5日～8日、5回（予定）
  - ・ 朗読劇「少年口伝隊一九四五」（会場未定）日程未定、回数未定

イ グローバルな視点に立った体系的なカリキュラム等により、安定的、継続的に実演家の育成を実施  
外部専門家等の意見の聴取、成果の検証により、長期的視点を踏まえて対象とする分野、人数などについて不断の見直し

### (3) 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修の実施に当たっての留意事項

- ア 養成研修事業についての国民の関心を喚起するため、ホームページ等を活用し、事業の周知を促進  
研修生募集について、様々な広報活動により周知
- イ 研修生及び研修修了生によるワークショップ等を全国の文化施設、学校等と協力して実施  
外部公演への出演等、文化普及活動への参画
- ウ 伝統芸能・現代舞台芸術双方の研修生を対象とした特別合同講義を実施
- エ 国立劇場、新国立劇場等の人材や施設を活用した公演制作者や舞台技術者等の実地研修等の受入れ、協力

## 《主要な業務実績》

---

### 1. 研修の実施

- ・ オペラ研修生 15 名、バレエ研修生 11 名、バレエ予科生 5 名、演劇研修生 26 名の研修を実施  
うち、オペラ研修生 5 名、バレエ研修生 6 名、バレエ予科生 3 名、演劇研修生 9 名が修了  
（演劇研修第 10 期で 4 名が退所）
- ・ オペラ研修所 3 回、バレエ研修所 3 回、演劇研修所 5 回の研修発表会等を実施
- ・ 各研修所において次年度入所の研修生の募集・選考を実施
- ・ オペラ研修所において海外研修を引き続き実施
- ・ 研修事業委員会を開催し、成果の検証や今後の方向性を検討

### 2. 実施に当たっての留意事項

- ・ ホームページや Facebook 等を活用し、研修の実施状況、修了生の活動状況等の詳細な情報を随時発信
- ・ バレエ研修生がバレエ研修所レッスン見学会に出演
- ・ 五館合同特別講義、研修生交流会を開催し、伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の相互交流を実施
- ・ 舞台技術者、インターン等の受入れを行うとともに、芸術団体や公立文化施設、提携大学と連携して新国立劇場の人材及び施設を活用

## 《業務実績詳細》

---

### 1. 研修の実施

#### (1) 研修の実施状況

オペラ研修（研修期間 2 年）：第 15 期生 5 名の 3 年目の研修を実施し、修了。

第 16 期生 5 名の 2 年目の研修を実施。

第 17 期生 5 名の 1 年目の研修を実施。

バレエ研修（研修期間 2 年）：第 10 期生 6 名の 2 年目の研修を実施し、修了。

第 11 期生 5 名の 1 年目の研修を実施。

予科第 5 期生 3 名の 2 年目の研修を実施し、修了。

予科第 6 期生 2 名の 1 年目の研修を実施。

演劇研修（研修期間 3 年）：第 8 期生 9 名の 3 年目の研修を実施し、修了。

第 9 期生 9 名の 2 年目の研修を実施。

第 10 期生 8 名の 1 年目の研修を実施。（4 名が退所）

#### (2) 研修発表会等の実施

オペラ：3 回（8 月試演会、12 月歌唱コンサート、2 月研修所公演）

バレエ：3 回（7 月バレエ・アステラス★2014、10 月第 10 期生・第 11 期生発表公演、3 月修了公演）

演劇：5 回（第 8 期生試演会、朗読劇公演、リーディング公演、修了公演①、修了公演②）

(3) 募集・選考の状況

- ・ オペラ第 18 期生：応募者 62 名、合格者 5 名
- ・ バレエ第 12 期生：応募者 33 名、合格者 6 名
- ・ バレエ予科第 7 期生：応募者 20 名、合格者 5 名
- ・ 演劇第 11 期生：応募者 106 名、合格者 14 名

(4) 海外研修の実施

オペラ研修所において、第 16 期生が海外研修を行った。

2. 長期的視点を踏まえた対象とする分野・人数・研修内容等についての見直しに関する取組

- ・ 研修事業委員会を 2 回開催し、成果の検証や今後の方向性の検討を行った。
- ・ 研修事業委員に授業、公演の視察を依頼し、レポートにて意見を聴取した。
- ・ 演劇研修所において、研修内容及び奨学金支給方法等の見直しの検討を行った。
- ・ 各研修所において定期的に講師会等を開催し、研修内容や今後の方向性について話し合いを行った。

3. 実施に当たっての留意事項

(1) 広報活動の充実

- ・ ホームページや Facebook を活用し、研修の実施状況、研修公演の稽古、公演の様子などを随時発信した。
- ・ 修了生の活動状況を定期的に把握し、その成果をホームページに掲載するとともに研修公演会場におけるパネル展示等で紹介した。
- ・ 研修所の存在及び研修内容を広く周知し、将来的に優秀な研修生の確保に資することを目的として、バレエ研修所では 8 月に夏季特別講習会、演劇研修所では 11 月にオープンスクール、12 月に説明会を開催した。

(2) 研修生の実演機会の充実及び現代舞台芸術の振興・普及のための活動

- ・ バレエ研修生がバレエ研修所レッスン見学会に出演した。（協力：J.P. モルガン）

(3) 伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の相互交流

- ・ 五館合同特別講義、研修生交流会 12 月 10 日  
講師：宮城能鳳（組踊立方、組踊研修主任講師）  
講義内容：「良き舞台人になるために」  
参加者：研修生 48 名

(4) 公演制作者・舞台技術者等の研修の受入れ、協力

- ・ 舞台技術者、インターン等の受入れを行うとともに、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会や公益社団法人全国公立文化施設協会、劇場・音楽堂等連絡協議会、公共劇場舞台技術者連絡会、公益社団法人日本照明家協会等と連携してフォーラム等を開催したほか、地域の公立文化施設で開催された技術職員研修会等への講師の派遣、提携大学の学生に向けた講義等、新国立劇場の人材及び施設を活用した取組を行った。

《自己点検評価》

○ 自己評定

・ 総合評定

B

(根拠)

- ・ オペラ研修生 5 名、バレエ研修生 6 名、演劇研修生 9 名が修了し、年度計画における目標を達成した。
- ・ 研修発表会等について、計画どおり実施した。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 第一線で活躍する講師陣のもと、実践的・体系的なカリキュラムによって研修を実施した。その成果は、発表会、試演会、研修公演等で広く示され、観客及び専門家から高い評価を得ることができた。
- ・ 今年度から開始された研修事業委員会では、外部専門家である研修事業委員と各研修所所長が研修所の現状を確認し、今後のよりよい研修所の環境、研修内容のために意見を交わし、今後の方向性の検討を行うことができた。
- ・ 研修事業について、ホームページや Facebook を活用した多様な広報活動により広く関心を喚起するとともに、修了生については、最新の活動状況のホームページ掲載、研修公演会場におけるパネル展示等により、その成果の周知を図ることができた。

- ・ 演劇研修の現状を踏まえ、募集人数の弾力化、進級審査の導入、奨学金支給方法の変更等の見直しを検討した。また、今年度の入所試験では受験者のレベルが高かったこともあり、14名を合格者とした。さらに、今年度は第8期生の研修公演を小劇場だけでなくリハーサル室も使用して5公演実施し、より実践的な舞台実習を行うことができた。
- 見直し又は改善を要する点
  - ・ 研修事業への各方面からの大きな期待に応えるべく、研修内容、研修事業の在り方や展望については、引き続き研修事業委員会や講師会等において検討を重ねていく必要がある。
  - ・ 研修施設等については、関係各所と相談し、引き続き見直しを検討していきたい。

## 3-(2)-① 研修の実施

## 《研修方針》

オペラ研修所では、プロのオペラ歌手としての舞台活動を目指している人のために、国際的なレベルの研修を行うことを目的として3年制の研修を行う。各種音楽レッスンを行う他、語学、演技、発声法等、オペラ歌手として必要な技能を総合的に研修する。また、コンサート、試演会、研修所公演等聴衆を意識した演奏や舞台経験を積み、新国立劇場主催公演への出演をはじめ、海外歌劇場の舞台に立てる人材育成を目指す。

バレエ研修所ではプロのダンサーを目指す者のために、ダンサーとして必要な技能の研鑽、知識と教養の付与及び舞台実習を行うことを目的として、2年制の研修を行う。また、予科生を募集し、資質や将来性ある若年層に、心身の柔軟な時期に古典バレエの基礎的技術を徹底して習得する機会を提供する。

演劇研修所は、明晰な日本語を使いこなし、柔軟で強度のある精神と身体を備えた次世代の演劇界を担える人材の育成を目的として、3年制の研修を行う。1、2年次は基礎的俳優訓練とともに、第一線の演出家や俳優指導の専門家を中心とする講師陣によるシーンスタディを展開し、3年次には修了公演に向けて数本の舞台実習公演を行う。

## 《業務実績詳細》

## 1. 研修の実施

区分	研修期間	研修実績	うち修了者	年度計画	中期計画(25～29年度)		
					修了者累計	目標	
オペラ	15期(3年次)	3年	5名	5名	5名	10名	25名程度
	16期(2年次)	3年	5名	—	5名		
	17期(1年次)	3年	5名	—	5名		
バレエ	10期(2年次)	2年	6名	6名	6名	12名	30名程度
	11期(1年次)	2年	5名	—	5名		
バレエ予科	5期(2年次)	2年	3名	3名	3名	5名	—
	6期(1年次)	2年	2名	—	3名		
演劇	8期(3年次)	3年	9名	9名	9名	20名	60名程度
	9期(2年次)	3年	9名	—	9名		
	10期(1年次)	3年	8名	—	12名		

## 2. 主な授業及び回数

区分	授業内容		
オペラ	実技	第15期 計705回 第16期 計697回 第17期 計696回	オペラ実習、身体表現
	座学	第15期 計132回 第16期 計124回 第17期 計125回	特別講義(サロン)、五館合同特別講義、語学(英・独・伊)
	その他	第15期 計33回 第16期 計33回 第17期 計34回	舞台実習他
バレエ	実技	第10期 計503回 第11期 計504回	クラシック・バレエ、身体表現他
	座学	第10期 計59回 第11期 計60回	特別講義(サロン)、五館合同特別講義、語学(英)他
	その他	第10期 計10回 第11期 計12回	舞台実習他
バレエ予科	実技	第5期 計453回 第6期 計452回	クラシック・バレエ、身体表現他

	座学	第5期 計47回 第6期 計48回	特別講義（サロン）、語学（英）他
	その他	第5期 計11回 第6期 計11回	舞台実習他
演劇	実技	第8期 計144回 第9期 計368回 第10期 計421回	演劇実習他
	座学	第8期 計2回 第9期 計8回 第10期 計17回	講義、特別講義（サロン）、五館合同特別講義
	その他	第8期 計41回 第9期 計136回 第10期 計99回	観劇他

### 3. 研修発表会等

#### (1) 研修公演

##### (オペラ研修)

- ・ オペラ試演会「ラ・ボエーム／秘密の結婚」  
8/2～3、2回、小劇場、入場者数：477人（入場率76.1%）
- ・ 「NNTT Young Opera Singers Tomorrow 2014」  
12/23、1回、中劇場、入場者数：379人（入場率48.1%）
- ・ 研修所公演「結婚手形／なりゆき泥棒」  
2/20～22、3回、中劇場、入場者数：1,018人（入場率37.5%）

##### (バレエ研修)

- ・ 「バレエ・アステラス★2014」  
7/20、1回、オペラ劇場、入場者数：1,173人（入場率65.5%）
- ・ 「第10期生・第11期生発表公演」  
10/4～5、2回、中劇場、入場者数：1,290人（入場率64.6%）
- ・ 「エトワールへの道程2015」  
2/28～3/1、2回、中劇場、入場者数：1,366人（入場率75.6%）

##### (演劇研修)

- ・ 試演会「親の顔が見たい」  
9/5～10、6回、小劇場、入場者数：1,195人（入場率76.4%）
- ・ 朗読劇「少年口伝隊一九四五」  
9/23～24、3回、小劇場、入場者数：423人（入場率52.9%）
- ・ リーディング公演「五月」  
11/29～30、3回、Aリハーサル室、入場者数：318人（入場率70.7%）
- ・ 修了公演「アンチゴーヌ」  
1/10～15、10回、Cリハーサル室、入場者数：1,191人（入場率92.5%）
- ・ 修了公演「ミセス・サヴェッジー 幸せの値段」  
3/4～8、6回、小劇場、入場者数：847人（入場率53.9%）

#### (2) その他出演

- ・ バレエ研修生がバレエ研修所レッスン見学会に出演した。（協力：J.P.モルガン）  
12/21、1回、会場：バレエリハーサル室

#### (3) 海外研修

- ・ オペラ研修所第16期生が海外研修を実施した（9/14～10/5、イタリア ミラノスカラ座アカデミー）

### 4. 募集・選考の状況、今後の募集に向けた取組・検討

コース	選考日	応募者数	受験者数	合格者数
オペラ	10/17～21	62名	56名	5名
バレエ	2/8～23	33名	33名	6名
バレエ予科	1/25～2/1	20名	20名	5名
演劇	1/12～18	106名	100名	14名

5. 外部専門家等の意見聴取、成果の検証、対象分野・人数等の不断の見直し
- ・ 研修事業委員会を2回開催し、成果の検証や今後の方向性の検討を行った。
  - ・ 研修事業委員に授業、公演の視察を依頼し、レポートにて意見を聴取した。
  - ・ 演劇研修所において、研修内容及び奨学金支給方法等の見直しを図った。
  - ・ 各研修所において定期的に講師会等を開催し、研修内容や今後の方向性について話し合いを行った。

《自己点検評価》

---

○ 良かった点・特色ある点

(オペラ研修)

- ・ 新所長の元で研修内容の見直しを行い、オペラの舞台で必須となるアンサンブル稽古の充実や、身体訓練などの新規授業を設置し、成果をあげることが出来た。
- ・ 海外研修については、イタリア最高峰といえるミラノスカラ座アカデミーへの派遣を開所後初めて実現した。研修生にプロとしての自覚、将来の目標、世界の舞台を意識させる貴重な機会となった。
- ・ 研修公演においては、研修生はそれぞれ日頃の研修成果を大いに発揮した。アンケート調査においても非常に高い満足度を得ることが出来た。

(バレエ研修)

- ・ コンテンポラリーダンスや演劇の授業を実施し、ダンスの幅を広げることができた。
- ・ 「バレエ・アステラス★2014」に参加し、国内の複数バレエ団のダンサー、海外で活躍するダンサーとの交流を深め、同じ舞台に立ったことは、研修生にとって貴重な機会となった。
- ・ 研修公演においては、海外バレエ学校でも優秀な修了生が揃った年に上演されるといわれる「眠れる森の美女」(抜粋)等を上演でき、研修の成果として高く評価された。
- ・ 入所希望者を対象とした夏期講習会を開催した他、ホームページや研修公演において研修所の紹介動画を配信、上映する等、研修の内容とその意義について広く周知に努めた。

(演劇研修)

- ・ 第8期生の研修公演について、小劇場だけでなくリハーサル室も使用して5公演上演し、より実践的な舞台実習を行うことができた。入場無料の公演もあったことから、多くの観客に研修の成果を見ていただくことができ、新聞に公演評も掲載された。
- ・ 第9期生、10期生も研修公演において舞台裏や表周りのスタッフ、プロンプとして参加し、多くのことを学ぶ貴重な機会となった。
- ・ 主に入所希望者を対象としてオープンスクール及び説明会を実施し、定員を上回る多くの申込を得た。
- ・ ホームページ及びFacebookでの授業の風景や研修生の紹介、稽古場の写真等を随時掲載し、情報発信を一層充実させることができた。

○ 見直し又は改善を要する点

(オペラ研修)

- ・ 第18期生の選考において、成績を優先した結果、合格者5名中4名がソプラノとなった。声種のバランスについては今後の検討点としたい。

(バレエ研修)

- ・ より多くの優秀な人材を確保するため、成果の出ている予科生クラスの充実など、従来の制度について見直しを視野に入れていきたい。

(演劇研修)

- ・ 研修生の中には進路等に悩み研修途中で退所する者がいる。今後は、事前の説明会やオープンスクールの実施等により、入所前に研修の内容や方針について理解を深めてもらう他、研修開始後には面談を定期的実施する等、より一層のフォローに努めるとともに、募集人数の弾力化、奨学金の支給方法や進級審査の導入等、具体的な見直しを図っていきたい。

---

3-(2)-② 実施に当たっての留意事項

《業務実績詳細》

---

1. 広報活動の充実

- ・ ホームページやFacebookを活用し、研修の実施状況、研修公演の稽古、公演の様子などを随時発信した。
- ・ 修了生の活動状況を定期的に把握し、その成果をホームページに掲載するとともに研修公演会場におけるパネル展示等で紹介した。
- ・ 研修所の存在及び研修内容を広く周知し、将来的に優秀な研修生の確保に資することを目的として、

バレエ研修所では8月に夏季特別講習会、演劇研修所では11月にオープンスクール、12月に説明会を開催した。

## 2. 研修生の実演機会の充実及び現代舞台芸術の振興・普及のための活動

(バレエ研修)

- ・ バレエ研修生が J.P. モルガンの協力によりバレエ研修所レッスン見学会に出演した。  
12/21、1回、会場：バレエリハーサル室

## 3. 伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の相互交流

- ・ 五館合同特別講義、研修生交流会 12月10日  
講義：伝統芸能情報館レクチャー室（3階）、交流会：向日葵（本館大劇場3階）  
講師：宮城能鳳（組踊立方、組踊研修主任講師）  
講義内容：「良き舞台人になるために」  
参加者：研修生48名（オペラ研修所第17期生5名、バレエ研修所第11期生5名、演劇研修所第10期生8名、歌舞伎俳優7名、竹本2名、長唄1名、寄席囃子6名、能楽3名、文楽1名、組踊10名）

## 4. 公演制作者・舞台技術者等の研修の受入れ、協力

- ・ 舞台技術者、インターン等の受入れを行うとともに、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会や公益社団法人全国公立文化施設協会、劇場・音楽堂等連絡協議会、公共劇場舞台技術者連絡会、公益社団法人日本照明家協会等と連携してフォーラム等を開催したほか、地域の公立文化施設で開催された技術職員研修会等への講師の派遣、提携大学の学生に向けた講義等、新国立劇場の人材及び施設を活用した取組を行った。

《自己点検評価》

---

### ○ 良かった点・特色ある点

- ・ 研修事業について、ホームページやFacebookを活用して継続的に情報を発信した。また、その内容を主催公演のTwitterアカウントと共有することで、幅広い層の目に留まるよう努めた。
- ・ 国内外での修了生の活躍を積極的に発信し、研修事業の意義やそのレベルの高さを広く知らせることができた。
- ・ 五館合同特別講義、研修生交流会を通じ、伝統芸能分野との相互交流を進めることができた。
- ・ オペラ劇場のホワイエや小劇場を使用したフォーラム等の開催、研修会等や提携大学への講師の派遣など、他団体と連携して新国立劇場の人材及び施設を大いに活用することができた。

### ○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 実演経験を積むことは貴重な経験となるため、機会があれば外部公演に積極的に参加させたい。



I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため  
とるべき措置

伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

## 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用 p.133

- 伝統芸能の調査研究 p.137
- 伝統芸能の資料の収集・活用 p.139
  - 資料の収集と公開 p.140
  - 収集資料の活用 p.140
  - 文化デジタルライブラリー等の整備と公開 p.141
  - 展示公開 p.141
- 公演記録の作成・活用、普及活動の実施 p.145
  - 公演記録の作成・活用 p.145
  - 公開講座等、普及活動の実施 p.146

## 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用 p.149

- 現代舞台芸術の調査研究 p.151
- 現代舞台芸術の資料の収集・活用 p.152
  - 資料の収集と公開 p.153
  - 展示公開 p.153
- 公演記録の作成・活用、普及活動の実施 p.154
  - 公演記録の作成・活用 p.155
  - 公開講座等、普及活動の実施 p.155



#### 4- (1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

##### 《中期計画の概要》

#### 4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

##### (1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

###### ア 伝統芸能に関する調査研究を次のとおり実施

- ① 上演資料集の作成
- ② 日本各地の歌舞伎・文楽を主とした演劇興行に関する記録の調査研究、組踊等沖縄伝統芸能の上演に関する記録の調査研究
- ③ 伝統芸能に関する古文献等についての調査研究、復刻・刊行等

###### イ 伝統芸能に関する資料の収集及び活用を次のとおり実施

- ① 伝統芸能関係図書、歌舞伎錦絵等博物資料等の収集及び分類整理、閲覧、図録等の作成、博物館施設等への貸与等
- ② 収集した資料のデータベース化、デジタルコンテンツの充実

###### ウ 収集した資料等の展示公開

- ・ 伝統芸能情報館資料展示室 年3企画程度
- ・ 演芸資料館資料展示室 年3企画程度
- ・ 能楽堂資料展示室 年4企画程度
- ・ 文楽劇場資料展示室 年4企画程度
- ・ 国立劇場おきなわ資料展示室 年4企画程度

##### (3) 公演記録の作成・活用、普及活動の実施

- ア 演技・演出等の記録の作成・保存、閲覧・視聴
- イ 公演記録映像の鑑賞会等の開催による有効活用
- ウ 講座、展示等の実施

##### 《年度計画の概要》

#### 4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

##### (1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

###### ア 伝統芸能に関する調査研究を次のとおり実施

- ① 歌舞伎、文楽及び組踊等沖縄伝統芸能公演の実施に当たり、過去の公演記録、演出等を調査した上演資料集を作成
- ② 日本各地の歌舞伎・文楽を主とした演劇興行に関する記録及び組踊等沖縄伝統芸能の上演に関する記録の調査研究を次のとおり実施
  - (a) 「近代歌舞伎年表」名古屋篇第九巻の刊行及び第十巻の刊行準備
  - (b) 「義太夫年表 昭和篇」第三巻の刊行準備
  - (c) 「沖縄芸能史年表」第十一集の作成
- ③ 伝統芸能に関する古文献等について調査研究を行い、次のとおり復刻・刊行等を実施
  - (a) 歌舞伎資料選書・12「芝居見たまま 明治篇」第三巻の刊行
  - (b) 未翻刻戯曲集第二十一巻の刊行
  - (c) 正本写合巻集(2冊)の刊行
  - (d) 演芸資料選書・11「本朝話者系図」(仮題)の刊行
  - (e) 「国立能楽堂調査研究」(9)の刊行

###### イ 中期計画の方針に従い、伝統芸能に関する資料の収集及び活用を次のとおり実施

- ① 図書・資料の収集及び分類整理、閲覧のための提供  
 伝統芸能全般に関する図書・資料のほか、主として各館で公開する分野に関する図書・資料を収集  
 開架図書の充実、一般利用の促進
- ② 収集した資料等を活用し、次のとおり刊行  
 また、博物館施設等に対し、収集した資料を貸与
  - (a) 特別展示図録の刊行(能楽堂)

- (b) 英文演目解説「The Guide to Noh of National Noh Theatre」の刊行（能楽堂）
- ③ 収集した資料のデータベース化、デジタルコンテンツの充実及びインターネットによる公開
  - (a) 図書、資料及び公演記録等について、引き続き次の情報のデータベース化を実施
    - ・ 図書（本館筋書）
    - ・ 錦絵
    - ・ プロマイド
    - ・ 公演記録情報（上演情報、公演記録写真、扮装図鑑）
  - (b) デジタルコンテンツを次のとおり作成
    - ・ 文化デジタルライブラリー
      - 舞台芸術教材「文楽編」
      - 舞台芸術教材「歌舞伎事典」（改修）
  - (c) 文化デジタルライブラリーホームページ目標アクセス件数：430,000件
- ウ 収集した資料等を別表8のとおり展示公開
 

能楽堂収蔵資料を活用し、オーストラリアのシドニーにおいて、文化庁及びオーストラリアニューサウスウェルズ州立美術館と共催で「国立能楽堂収蔵資料展“Noh and Kyogen in Japan”」（仮称）を開催
- (3) 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施
  - ア 主催公演を中心に演技・演出等の記録を録音・録画・写真等により適切に作成・保存し、閲覧・視聴のために提供
  - イ 公演記録映像を鑑賞会、講座・レクチャー等で活用
  - ウ 公開講座等、普及活動の実施
    - ① 公開講座等を別表9のとおり実施
      - 広報活動の強化
      - アンケート調査の実施、目標満足回答率80%以上
    - ② 公演の実施にあわせた関連講座、展示等を適宜実施、適宜ホームページ等で公開
    - ③ 教員免許更新制における免許状更新講習の実施
    - ④ 組踊等沖縄伝統芸能について、学校等に対して、解説DVDの貸出し及びパンフレット等の提供

## 《主要な業務実績》

### 1. 伝統芸能の調査研究

- ・ 伝統芸能に関する調査研究を実施し、その成果として以下の刊行及び刊行準備を計画どおり実施
  - 上演資料集（歌舞伎7冊、文楽5冊、組踊3冊）、近代歌舞伎年表名古屋篇第九巻、同第十巻以降（刊行準備・資料調査）、義太夫年表昭和篇第三巻以降（刊行準備・資料調査）、沖縄芸能史年表第十一集
- ・ 伝統芸能に関する古文献等について調査研究を実施し、その成果として以下の復刻・刊行等及び刊行準備を計画どおり実施
  - 歌舞伎資料選書・12「芝居見たまま 明治篇」第三巻、未翻刻戯曲集・21、正本写合巻集・14、15、演芸資料選書・11、国立能楽堂調査研究（9）

### 2. 伝統芸能の資料の収集・活用

- ・ 伝統芸能に関する資料の収集及び分類整理を各館で実施
- ・ 収集資料を活用した以下の刊行を計画どおり実施
  - 特別展示図録「松井文庫創立30周年記念 松井家の能」（能楽堂）、英文演目解説「The Guide to Noh of National Noh Theatre」4（能楽堂）
- ・ 収集資料のデータベース化を引き続き実施
- ・ 文化デジタルライブラリーの舞台芸術教材「文楽編作品解説 菅原伝授手習鑑」を作成したほか、デジタルコンテンツの充実により、アクセス件数は目標（430,000件）を大きく上回る622,365件を達成
- ・ 収集資料の展示公開を計画どおり実施し、19企画で入場者数211,845人（目標181,650人）を達成
- ・ 国立能楽堂収蔵資料を活用して、オーストラリア・シドニーのニューサウスウェルズ州立美術館において、文化庁海外展「Theatre of Dreams, Theatre of Play: Nō and Kyōgen in Japan」を開催し、能楽の海外普及と国際文化交流の進展に寄与

### 3. 公演記録の作成・活用、普及活動の実施

#### (1) 公演記録の作成・活用

- ・ 主催公演について、映像・写真等による記録を作成  
本館・演芸場 65 公演、能楽堂 51 公演、文楽劇場 15 公演、国立劇場おきなわ 30 公演
- ・ 各館視聴室において、出演者及び一般来場者の視聴に供するとともに、出演者、出版社及び放送局等の依頼に応じて複製物を提供

(2) 公開講座、普及活動の実施

- ・ 伝統芸能の理解の促進と普及を図るため、公演記録映像を活用した以下の鑑賞会等を開催  
「公演記録鑑賞会」伝統芸能情報館 12 回、文楽劇場 12 回、国立劇場おきなわ 5 回  
「能楽鑑賞講座」能楽堂 12 回
- ・ その他講座等普及活動の実施  
伝統芸能サロン（伝統芸能情報館、6 回）、能楽特別講座（能楽堂、1 回）、伝統芸能講座（文楽劇場、1 回）、沖縄伝統芸能公開講座（国立劇場おきなわ、4 回）
- ・ 鑑賞会、講座等の普及活動は計 53 回で参加者数 7,536 人（目標 5,790 人）を達成
- ・ 教員免許状更新講習を引き続き実施

4. 外部専門家等の意見及びアンケート調査

- ・ 調査事業委員会において外部専門家等より意見を聴取し、後の事業運営に活用
- ・ アンケート調査を実施

《自己点検評価》

○ 自己評定

・ 項目別評定

伝統芸能の調査研究	資料の収集・活用	公演記録の作成・活用、普及活動の実施
B	A	B

・ 総合評定

B
---

(根拠)

- ・ 伝統芸能に関する調査研究及び資料の収集を実施し、計画どおり刊行及び刊行準備を実施した。
- ・ 調査研究の成果につき、外部専門家や利用者から非常に高い評価を得た。
- ・ 文化デジタルライブラリーのコンテンツを充実させ、アクセス件数は目標を大きく上回った。（達成度144.7%）
- ・ 収集資料の展示公開を計画どおり実施し、19企画合計で入場者数の目標を大きく上回った。（達成度計116.6%）
- ・ 国立能楽堂収蔵資料を活用して文化庁海外展を開催し、国際文化交流に寄与した。
- ・ 伝統芸能サロン等の公開講座において、参加者数が目標を大幅に上回った。（達成度130.2%）

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 上演資料集では、上演作品の背景となる資料の充実に努めながら、各公演の上演のため参考となる資料を掲載し、演技演出に役立てることができた。特に、9月文楽公演においては、上演に先立ち開催された出演者とスタッフによる「新作文楽スペシャル座談会」の内容を掲載し、作品理解に役立つものとする事ができた。
- ・ 「近代歌舞伎年表 名古屋篇」は、近代における名古屋の歌舞伎を始めとした芸能や興行状況を明らかにするだけでなく、京阪や東京との関係性を知る上でも貴重な基礎資料として好評を得た。
- ・ 文化デジタルライブラリーホームページの年間アクセス件数が今年度も目標数を大幅に上回った。
- ・ 今年度作成した文化デジタルライブラリー舞台芸術教材「文楽編作品解説 菅原伝授手習鑑」の「早わかり」に英文表記を行い、外国人向け対応を実施した。
- ・ 伝統芸能情報館展示室の観覧を促すため、営業部と協力して「親子で楽しむ歌舞伎教室」の観客へのプレゼント引渡し会場を展示室に設けた。このことにより多くの親子が展示室に集い、小中学生等が「歌舞伎入門」の展示に接することで、歌舞伎への興味を深める好機会とすることができた。
- ・ 能楽堂収蔵資料を活用し、オーストラリアのシドニーにおいて文化庁海外展「Theatre of Dreams,

Theatre of Play: Nō and Kyōgen in Japan」を開催し、能楽の海外普及と国際文化交流の進展に寄与した。

- ・ 文楽劇場の企画展示「文楽の舞台」では、実際の大道具が作られるまでの過程を現物によって紹介した。展示室中央には実物の世話屋体を組み、木戸や障子、オトシ等の仕掛けに実際に触れられるようにした体験型の展示という今までにない試みであった。また、この展示と関連させて大道具・小道具についての伝統芸能講座を開催し、好評を得た。
- ・ 国立劇場おきなわでは、展示、講座、記録鑑賞会のテーマなどを自主公演と関連付けて行った。公演との相乗効果により、理解を深めることができた。また今年度は、レファレンスルームにおいても公演に関連する図書資料を紹介するコーナーを設置した。
- ・ 国立劇場おきなわの伝統芸能講座（11月）では、沖縄県の助成金を活用し「韓国の巫女儀礼」シンポジウムを国立劇場おきなわ小劇場で開催した。講師には韓国からの研究者やパネリスト、県内の研究者を招き、世襲巫の巫女儀礼について、映像なども用いて分かりやすく解説し、理解を深めた。
- ・ 教員免許状更新講習について、大学教員、実演家等の外部講師による講義を拡大し、より充実した内容の講習を実施した。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 伝統芸能サロンの参加は先着順としているが、企画内容によっては定員を上回り入場できない希望者があった。参加希望者のニーズに応えるとともに、伝統芸能サロンの円滑な運営のため、今後の希望者の状況を踏まえながら適切な応募方法等の検討を行うこととする。
- ・ 文楽劇場の調査業務については従来の派遣契約を見直し、専門知識を有した個人との業務委託契約とする。このことによって、より確実に専門性を確保するとともに、経費の節約にも繋げる。

#### 4-(1)-① 伝統芸能の調査研究

##### 《主要な業務実績》

- ・ 伝統芸能に関する調査研究を実施し、その成果として以下の刊行及び刊行準備を計画どおり実施  
 上演資料集（歌舞伎7冊、文楽5冊、組踊3冊）  
 「近代歌舞伎年表 名古屋篇」第九巻、同第十巻以降（刊行準備・資料収集）  
 「義太夫年表 昭和篇」第三巻以降（刊行準備・資料調査）  
 「沖縄芸能史年表」第十一集
- ・ 伝統芸能に関する古文献等について調査研究を実施し、その成果として以下の復刻・刊行等及び刊行準備を計画どおり実施  
 歌舞伎資料選書・12「芝居見たまま 明治篇」第三巻、同第四巻（文献調査）  
 未翻刻戯曲集・21「東山桜荘子」、同22（古文献調査）  
 正本写合巻集・14「龍三升高根雲霧」、同15「網模様燈籠菊桐」、その他古文献調査  
 演芸資料選書・11「本朝話者系図」  
 国立能楽堂調査研究（9）
- ・ 外部専門家等の意見聴取  
 調査事業委員会において外部専門家等より意見を聴取し、後の事業運営に活用
- ・ アンケート調査を実施  
 満足度：上演資料集（歌舞伎・文楽・組踊）93.2%、「近代歌舞伎年表 名古屋篇」95.9%

##### 《方針》

- ・ 日本各地の歌舞伎を中心とした演劇興行についての年表・資料である「近代歌舞伎年表」を作成する。すでに刊行した「大阪篇」全九巻十冊、「京都篇」全十巻十一冊に続き、26年度は「名古屋篇」第九巻の刊行及び第十巻刊行に向けての基礎調査、原稿準備を行う。
- ・ 「義太夫年表」第三巻の刊行に向けた準備、資料収集を行う。
- ・ 沖縄県内4紙の新聞記事から沖縄の伝統芸能に関連する新聞記事を調査・収集・整理し、25年度の第十集に続き、「沖縄芸能史年表」第十一集を刊行する。
- ・ 能楽に関する古文献等について調査研究を行い、復刻・刊行等を行う。

##### 《業務実績詳細》

#### 1. 刊行実績

事 項	実 績
上演資料集	歌舞伎7冊、文楽5冊、組踊3冊 合 計 15 冊
近代歌舞伎年表 義太夫年表 沖縄芸能史年表	刊 行：「近代歌舞伎年表 名古屋篇」第九巻（27年3月） 「沖縄芸能史年表」第十一集（27年3月） 刊行準備：「近代歌舞伎年表 名古屋篇」第十巻のデータ集積、一部原稿作成 「義太夫年表 昭和篇」第三巻の刊行準備 調査作業：「近代歌舞伎年表 名古屋篇」第十巻以降の資料調査 「義太夫年表 昭和篇」第三巻以降の資料調査
古文献の復刻等	刊 行：「芝居見たまま 明治篇」第三巻〈歌舞伎資料選書・12〉（27年2月） 「東山桜荘子」〈未翻刻戯曲集・21〉（27年3月） 「龍三升高根雲霧」〈正本写合巻集・14〉（26年12月） 「網模様燈籠菊桐」〈正本写合巻集・15〉（27年2月） 「本朝話者系図」〈演芸資料選書・11〉（27年3月） 「国立能楽堂調査研究」(9)（27年3月） 刊行準備：「芝居見たまま 明治篇」第四巻〈歌舞伎資料選書・12〉の文献調査 「未翻刻戯曲集・22」の古文献調査 「正本写合巻集」2冊の古文献調査及び原稿準備

## 2. 外部専門家等の意見及びアンケート調査

### (1) 外部専門家等の意見

- ・ 調査事業委員会において外部専門家等より意見を聴取し、後の事業運営に活用した。主な意見は以下のとおり。
  - ・ 刊行物については、大変充実した内容で、研究する立場からも、また観劇等の立場からも大変有効な資料を作り続けていただいている。
  - ・ 正本写真巻集のシリーズが順調に進んでいる。
  - ・ 個々の演目に関する調査を継続しており、研究の資料、また観劇の参考資料としても大変意義がある。今後も継続して出版してほしい。

### (2) アンケート調査

- ・ 「上演資料集」
  - ・ 歌舞伎 No. 590 : 回答者数 55 人 (配布数 103 人、回答率 53.4%)、100%の回答者から満足との回答を得た (55 人)。
  - ・ 文楽 No. 588~589 : 回答者数 57 人 (配布数 102 人、回答率 55.9%)、93.0%の回答者から満足との回答を得た (53 人)。
  - ・ 組踊 No. 35 : 回答者数 34 人 (配布数 60 人、回収率 56.7%)、82.4%の回答者から概ね満足との回答を得た (28 人)。
- ・ 「近代歌舞伎年表 名古屋篇」第九巻 : 回答者数 49 人 (配布数 104 人、回答率 47.1%)、95.9%の回答者から満足との回答を得た (47 人)。

### 《自己点検評価》

#### ○ 自己評定

##### ・ 総合評定

B
---

#### (根拠)

- ・ 振興会が刊行する資料、年表、文献類は、伝統芸能のみならず江戸期以降の歴史研究において基礎的資料となるものであり、これまでの刊行物に対して研究者等から高く評価されている。これらの調査研究の成果は刊行後すぐに現れるものではなく、長期的計画のもと確実に行われることが最重要である。
- ・ 伝統芸能に関する調査研究を実施し、年度計画どおり各刊行物を作成した。
- ・ 次年度以降の刊行物の準備についても、資料集積、原稿作成等の作業を計画どおり進めた。
- ・ 上演資料集では、上演作品の背景となる資料の充実に努めながら、各公演の上演のため参考となる資料を掲載し、演技演出に役立てることができた。
- ・ 外部専門家から、「刊行物については大変充実した内容で、研究する立場からもまた観劇等の立場からも大変有効な資料である」「正本写真巻集のシリーズの刊行が順調に進んでいる」との意見があった。
- ・ アンケートでは、「満足」との回答が、歌舞伎の「上演資料集」で 100%、文楽の「上演資料集」で 93.0%、組踊の「上演資料集」で 82.4%、「近代歌舞伎年表 名古屋篇」第九巻で 95.9%であった。

#### ○ 良かった点・特色ある点

- ・ 上演資料集では、上演作品の背景となる資料の充実に努めながら、各公演の上演のため参考となる資料を掲載し、演技演出に役立てることができた。特に、9月文楽公演においては、上演に先立ち開催された出演者とスタッフによる「新作文楽スペシャル座談会」の内容を掲載し、作品理解に役立つものとすることができた。国立劇場おきなわの「上演資料集」第35集「忠臣身替の巻」では、沖縄県教育委員会の調査(『沖縄の組踊 I』)から約30年が経過していることから、演目が伝承されている31ヶ所の地域に対し、継承状況についてアンケート調査を行い、その結果を掲載することができた。
- ・ 「近代歌舞伎年表 名古屋篇」は、近代における名古屋の歌舞伎を始めとした芸能や興行状況を明らかにするだけでなく、京阪や東京との関係性を知る上でも貴重な基礎資料として好評を得た。
- ・ 「国立能楽堂調査研究」(9)において、様々な角度から国立能楽堂収蔵資料について研究された論文を掲載することができた。
- ・ 「義太夫年表 昭和篇」について、文楽劇場では、昭和 30 年までの公演プログラム、チラシによる

基本的なデータ入力を終了し、さらにデータの精度を高めるべく、同一公演における複数資料間の相違について個人所有の記録類や出版物及び新聞記事等で調査・確認を行い、27年度の第三巻刊行に向けて順調に作業を進めた。

- ・ 「義太夫年表 昭和篇」について、第三巻ではラジオ等の出演について別頁を立てて採録することとし、戦後復興期におけるメディアの状況に即した編集方針を立てた。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 調査業務については極めて専門性が高いことから、「義太夫年表 昭和篇」において、27年度から資料・編集等に関するスタッフを管轄する業者との派遣契約を取りやめ、「近代歌舞伎年表」と同様に、専門知識を有した個人との業務委託契約とする。このことにより、より確実に専門性を確保するとともに、経費の節約にも繋げる。

---

#### 4-(1)-② 伝統芸能の資料の収集・活用

##### 《主要な業務実績》

---

##### 1. 資料の収集と公開

- ・ 伝統芸能全般の文献（図書・雑誌等）、図画（錦絵・番付等・絵画）、写真、映像・音声資料、舞台装置等の資料について、収集、分類整理を各館で実施

##### 2. 収集資料の活用

- ・ 整理した資料等を、展示、閲覧、講座、公演記録鑑賞会等で活用
- ・ 能楽堂では、能楽堂展示室での展示のための調査結果をもとに図録を刊行し、研究者及び研究機関等へ配布、一般販売
  - ・ 特別展示図録「松井文庫創立 30 周年記念 松井家の能」（27年1月）
  - ・ 英文演目解説「The Guide to Noh of the National Noh Theatre」4（27年3月）
- ・ 外部展示への資料の貸出

##### 3. 文化デジタルライブラリー等の整備と公開

- ・ 収集資料のデータベース化を引き続き実施
- ・ 文化デジタルライブラリーの舞台芸術教材「文楽編作品解説 菅原伝授手習鑑」を作成したほか、デジタルコンテンツを充実
- ・ 文化デジタルライブラリーのアクセス件数は目標（430,000件）を大きく上回る622,365件を達成

##### 4. 展示公開

- ・ 収集資料の展示公開を計画どおり実施し、19企画で入場者数211,845人（目標181,650人）を達成
- ・ 展示公開に際して目録を作成
- ・ 伝統芸能情報館展示室及び演芸場資料館では、歌舞伎・文楽・大衆芸能に興味と理解を深めることを目的に、研修用教材を併用した展示を実施
- ・ 能楽堂収蔵資料を活用し、オーストラリア・シドニーにおいて、文化庁及びオーストラリアニューサウスウェールズ州立美術館と共催で文化庁海外展「Theatre of Dreams, Theatre of Play: Nō and Kyōgen in Japan」を開催し、能楽の海外普及と国際文化交流の進展に寄与
- ・ 文楽劇場資料展示室では、室内に文楽の大道具を設置するという新たな趣向での展示を実施
- ・ 国立劇場おきなわでは、4回の企画展すべてを、自主公演と関連付けて実施

##### 5. 外部専門家等の意見及びアンケート調査

- ・ 調査事業委員会において外部専門家等より意見を聴取し、後の事業運営に活用
- ・ アンケート調査を実施  
満足度：図書閲覧室（全館）93.3%、資料展示室（全館）86.6%

##### 《方針》

---

伝統芸能全般に関する基本的な新旧の図書、雑誌、博物資料の収集を主軸に実施する。歌舞伎については、錦絵・番付・プロマイド写真・上演台本を、大衆芸能については、落語・講談の速記本、見世物・曲芸の絵画資料と映像・音声資料（ビデオ・CD）等の収集を行う。また、図書情報のデータベース化を進め、研究者及び一般の利用に供する。

能楽堂では主として能楽に関する研究書、実演資料、図録、一般図書等の芸能図書及び能楽の普及・伝承・研究の上で、特に意義があると認められる資料の収集を行う。

文楽劇場では、収集資料の貸与等、文楽をはじめとする伝統芸能に対する理解の促進に努める。  
 国立劇場おきなわでは、組踊等沖縄伝統芸能を主とし、伝統芸能全般に関する図書・資料、博物資料等の収集及び分類整理を行い、閲覧に供する。

《業務実績詳細》

<1>資料の収集と公開

1. 収集・活用実績

区 分	収 集	活 用
伝統芸能 情報館	収集図書：3,422 冊 収集資料：2,307 点	閲覧室利用者数：4,327 人（開室 254 日） 写真複製使用件数：292 件 博物資料閲覧 2 件、視聴利用 923 件
能楽堂	収集図書：912 冊 収集資料：23,512 点	閲覧室利用者数：3,836 人（開室 252 日） 写真複製使用 73 件 博物資料閲覧 10 件、視聴利用 2,162 件
文楽劇場	収集図書：2,081 冊 収集資料：5,833 点	閲覧室利用者数：1,138 人（開室 243 日） 写真複製使用 42 件 博物資料閲覧 1 件、視聴利用 465 件
国立劇場 おきなわ	収集図書：630 冊 収集資料：509 点	レファレンスルーム利用者数：1,434 人（開 室 171 日） 写真複製使用 14 件、視聴利用 1,237 件

2. 外部専門家等の意見及びアンケート調査

(1) 外部専門家等の意見

なし

(2) アンケート調査

- ・ 伝統芸能資料館図書閲覧室（2月9日～3月20日）  
 回答者数 60 人。回答者の 93.3%が概ね満足と答えた（56 人）。
- ・ 能楽堂図書閲覧室（10月20日～11月21日）  
 回答者数 94 人（配布数 100 人、回収率 94.0%）回答者の 95.7%が概ね満足と答えた（90 人）。
- ・ 文楽劇場図書閲覧室（7月2日～11月26日）  
 回答者数 21 人（配布数 37 人、回収率 56.8%）、回答者の 81.0%が概ね満足と答えた（17 人）。
- ・ 国立劇場おきなわレファレンスルーム  
 回答者数 3 人。回答者全員が満足と答えた（3 人）。

【特記事項】

- ・ 伝統芸能情報館の図書閲覧室及び本館視聴室は、通常 17:00 までの開館のところ、第 2 日曜日の開室と第 3 水曜日に開室時間の延長（20:00 まで）を行った。
- ・ 3 月 11 日は本館大劇場で「東日本大震災四周年追悼式」が行われ、警備強化のため、伝統芸能情報館の図書閲覧室及び本館視聴室を休室した。
- ・ 国立劇場おきなわでは、レファレンスルームにおいて、「宮古の神歌と韓国・珍島シッキムクッ」（11/15）「石垣島四ヶ村のプーリィ」（12/14）「神楽」（2/15）の各公演にあわせた関連図書資料を紹介するコーナーを設置した。

<2>収集資料の活用

1. 活用実績

(本館)

- ・ 外部の制作会社が、国立劇場所蔵の錦絵を元にジグソーパズル 2 点（「矢の根」「五條橋」）を作成する際、錦絵の選定および貸与に協力した。（26 年 11 月）

(能楽堂)

- ・ 以下を刊行した。
  - ・ 特別展示「松井文庫創立 30 周年記念 松井家の能」展示図録（27 年 1 月）

- ・ 英文演目解説「The Guide to Noh of the National Noh Theatre」4 (27年3月)
- ・ 「国立能楽堂調査研究」(9) (27年3月)
- ・ 能楽堂収蔵資料を活用し、オーストラリアのシドニーにおいて、文化庁及びオーストラリアニューサウスウェールズ州立美術館と共催で文化庁海外展「Theatre of Dreams, Theatre of Play: Nō and Kyōgen in Japan」を開催した。

(文楽劇場)

- ・ 県立神奈川近代文学館等が開催する展示へ文楽人形など文楽関係資料を貸出し、展示した。

<3>文化デジタルライブラリー等の整備と公開

1. 実績

(1) データベース化

事項	実施内容
図書	逐次刊行物等 3,000 件 本館所蔵の他劇場の公演筋書 3,000 件を、図書管理システム及び国立情報学研究所のデータベースに登録した。
資料	プロマイド 256 点 新たに考証・整理が終了したプロマイド写真（戦前の歌舞伎俳優）256 点を、文化デジタルライブラリーに追加登録した。
上演情報	152 公演 歌舞伎 11 公演、文楽 13 公演、舞踊・邦楽 12 公演、雅楽・声明 3 公演、民俗芸能 3 公演、特別企画 4 公演、能・狂言 51 公演、大衆芸能 55 公演の公演情報を、文化デジタルライブラリーに登録した。
公演記録写真	38,146 点 国立劇場で 25 年 4 月から 27 年 2 月までに撮影した全ジャンルの公演記録写真 38,015 点、国立劇場で 22 年 3 月撮影した民俗芸能公演の公演記録写真 131 点を文化デジタルライブラリーに登録した。
扮装図鑑	38 公演 国立劇場で 24 年 11 月から 26 年 5 月に上演された歌舞伎公演（鑑賞教室含む）・文楽公演（鑑賞教室含む）に上演された公演の「扮装図鑑」を、文化デジタルライブラリーに登録した。

(2) デジタルコンテンツの作成

- ・ 文化デジタルライブラリー舞台芸術教材「文楽編作品解説 菅原伝授手習鑑」

(3) 文化デジタルライブラリーホームページへのアクセス件数

622,365 件（計画：430,000 件）

(4) 文化デジタルライブラリーシステム改修

- ・ コンテンツの中で特にアクセス数が多い「歌舞伎事典」の見出し語に、サムネイル画像を表示して視覚による興味を喚起するとともに、他のコンテンツへのリンクを設定することで、関連項目へ容易に移動できるようにした。

2. 外部専門家等の意見

なし

<4>展示公開

1. 展示公開の実績

展示室	企画数	開催日数	来場者数	
			実績	計画
伝統芸能情報館 資料展示室	4回	331日	54,626人	43,500人
演芸場 資料展示室	3回	275日	39,386人	33,500人
能楽堂 資料展示室	4回	205日	24,418人	26,650人
文楽劇場 資料展示室	4回	257日	80,427人	66,000人
国立劇場おきなわ 資料展示室	4回	285日	12,988人	12,000人
総計	19回		211,845人	181,650人

	(計画19回)		
--	---------	--	--

(伝統芸能情報館)

- ・ 「錦絵に見る江戸から明治の芝居小屋の賑い」では、江戸時代から明治にかけて描かれた「芝居小屋」の錦絵を展示し、歌舞伎に対する当時の熱気が感じられる展示とした。
- ・ 「歌舞伎入門」では、歌舞伎独自の用語や約束事を紹介し、大道具・衣裳・小道具などを展示することで、歌舞伎を解りやすく解説し、初心者でも楽しめる入門にふさわしい展示とした。
- ・ 「鈴木十郎コレクションの内一代々の團十郎」では、市川團十郎家の系譜を紹介し、コレクションのうち、代々による書画・書簡・隈取を中心にした展示とした。
- ・ 「文楽入門」では、文楽の歴史をはじめ、三業(大夫・三味線・人形遣い)についての解説、舞台については模型を展示し、文楽全般を紹介した。

(演芸場)

- ・ 「伝統芸能伝承者養成研修―太神楽―」では、研修修了生全員の経歴、芸歴を紹介し、あわせて太神楽芸能のあゆみと魅力を紹介した。
- ・ 「演芸家の色紙展」では、国立劇場が所蔵する色紙・新収蔵品を含め 60 点を展示した。
- ・ 「開場 35 周年に寄せて」では、演芸場開場時の根多帳や周年記念公演ポスターで演芸場の歴史を振り返り、公演記録写真で演芸場を彩った出演者達を紹介した。

(能楽堂)

- ・ 企画展示「国立能楽堂の新作能・新作狂言展」では、国立能楽堂が委嘱初演した新作能・新作狂言の舞台で使用した作り物等を展示紹介した。
- ・ 入門展示「能楽入門」では、装束入門をテーマに、登場人物を出立で見分けるポイントを中心に展示紹介した。
- ・ 「収蔵資料展」では、国立能楽堂が収蔵する能面・能装束を紹介した。また、10月企画公演「雪景色」と連携して、雪に囚んだ能装束や絵画資料を展示紹介した。
- ・ 特別展示「松井家の能」では、熊本県八代市にある松井文庫が所蔵する能面・能装束を展示紹介した。松井文庫は、肥後細川家の筆頭家老を代々務めた松井家に伝来の貴重な資料を多数所蔵している。その中から、能面・能装束等の名品を展示紹介した。

(文楽劇場)

- ・ 開場 30 周年記念特別展示「文楽の魅力―文楽劇場の収蔵品を中心に―(前年度から継続)」では、国立文楽劇場開場 30 周年に当たり、寄贈資料を中心に、文楽のかしら、衣裳、小道具、番付、見台、絵看板、床本等により、文楽の魅力を伝える資料展示を行った。
- ・ 「文楽入門」(6月～8月)では、文楽鑑賞教室や夏休み文楽特別公演<親子劇場>観劇のために来場する観客層(生徒、学生、親子)を主な対象に、文楽の歴史や文楽を構成する大夫・三味線・人形等の基本的内容に加え、見台の組立、義太夫三味線やかしらの製作工程、人形拵えの過程等についても解説し、より理解が深まるような工夫をした。
- ・ 企画展示「文楽の舞台」では、文楽の舞台装置(大道具)に焦点を当て、実際の大道具が作られるまでの過程を現物によって紹介した。展示室中央には実物の世話屋体を組み、木戸や障子、オトシ等の仕掛けに実際に触れられるような展示とした。
- ・ 「文楽入門」(1月～2月)では、企画コーナー「文楽研修を知る」で、昭和47年から実施している文楽の養成事業を取り上げた。昭和59年に本拠地を文楽劇場に移し30年を迎える文楽研修の成果と現状を、さまざまな角度から紹介した。

(国立劇場おきなわ)

- ・ 地元の協力を得て開催した「石垣島の祭りと芸能」(10月～12月)をはじめ、各企画展で公演に関連して写真や小道具、衣裳などの展示を行い、作品等の紹介により公演への理解を深められるような展示を行った。
- ・ 企画展「石垣島の祭りと芸能」では、10周年記念特別公演「石垣島四ヶ村のプーリィ」に合わせ、出演団体や石垣市立博物館の協力で、実際に地元で使われてきた面や衣裳等の展示品を揃えた。

2. 目録等刊行物の実績

(伝統芸能情報館) 展示目録「錦絵にみる江戸から明治の芝居小屋の賑い」

「歌舞伎入門」

「鈴木十郎コレクションの内一代々の團十郎」

	「文楽入門」
(演芸場)	展示目録「伝統芸能伝承者養成研修―太神楽―」
	「演芸家の色紙展」
	「開場 35 周年に寄せて」
(能楽堂)	特別展示図録「松井文庫創立 30 周年記念 松井家の能」

### 3. 外部専門家等の意見及びアンケート調査

#### (1) 外部専門家等の意見

- ・ 調査事業委員会において外部専門家等より意見を聴取し、後の事業運営に活用した。主な意見は以下のとおり。
  - ・ 企画展示「鈴木十郎コレクションの内―代々の團十郎―」について、細かな説明や、解説文も充実し、有意義な展示と感じた。解説文の作成は大変な作業なので、労を多とするところである。特に書簡資料は、間違いのない一次資料として大変貴重なものであり、また扇面資料も好いものであると思った。知人の編集者も好い展示会だったと人にも勧めていた。
  - ・ 文楽劇場の展示企画は大変盛況で多くの方が利用されているということが分かったが、企画等に努力があり、開場 30 周年という事もあって、非常に多くの方々が興味を持って来室されているのではないかと想像される。

#### (2) アンケート調査

##### (伝統芸能情報館)

- ・ 「錦絵にみる江戸から明治の芝居小屋の賑い」(4/1～5/26) 期間中に実施。回答数 46 人。回答者の 86.9%が概ね満足と答えた (40 人)。
- ・ 「歌舞伎入門」(6/2～9/22) 期間中に実施。回答数 129 人。回答者の 82.2%が概ね満足と答えた (106 人)。
- ・ 鈴木十郎コレクションの内―代々の團十郎― (10/4～1/27) 期間中に実施。回答数 66 人。回答者の 92.4%が概ね満足と答えた (61 人)。
- ・ 「文楽入門」(2/7～3/31) 期間中に実施。回答数 44 人。回答者の 84.0%が満足と答えた (37 人)。

##### (能楽堂)

- ・ 特別展示「松井文庫創立 30 周年記念 松井家の能」(1/7～3/7) 期間中に実施。回答数 333 人。回答者の 88.0%が概ね満足と答えた (293 人)。

##### (文楽劇場)

- ・ 国立文楽劇場開場 30 周年記念特別展示「文楽の魅力」開催期間中の 4/18 に実施。回答者数 89 人。回答者の 91.0%が概ね満足と答えた (81 人)。

##### (国立劇場おきなわ)

- ・ 全展示期間中に実施。回答数 120 人。回答数の 81.7%が概ね満足と答えた (98 人)。

#### 【特記事項】

##### (伝統芸能情報館)

- ・ 歌舞伎座8月納涼歌舞伎公演にあたり、釘町久磨次画の舞台道具帳を松竹株式会社に貸出し、舞台製作に寄与した。
- ・ 新橋演舞場12月新派公演に、十七代中村勘三郎が出演予定であった「京舞」のポスターを貸出し、ロビーに展示された。
- ・ 高崎市タワー美術館で開催された企画展「美術でたどる物語」(1月31日～3月22日)に、錦絵4点を貸出し、展示の充実に寄与した。
- ・ 3月11日は本館大劇場で「東日本大震災四周年追悼式」が行われたため、伝統芸能情報館の展示を休館した。

##### (演芸場)

- ・ 上方で唯一の曲独楽師であった桂米八師から、米八師の師匠である伏見紫水師使用の曲独楽道具一式が寄贈された。(なお、桂米八師は27年1月20日逝去)

##### (能楽堂)

- ・ 能楽堂収蔵資料を活用し、オーストラリアのシドニーにおいて、文化庁及びオーストラリアニューサウスウェールズ州立美術館と共催で文化庁海外展「Theatre of Dreams, Theatre of Play: Nō and Kyōgen in Japan」を開催した (来場者数24,034人)。

《数値目標の達成状況》

---

【文化デジタルライブラリーホームページへのアクセス状況】

年間アクセス件数：実績622,365件／目標430,000件（達成度144.7%）

【展示公開の実施状況】実績19回／目標19回（達成度100.0%）

【展示公開の来場者数】実績211,845人／目標181,650人（達成度116.6%）

《自己点検評価》

---

○ 自己評定

・総合評定

A
---

(根拠)

- ・ 資料の収集・活用において、引き続き計画的に実施し、閲覧等に活用した。
- ・ 収集資料を活用した刊行物を計画どおり作成した。
- ・ 収集資料のデータベース化を引き続き実施した。
- ・ 文化デジタルライブラリーの舞台芸術教材「文楽編作品解説 菅原伝授手習鑑」を作成したほか、デジタルコンテンツを充実させ、アクセス件数は目標を大きく上回った。
- ・ 収集資料の展示公開を計画どおり実施し、19 企画合計で入場者数の目標を大きく上回った。またアンケートではいずれの展示も満足度が高かった。
- ・ 国立能楽堂収蔵資料を活用し、オーストラリア・シドニーのニューサウスウェールズ州立美術館において、文化庁海外展「Theatre of Dreams, Theatre of Play: Nō and Kyōgen in Japan」を開催し、能楽の海外普及と国際文化交流の進展に寄与した。

○ 良かった点・特色ある点

(文化デジタルライブラリー)

- ・ 文化デジタルライブラリーホームページへのアクセス件数が年間目標数を大幅に上回った。
- ・ 今年度作成した舞台芸術教材「文楽編作品解説 菅原伝授手習鑑」の「早わかり」に英文表記を行い、外国人向け対応を実施した。

(伝統芸能情報館・演芸場)

- ・ 外部専門家から、企画展示「鈴木十郎コレクションの内一代々の團十郎」について、「細かな説明や、解説文も充実し、有意義な展示と感じた。解説文の作成は大変な作業なので、労を多とするところである。特に書簡資料は、間違いのない一次資料として大変貴重なものであり、また扇面資料も好いものである」という意見により高評価を受けた。
- ・ 「歌舞伎入門」の展示では、歌舞伎鑑賞教室の「解説」の中で情報館展示を紹介、クイズの回答場所にしたことで、来場者が目標を大幅に上回るとともに、こどもたちの歌舞伎に対する興味を持つ機会となった。
- ・ 情報館展示室来場者数のカウントを目視により行っていたが、正確性に欠けるため、27 年度から機械装置によるカウントを行うことにした。

(能楽堂)

- ・ 能楽堂収蔵資料を活用し、オーストラリアのシドニーにおいて、文化庁及びニューサウスウェールズ州立美術館と共催で文化庁海外展「Theatre of Dreams, Theatre of Play: Nō and Kyōgen in Japan」を開催した。3 か月にわたる展示であり、出品総数約 170 点の大規模な展示で、期間中の有料入場者数は 24,000 人を上回る大盛況であった。能楽の海外普及と国際文化交流の進展に寄与した。

(文楽劇場)

- ・ 文楽の大道具を展示するなどの取組の結果、来場者数において目標を大きく上回った。
- ・ 企画展示「文楽の舞台」と連動させて伝統芸能講座「文楽の舞台」を開催し、文楽の舞台に対する興味を一層喚起することができた。
- ・ 外部専門家から、文楽劇場の展示について、「大変盛況で多くの方が利用されている。企画等にも努力が見られ、開場 30 周年という事もあって、非常に多くの方々が興味を持って来室されているのではないかと想像される」という意見があった。

(国立劇場おきなわ)

- ・ 展示公開を計画どおり実施し、来場者数は目標を達成した。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 能楽堂では、展示の目標来場者数を達成できなかった。広報活動の強化等の方策を検討する。

4-(1)-③ 公演記録の作成・活用、普及活動の実施

《主要な業務実績》

1. 公演記録の作成・活用

- ・ 主催公演について、映像・写真等による記録を作成  
本館・演芸場65公演、能楽堂51公演、文楽劇場15公演、国立劇場おきなわ30公演
- ・ 各館視聴室において、公演記録映像を出演者及び一般来場者の視聴に供するとともに、出演者、出版社及び放送局等の依頼に応じて複製物を提供

2. 公開講座等、普及活動の実施

- ・ 伝統芸能に関する理解の促進と普及を図るため、公演記録映像を活用した以下の鑑賞会等を開催  
「公演記録鑑賞会」伝統芸能情報館 12 回、文楽劇場 12 回、国立劇場おきなわ 5 回  
「能楽鑑賞講座」能楽堂 12 回
- ・ その他講座等普及活動の実施  
伝統芸能サロン（伝統芸能情報館、6 回）、能楽特別講座（能楽堂、1 回）、伝統芸能講座（文楽劇場、1 回）、沖縄伝統芸能講座（国立劇場おきなわ、4 回）
- ・ 鑑賞会、講座等の普及活動は計 53 回で参加者数 7,536 人（目標 5,790 人）を達成
- ・ 教員免許状更新講習を引き続き実施

《方針》

(公演記録の作成・活用)

- ・ 主催公演を中心に記録された録画・録音・写真等を適切に作成し、今後の伝統芸能の振興・普及に活用するため、閲覧・視聴に供する。

(公開講座等、普及活動の実施)

- ・ 伝統芸能に関する理解の促進と普及を図るため、公演記録鑑賞会や入門講座のほか、公演に合わせた関連講座等を適宜実施する。また、教員免許状更新講習も昨年に引き続き実施する。公演記録鑑賞会については過去の貴重な映像を選択する工夫をし、鑑賞者の増加に努める。

《業務実績詳細》

<1> 公演記録の作成・活用

1. 作成実績

区分	記録件数・内容
本館・演芸場	映像・音声・写真 65 公演、扮装図鑑 7 公演、文楽人形等 5 公演
能楽堂	映像・音声・写真 51 公演
文楽劇場	映像・音声・写真 15 公演、文楽人形等 5 公演
国立劇場おきなわ	映像・音声・写真 30 公演、小道具写真 3 公演

- ・ 公演内容に応じて、扮装図鑑・下座の附帳、文楽人形・小道具等の写真による記録を作成した。

2. 公演記録映像・音声の活用

- ・ 複製依頼のあった出演者・演出家等に、公演記録映像・音声を提供した。また、依頼に応じて、出版社・放送局等に複製物を提供した。
- ・ 能楽堂では、公開講座において、講演と合わせて公演記録映像を活用した。

3. 活用実績

(1) 視聴（映像資料及び音声資料）利用数総計：4,787 件（7,163 時間）

区分	一般	関係者(出演者等)	合計

本館	600件 (1,551時間)	323件 (456時間)	923件 (2,007時間)
能楽堂	1,502件 (2,838時間)	660件 (919時間)	2,162件 (3,757時間)
文楽劇場	25件 (38時間)	440件 (457時間)	465件 (495時間)
国立劇場おきなわ	330件 (193時間)	907件 (711時間)	1,237件 (904時間)

(2) 複製 (映像資料及び音声資料)

区分	関係者(出演者等)
本館	218件 (382時間)
能楽堂	171件 (207時間)
文楽劇場	154件 (390時間)
国立劇場おきなわ	53件 (73時間)

※ 複製は出演者等に対してのみ実施。

<2>公開講座等、普及活動の実施

1. 伝統芸能に関する理解の促進と普及を図るための講座等

会場	名称	区分	回数	参加者数	アンケートによる 有意義回答の割合
伝統芸能 情報館	伝統芸能サロン	実績	6回	1,153人	85.5%
		計画	6回	540人	
	公演記録鑑賞会	実績	12回	1,284人	91.9%
		計画	12回	1,080人	
能楽堂	能楽鑑賞講座	実績	12回	1,815人	84.2%
		計画	12回	1,800人	
	能楽特別講座	実績	1回	154人	83.5%
		計画	1回	100人	
文楽劇場	公演記録鑑賞会	実績	12回	1,908人	90.6%
		計画	12回	1,500人	
	伝統芸能講座	実績	1回	145人	96.1%
		計画	1回	50人	
国立劇場 おきなわ	公演記録鑑賞会	実績	5回	794人	74.5%
		計画	4回	600人	
	沖縄伝統芸能公開講座	実績	4回	283人	86.6%
		計画	4回	120人	
合計		実績	53回	7,536人	85.7%
		計画	52回	5,790人	

(伝統芸能情報館)

- ・ 主催公演の映像記録を使って公演記録鑑賞会を12回行った。5月、10月、11月において歌舞伎を取り上げ、人間国宝の女方の芸を上映した。4月、7月、3月には文楽を取り上げ、文楽劇場開場記念公演のほか、5月に引退した竹本住大夫の襲名演目などを上映した。また、8月は演芸場の開場記念公演、9月には声明、1月には民俗芸能を上映した。
- ・ 実演家や研究者を招いて行う伝統芸能サロンは6回開催した。太神楽をテーマにした鏡味仙三郎氏による解説及び実演や、江戸(東京)と上方(大阪)の芸能の違いに関する木津川計氏による解説など、様々な芸能分野についての講演や解説を行った。

(能楽堂)

- ・ 公開講座として、「能楽鑑賞講座」を12回(各月1回)、展示と連携した「能楽特別講座」を1回(1月)開催した。
- ・ 能楽鑑賞講座では、上半期は「世阿弥以降の能作者たち」と題して室町時代の代表的な能作者を6回にわたり取り上げた。下半期は室町以降昭和に至るまでの能作者を6回にわたり取り上げた。
- ・ 能楽特別講座は、特別展示「松井文庫創立30周年記念 松井家の能」と連携して、松井文庫理事長・松井葵之氏の講演を行った。

(文楽劇場)

- ・ 公演記録鑑賞会は、文楽劇場開場30周年にふさわしく、文楽の名作の内から上半期は「義経千本桜」、下半期は「妹背山婦女庭訓」を取り上げ、文楽と歌舞伎で同一演目を上映することにより演出等の違いなどを際立たせてそれぞれの魅力を感じていただいた。
- ・ 伝統芸能講座は、9月13日からの企画展示「文楽の舞台」と関連させて大道具・小道具についての解説講座を実施、展示室に実際の舞台大道具を設置する体験型展示と相まって、通常では表に出てこない舞台裏を身近に感じていただき大変好評であった。

(国立劇場おきなわ)

- ・ 公演記録鑑賞会を5回(うち1回追加実施)開催したほか、伝統芸能に関わる研究や実演、資料の公開などを取り上げる沖縄伝統芸能公開講座を4回(5、7、11、1月)開催した。

2. 公演内容に対する理解の促進を図るための講座等

名 称	会場	日程	回数	参加者数
あぜくらの集い 国立演芸場開場 35 周年記念 五代目柳家小さん名演集と座談会	演芸場	6/27	1 回	234 人
9 月文楽公演 新作文楽スペシャル座談会 文楽×シェイクスピア!? 『不破留寿之太夫』 創作への道のり	本館小劇場	7/9	1 回	556 人
あぜくらの集い 「新野の雪祭り」の魅力	伝統芸能情報館 レクチャー室	10/2	1 回	103 人
あぜくらの集い 国立劇場 12 月歌舞伎公演「通し狂言伊賀越道中双六」を楽しむために	演芸場	10/21	1 回	288 人
あぜくらの集い 豊竹咲甫大夫を迎えて	伝統芸能情報館 レクチャー室	12/15	1 回	137 人
あぜくらの集い 「管絃-双調と黄鐘調-」から知る雅楽の世界	〃	1/20	1 回	125 人
あぜくらの集い 三味線と絹糸 一文楽を支えるものづくりー	〃	2/24	1 回	126 人
5 月舞踊・邦楽公演関連プレ講座「もっと知りたい!お囃子の世界〜道成寺の舞踊に関連して〜」	文楽劇場 小ホール	4/29	1 回	155 人
9 月特別企画公演関連プレ講座「四座講式と明恵上人」	〃	8/30	1 回	148 人
文楽のつどい 「かみなり太鼓」にちなんで	〃	6/25	1 回	152 人
文楽のつどい 「双蝶々曲輪日記」にちなんで	〃	10/21	1 回	140 人
文楽のつどい 「冥途の飛脚」ゆかりの地バスツアー	奈良県 橿原市・桜井市	12/17	1 回	45 人
文楽のつどい 「一谷嫩軍記」「二代目吉田玉男襲名」にちなんで	文楽劇場 小ホール	3/25	1 回	151 人
国立劇場おきなわ 11 月企画公演 アジア・太平洋地域の芸能「宮古の神歌と韓国・珍島シッキムクッ」 『シッキムクッ』を10倍楽しむ特別講座」	国立劇場おきなわ 大劇場	11/15	1 回	175 人

3. 教員免許状更新講習

学校教育の現場における伝統芸能普及の裾野を広げることを目的とした「教員免許状更新講習」を実施(本館、7月21日～24日)、体系的に伝統芸能の知識を身につけることができるよう、全19時間の講習を、各種芸能に関する講義・公演見学(歌舞伎鑑賞教室)・舞台見学・邦楽(義太夫節)の実演体験等で構成し、免許の更新期限を迎える現職教員等80名が受講した(定員80名)。講習の実施に当たっては、大学教員、実演家等の外部講師による講義を拡大し、内容の充実を図った。

4. 組踊普及のためのDVD及び展示パネル等の活用

組踊等の沖縄伝統芸能の普及のため、沖縄県と共催で「国立劇場おきなわ連携活用事業」とする組踊と琉球舞踊の県内巡回公演を行った(11月1日・金武町中央公民館、3月22日・北谷町・ちゃたんニライセ

ンター、3月29日・宮古島・マティダ市民劇場)。この公演に合わせて、各劇場ロビーでは組踊の紹介を中心とした展示を行った。

《数値目標の達成状況》

- 【講座等の実施状況】実績53回／目標52回（達成度101.9%）
- 【講座等の参加者数】実績7,536人／目標5,790人（達成度130.2%）
- 【講座等の満足度】実績85.7%／目標80%（達成度107.1%）

《自己点検評価》

- 自己評定
- ・ 総合評定

B
---

(根拠)

- ・ 公演記録の作成について、計画どおり実施した。
  - ・ 公開講座は、各館において目標参加者数を達成した。またアンケートにおいても有意義回答の割合が目標を達成した。
  - ・ 伝統芸能サロンや、文楽劇場の公演記録鑑賞会及び伝統芸能講座等においては、目標を大幅に上回った。
  - ・ 教員免許状更新講習を計画どおり実施し、定員上限の80名が受講した。また、大学教員、実演家等の外部講師による講義を拡大し、内容の充実を図った。
- 良かった点・特色ある点
    - ・ 伝統芸能サロン6講座は、どの講座も目標参加者数を大幅に超え、計画を達成することができ、外部の評価も概ねよかった。公演記録鑑賞会も目標参加者数を超えることができた。
    - ・ 伝統芸能サロンの「芸をつなぐー狂言ー」(6月27日)、「柳原白蓮を語り続けて」(10月11日)、吉田玉女・山川静夫が語る「吉田玉男の芸と人」(3月17日)では、実演が後方の入場者にも見えるための工夫として、所作台を設置しその上で演技を行った。
    - ・ 伝統芸能講座「文楽の舞台」(10月27日)を、企画展示「文楽の舞台」(9月13日～11月24日)と連動させて開催し、文楽の舞台に対する興味を一層喚起することができた。
    - ・ 国立劇場おきなわの公演記録鑑賞会は、募集定員を超える参加があったため、同内容の鑑賞会を追加で実施した(6月11日、18日)。
    - ・ 「国立劇場おきなわ連携活用事業」による県内の出張公演では、併せて展示を行って普及効果を高めた。人気マンガ家の大城さとし氏の「マンガ劇場」(マンガパネル)では組踊の物語7編を紹介し、子供たちに好評であった。また、3月22日北谷町のちゃたんニライセンターの公演では、オープンスペースを利用した展示だったことから、公演本番の5日前より公開し、普及効果を高めた。
  - 見直し又は改善を要する点
    - ・ 伝統芸能サロンの参加は先着順としているが、企画内容によっては定員を上回り入場できない希望者があった。参加希望者のニーズに応えるとともに、伝統芸能サロンの円滑な運営のため、今後の希望者の状況を踏まえながら適切な応募方法等の検討を行うこととする。

## 4- (2) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

## 《中期計画の概要》

- 4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用
- (2) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用
- ア 上演作品等についての資料調査
- イ 図書、資料等の収集及び分類整理、閲覧、貸与
- ウ 収集した資料等の展示公開
- ・ 新国立劇場内 年2企画程度
  - ・ 舞台美術センター資料館 年1企画程度
- (3) 公演記録の作成・活用、普及活動の実施
- ア 演技・演出等の記録の作成・保存、閲覧・視聴
- イ 公演記録映像の鑑賞会等を開催による有効活用
- ウ 講座、展示等の実施

## 《年度計画の概要》

- 4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用
- (2) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用
- ア 新国立劇場で上演する現代舞台芸術の主催公演等に関し、上演作品等についての資料調査を実施
- ① 海外戯曲の翻訳に関する調査を実施し、調査結果を活用
  - ② 主催公演の実施に当たり、民間出版社と連携して新訳戯曲を刊行
  - ③ 海外の主要劇場等の情報を収集・活用、公開  
各国主要劇場の概要を公演プログラムに記載、公開
  - ④ 主催公演の公演記録映像、写真、舞台演出・美術資料などについて整理・保存
- イ 現代舞台芸術に関する図書、資料等の収集及び分類整理、閲覧のために提供、他の劇場施設等への貸与
- ① 開架図書の充実、一般利用の促進
  - ② 図書等の情報のデータベース化
  - ③ 過去の寄贈資料の情報のデータベース化
- ウ 収集した資料等を、別表8のとおり展示公開
- (3) 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施
- ア 主催公演を中心に演技・演出等の記録を録音・録画・写真等により適切に作成・保存し、閲覧・視聴のために提供
- イ 公演記録映像を鑑賞会、講座・レクチャー等で活用
- ウ 公開講座等、普及活動の実施
- ① 公開講座等を別表9のとおり実施  
広報活動の強化  
アンケート調査の実施、目標満足回答率80%以上
  - ② 公演の実施にあわせた関連講座、展示等を適宜実施、適宜ホームページ等で公開
  - ⑤ オンラインコンテンツ「現代舞台芸術入門オンラインツアー」の公開

## 《主要な業務実績》

1. 現代舞台芸術の調査研究
  - ・ 戯曲等に関する調査を行い、その成果として、現代舞台芸術入門講座を12講座開催
2. 現代舞台芸術の資料の収集・活用
  - ・ 現代舞台芸術に関する図書資料・視聴覚資料等を収集、分類整理
  - ・ 舞台美術センター及び新国立劇場内において、展示公開を計画どおり実施
  - ・ 外部専門家と担当職員による委員会において、情報センターの今後の方向性について検討

3. 公演記録の作成・活用、普及活動の実施

- ・ 主催公演を中心に、録音・録画・写真等による記録を作成
- ・ 情報センター閲覧室にて、主催公演の公演記録映像を追加公開
- ・ 舞台美術センター資料館及び情報センターにおいて、DVD 現代舞台芸術鑑賞会及び現代舞台芸術入門講座を計画どおり実施（計 42 回）、参加者数 2,305 人（目標 1,810 人）を達成

《自己点検評価》

○ 自己評価

・ 項目別評価

現代舞台芸術の 調査研究	資料の収集・活用	公演記録の作成・活用、 普及活動の実施
B	B	B

・ 総合評価

B
---

(根拠)

- ・ マンスリー・プロジェクト（現代舞台芸術入門講座）の来場者数が年度計画目標を大きく上回った（達成度121.3%）。
- ・ 舞台美術センター及び新国立劇場内での展示公開を計画どおり実施した。
- ・ 公開講座等について、有意義回答の割合が97.5%となり、80%の目標を上回った。
- ・ 外部専門家と担当職員による委員会において、情報センターの今後の方向性についての検討を開始した。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ マンスリー・プロジェクト（現代舞台芸術入門講座）の来場者数が、年度計画の目標を大きく上回った。
- ・ 公演記録映像の閲覧室の視聴について、公演記録映像の編集終了後、速やかに公開しつつ、公開の可否についても利用者にとできるだけ早く告知した。
- ・ 「新国立劇場情報センターの在り方に関する検討委員会」を設置、開催し、情報センターの機能、主催公演の上演資料等の保存方法、データベースの作成等についての検討を開始することができた。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 演劇公演のプログラムに掲載している海外の演劇祭に関する情報等、調査研究の有益な成果をより有効に活用すべく、公開方法について検討したい。
- ・ 情報センターがより効果的、効率的に活動できるように、財団内や新しく設置した委員会で検討するとともに、他団体や大学との連携協力についても積極的に検討したい。

## 4-(2)-① 現代舞台芸術の調査研究

## 《主要な業務実績》

- ・ 戯曲等に関する調査を行い、その成果として、現代舞台芸術入門講座を12講座開催
- ・ 民間出版社と連携し、戯曲や普及出版物を刊行
- ・ 海外の劇場や演劇祭等についての調査研究の成果を公演プログラムやホームページで広く発信
- ・ 主催公演に関する資料等について整理・保存及び活用

## 《方針》

- ・ 戯曲等に関する調査を行い、その成果として、各種講座、トークイベント、ワークショップ等を開催し、ホームページ等によって広く公開する。
- ・ 主催公演の実施にあたり、観客の作品内容への理解を促進するため、外部出版社と連携して新訳戯曲等を刊行する。
- ・ 海外の主要劇場等に関する調査を行い、その概要を公演プログラムやホームページで広く公開する。
- ・ 主催公演に関する資料等について、引き続き整理・保存を行い、活用を図る。

## 《業務実績詳細》

## 1. 海外戯曲の翻訳に関する調査研究・活用

宮田慶子演劇芸術監督及び3名の企画サポート委員による「企画サポート会議」を定期的で開催した。その成果として、下表のとおり、演劇へ多角的にアプローチするイベント「マンスリー・プロジェクト」を開催し、その概要をホームページで公開した。

日程	内容	参加者数
4/5・12	ワークショップ「リーディングをやるみる？」	36人 32人
5/24	トークセッション「シェイクスピアは同時代人？」	361人
6/18	トークセッション「中上健次の“劇”世界」	108人
7/12	演劇講座 シリーズ「世界の演劇の今」Ⅴーアメリカー	117人
8/2	ワークショップ 「プチ・ミュージカルをやるみる？」	25人
9/13	演劇講座「三文オペラの魅力」	224人
10/12	トークセッション「二人芝居ー対話するカー」	204人
11/12	演劇講座 シリーズ「世界の演劇の今」Ⅵーカナダー	90人
12/6	ワークショップ「リーディングをやるみる？」	36人
1/9・10	演劇講座 シリーズ「日本の戯曲」Ⅰ ー岸田國士、久保田万太郎、森本薫ー	62人 64人
2/27・28	演劇講座 シリーズ「日本の戯曲」Ⅱ ー清水邦夫、別役実、つかこうへいー	95人 84人
3/27・28	演劇講座 シリーズ「日本の戯曲」Ⅲ ー竹内統一郎、鐘下辰男、マキノノゾミー	51人 60人
	12講座	1,649人

## 2. 新訳戯曲等出版物の刊行

- ・ 民間出版社と連携して下記戯曲を刊行した。
  - ・ 2013/2014 シーズン演劇公演「十九歳のジェイコブ」（「悲劇喜劇」平成26年7月号）
  - ・ 2013/2014 シーズン演劇公演「永遠の一瞬」（「悲劇喜劇」平成26年8月号）
  - ・ 2014/2015 シーズン演劇公演「三文オペラ」（光文社古典新訳文庫）

- ・2014/2015 シーズン演劇公演「ご臨終」(彩流社)
- ・現代舞台芸術に関する調査研究を主催公演と連動したテーマで行い、その成果を活かした下記普及出版物を刊行した。
  - ・「日本の現代舞踊のパイオニア ―創造の自由がもたらした革新性を照射する―」
- ・現代舞台芸術に関する調査研究の成果を記事として掲載する下記公演プログラムを作成した。
  - ・オペラ 10冊
  - ・バレエ 6冊
  - ・演劇 8冊

### 3. 海外の主要劇場等の情報収集・活用

- ・5カ国(インドネシア、ベトナム、タイ、香港、台湾)の劇場、及び4カ国(ドイツ、スコットランド、カナダ、フランス)の演劇祭についての調査研究の成果を、公演プログラム(8冊)やホームページに掲載し、広く発信した。
- ・国内外の劇場の組織、職員数、公演入場率、財政等について、劇場のホームページや年報等の情報を基に調査・比較を行った。

### 4. 公演記録の整理・保存

ポスターなどの主催公演資料を管理システムに登録した。

《自己点検評価》 \_\_\_\_\_

○ 自己評定

・総合評定

B
---

(根拠)

- ・マンスリー・プロジェクト(現代舞台芸術入門講座)の来場者数が年度計画目標を大きく上回った(達成率121.3%)。
- ・演劇公演に際して、民間出版社と連携し、計画どおり戯曲を刊行した。
- ・海外の主要劇場等に続き、海外の演劇祭についても調査を開始し、その成果を広く公開した。

○ 良かった点・特色ある点

- ・マンスリー・プロジェクト(現代舞台芸術入門講座)において、リーディングやミュージカルを体験するワークショップや、主催公演と連動したトークセッションや演劇講座等、企画に工夫を凝らし、年度計画の目標来場者数(1,360人)を大きく上回った。
- ・演劇主催公演8公演のうち4公演について、民間出版社と連携し戯曲を刊行することができた。
- ・海外の主要劇場等の調査に続き、海外の演劇祭についても調査を開始し、その成果を公演プログラムで発信した。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・海外の演劇祭に関する情報等の調査研究の有益な成果をより有効に活用すべく、公開方法について検討したい。

## 4-(2)-② 現代舞台芸術の資料の収集・活用

《主要な業務実績》 \_\_\_\_\_

### 1. 資料の収集と公開

- ・現代舞台芸術に関する図書資料・視聴覚資料等を収集、分類整理
- ・開架図書、インターネット検索機能の充実を図る取組を実施
- ・主催公演等のポスターを引き続き登録し、収録情報をホームページで公開
- ・外部専門家と担当職員による委員会を設置、開催し、情報センターの機能、主催公演の上演資料等の保存方法、データベースの作成等について検討

## 2. 展示公開

- ・ 舞台美術センター及び新国立劇場内において展示公開を実施

### 《方針》

- ・ 現代舞台芸術に関する資料、主催公演の上演情報等を収集、分類整理して、公演の実施に活用し、閲覧に供する。
- ・ 開架図書を充実させ、ホームページ等での所蔵資料検索サービスを提供する。
- ・ 図書資料、公演関連資料等について管理システムに登録する。
- ・ 収集した資料等を情報センター、舞台美術センター等において展示公開する。実施にあたっては来場者の利便性の向上と広報活動の強化を図る。

### 《業務実績詳細》

#### <1> 資料の収集と公開

##### 1. 収集・閲覧等

区分	収集	活用
新国立劇場情報センター	収集図書：5,167冊 収集視聴覚資料：500件	閲覧室利用者数：30,045人（開室292日） うち、ビデオブース利用者数：2,561人 ビデオシアター利用者数：3,388人 図書貸出件数：597件
舞台美術センター資料館	—	利用者数：787人（開室280日） うち、AVコーナー利用者数：170人

##### 2. 情報センター等の利用促進

- ・ 情報センターにおいて、主催公演の公演内容にあわせ、プログラムや関連書籍を開架資料とするなど、観劇の一助となる情報を提供した。
- ・ 公演の開催日は開室日とするなど、閲覧室の休室日を調整し、利用者の利便性を高めた。
- ・ 舞台美術センター資料館については、地元の新聞社、ケーブルテレビ、地域広報誌等の協力を得て、その事業を広く周知した。

##### 3. 図書資料管理システムのデータベースの充実

単行本、台本、上演資料集等の図書資料を新たに登録し、公演の充実に資するとともに、収蔵情報をホームページで公開した。

##### 4. 所蔵品管理システムへの登録

映像資料、ポスター（主催公演等112件）、展示衣裳・小道具等の資料を新たに登録し、公演の充実に資するとともに、収蔵情報をホームページで公開した。

#### <2> 展示公開

##### 1. 展示公開の実績

展示室	企画数	開催日数	来場者数	
			実績	計画
舞台美術センター	4回	280日	787人	900人
新国立劇場内	5回	292日	—	—

- ・ 舞台美術センターでは、常設展のほか企画展として「ヴェルディ&ワーグナー生誕200年記念展」「シェイクスピア生誕450年記念展」を実施した。
- ・ 新国立劇場内では、常設展のほか企画展として「新国立劇場のブレヒト」「情報センター所蔵書展示[パリの舞台俳優]」「日本の現代舞踊のパイオニア」を実施した。

##### 2. 他団体による展示

- ・ ノッティンガム・トレント大学で開催された英国舞台美術家協会による展覧会に、バレエ「パゴダの王子」の舞台衣裳（着ぐるみ）及び現代舞踊「CLOUD/CROWD」の舞台模型が展示された。（1/14～31）
- ・ 「INTO THE WOODS」の衣裳を、映画のプロモーションのために貸出した。

#### 【特記事項】

- ・ 外部専門家と担当職員により構成される「新国立劇場情報センターの在り方に関する検討委員会」を設置、開催し、情報センターの機能、主催公演の上演資料等の保存方法、データベースの作成等について検討した。

#### 《数値目標の達成状況》

- 【展示公開の実施状況（舞台美術センター）】実績 4 回／目標 4 回（達成度 100.0%）
- 【展示公開の来場者数（舞台美術センター）】実績 787 人／目標 900 人（達成度 87.4%）
- 【展示公開の実施状況（新国立劇場内）】実績 5 回／目標 2 回（達成度 250.0%）

#### 《自己点検評価》

- 自己評定
- ・ 総合評定

B
---

（根拠）

- ・ 舞台美術センター及び新国立劇場内において、展示公開を計画どおり実施した。
  - ・ 新国立劇場が制作した作品の舞台衣裳及び模型が英国の展覧会で展示された。
  - ・ 外部専門家と担当職員による委員会を設置、開催し、情報センターの今後の方向性の検討を行った。
- 良かった点・特色ある点
    - ・ 新国立劇場内及び舞台美術センターにおける展示公開に加え、新国立劇場が制作した作品の舞台衣裳及び模型が英国の展覧会で展示された。
    - ・ 今年度設置した「新国立劇場情報センターの在り方に関する検討委員会」では、外部専門家と担当職員が主催公演の上演資料等の保存方法やデータベースの作成等について意見を交わし、今後の方向性の検討を行うことができた。
  - 見直し又は改善を要する点
    - ・ 舞台美術センター資料館への来場者数は目標を下回った。これまでも様々な工夫を行ってきたが、極めて悪いアクセス環境及び著しい人口減少のため厳しい状況となっている。舞台美術センター資料館の活用方法について検討を行いたい。

#### 4-(2)-③ 公演記録の作成・活用、普及活動の実施

##### 《主要な業務実績》

1. 公演記録の作成・活用
  - ・ 主催公演を中心に、録音・録画・写真等による記録を作成
  - ・ 主催公演の公演記録映像のデータベース化を実施
  - ・ 主催公演の公演記録映像を情報センター閲覧室にて追加公開
  - ・ 新国立劇場ホームページにて、開場以降ほぼ全ての公演に関して、公演記録写真及び公演情報等を公開
2. 公開講座等、普及活動の実施
  - ・ 舞台美術センター資料館において現代舞台芸術入門講座として舞台美術センター コンサートを実施（1 日・2 回、参加者数 286 人）
  - ・ 舞台美術センター資料館において DVD 現代舞台芸術鑑賞会を実施（12 回、参加者数 80 人）
  - ・ 新国立劇場において現代舞台芸術入門講座として「マンスリー・プロジェクト」を実施（12 講座 16 回、参加者数 1,649 人）
  - ・ 情報センターにおいて DVD 現代舞台芸術鑑賞会を実施（12 回、参加者数 290 人）

- ・ 公演内容に対する理解の促進を図るため、上演に合わせてオペラトーク、シアタートーク等を実施（13件）
- ・ 公演記録映像を利用して、団体観劇者・学校・劇場見学者を対象に、公演観劇前のレクチャーや劇場見学を情報センター・ビデオシアターで実施（32件 736名）

#### 《方針》

- ・ 主催公演を中心に、録音・録画・写真等による記録を作成し、閲覧・視聴に供する。また、過去の上演作品および関連情報について、著作権処理や違法コピー対策等を行った上で、常時来場者に向けて公開する。
- ・ 公演記録映像について、鑑賞会を開催するとともに、企業・学校等の団体鑑賞及びオペラ・バレエ鑑賞教室における事前レクチャーでの利用、各国の劇場関係者及び学校等の施設見学や舞台技術研修での上映、DVDの作成など、現代舞台芸術の普及のために活用を図る。

#### 《業務実績詳細》

##### <1>公演記録の作成・活用

###### 1. 公演記録映像の作成

主催公演を中心に、録音・録画・写真等による記録を作成した（36公演 45件）。

主催公演の公演記録映像のデータベース化を行った（54件）。

###### 2. 公演記録の活用

###### (1) 公演記録映像の公開

###### ・ 記録映像

主催公演の公演記録映像を情報センター閲覧室にて追加公開した（62公演 81件）。

###### ・ 記録写真

ホームページに「舞台写真・公演記録」ページを設け、平成9年の開場以降ほぼ全ての主催公演の公演記録写真を追加公開した（45公演）。

###### ・ 公演記録写真を雑誌社、放送局等へ貸出した（17件）。

###### (2) 外部制作会社等との連携によるDVDの作成等

該当なし

##### <2>公開講座等、普及活動の実施

###### 1. 現代舞台芸術に関する理解の促進と普及を図るための講座等

会場	名称	区分	回数	参加者数	アンケートによる 有意義回答の割合
舞台美術 センター	現代舞台芸術入門講座	実績	2回	286人	98.4%
		計画	2回	200人	
	DVD 現代舞台芸術鑑賞会	実績	12回	80人	—
		計画	12回	70人	
新国立 劇場	現代舞台芸術入門講座 ※マンスリー・プロジェクトとして既出	実績	16回	1,649人	97.2%
		計画	16回	1,360人	
	DVD 現代舞台芸術鑑賞会	実績	12回	290人	97.1%
		計画	12回	180人	
合計		実績	42回	2,305人	97.5%
		計画	42回	1,810人	

- ・ 現代舞台芸術入門講座（舞台美術センター資料館）

現代舞台芸術の理解の促進と普及を図るという観点から、現代舞台芸術の展示・公開に加えて、舞台美術センター資料館の入館券の購入者（高校生以下、65歳以上及び心身障害者は無料）を対象にコンサートを実施した。

舞台美術センター コンサート「銚子!?!のいい仲間たち」  
 日程：10月23日 11:30(一般)／14:00(銚子第七中学校貸切)  
 出演：新国立劇場合唱団員4名  
 場所：新国立劇場舞台美術センター資料館 1F展示ホール  
 来場者数：286名

2. 公演内容に対する理解の促進を図るための講座等

内 容	名 称	回数	参加者数
オペラ関連	オペラトーク「パルジファル」、2015/2016 シーズンオペラ 演目説明会	2回	500人
バレエ・ 現代舞踊関連	2015/2016 シーズンバレエ&ダンス演目説明会	1回	300人
演劇関連	シアタートーク(「マニラ瑞穂記」「テンペスト」「十九歳の ジェイコブ」「永遠の一瞬」「三文オペラ」「ブレス・オブ・ ライフ」「ご臨終」「星ノ数ホド」)、ちょこっとトーク「テ ンペスト」(2回)、スペシャルトーク「三文オペラ」、作家 ×演出家対談「ご臨終」	12回	3,430人

- ・ 公演記録映像を利用して、団体観劇者・学校・劇場見学者を対象に、公演観劇前のレクチャーや劇場見学を情報センター・ビデオシアターで実施した(32件736名)。

3. 現代舞台芸術の普及のための公演関連映像の公開等

映像でわかりやすく伝えるオンラインコンテンツ「オペラのつくりかた」「バレエのつくりかた」「演劇のつくりかた」を引き続き新国立劇場のホームページで公開し、現代舞台芸術の魅力をより多面的に、幅広い層に向けて発信した。

《数値目標の達成状況》

- 【講座等の実施状況】実績42回／目標42回(達成度100.0%)
- 【講座等の参加者数】実績2,305人／目標1,810人(達成度127.3%)
- 【講座等の満足度】実績97.5%／目標80%(達成度121.9%)

《自己点検評価》

○ 自己評定

・ 総合評定

B

(根拠)

- ・ 公演記録の作成及びデータベース化を計画どおり実施した。
  - ・ 公開講座について、参加者数と有意義回答の割合が目標を達成した。
- 良かった点・特色ある点
- ・ 公開講座について、参加者数と有意義回答の割合が目標値を大きく上回った。
  - ・ 公演記録映像の閲覧室の視聴について、公演記録映像の編集終了後、速やかに公開しつつ、公開の可否についても利用者にできるだけ早く告知した。
- 見直し又は改善を要する点
- ・ 限られた予算の中で効果的な活動内容となるよう、参加者の要望などを参考にしつつ、引き続き検討していきたい。

## II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 p.157

- 効率化に関する取組 p.160
  - 情報システムの活用 p.160
  - 事務手続きの簡素化 p.161
  - 省エネルギー、リサイクルの推進 p.161
  - 組織機構の在り方の検討 p.162
  - 保有資産の有効活用 p.164
  - 内部統制の充実・強化 p.165
  - 効率化に関する目標の達成状況 p.167
- 給与水準の適正化 p.168
- 契約の適正化 p.169



## II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

### 《中期計画の概要》

#### II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

- 1 劇場利用者等へのサービスその他の業務の質の向上を考慮しつつ、次の取組を行い、事務及び事業の改善を図る。
  - (1) 一般管理費等の削減
 

運営費交付金を充当して行う業務について、平成24年度予算を基準として中期目標期間中に、退職手当、特殊要因経費を除き、一般管理費などの事務的経費については15%以上、事業費についても毎事業年度につき1%以上の効率化を図る。
  - (2) 効率化に関する取組
    - ア 効率的な情報システムの整備による各事業の効果的・効率的な運営の支援
    - イ 手続きの簡素化等による業務運営の効率化及び利用者の利便性の向上
    - ウ 国立劇場等の管理運営業務について、外部委託の範囲拡大による経費削減
    - エ 省エネルギー、廃棄物減量化、リサイクル、ペーパーレス化等の推進
  - (3) 給与水準の適正化等
 

役職員の給与について、国家公務員の給与見直しの動向を見つつ、必要な措置を講ずる。給与水準については、適正化に関する検証結果や取組状況について公表する。
  - (4) 契約の適正化
 

契約については、原則として一般競争入札等によることとし、次の取組により、契約の適正化を推進する。  
また、その実施に当たっては、監事による監査を受けるとともに、財務諸表等に関する監査の中で会計監査人によるチェックを要請する。

    - ア 「随意契約見直し計画」に基づく取組を着実に実施、その取組状況を公表
    - イ 一般競争入札等により契約を行う場合であっても、特に企画競争や公募を行う場合には、競争性、透明性が十分確保される方法により実施
  - (5) 組織機構の在り方の検討
 

業務運営の効率化等の進捗状況を踏まえ、組織機構の在り方について検討を行い、必要な措置を講ずる。
  - (6) 保有資産の有効利用
 

保有する劇場施設等の資産の一層の有効利用に資するための方策を検討・実施  
金融資産の適切な管理・運用
  - (7) 内部統制の充実・強化
    - ア 評価委員会において、組織、運営、事業などについて評価、評価結果の公表と組織の改善、事業の見直し、事務の改善等に反映
    - イ 人員・劇場等施設及び運営費交付金等を有効に活用し、理事長のマネジメントの強化や監査機能の充実について検討、検討結果の逐次活用
    - ウ 分かりやすく説明する意識を徹底、ホームページにおける情報アクセスを容易にするなど情報開示を推進法令等に基づき適切に情報を開示、適切な情報セキュリティ対策を推進

### 《年度計画の概要》

#### II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

- 1 業務運営の効率化を進めるため、次の措置を講ずる。
  - (1) 効率化に関する取組
    - ア 情報システムの活用
      - ① 業務システムの安定稼働  
新たなチケット販売システムの運用を開始
      - ② 情報セキュリティの強化
      - ③ ファイルサーバーに保管されているデータの調査・分析
    - イ 事務手続きの簡素化  
事務手続きの効率化、決裁事務の簡素化
    - ウ 契約の適正化
      - ① 「随意契約等見直し計画」に基づく契約の適正化、取組状況の公表

- ② 契約監視委員会による契約の点検、その結果を踏まえた見直しの実施
- ③ 電子入札を一部の案件で実施
- エ 省エネルギー、リサイクルの推進
  - ① 二酸化炭素 (CO2) の削減を推進
  - ② 事務所部分を中心とした光熱水量の節減
  - ③ 廃棄物の減量化
  - ④ ペーパーレス化
  - ⑤ 環境配慮物品等の調達を行い省エネルギー、リサイクルを促進
- (2) 給与水準の適正化  
 役職員の給与について、国家公務員の給与見直しの動向を見つつ、必要な措置を実施  
 適正化に関する検証結果や取組状況について公表
- (3) 組織機構の在り方の検討  
 人員配置など組織機構の在り方について検討、必要な措置を実施
- (4) 保有資産の有効利用  
 施設の適切な管理・運用  
 各劇場施設の使用効率の向上及び利用者の増加  
 金融資産の適切な管理・運用
- (5) 内部統制の充実・強化
  - ア 平成25年度の事業の実施結果について自己点検評価及び外部専門家からの意見聴取を実施
  - イ 上記の自己点検評価をもとに、評価委員会による、業務の実績に関する評価を実施  
 評価結果の公表、事業の見直し及び事務の改善等に反映
  - ウ 理事長がリーダーシップを発揮できる環境を整備、内部統制の充実・強化
  - エ 情報開示を推進、分かりやすく説明する意識を徹底  
 法令等に基づき適切に情報を開示、各職員の情報セキュリティ自己点検及び専門家による情報セキュリティ研修を実施

《主要な業務実績》

---

1. 効率化に関する取組

- ・ 助成業務システムについて、サーバー等機器更新及び機能追加改修
- ・ 各職員のセキュリティ自己点検に加え、専門家による情報セキュリティ研修を実施
- ・ 光熱水量の削減について、観劇環境や業務に支障のない範囲で節電対策を実施
- ・ 廃棄物について、引き続き減量化を図るとともに種別分別を徹底
- ・ 両面コピー、グループウェアの活用等によるペーパーレス化促進
- ・ 内部統制の充実・強化を図り、評議員会、公演専門委員会ほか外部専門家等の意見を事業に反映
- ・ 内部監査において現金取扱細則の運用状況を監査し、効率的な現金管理のため提言
- ・ 一般管理費は基準額である 24 年度運営費交付金予算額に対し 9%の効率化を達成、事業費は前年度からの繰越執行により前年度予算額に対し 1%増となったが、24 年度運営費交付金予算額に対し 4%の効率化を達成

2. 給与水準の適正化

- ・ 国家公務員の給与改定に倣い、給与の改定を実施
- ・ 俸給表の改定にあたって、世代間の給与配分の観点から若年層に重点をおきながら水準を引き上げ
- ・ 前年度の給与水準について、検証結果や取組状況について公表

3. 契約の適正化

- ・ 「随意契約等見直し計画」に基づく一般競争入札の取組状況に関し、「日本芸術文化振興会契約監視委員会」を開催し、改善点などを検討
- ・ 工事及び設計・コンサルティング業務について電子入札を実施
- ・ 一者応札・応募事案の事後点検体制として要因分析を実施

《自己点検評価》

---

○ 自己評価

・項目別評価

効率化に関する 取組	給与水準の 適正化	契約の適正化
B	B	B

・総合評価

B
---

(根拠)

- ・ 業務運営の効率化に関し、情報システムの活用、省エネルギー等の推進、組織機構の在り方の検討等について、必要な措置を講じた。
  - ・ 内部統制の充実・強化を図り、外部意見や評価結果等を事業に反映させた。また監事監査、内部監査を引き続き実施した。
  - ・ 給与水準及び契約について、確実な取組により適正化を推進した。
  - ・ 一般管理費、事業費の効率化を達成した。
- 良かった点・特色ある点
- ・ プログラム言語等の脆弱性対策を実施することにより、情報セキュリティを確保した。
  - ・ 省エネルギー、廃棄物の減量化に取り組んだ効果が現れた。文楽劇場では、冷温水発生機の稼働調整の工夫により、電気使用量を大幅に削減することができた。
  - ・ 機材等の整理を進め、今後の使用見込みを厳しく見極めて不要と判断される物の廃棄に努めた。
  - ・ 「随意契約等見直し計画」に基づき、引き続き競争性のある契約への移行を推進した。
- 見直し又は改善を要する点
- ・ プログラムの脆弱性対策について、発生の頻度、量ともに拡大していることから、それらの対策を前提とした調達や保守を検討する。
  - ・ 廃棄物の減量化に取り組む姿勢を堅持する。コピー枚数及び用紙購入枚数については、会議実施回数が増などにより増加したが、引き続き、両面コピー、グループウェアの活用等により、ペーパーレス化促進に努める。

## II-1 効率化に関する取組

### 《主要な業務実績》

1. 情報システムの活用
  - ① 業務システムの安定稼働
    - ・ 総合チケットシステムによる販売開始
    - ・ 助成業務システム機器及びシステムの更新
    - ・ 文化デジタルライブラリーシステムの改修
  - ② プログラム脆弱性対策の実施
  - ③ ファイルサーバーに保管されているデータの調査
  - ④ 情報セキュリティ対応の実施
2. 事務手続きの簡素化
  - ・ 内部監査において現金取扱細則の運用状況を監査し、効率的な現金管理のため提言
3. 省エネルギー、リサイクルの推進
  - ・ 光熱水量の削減について、観劇環境や業務に支障のない範囲で節電対策を実施
  - ・ 廃棄物について、引き続き減量化を図るとともに種別分別を徹底
  - ・ ペーパーレス化促進のため、両面コピー、グループウェアの活用等を実施
4. 組織機構の在り方の検討
  - ・ 国立劇場等大規模改修推進本部を設置し、国立劇場の大規模改修に向けた企画立案、計画、調整を実施
  - ・ 引き続き新入職員に対して公演業務に関する研修を実施するなど、専門性を確保
  - ・ 文楽技術室においては、複数年にわたる採用プログラムを作成し、技術を確実に継承
5. 保有資産の有効活用
  - ・ 「独立行政法人の職員宿舎の見直し計画」等に沿って、実物資産を適切に管理運営
  - ・ 各種金融資産について、適切に管理・運用を実施
6. 内部統制の充実・強化
  - ・ 内部統制の充実・強化を図り、評議員会、公演専門委員会ほか外部専門家等の意見を事業に反映
  - ・ 内部監査において現金取扱規則の運用状況を監査し、効果的な現金管理のため提言
  - ・ 国立劇場等大規模改修懇談会を開催
7. 効率化に関する目標の達成状況
  - ・ 一般管理費は基準額である24年度運営費交付金予算額に対し9%の効率化を達成、事業費は前年度からの繰越執行により前年度予算額に対し1%増となったが、24年度運営費交付金予算額に対し4%の効率化を達成

### 《業務実績詳細》

#### <1>情報システムの活用

- ① 業務システムの整備
  - ・ 総合チケットシステムについて、26年4月1日より新システムでの販売を開始し、利用者の利便性の向上を図った。
  - ・ 助成業務システムについてサーバー等機器の更新及びシステムの改修を実施し、業務の効率化を図った。
  - ・ 文化デジタルライブラリーコンテンツ「歌舞伎事典」を改修し、データ登録等の編集作業を可能にし、コンテンツの充実を図った。
  - ・ 老朽化した国立劇場メールマガジンシステムを再構築し、配信業務の安定化を図った。
- ② プログラム脆弱性対策
 

脆弱性情報の報告を受け、振興会内の全情報システムを調査し、以下の脆弱性対策を行い、情報セキュリティを確保した。

  - ・ Webサーバソフトウェア「Apache」、ホームページ作成用プログラム言語「PHP」、Webサーバー用ミドルウェア「MySQL」等のバージョンアップ
  - ・ 振興会ホームページのご意見フォーム及び文化デジタルライブラリーのお問い合わせフォームの改修
  - ・ グループウェアのバージョンアップ
  - ・ 「JAVA実行環境」について、業務上の必要性がないクライアント端末に関して、アンインストール

- ③ ファイルサーバーの最適化
  - ・ 情報資産の適正な管理・運用方法を策定するため、各館設置のファイルサーバーの状況を調査した。
  - ・ 国立能楽堂部及び国立文楽劇場部のファイルサーバーを移設し、格納する情報や情報システムのセキュリティ対策を行った。
- ④ 情報セキュリティへの対応
  - ・ 「情報セキュリティポリシー対策実施基準」に従い、計画課・経理課を対象に、財務会計等システムの情報セキュリティの対応状況について監査を実施し、指摘事項に対応した。
  - ・ 情報セキュリティ対策についての意識の向上を図るため、自己点検の実施に加え、専門家を招いて情報セキュリティ研修を行った。
- ⑤ ネットワーク障害対策
  - ・ 振興会 LAN 内スイッチングハブの障害時における通信停止時間短縮のため、スイッチングハブのスタンバイ機を設置した。

## <2>事務手続きの簡素化

マニュアル化、館内 LAN を介しての一斉通知等により、引き続き事務手続きの効率化に努めた。

現金取扱細則（26年1月1日施行）に基づく現金の管理については、施行後1年を機にマニュアル等の見直しを行っているところであるが、見直しに先立ち、内部監査において同細則の運用状況を監査し、効率的な現金管理のための提言を行った。

## <3>省エネルギー、リサイクルの推進

### 1. 光熱水量の節減 ※ 光熱水量は、食堂・売店等テナントの使用量を除く。

事 項	区 分	使用量	対前年度増減
電気	本館・演芸場	4,886,637kwh	△1.6%
	能楽堂	787,264kwh	△4.9%
	文楽劇場	1,640,984kwh	△16.7%
	合 計	7,314,885kwh	△5.7%
ガス	本館・演芸場	175,146 m <sup>3</sup>	△7.5%
	能楽堂	80,161 m <sup>3</sup>	△8.5%
	文楽劇場	126,008 m <sup>3</sup>	△8.1%
	合 計	381,315 m <sup>3</sup>	△7.9%
水道	本館・演芸場	35,123 m <sup>3</sup>	△2.4%
	能楽堂	6,365 m <sup>3</sup>	△8.9%
	文楽劇場	15,224 m <sup>3</sup>	△6.5%
	合 計	56,712 m <sup>3</sup>	△4.3%

- ・ 引き続き各館において、観劇環境や業務に支障のない範囲で以下の節電対策を行った。
  - ・ 執務室、会議室、通路等の照明を業務に支障のない範囲で間引き・減灯した。
  - ・ 事務所部分を中心に夏季の軽装を奨励するとともに、冷暖房の抑制（夏季ピーク時の制限、設定温度の制限）を実施した。
  - ・ 文楽劇場では、冷温水発生機の稼働調整の工夫により、電気使用量を大幅に削減することができた。

### 2. 廃棄物の減量化

事 項	区 分	処理量	対前年度増減
一般廃棄物	本館・演芸場	46,704kg	△12.9%
	能楽堂	6,525kg	△0.9%
	文楽劇場	20,112kg	△28.3%
	合 計	73,341kg	△16.9%
再利用廃棄物	本館・演芸場	40,707kg	△24.4%
	能楽堂	4,195kg	△28.3%
	文楽劇場	12,660kg	6.5%
	合 計	57,562kg	△19.6%
産業廃棄物	本館・演芸場	5,543kg	△21.1%

	能楽堂	3,180kg	△3.3%
	文楽劇場	6,320kg	33.6%
	合 計	15,043kg	△0.0%

- ・ 引き続き廃棄物の減量化に努めた。
  - ・ 廃棄物の減量化を図るため、種別分別を徹底したほか、自動販売機設置業者が事務所部分数ヶ所にペットボトル・缶等用のごみ箱を設置し、飲料メーカーの別なく自主回収している。
  - ・ 能楽堂では、再利用廃棄物処理量が前年度に比べて減っているが、これは前年度に過去の書類等をまとめて整理・廃棄したためである。
  - ・ 文楽劇場では、大阪市の分別回収の強化に伴い、観客用も含め分別用ゴミ箱を増設するなど、適正な廃棄物の処理を促進した。また、機材等の整理を進め、不要と判断される物の廃棄に努めたため、産業廃棄物が増加した。

### 3. ペーパーレス化

事 項	区 分	使用量	対前年度増減
コピー枚数	本館・演芸場	972,995 枚	8.6%
	事務棟	1,413,622 枚	13.7%
	伝統芸能情報館	249,306 枚	7.5%
	能楽堂	211,166 枚	5.3%
	文楽劇場	248,615 枚	△10.1%
	合 計	3,095,704 枚	8.7%
	うち管理部門	995,691 枚	8.1%
コピー用紙 購入枚数	本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館	3,316,000 枚	14.3%
	能楽堂	325,000 枚	0.5%
	文楽劇場	482,500 枚	7.0%
	合 計	4,123,500 枚	12.2%

- ・ 26年度は、新規部署の設置により、機器及び会議実施回数の増等から、事務棟におけるコピー枚数及び用紙購入枚数が増加した。引き続き、両面コピー、グループウェアの活用等によりペーパーレス化促進に努める。

### 4. グリーン購入法に基づく調達

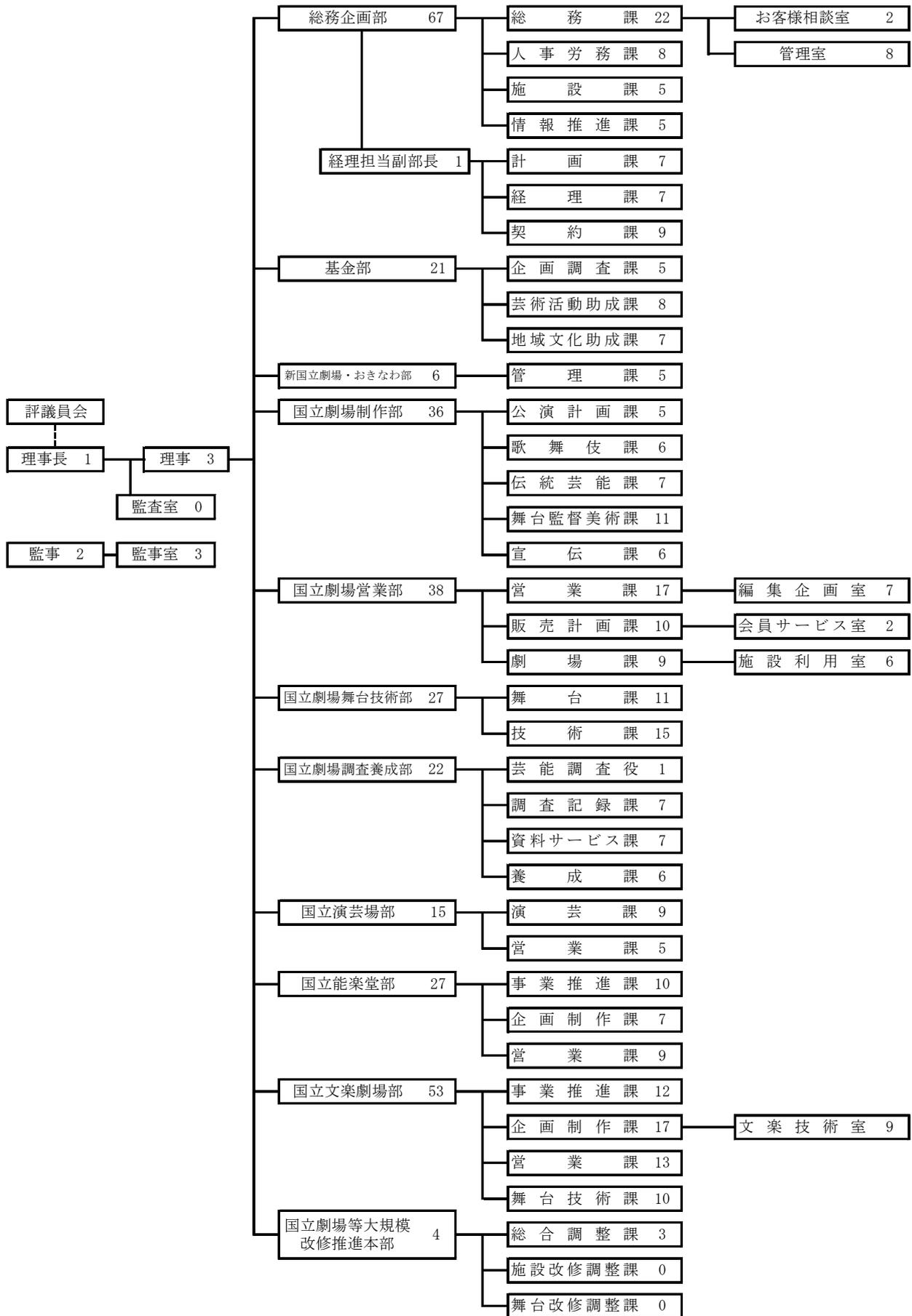
事務用消耗品を中心に、環境物品等の調達の推進を図るための方針に基づいた物品購入及び複合機の賃貸借を行い、可能な限り環境への負荷の少ない物品等の調達に努めた。

#### < 4 > 組織機構の在り方の検討

##### 1. 人員配置の検討、組織機構の在り方の検討

- (1) 26年4月に以下の組織改正を実施した。
  - ① 国立劇場等大規模改修推進本部の設置  
国立劇場等大規模改修へ向けた企画立案、計画、調整を行う。
  - ② 国立劇場営業部営業課及び販売計画課を改組し、会員サービス室を設置  
会員向けサービスをより充実させるなど積極的な会員業務を推進し、安定的な観客を確保するための体制を強化する。
- (2) 27年4月に以下の組織改正を実施することとした。
  - ① 監事室の設置  
監事を補佐し監査機能を強化する。
  - ② 監査室の設置  
内部監査を担当し、併せて内部統制の推進に係る総括及び管理に当たる。
  - ③ 国立文楽劇場部を改組し、文楽技術室を企画制作課に移管  
公演の企画、準備段階から、公演制作と文楽技術の間で公演情報を共有することで、公演制作と文楽技術を緊密とし文楽技術の経験と知識を公演制作に反映させるなどし、公演実施体制の強化を図る。

[組織図] ※ 数字は役員及び常勤職員数 (27年4月1日現在)



< 5 > 保有資産の有効活用

1. 実物資産の保有状況等

(1) 資産の概要と保有目的・利用状況

施設名 (数)	所在地	用途	保有目的及び利用状況
国立劇場 本館・演芸場(1)	東京都千代田区	劇場施設	伝統芸能の保存・振興を図るための拠点施設として設置され、伝統芸能の公開、伝承者の養成等の事業を安定的、継続的に実施するために必要な施設である。 26年度の稼働率の実績：P. 106～107 参照
国立能楽堂(1)	東京都渋谷区		
国立文楽劇場(1)	大阪府中央区		
国立劇場おきなわ(1)	沖縄県浦添市		
新国立劇場(1)	東京都渋谷区	劇場施設	現代舞台芸術の振興・普及を図るための拠点施設として設置されたものであり、現代舞台芸術の公演、実演家の研修等の事業を安定的、継続的に実施するために必要な施設である。 26年度の稼働率の実績：P. 106～107 参照
新国立劇場舞台美術センター(1)	千葉県銚子市	保管施設	現代舞台芸術の公演に必要な舞台装置・衣装等を保管し、新国立劇場におけるレパトリー公演を安定的、継続的に実施するために必要な施設であり有効に活用されている。
職員宿舎(8)	東京地区(7) 大阪地区(1)	職員宿舎	東京・大阪に事業所を保有しており、円滑な人事異動など業務上の必要から、安定的かつ継続的に職員宿舎を確保する必要があり、養成研修生の利用も含めた適切な管理運営を図っている。なお借上げ宿舎については23年度に6戸、24年度に3戸、25年度に1戸廃止した。保有宿舎については26年度に14戸廃止した。 保有宿舎全64戸（うち7戸を養成研修生が利用）、入居率は43.8%（27年4月末現在）。その他、借上宿舎が1施設(1戸)あり、入居率は100%。（大阪地区）

- ・ 「独立行政法人の職員宿舎の見直し計画」（24年4月3日行政改革実行本部決定）及び「独立行政法人の職員宿舎の見直しに関する実施計画」（24年12月14日行政改革担当大臣）に沿った見直しを進めている。23年度に6戸の借上げ宿舎を廃止したことに続き、24年度には東京地区の借上げ宿舎3戸、25年度には大阪地区の借上げ宿舎1戸、26年度には東京地区の保有宿舎14戸を廃止した。引き続き、宿舎の適切な管理運営に努めるとともに、入居者の円滑な退去等に配慮しつつ、職員宿舎の削減を図る。このため、宿舎の利用状況（27年4月末時点）は、全体（保有及び借上）で44.6%の入居率となっている。
- ・ 一部の宿舎については、養成研修生への貸与を実施している。
- ・ 26年度決算において、業務の実績等の状況からサービス提供能力の低下等減損事由に該当する実物資産はない。

2. 金融資産の保有状況

① 金融資産の名称と内容、規模

- ・ 有価証券 1,509,980,509 円
- ・ 投資有価証券 72,066,774,596 円
- ・ 長期性預金 2,200,000,000 円

② 保有の必要性（事業目的を遂行する手段としての有用性・有効性）

芸術文化振興基金については、芸術文化振興基金の運用の基本的考え方を踏まえ、毎年度芸術文化振興基金運用計画を策定し、長期的・安定的な運用を行っている。

政府出資金見合いの資金については、「政府出資金見合いの資金及びその運用に関する基準」に従い、伝統芸能の公開事業及び現代舞台芸術の公演事業を安定的に継続するため、可能な限り長期的な運用を行うこととしている。

③ 資産の売却や国庫納付等を行うものとなった金融資産の有無、取組状況

該当する金融資産はない。

### 3. 資金運用の実績

主な資金である芸術文化振興基金の運用実績はP. 10 を参照。

#### < 6 > 内部統制の充実・強化

##### 1. 自己点検評価の実施、外部専門家等からの意見聴取

###### ① 25 年度の業務実績に関する自己点検評価について

26 年 2 月～3 月 各公演専門委員会、事業委員会において事業に対する意見聴取を実施

26 年 3 月～4 月 各部において自己点検評価を実施

26 年 4 月～5 月 総務企画部計画課を中心に自己点検評価を取りまとめ

26 年 5 月 9 日 理事長により自己点検評価を決定

26 年 6 月 26 日 評議員会において、25 年度の業務の実績に関する評価を審議・決定

###### ② 25 年度の業務の実績に関する自己点検評価について

自己点検評価は膨大な作業量となるため、毎月の業務実施状況について定期的に役員会で報告するとともに、公演事業については四半期ごとに自己点検評価を実施して、作成業務の効率化と内容の充実を図った。

##### 2. 外部評価委員会における検討・評価、評価結果の公表・事業への反映

###### ① 評議員会の開催

第 35 回(6/26)、第 36 回(10/23)、第 37 回(3/26) の 3 回開催した。

議題等：25 年度評価及び 25 年度決算についての審議、25 年度評価結果についての報告、26 年度計画実施状況の報告、27 年度計画についての審議、国立劇場等大規模改修基本計画の審議等

###### ② 評価委員会の開催

25 年度第 2 回(5/13)、第 3 回(6/10)、第 4 回(6/20)、26 年度第 1 回(10/21) の 4 回開催した。

議題等：25 年度評価の実施、25 年度評価についての審議等

###### ③ 公演専門委員会、事業委員会、芸術文化振興基金運営委員会の開催

###### ・ 公演専門委員会

議題等：26 年度公演状況の報告、27 年度公演計画の説明、27 年度公演計画についての意見聴取等

歌舞伎公演専門委員会 2 回開催 (6/19・3/17)

文楽公演専門委員会 (本館) 2 回開催 (6/4・3/24)

舞踊公演専門委員会 2 回開催 (6/11・3/18)

邦楽公演専門委員会 2 回開催 (6/5・3/12)

雅楽・声明公演専門委員会 2 回開催 (6/5・3/17)

民俗芸能公演・琉球芸能公演専門委員会 2 回開催 (6/6・3/12)

大衆芸能公演専門委員会 2 回開催 (6/25・3/25)

能楽公演専門委員会 2 回開催 (2/10・3/10)

文楽公演専門委員会 (文楽劇場) 2 回開催 (5/27・2/26)

文楽劇場短期公演等専門委員会 2 回開催 (5/31・3/3)

###### ・ 事業委員会

議題等：25 年度評価結果の報告、26 年度の事業実施状況、27 年度事業計画についての意見聴取等

養成事業委員会 1 回開催 (3/25)

調査事業委員会 2 回開催 (6/9・3/25)

###### ・ 芸術文化振興基金運営委員会 3 回開催 (9/5・1/29・3/13)

議題等：25 年度事後評価結果の決定、27 年度審査基準・助成対象活動募集案内の決定、27 年度助成金の分野別配分予算案の決定、27 年度助成対象活動及び助成金交付予定額の決定等

###### ④ 国立劇場等大規模改修懇談会の開催

第 3 回 (1/30) の 1 回開催した。

議題等：国立劇場等大規模改修基本計画 (素案) についての意見聴取等

### 3. 内部統制の充実・強化

#### (1) 理事長がリーダーシップを発揮できる環境の整備

### ①役員会の開催

- 役員会を開催し、振興会の業務に係る重要事項を審議した（開催回数：22回）。

#### 【役員会における目標管理の状況】

- ・ 中期計画、年度計画の遂行に関わる、目標達成状況、収支状況、予算執行状況等を定期的に理事長に報告
- ・ 状況把握に基づき、理事長より各部署に改善等を指示
- ・ 各部署は対策を案出し、措置状況を役員会で報告

### ②情報伝達

- 理事長の経営方針等を、館内 LAN 等を介して全職員に周知した。
- 全役員及び総務企画部長による会合を役員会の前に実施し、情報共有を図った。
- 事故等発生時の際は、定められた方法により関係者間の情報共有、理事長への報告を行った。
- 利用者から寄せられた要望・苦情、それに対する回答内容を、月毎に集約して理事長に報告するとともに、館内 LAN を介して全職員に周知した。

## (2) 監査

### ①監事監査

定期監査、重要書類の回付等により業務の執行状況及び会計経理事務の処理状況を監査した。

#### <定期監査（業務監査及び平成 25 事業年度決算監査）>

- 監事監査計画提出（4月21日 提出先：理事長）
- 監査実施（5～6月）
- 監査報告書提出（6月18日 提出先：理事長）
- 意見書「平成 25 事業年度監事監査における検討希望事項」提出（12月15日 提出先：理事長）  
（検討希望事項 7件）
  - ・ 入札・契約について
  - ・ スペシャリストの育成の方策と課題について
  - ・ 人事労務管理について
  - ・ 新規事業の実施状況（内容及び成果）について
  - ・ 基金部の状況（助成）について
  - ・ 集客について
  - ・ 規程の整備

#### <監事の意見書への対応>

- 監事からの意見を受けて各部署で講じた措置状況を取りまとめ、監事に報告

### ②内部監査

内部監査要綱に基づき内部監査を実施した。本年度は、施行後1年を期にマニュアル等の見直しを行うこととしている現金取扱細則（26年1月1日施行）の運用状況を監査し、運用の効率化に向けた提言を行った。

- 内部監査計画の作成（12月1日 同日監事に通知）
- 監査実施（1～2月）
- 監査事項
  - ・ 勤務時間の管理状況（26年度分）
  - ・ 旅行命令、旅費の状況（26年度分）
  - ・ 法人文書の管理状況（25年度分）
  - ・ 物品・役務等、調達手続きの状況（25年度分）
  - ・ 物品の管理状況（25年度分）
  - ・ 現金取扱細則の運用状況
  - ・ 切手、はがき、乗車 IC カード（Suica 等）の管理状況
  - ・ その他必要な事項
- 監査報告書提出（3月16日 提出先：理事長 同日監事に写しを送付）
- 意見書「平成 26 年度独立行政法人日本芸術文化振興会内部監査結果に基づく事務処理の適正化及び改善を要する事項について」提出（監査報告書に添付）

### (3)情報開示の推進

- ホームページの情報掲載に当たっては、迅速な発信とともに、表現、掲載位置等を工夫し、より確実に情

報が伝わるよう努めた。

- 情報開示請求等に適切に対応するため、情報公開・個人情報保護制度の運用等に関する研修に職員を参加させた。

#### < 7 > 効率化に関する目標の達成状況

##### 1. 一般管理費

以下の数式により効率化の達成状況を計っている。

A: 平成 24 年度の一般管理費予算額 (退職手当を除く)

※運営費交付金算定の基礎となった額

B: 当該年度の一般管理費決算額 (退職手当を除く)

増減比率:  $(B-A) \div A$

(単位: 百万円、%)

区分	種別	26 年度
基準額 (A)	一般管理費	513
	人件費	537
	計	1,050
金額 (B)	一般管理費	250
	人件費	705
	計	955
増減比率		△9%

##### 2. 事業費

以下の数式により効率化の達成状況を計っている。

A: 前年度の事業費予算額 (退職手当を除く)

※運営費交付金算定の基礎となった額

B: 当該年度の事業費決算額 (退職手当を除く)

増減比率:  $(B-A) \div A$

(単位: 百万円、%)

区分	種別	26 年度
基準額 (A)	事業費	6,568
	人件費	1,813
	計	8,381
金額 (B)	事業費	6,583
	人件費	1,846
	計	8,429
増減比率		1%

※ 前年度からの繰越執行により前年度予算額に対し1%増となったが、24年度運営費交付金予算額 (8,751百万円) に対し4%の効率化を達成した。

《自己点検評価》 \_\_\_\_\_

- 自己評定

・ 総合評定

B

(根拠)

- ・ 情報システムの活用につき、計画どおり必要な措置を講じた。
- ・ 省エネルギー、リサイクルの推進に引き続き取り組んだ。光熱水量・廃棄物処理量を前年度よりも減らすことができた。
- ・ 国立劇場等大規模改修推進本部を設置したほか、国立劇場営業部営業課及び販売計画課を改組の上、会員サービス室を設置することで、業務運営の効率化を図った。

- ・ 内部統制の充実・強化を図り、外部意見や評価結果等を事業に反映させた。評議員会、評価委員会、公演専門委員会、事業委員会（調査、養成）、芸術文化振興基金運営委員会を計画どおり適切に開催し、さまざまな有用な意見を得た。また監事監査、内部監査を引き続き実施した。
- ・ 一般管理費、事業費の効率化を達成した。

#### ○ 良かった点・特色ある点

- ・ プログラム言語等の脆弱性対策を実施することにより、情報セキュリティを確保した。
- ・ グループウェアのバージョンアップにより、脆弱性対応及び機能強化による利便性の向上を図った。
- ・ 執務室内に設置のファイルサーバーを専用居室に移設したことにより就業環境の改善と情報セキュリティの強化が図られた。
- ・ 情報セキュリティ監査において、指摘事項の他システムへの水平展開を行い、システムを跨いだ運用管理を図った。
- ・ 省エネルギー、廃棄物の減量化に取り組んだ効果が現れた。文楽劇場では、冷温水発生機の稼働調整の工夫により、電気使用量を大幅に削減することができた。また機材等の整理を進め、今後の使用見込みを厳しく見極めて不要と判断される物の廃棄に努めた。
- ・ ペーパーレス化促進について、両面コピー、グループウェアの活用等に努めた。
- ・ 内部監査において現金管理に係る課題が把握され、マニュアル等の見直しに当たり有効な情報を得ることができた。
- ・ 外部専門家による各委員会等を開催し、意見等を事業に反映するよう努めた。

調査事業委員会は、新たに近世芸能及び浮世絵、近世文学、美術工芸の研究者を迎えた結果、調査事業に対しこれまでとは異なる視点による切り口の意見が得られるなど有意義であった。美術館運営の経験や、文学・芸能研究の専門的立場からの意見は、伝統芸能の調査・研究及び資料収集・活用業務において、貴重な意見である。

養成事業委員会は、歌舞伎、文楽、能楽、演芸という各研修ジャンルの専門家が一堂に会し、幅広い意見を聞くことができる貴重な機会となった。

国立劇場等大規模改修懇談会では、国立劇場等大規模改修基本計画（素案）について、さまざまな有用な意見を得た。

#### ○ 見直し又は改善を要する点

- ・ プログラムの脆弱性対策について、発生の頻度、量ともに拡大していることから、それらの対策を前提とした調達や保守を検討する。
- ・ 廃棄物減量化に取り組む姿勢を堅持する。コピー枚数及び用紙購入枚数については、会議実施回数の増などにより増加したが、引き続き、両面コピー、グループウェアの活用等、ペーパーレス化促進に努める。

## II-2 給与水準の適正化

### 《主要な業務実績》

- ・ 国家公務員の給与改定に倣い、給与の改定を実施
- ・ 俸給表の改定にあたっては、世代間の給与配分の観点から若年層に重点をおきながら水準を引き上げ
- ・ 27年度以降に実施する予定の給与改定の原資確保のため、27年1月の昇給を1号俸抑制
- ・ 前年度の給与水準に関する検証結果や取組状況について公表
- ・ 前年度の給与水準に対する文部科学大臣の検証結果は適正

### 《業務実績詳細》

#### 1. 給与水準に係る適正化に関する検証結果・取組状況の公表

- ・ 引き続き、国家公務員との給与の比較を行い、ホームページに「独立行政法人日本芸術文化振興会の役職員の報酬・給与等について」を掲載し、給与水準に係る適正化に関する検証結果及び取組状況を公表した（25年度ベース）。
- ・ ラスパイレス指数（※）は、105.5（地域・学歴勘案＝92.9）であり、地域・学歴を勘案した指数では国家公務員の水準未満であった。
- ・ また、全独立行政法人のラスパイレス指数は、104.6（地域・学歴勘案＝103.0）であり、当振興会の水準は、地域・学歴を勘案した指数では全独立行政法人の水準未満であった。

(※) ラスパイレス指数＝国の一般職俸給表適用者の給与を100としたときの給与水準の指数

<国からの財政支出>

支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合 75.2%

(国からの財政支出額 13,507 百万円/支出予算の総額 17,955 百万円 (25 年度予算) )

## 2. 効率的な事業遂行のための職員配置及び採用

人員配置については、各部長から要望を広く聞き、適切な人事異動を行うとともに、任期を定めた採用の強化等、人件費の抑制を踏まえた採用を実施した。

## 3. 人事・給与制度の検討

### (1) 国家公務員の給与改定に準じた役職員の給与改定

- ・ 国家公務員の給与改定に倣い若年層に重点を置きながら俸給表の水準を引き上げた (改定率0.3%)。
- ・ 同じく、賞与の支給月数を引き上げた (年間支給月数: 3.89 ヶ月→4.04 ヶ月)。引き上げ分は、勤務実績に応じた評価による給与支給の推進のため、勤勉手当に配分した。

### (2) 国家公務員の給与見直しに準じた給与制度の総合的見直しを実施することとした (27 年度以降)。

- ・ 俸給表の水準を引き下げ (改定率△2%)、地域手当を見直す。
- ・ 国家公務員の給与改定に倣い、単身赴任手当を引き上げる。
- ・ 55 歳を超える課長補佐級以上の職員に実施している減額支給措置 (△1.5%) は、経過措置終了後に廃止する。

《自己点検評価》

○ 自己評定

・ 総合評定

B

(根拠)

- ・ 役職員給与について、国家公務員給与の改定に倣い、給与の改定を実施した。
- ・ 前年度の給与水準について、検証結果や取組状況を公表した。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 東京、大阪の大都市に事務所があることや大学卒以上の職員の比率が高いことから、地域と学歴を勘案した対国家公務員比較指標は92.9であり、適正であると考えられる。

## II-3 契約の適正化

《主要な業務実績》

- ・ 「随意契約等見直し計画」に基づく一般競争入札の取組状況に関し、「日本芸術文化振興会契約監視委員会」において、定期的な契約の点検を実施し、報告書を理事長に提出
- ・ 入札参加の機会の拡大を図るため、ホームページ上の「調達情報」に仕様書のほか、セキュリティ面において公開することに問題があると判断されるものを除き、その他すべての資料を掲載
- ・ 工事及び設計・コンサルティング業務について、文部科学省文教施設企画部施設企画課契約情報室ホームページへ入札情報を掲載するとともに、電子入札を実施
- ・ 一者応札・応募事案の事後点検体制として要因分析を実施

《業務実績詳細》

### 1. 契約監視委員会の開催、「随意契約等見直し計画」に関する取組

- ・ 外部有識者を含めた委員による「日本芸術文化振興会契約監視委員会」(第11回、第12回)において、定期的な契約の点検を実施し、報告書を理事長に提出した。
- ・ 8月29日に第11回契約監視委員会を開催し、競争性のない随意契約、多数回入札となった案件を中心に点検審議を行い、高落札率の改善について検討した。
- ・ 12月4日に第12回契約監視委員会を開催し、25・26年度連続一者応札・応募等事案について点検を行い、一者応札・応募の改善等について検討した。

- ・ より競争性、透明性の高い入札・契約事務を実施することを目的として、20年度契約を基準として策定した「随意契約等見直し計画」のフォローアップを行い、公表した。

## 2. 契約内容及び入札方法の見直し等外部委託の推進

案件ごとに業務内容を精査し、以下のとおり契約方法を見直して、より効率的な外部委託を推進した。

(26年度契約からの移行業務)

- ・ 「平成26年度「国立文楽劇場友の会会報」の製造及び発送業務」(随意契約から一般競争入札に移行)
- ・ 「平成26年度国立文楽劇場構内清掃業務」(複数年契約から単年度契約に変更し、本館及び能楽堂と27年度から調達時期を合わせ、調達事務の効率化を図ることとした。)

また、業務の質的な面での特殊性を検証した上で適正な契約方法を検討し、以下のように実施した。

(26年度契約からの移行業務)

- ・ 「平成26年度国立文楽劇場構内で使用するガス」(一般競争入札から随意契約に移行)

(27年度契約からの移行準備を行った業務)

- ・ 「平成27・28年度国立劇場大劇場、小劇場及び国立演芸場舞台音響業務」(単年度から2年間の複数年契約へ移行)
- ・ 「平成27・28年度国立劇場大劇場、小劇場及び国立演芸場舞台照明業務」(単年度から2年間の複数年契約へ移行)
- ・ 「平成27・28年度国立劇場大劇場、小劇場及び国立演芸場の座席の設置・撤去業務」(単年度から2年間の複数年契約へ移行)
- ・ 「平成27・28年度国立劇場本館等舞台及び楽屋業務」(単年度から2年間の複数年契約へ移行)
- ・ 「平成27年度「義太夫年表」昭和編の編集・校正と資料調査に関する労働者派遣業務」(一般競争入札から随意契約へ移行し、労働者派遣から個人業務委託へ変更)

## 3. 入札機会の拡大

(1) 一者応札・応募をリストアップし、以下の見直しを行った。

① 仕様書の内容の見直し

- ・ 特定の業者しか参加することができない条件を見直す。

② 公告期間の見直し

- ・ 一般競争入札について、10日以上としている公告期間を10営業日以上確保する。
- ・ 公募については、20日以上としている公告期間を20営業日以上確保する。

③ 入札参加要件の緩和

- ・ 過去の請負実績等の条件を緩和する。

(2) 契約情報提供の充実

- ・ 入札公告などを劇場敷地内に掲示するとともに、入札機会の拡大を図るため、ホームページ上の「調達情報」に仕様書のほか、セキュリティ面において公開することに問題があると判断されるものを除き、その他すべての資料を掲載した。
- ・ 工事及び設計・コンサルティング業務について、文部科学省文教施設企画部施設企画課契約情報室ホームページへ入札情報を掲載するとともに、電子入札を導入している。

(3) 一者応札・応募事案の事後点検体制

仕様書を取り寄せる等調達に関心を示したが、応札を行わなかった業者に対してその理由を聴き取るなど、一者応札・応募となった要因分析を行い、一者応札・応募の改善を図った。

《自己点検評価》 \_\_\_\_\_

○ 自己評価

・ 総合評価

B
---

(根拠)

- ・ 確実な取組と不断の見直しを行い契約の適正化を推進した。

- 良かった点・特色ある点
  - ・ 「随意契約等見直し計画」に基づき、引き続き競争性のある契約への移行を推進した。その一方で、明らかに競争性のない特殊な案件については、契約監視委員会の了承を得た随意契約とする方向性を維持しつつ、有利性の観点から費用の低減に努めた。
  - ・ 入札情報入手の利便性向上を図るため、ホームページ（調達情報）に掲載する情報を公示するだけでなく、仕様書等も掲載することなどにより、一層充実させることができた。新規参入も含めた入札参加者の増加を図るため、23年から引き続き工事及び設計コンサルティング業務について、文部科学省文教施設企画部施設企画課契約情報室ホームページへ入札情報の掲載を行っている。
  - ・ 入札事務の効率化を図るほか、入札参加者の利便性向上のため、工事及び設計・コンサルティング業務について電子入札を導入している。
- 見直し又は改善を要する点
  - ・ 業務効率の向上、事務作業の軽減、経費の削減効果を得られることが見込まれる契約については、一本化や複数年での契約締結について引き続き検討していく。
  - ・ 入札辞退の理由について確認する体制に関し、仕様書・入札説明書等情報を入手後又は入札参加申請書提出後に参加を辞退する場合、辞退届の提出を求める等、できる限り理由を調査することを継続して行い、更に広く参加者を募るための参考とする。



### Ⅲ 財務内容の改善に関する事項

財務内容の改善に関する事項 p.172

- 財務状況 p.172
- 剰余金 p.174
- 運営費交付金債務 p.174
- 外部資金の獲得状況 p.175
- 短期借入金 p.175

### Ⅳ その他主務省令で定める業務運営に関する事項

その他主務省令で定める業務運営に関する事項 p.176

- 人事に関する計画 p.179
- 施設及び設備に関する計画 p.181
- 積立金の使途 p.183
- その他振興会の業務運営に関し必要な事項 p.184



### Ⅲ 財務内容の改善に関する事項

《中期計画》

#### Ⅲ 予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画および資金計画

収入面に関しては、実績を勘案しつつ、国民の鑑賞機会の確保と芸術活動の独創性等に十分留意した上で劇場入場料等自己収入の増加を図ることや税制措置を活用した寄附金の確保等により、計画的な収支計画による運営を図る。

また、管理業務の効率化を進める観点から、各事業年度において、適切な効率化を見込んだ予算による運営に努める。

《方針》

収入面に関しては、実績を勘案しつつ、外部資金等を積極的に導入することにより、計画的な収支計画による運営を図る。また、管理業務の効率化を進める観点から、各事業年度において、適切な効率化を見込んだ予算による運営を図る。

《業務実績詳細》

#### 1. 財務状況

##### (1) 予算

(単位：千円)

区分	計画額	実績額	増△減
収入			
運営費交付金	9,434,113	9,434,113	0
文化芸術振興費補助金	3,742,472	3,721,801	△ 20,671
施設整備費補助金（注1）	1,931,030	1,366,180	△ 564,850
助成事業収入	1,346,719	1,353,102	6,383
公演事業収入（注2）	2,763,094	2,692,150	△ 70,944
研修事業収入	36,119	31,186	△ 4,933
調査研究事業収入	11,115	9,750	△ 1,365
国立劇場おきなわ事業収入	1,994	2,307	313
新国立劇場事業収入	260,331	249,486	△ 10,845
受託事業収入（注3）	12,413	30,112	17,699
一般管理収入	21,436	10,361	△ 11,075
計	19,560,836	18,900,547	△ 660,289
支出			
文化芸術振興費（注4）	3,742,472	3,575,648	166,824
施設整備費（注1）	1,931,030	1,365,183	565,847
助成事業費	1,386,449	1,349,288	37,161
公演事業費（注5）	5,432,989	5,316,981	116,008
研修事業費	427,698	374,502	53,196
調査研究事業費	658,796	629,888	28,908
国立劇場おきなわ事業費	662,988	665,269	△ 2,281
新国立劇場事業費	4,236,393	4,204,268	32,125
受託事業費（注3）	12,413	24,686	△ 12,273
一般管理費（注6）	1,069,608	1,170,147	△ 100,539
計	19,560,836	18,675,861	884,975

（注記）計数は、それぞれ四捨五入により単位未満を処理しているため、合計において一致しない場合がある。

主な増減理由

（注1）平成26年度補正予算事業の翌年度繰越による減

- (注2) 劇場入場料の減  
(注3) 受託事業の増  
(注4) 助成金の減額・要望の取下げによる減  
(注5) 出演費・舞台費等の公演費の減  
(注6) 退職手当の増

(2) 収支計画

(単位：千円)

区 分	計画額	実績額	増△減
費用の部			
基金助成事業費(注1)	5,129,000	4,929,696	△ 199,304
公演事業費(注2)	5,183,000	5,063,844	△ 119,156
研修事業費	366,000	372,492	6,492
調査研究事業費	569,000	589,248	20,248
国立劇場おきなわ公演等事業費	644,000	653,302	9,302
受託事業費	13,000	24,686	11,686
新国立劇場公演等事業費(注3)	3,926,000	3,813,250	△ 112,750
一般管理費	1,032,000	1,108,546	76,546
減価償却費(注4)	1,109,000	993,476	△ 115,524
固定資産除却損	0	526	526
計	17,971,000	17,549,066	△ 421,934
収益の部			
基金助成事業収入	5,129,000	4,937,174	△ 191,826
公演事業収入	5,183,000	5,318,267	135,267
研修事業収入	366,000	373,803	7,803
調査研究事業収入	569,000	624,572	55,572
国立劇場おきなわ公演等事業収入	644,000	661,910	17,910
受託事業収入	13,000	30,112	17,112
新国立劇場公演等事業収入	3,926,000	3,875,742	△ 50,258
一般管理収入	1,032,000	1,168,416	136,416
資産見返運営費交付金戻入(注4)	1,109,000	632,436	△ 476,564
資産見返寄附金戻入	0	23,612	23,612
計	17,971,000	17,646,044	△ 324,956
純利益	0	96,978	96,978
積立金取崩額	0	0	0
総利益	0	96,978	96,978

主な増減理由

- (注1) 助成金の減額・要望の取下げによる減  
(注2) 出演料、舞台費等の公演費の減  
(注3) 固定資産取得の増  
(注4) 取得資産の減少等

(3) 資金計画

(単位：千円)

区 分	計画額	実績額	増△減
資金支出	33,029,000	42,719,619	9,690,619
業務活動による支出(注1)	25,772,000	32,455,389	6,683,389
投資活動による支出(注2)	2,699,000	3,819,652	1,120,652
財務活動による支出(注3)	0	233,019	233,019
翌年度への繰越金	4,558,000	6,211,559	1,653,559
資金収入	33,029,000	42,719,619	9,690,619
業務活動による収入	26,540,000	33,381,031	6,841,031
運営費交付金による収入	9,434,000	9,434,113	113
文化芸術振興費補助金による収入	3,742,000	3,721,801	△ 20,199

公演事業による収入	3,013,000	2,679,017	△ 333,983
受託事業による収入	13,000	14,383	1,383
基金運用による収入	1,330,000	1,342,320	12,320
その他の収入（注4）	9,008,000	16,189,397	7,181,397
投資活動による収入	1,931,000	2,862,127	931,127
施設整備費補助金による収入	1,931,000	762,127	△ 1,168,873
その他の収入（注5）	0	2,100,000	2,100,000
財務活動による収入	0	830,008	830,008
民間出えん金受入れによる収入	0	830,008	830,008
前年度よりの繰越金	4,558,000	5,646,454	1,088,454

主な増減理由

- (注1) 有価証券、投資有価証券の取得による支出増  
(注2) 有価証券、投資有価証券の取得による支出増  
固定資産取得減少による支出減  
(注3) リース債務の返済による支出  
(注4) 投資有価証券の償還、長期性預金の払戻による収入増  
(注5) 長期性預金の払戻による収入増

2. 剰余金

- (1) 損益計算の結果、26事業年度の当期純利益は96,978千円である。  
(2) 損失が生じた主な理由

[収入支出決算]

- ① 助成事業において、43,544千円の収支差増が生じた。その主な内容は次のとおり。

(増要因)

- ・ 助成事業収入のうち基金運用収入の12,851千円の収入増
- ・ 助成事業費のうち助成金の減額等による19,860千円の支出減
- ・ 助成事業費のうち業務委託費などの業務経費の12,339千円の支出減

(減要因)

- ・ 助成事業収入のうち交付決定取消等による過年度助成金返還の減による5,800千円の収入減

- ② 公演事業において、45,064千円の収支差増が生じた。その主な内容は次のとおり。

(増要因)

- ・ 公演事業収入のうち劇場使用料収入の41,630千円の収入増
- ・ 公演事業費のうち歌舞伎公演、文楽公演などの公演費の165,688千円の支出減
- ・ 公演事業費のうち解説書作成費などの附帯事業費の31,969千円の支出減

(減要因)

- ・ 公演事業収入のうち歌舞伎公演、文楽公演などの劇場入場料収入の142,009千円の収入減
- ・ 公演事業収入のうち解説書収入などの附帯事業収入の10,204千円の収入減

- ③ 新国立劇場事業において、自己収入を財源とする新国立劇場公演等委託費の減額などによる21,280千円の収支差増が生じた。

- ④ 一般管理費において、自己都合退職に伴う退職金により100,539千円の支出増が生じた。

[損益計算]

- ⑤ 自己財源で取得した資産の減価償却により31,917千円の支出増が生じた。  
⑥ 前期末収収益より今期末収収益が減少したことにより29,207千円の収益減が生じた。  
⑦ 文化芸術振興費補助金精算に伴う返還金の発生により、146,153千円の収益減が生じた。

3. 運営費交付金債務

- (1) 27年3月31日現在における運営費交付金債務残高は213,493千円である。 (単位：千円)

区分	期首残高/受入額	費用進行基準 による振替額	会計基準第81第3 項による収益化額	期末残高
平成25年度運営費交付金	301,482	149,310	0	152,172
平成26年度運営費交付金	9,434,113	9,372,792	0	61,321

計	9,735,595	9,522,102	0	213,493
---	-----------	-----------	---	---------

(2) 期末残高のうち繰り越して執行する運営費交付金債務の主な内容は次のとおりである。

(平成 27 年度執行予定)

- ・ 施設改修工事 (127,209 千円)
- ・ 舞台設備改修工事 (50,997 千円)
- ・ 情報基盤整備 (15,890 千円)

4. 外部資金の獲得状況 (52 件、891,848 千円)

- ・ 文化庁芸術祭祝典等の受託事業収入 (3 件、30,112 千円)
- ・ 文化庁芸術祭主催公演等における負担金による収入 (8 件、26,521 千円)
- ・ 芸術文化復興支援基金への募金 (33 件、5,207 千円)
- ・ 芸術文化復興基金に対する民間出せん金 (8 件、830,008 千円)

5. 短期借入金

なし

《自己点検評価》

○ 自己評定

・ 総合評定

B
---

(根拠)

- ・ 管理業務の効率化の実現のため、効率的な業務運営を見込んだ予算の策定及び執行管理を行った。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 基金管理運用において、安定性・安全性を重視しつつ有利な運用が行えるよう情報収集に努めた結果、基金運用収入が計画に対し 12,851 千円の増額となった。
- ・ 公演事業において、入場料収入や附帯事業収入は実績額が予算を下回ったが、公演費や附帯事業費の削減や劇場使用料収入の増加により、45,064 千円の収支差増となった。
- ・ 一般管理費において、自己都合退職者が比較的多く、100,539 千円の支出増となった。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 入場料収入や施設使用料収入のより一層の増収を図るとともに、引き続き外部資金の獲得に努める。

## IV その他主務省令で定める業務運営に関する事項

《中期計画の概要》

### IV 短期借入金の限度額

短期借入金の限度額は、10億円。

### V 不要財産又は不要財産となることが見込まれる財産

不要財産又は不要財産となることが見込まれる財産の処分に関する計画はない。

### VI 重要な財産の処分等に関する計画

重要な財産を譲渡、処分する計画はない。

### VII 剰余金の使途

決算において剰余金が発生したときは、次の経費等に充てる。

- 1 助成事業の充実
- 2 公演事業の充実
- 3 伝統芸能伝承者養成事業・現代舞台芸術実演家等研修事業の充実
- 4 調査研究・資料の収集活用・公演記録の作成活用等事業の充実
- 5 研修器具、芸能資料等の購入・修理
- 6 観劇者サービス、情報提供の質的向上、老朽化対応等のための施設・設備の充実

### VIII その他主務省令で定める業務運営に関する事項

#### 1 人事に関する計画

##### (1) 方針

ア 職員の計画的、適正な配置、効果的な人事交流を実施

イ 次の取組により、事務能率の維持、増進

- ① 職員に対する実務研修等の充実
- ② 適切な労務管理の実施

##### (2) 人員に係る指標

常勤職員について人件費を抑制

(参考) 中期目標の期間中の人件費見込み 10,006百万円

(役員報酬並びに職員基本給、職員諸手当及び超過勤務手当に相当する範囲の費用)

#### 2 施設及び設備に関する計画

各劇場等施設の長期的な視野に立った整備計画を策定、施設・設備に関する計画に沿った整備を推進  
国立劇場本館が開場以来50年を経過することに鑑み、事業の安定的、継続的实施のため、整備の実施計画を策定し、改修工事に着手

#### 3 積立金の使途

前期中期目標の期間の最終年度において、独立行政法人通則法第44条の処理を行ってなお積立金があるときは、文部科学大臣の承認を受け、次の必要な費用に充てることとする。

- (1) やむを得ない事由により前期中期目標期間中に完了しなかった業務
- (2) 芸術文化振興基金の運用収入を充てるべき業務
- (3) 次期へ繰り越した経過勘定損益影響額等に係る会計処理
- (4) 自己財源により取得した固定資産の未償却残高相当額に係る会計処理

#### 4 その他振興会の業務の運営に関し必要な事項

- (1) 国立劇場おきなわの管理運営については、沖縄芸能・文化の独自性とその伝統を活かし、地方自治体等地元の協力を得るため、公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団に委託  
新国立劇場の管理運営についても、芸術家、芸術団体等の創意、工夫を取り入れるとともに民間等の協力を得るため、公益財団法人新国立劇場運営財団に委託  
なお、委託に当たっては、経費の見直しや自己収入の確保等の方策により収支構造の改善等に計画的に取り組むとともに、契約内容の検証を行い、更に効率化
- (2) 「公共サービス改革基本方針」（平成24年7月20日閣議決定）に基づき、劇場等の管理・運営等業務について、民間競争入札の実施の可否等を引き続き検討

《年度計画の概要》

IV 短期借入金の限度額

運営費交付金の受入の遅延が生じた場合、短期借入金の限度額（10億円）の範囲内で借り入れを行う。

V その他主務省令で定める業務運営に関する事項

1 人事に関する計画

- (1) 職員の計画的、適正な配置、外部機関との人事交流、多様な人材を確保・育成
- (2) 各種研修による各職員の能力開発、専門性の確保及び意識改革、適切な労務管理を実施

2 施設・設備に関する計画

- (1) 長期的な視野に立った整備計画を策定、別紙4の施設・設備に関する計画に沿った整備を推進  
国立劇場本館・演芸場の改修について、基本計画を策定
- (2) 整備内容の検討及び実施

3 その他振興会の業務の運営に関し必要な事項

公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団及び公益財団法人新国立劇場運営財団への運営委託  
収支構造の改善等への取組、契約内容の検証

《主要な業務実績》

1. 人事に関する計画

- ・ 国の機関、国立大学法人、国立劇場おきなわ運営財団及び新国立劇場運営財団との人事交流を実施
- ・ 業務に必要な専門的知識の習得のため、内部研修や外部研修を積極的に導入
- ・ 産業医、外部機関と連携し、職員のメンタル不全対策を実施

2. 施設及び設備に関する計画

- ・ 国立劇場等大規模改修基本計画を策定
- ・ 国立演芸場の老朽化した空調用の屋外冷温水発生機ユニットを更新など、老朽化への対応・利用者の利便性の向上のための整備を実施

3. 積立金の使途

- ・ 積立金の使用の実績なし

4. その他振興会の業務運営に関し必要な事項

- ・ 国立劇場おきなわ及び新国立劇場の運営委託を適切に実施
- ・ 「公共サービス改革基本方針」（平成26年7月11日閣議決定）に基づき、振興会が設置する劇場等の管理・運営等業務について民間競争入札（市場化テスト）導入の可否等を検討するため、同業務に係る業務フロー・コスト分析を実施し、官民競争入札等監理委員会に報告

《自己点検評価》

○ 自己評定

・ 項目別評定

人事に関する計画	施設及び設備に関する計画	積立金の使途	その他振興会の業務運営に関し必要な事項
B	B	—	B

・ 総合評定

B
---

(根拠)

- ・ 新規採用のほか、国の機関、国立大学法人等との人事交流を実施することにより、多様な人材の確保、育成を実施した。
- ・ 国立劇場等大規模改修基本計画の策定を計画的に実施した。
- ・ 国立劇場おきなわ及び新国立劇場の運営委託について、継続的に効率化を図りつつ、適切に運営した。
- ・ 振興会が設置する劇場等の管理・運営等業務に関しては、業務フロー・コスト分析の結果、民間事業者を活用した業務の再配分等、振興会の取組による業務改善が図られていることが確認され、官民競争入札等監理委員会の結論として、同業務については民間競争入札（市場化テスト）の対象とはせず、振興会が引き続きその実施に当たることとなった。

- 良かった点・特色ある点
  - ・ (人事に関する計画) 外部研修の積極的な導入を図り、業務に必要な専門知識を集中的に学ぶ機会を得た。
  - ・ (施設及び設備に関する計画) 国立劇場等隼町地区の施設・設備の大規模改修について、スケジュール変更に対応し、基本計画策定を進めることができた。
- 見直し又は改善を要する点
  - ・ 26 年度に実施したストレスチェックの結果を、次年度以降の労務管理の参考にするとともに、研修内容や専門医との面談について検討し、より効果的なメンタル不全対策の実施を図る。

#### IV-1 人事に関する計画

##### 《主要な業務実績》

- ・ 国の機関、国立大学法人、国立劇場おきなわ運営財団及び新国立劇場運営財団との人事交流を実施
- ・ 内部研修や外部研修を積極的に導入
- ・ 産業医、外部機関と連携し、職員のメンタル不全対策を実施

##### 《業務実績詳細》

#### 1. 職員の計画的・適正な配置、適切な人事交流の実施、多様な人材の確保・育成

- ・ 26年度は、新規採用の一般事務職員、舞台技術職員、中途採用の58歳以上を対象とした一般事務職員を採用した。また、27年度は、これらの採用に加え、新たに任期付きの事務員の採用を予定している。
- ・ 国の機関、国立大学法人等との人事交流を実施し、多様な人材の確保によって組織の活性化を図った。
- ・ 国立劇場おきなわ運営財団及び新国立劇場運営財団の要請により振興会職員を派遣し、両財団における円滑な委託業務の実施に資することができた。

(受入)

国の機関及び国立大学法人から出向者の受入 (10人)

(派遣)

国の機関への職員の派遣 (2人)

国立劇場おきなわ運営財団への職員の派遣 (4人)

新国立劇場運営財団への職員の派遣 (14人)

#### 2. 研修の実施による職員の能力開発、職員の専門性の確保、適切な労務管理の実施

##### (1) 職員研修の実施

- ・ 新規採用職員を対象とした観客サービス研修・電話マナー研修や、営業部門の職員を対象とした接客研修を行い、職員の能力を向上させるとともに、顧客サービスの充実を図った。
- ・ 採用後2年以内の職員を対象とした公演研修を行い、専門的知識の習得と意識の向上を図った。併せて、採用後3年以内の職員を対象として、各部課長を講師とした業務研修を行い、振興会の業務全体の理解を促した。
- ・ 舞台技術部門の職員について、振興会内の技術の継承に努めるとともに、舞台安全、最新技術等についての外部研修を積極的に利用した。
- ・ 若手職員への国語表記研修を実施し、振興会が作成する文書における国語表記の適正化を図った。
- ・ 情報セキュリティの向上を図るため、全職員を対象として、振興会情報セキュリティポリシーに基づき、情報セキュリティ研修を実施した。また、全職員を対象としてパソコン研修を実施し、事務作業に必要な知識、技術の習得を図った。
- ・ 施設整備研修を実施し、技術的諸課題及び予算、契約等の事務執行について、共通の理解を深めるとともに効率的な業務実施を図った。
- ・ 経理部門所属職員が講師となり、各課の経理業務を担当している職員に対して、評価制度・収入支出業務・契約業務等についての経理関係業務研修を実施し、知識の習得に努めた。
- ・ 文楽劇場では、特に専門性が求められる文楽技術室に勤務する非常勤も含めた若手職員を地方公演や東京公演に同行させ、他劇場公演の対応方法等のOJT研修を行い、技術の継承を図った。
- ・ その他、内部研修や外部研修の積極的な導入を行い、業務に必要な専門的知識の習得に努めた。

##### (2) 職員の専門性の確保

- ・ 職員の専門性の確保を図るため、新規採用職員に対し、20年度より実施している公演研修を26年度もを行い、伝統芸能の公演制作過程の実習を行うとともに観劇レポートの提出を課題とする新人研修を実施した。
- ・ 採用2年次の職員についても能楽や舞踊、邦楽等の公演に関する事前レクチャーと観劇及びレポート作成を義務付け、加えて25年度に引き続き振興会が行う教員免許状更新講習の「伝統芸能にみる日本のこころ」を聴講させた。
- ・ 舞台技術部門の若手職員については、振興会内での教育、技術の継承に加え、外部研修も利用し、大道具事業協議会主催の「第6回大道具研修会」に参加し、専門性の確保に努めた。

- ・ 文楽技術室の衣裳担当においては、23年度に非常勤職員（アルバイト）、24年度に嘱託職員として勤務した者を、25年度から常勤職員として採用し、組織内での技術指導を行った。
- ・ また、文楽技術室のかしら担当及び小道具担当において24年度に非常勤職員（アルバイト）、25年度から嘱託職員として勤務した者を、26年度に常勤職員として採用した。引き続き、組織内での技術指導を行い、技術の伝承に努める。

### (3) 適切な労務管理の実施

- ・ 引き続き、心の健康に関する相談窓口業務を外部専門業者に委託し、連携を密にしながら電話・メール・面談等によってプライバシーの保護に配慮し気軽に相談できる環境を整えた。
- ・ 24年度より医務室の医師に委嘱しているメンタルヘルスの専門医と連携し、メンタル不全者の復職支援、相談業務、課長補佐級以上を対象とした研修等を実施した。
- ・ 職員のストレスチェックを実施するとともに、入職4、7、10年目の職員に対して専門のカウンセラーによる個別面談を実施した。併せて、ストレスチェックの結果が良好でない若年層に対して、人事労務課職員による個別面談を実施し、若年層職員の心の健康維持を図った。

### 《自己点検評価》

#### ○ 自己評定

##### ・ 総合評定

B
---

(根拠)

- ・ 新規採用の一般事務職員、舞台技術職員、中途採用の58歳以上を対象とした一般事務職員を採用するとともに、国の機関、国立大学法人等との人事交流を実施することにより、多様な人材の確保、育成を実施した。
  - ・ 内部研修や外部研修の積極的な導入を行い、各職員の能力開発を実施した。
  - ・ 若手の一般事務職員については、公演研修により専門性の確保を図った。若手の舞台技術職員については、業務を通じての教育、技術の継承に加え、外部の研修会に参加させることで、専門性の確保を図った。
  - ・ 心の健康に関する相談窓口の設置、メンタルヘルスを専門とする産業医による面談及び研修会、ストレスチェックの実施及びその結果を受けての外部カウンセラー、人事労務課職員による個別面談の実施により、適切な労務管理を実施した。
- 良かった点・特色ある点
- ・ 外部研修の積極的な導入を図り、業務に必要な専門知識を集中的に学ぶ機会を持った。
  - ・ 24年度より委嘱しているメンタルヘルスの専門医と連携し、休職者の復職支援に注力し、円滑な職場復帰を進めることができた。
  - ・ ストレスチェックを実施するとともに、その結果を受け、迅速に職員の個別面談を実施し、ストレスの軽減を図り良好な職場環境を目指した。
- 見直し又は改善を要する点
- ・ 26年度に実施したストレスチェックの結果を、次年度以降の労務管理の参考にするとともに、研修内容や専門医との面談について検討し、より効果的なメンタル不全対策の実施を図る。

## IV-2 施設及び設備に関する計画

### 《主要な業務実績》

- ・ 国立演芸場の老朽化した空調用の屋外冷温水発生機ユニットを更新
- ・ 国立劇場等大規模改修基本計画を策定

### 《業務実績詳細》

#### 1. 施設整備費補助金による施設・設備の整備等

- ・ 国立劇場等天井落下防止対策補強工事 117,926千円
- ・ 国立劇場等舞台機構改修工事 72,831千円
- ・ 国立劇場等大規模改修基本計画策定業務 45,114千円
- ・ 国立文楽劇場舞台吊物機構更新工事 84,240千円
- ・ 国立文楽劇場舞台所作台設備更新工事 46,674千円
- ・ 国立文楽劇場小ホール音響調整卓設備更新工事 50,760千円
- ・ 国立劇場おきなわ大劇場吊物機構インバーター電源更新工事 30,564千円
- ・ 新国立劇場便所洋風便器等改修工事 108,830千円
- ・ 新国立劇場（オペラ劇場）舞台機構設備基板改修工事 132,721千円
- ・ 新国立劇場インターカム設備更新工事 364,986千円
- ・ 新国立劇場（オペラ劇場）ムービングライト設備更新工事 311,504千円

#### 2. 運営費交付金による施設・設備の整備等

- ・ 国立劇場本館便所等天井アスベスト除去工事 8,710千円
- ・ 国立劇場大小劇場吊物機構改修工事 35,640千円
- ・ 国立演芸場冷温水発生機ユニット更新工事 22,572千円
- ・ 国立文楽劇場空調用ポンプ他更新 13,608千円
- ・ 国立劇場おきなわ袖幕更新 5,763千円
- ・ 新国立劇場楽屋食堂等厨房器具更新工事 22,648千円
- ・ 新国立劇場舞台美術センター資料館他空調設備改修工事 15,520千円
- ・ 新国立劇場階段通路誘導灯改修工事 6,887千円

#### 3. 長期的な視野に立った整備方針の検討

- ・ 国立劇場等の施設・設備は、経年により老朽化が進んでおり、大規模改修までの間、劇場運営において安全性を確保するため、予防保全を目指して計画的に保守・点検等を行うこととしている。
- ・ 施設・設備の維持管理等については、27年3月に策定された「文部科学省インフラ長寿命化計画（行動計画）」を踏まえ、長寿命化に向け自主的に取組を推進する必要がある。
- ・ 国立劇場本館・演芸場等準町地区の施設・設備（以下、国立劇場等）の大規模改修の推進のため、国立劇場等大規模改修推進委員会及び国立劇場等大規模改修推進本部を設置した。
- ・ 国立劇場等大規模改修の基本構想を外部有識者の意見等を踏まえて策定し、第1回役員会（26年4月7日開催）において決定した。
- ・ 東京オリンピック・パラリンピック文化プログラムへの参加による大規模改修着工時期の延期のため、国立劇場等大規模改修基本構想の改修スケジュール変更について、第35回評議員会（6月26日開催）において了承され、第7回役員会（7月7日開催）において決定した。
- ・ 国立劇場等大規模改修の基本計画案を外部有識者の意見等を踏まえて策定し、第37回評議員会（3月26日開催）において了承された。

### 《自己点検評価》

#### ○ 自己評定

##### ・ 総合評定

B
---

(根拠)

- ・ 演芸場の空調熱源である冷温水の発生機ユニットについて、老朽化により故障が続いていたが、計画的に更新工事ができた。
- ・ 国立劇場等大規模改修基本計画の策定を計画的に実施した。

- 良かった点・特色ある点
  - ・ 演芸場の屋上に設置されていた施設・設備の更新工事を計画的に実施することができた。
  - ・ 新国立劇場のオペラ劇場、中劇場、小劇場の洋式便器に洗浄便座を取り付け、手洗い水道栓を自動水栓に整備するとともに、託児室利用者のために託児室横に子ども用トイレを設置し、観劇環境及び衛生環境の向上に努めた。
  - ・ 文化庁からの要請により、28年～32年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会に係る文化プログラムに参加し、国立の文化施設としての役割を果たすため、当初スケジュールを変更し、工事着工を同大会終了後に延期することを決定した。さらにこの変更に対応し、基本計画策定を進めることができた。
- 見直し又は改善を要する点
  - ・ 演芸場の施設・設備の更新工事に当たっては、公演日程との調整及び更新機器の搬入等計画について早期検討が必要である。

#### IV-3 積立金の使途

《業務実績詳細》

(単位：千円)

区分	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
通則法 44 条 1 項積立金	0	370,064	0	370,064
通則法 44 条 3 項積立金				
施設整備事業積立金	0	7,131	0	7,131
基金助成事業積立金	0	73,351	0	73,351
前中期目標期間繰越積立金	797,501	0	0	797,501
計	797,501	450,546	0	1,248,047

※ 通則法 44 条 3 項積立金の当期増加額は、前年度の未処分利益 450,546 千円のうち一部について主務大臣の承認を受けて施設整備事業積立金及び基金助成事業積立金に振り替えたものであり、それを除いた 370,064 千円を通則法第 44 条第 1 項積立金に振り替えております。

《自己点検評価》

○ 自己評定

・ 総合評定

—

(根拠)

- ・ 積立金の使用の実績はない。

#### IV-4 その他振興会の業務運営に関し必要な事項

##### 《主要な業務実績》

- ・ 国立劇場おきなわ及び新国立劇場の運営委託を適切に実施
- ・ 「公共サービス改革基本方針」(平成26年7月11日閣議決定)に基づき、振興会が設置する劇場等の管理・運営等業務について民間競争入札(市場化テスト)導入の可否等を検討するため、同業務に係る業務フロー・コスト分析を実施し、官民競争入札等監理委員会に報告

##### 《業務実績詳細》

#### 1. 国立劇場おきなわ運営委託(公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団)

##### (1) 委託契約の状況

26年4月1日付けで、26年4月1日から27年3月31日までの組踊等沖縄伝統芸能に係る業務及び劇場の管理運営に関する業務委託契約について600,319,000円を限度として締結した。委託費の確定額は600,319,000円である。

##### (2) 委託内容

- ① 沖縄伝統芸能等の公演
- ② 組踊(立方・地方)伝承者の養成
- ③ 沖縄伝統芸能に関して調査研究を行い、また資料を収集し、利用に供すること
- ④ 劇場施設を沖縄伝統芸能の振興又は普及を目的とする事業その他のための利用に供すること
- ⑤ 劇場施設の管理運営
- ⑥ 前各号の業務に附帯する業務

##### (3) 運営に関する協議及び報告の状況

- ① 業務委託に係る規程の改正等を協議
- ② 各四半期終了後に受託業務状況報告書を受領
- ③ 委託期間終了後に受託業務実績報告書を受領
- ④ 固定資産取得報告書及び不用通知書を受領

##### (4) 運営委託の方針・連絡体制の整備等

- ・ 財団の業務内容が振興会の年度計画に従い効率的に実施され、かつ成果が挙がるよう、25年度に引き続き東京における職員の研修を実施した。
- ・ 運営財団の業務が業務委託契約書に定める事業計画書及び収支計画書に沿った形で実施されていることについて、意見交換や受託業務状況報告書により、検証を行っている。また、財団の理事会、評議員会には常に振興会職員が出席するなど、連絡体制の強化に努めている。

##### (5) 効率化状況等

##### ① 効率化状況等

- ・ 委託費の状況

(単位：千円)

年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
金額	617,157	616,640	610,162	617,897	600,319
前年度比	92.7%	99.9%	98.9%	101.3%	97.2%

##### ② 委託先における業務の効率化等

##### ア 効率化に関する取組

##### a. 情報システムの活用

財団内のネットワークシステムを活用し、関係者への迅速な連絡、スケジュール管理及び供用施設の予約状況の確認を行うことで、財団全体の情報共有化を図り、業務効率を向上させる工夫を行った。また現行のチケット販売システムでは利用者の増加や支払方法の多様化などに十分な対応ができないことから、新システムを導入する準備を開始した。

##### b. 事務手続きの簡素化

複数年契約の導入を推進し、入札業務の簡素化に努めた。

##### c. 外部委託の推進

入札公告などは劇場敷地内に掲示するとともに、ホームページで競争入札参加に必要な公示(入札参加資格等入札情報を含む入札公告等)を掲載し、入札機会の拡大を図った。さらに27・28年

度の舞台技術常駐業務、携帯電話等機能抑止業務の複数年契約の実施に向けて準備を行い、効率的な外部委託を推進した。

d. 省エネルギー、リサイクルの推進

ペーパーレス化について、会議資料等の両面コピー及び両面印刷を実施している。

事項	区分	使用量/処理量	対前年度増減
光熱水量	電気使用量	2,441,143kwh	3.6%
	ガス使用量	23,062 m <sup>3</sup>	△27.4%
	水道使用量	4,386 m <sup>3</sup>	△10.6%
廃棄物	一般廃棄物	2,530kg	△25.8%
	産業廃棄物	930kg	—
ペーパーレス化	コピー枚数	685,710 枚	△18.0%
	用紙購入枚数	640,000 枚	△3.4%

・ 産業廃棄物は使用済み蛍光管等の廃棄（前年度実績 0kg）

イ 情報開示の推進

公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団の業務及び財務等に関する情報を開示するため、ホームページにより以下の情報を公開している。

定款、役員名簿、事業報告書、正味財産増減計算書、貸借対照表、財産目録、事業計画書、収支予算書、委託に係る事業概要、組織図、事務分掌

2. 新国立劇場運営委託（公益財団法人新国立劇場運営財団）

(1) 委託契約の状況

26年4月1日付けで26年4月1日から27年3月31日までの現代舞台芸術の公演等及び劇場の管理運営に関する業務委託契約について3,826,811,000円を限度として締結した。委託費の確定額は3,826,811,000円である。

(2) 委託内容

- ① 現代舞台芸術の公演
- ② 現代舞台芸術の実演家その他関係者の研修
- ③ 現代舞台芸術に関して調査研究を行い、資料を収集し、利用に供すること
- ④ 劇場施設を現代舞台芸術の振興又は普及を目的とする事業その他のための利用に供すること
- ⑤ 劇場施設の管理運営
- ⑥ 附帯する業務

(3) 運営に関する協議及び報告の状況

- ① 業務委託契約に関する規程の改正を協議
- ② 各四半期終了後に受託業務状況報告書を受領
- ③ 委託期間終了後に受託業務実績報告書を受領
- ④ 固定資産取得報告書及び不用通知書を受領

(4) 運営委託の方針・連絡体制の整備等

運営財団の業務が業務委託契約書に定める事業計画書及び収支計画書に沿った形で実施されていることについて、定期及び随時に行う業務に関する意見交換や受託業務状況報告書により、検証を行っている。また、財団の主要な会議には常に振興会職員が出席するなど、連絡体制の強化に努めている。

(5) 効率化状況等

① 効率化状況等

・ 委託費の状況

(単位：千円)

年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
金額	4,306,857	4,013,428	3,977,840	3,778,596	3,826,811
前年度比	89.5%	93.2%	99.1%	95.0%	101.3%

② 委託先における業務の効率化等

ア 効率化に関する取組

a. 情報システムの活用

- ・ 情報基盤及び情報の活用に於けるセキュリティ確保を組織的に行うための基礎となる情報セキュリティポリシーの整備に向けた検討を行った。
  - ・ 情報基盤及び情報の整備、運用及び管理をより安全且つ合理的に行うための統一的なマニュアル整備を行った。
  - ・ 会計システムの改修を行い、予算管理の機能を整備することで各部署が予算執行状況をリアルタイム且つ適切に把握できるようになった。
  - ・ 営業システムの改修を行い、お客様からの注文の変更依頼を受けた場合に、担当者自らが即座にその手配をシステム上で行えるようになり、お客様への対応の迅速性を格段に向上させることができた。また、注文の状況を詳細且つ見やすく表示できるようにし、お客様への応対及び状況管理をより確実に行えるようになった。
  - ・ 会議室、各劇場の主催者控室、ボックスオフィス等の各所に対してネットワーク配線及びネットワーク機器の設置を新規に行い、職員が情報基盤を利用して効率的に会議・事務作業を行えるようにした。また、施設利用の主催者等の利便性の向上も実現することができた。
  - ・ グループウェア上に部署サイト、会議室管理、スケジュール共有等の機能を導入し、財団内での情報の共有を促進することができた。
- b. 事務手続きの簡素化
- ・ 情報基盤の積極的な利用の推進及びそのためのマニュアルを整備することにより、事務手続きの簡素化を図った。
- c. 随意契約の見直し及び外部委託の推進
- 外部委託のうち、委託業務 14 件、物品の製造、販売、工事等 8 件の合計 22 件について一般競争入札を行った。また、すでに過年度に一般競争入札あるいは総合評価落札方式による複数年契約を行った委託業務が 23 件あるので、外部委託全 49 件のうち、45 件が一般競争入札等による契約を行ったことになる。
- d. 省エネルギー、リサイクルの推進

事項	区分	使用量/処理量	対前年度増減
光熱水量	電気使用量	6,746,476kwh	2.5%
	ガス使用量	5,818 m <sup>3</sup>	△4.5%
	水道使用量	13,072 m <sup>3</sup>	△2.5%
廃棄物	一般廃棄物	39,772kg	2.5%
	再利用廃棄物	36,313kg	△3.0%
	産業廃棄物	17,320kg	△21.8%
ペーパーレス化	コピー枚数	1,224,472 枚	△9.2%
	用紙購入枚数	2,680,200 枚	△13.6%

なお、光熱水量については、地域冷熱（冷水、蒸気）が大きなウエイトを占めるが、地域冷熱の使用量の節減に努め、基本料金（契約量）の低減につなげている。地球温暖化対策計画においても、省エネルギー対策を目標以上に実施している。

イ 給与水準の適正化等

- ・ 新国立劇場運営財団の職員給与については、振興会職員給与規程に準拠した規程を整備し、適正に執行している。
- ・ 国家公務員の給与見直しに対応する振興会の措置に準じ、26 年 12 月給与において、26 年 4 月 1 日に遡って、職員給与について若年層に重点を置き平均 0.3%改定し、期末・勤勉手当につき、年間 0.15 月分引き上げ勤勉手当に配分することとした。

ウ 組織機構の変更

- ・ 25 年 12 月に設置した外部の有識者委員 5 名による研修事業委員会について、第 1 回を 5 月 23 日に、第 2 回を 3 月 23 日に開催したほか、各研修公演にて委員によるレポートを得、研修事業の一層の充実を図るべく、実演家研修に係る事業計画、事業評価について意見を聴取した。

エ 情報開示の推進

- ・ 公益財団法人新国立劇場運営財団の業務及び財務等に関する情報を開示するため、ホームページにより以下の情報を公開している。

定款、役員名簿、事業報告、収支計算書、正味財産増減計算書、キャッシュ・フロー計算書、

### 3. 民間競争入札の検討

- ・ 「公共サービス改革基本方針」（平成26年7月11日閣議決定）に基づき、振興会が設置する劇場等の管理・運営等業務について民間競争入札（市場化テスト）導入の可否等を検討するため、同業務に係る業務フロー・コスト分析を実施し、官民競争入札等監理委員会に報告した。分析結果から、民間事業者を活用した業務の再配分等、振興会の取組による業務改善が図られていることが確認され、官民競争入札等監理委員会の結論として、同業務については民間競争入札（市場化テスト）の対象とはせず、振興会が引き続きその実施に当たることとなった。

#### 《自己点検評価》

##### ○ 自己評定

##### ・ 総合評定

B
---

##### (根拠)

- ・ 国立劇場おきなわ及び新国立劇場の運営委託について、継続的に効率化を図りつつ、適切に運営した。
  - ・ 両財団の運営状況の検証、振興会との連絡体制の強化に引き続き努めた。
  - ・ 「公共サービス改革基本方針」（平成26年7月11日閣議決定）に基づき、振興会が設置する劇場等の管理・運営等業務について民間競争入札導入の可否等を検討するため、同業務に係る業務フロー・コスト分析を実施し、官民競争入札等監理委員会に報告した。
- 良かった点・特色ある点
- ・ 一般競争入札等の推進により外部委託の効率化が図られた。従来一者応札であったところに新規参入がある調達も見られ、入札を継続することの有用性を示せた。引き続き、仕様や公示方法の見直しを行い、競争を活性化させたい。
  - ・ 光熱水量については、各部署において節約に努めた。また地球温暖化対策計画において、省エネルギー対策目標を達成出来た。
- 見直し又は改善を要する点
- ・ 一般競争入札等による効率的な外部委託を推進しているが、業務内容の変化への対応など、業務の質を担保した入札とするのは困難な場合もある。これに対応するため、引き続き、企画提案型の導入など、調達方法の多様化を進めていきたい。
  - ・ 省エネルギー、リサイクルの推進については、引き続き職員への啓発活動や協力要請を重ねて行う。
  - ・ 情報セキュリティポリシーの策定及び実施により、情報基盤及び情報の活用におけるセキュリティ確保を組織的に行っていきたい。

---

独立行政法人日本芸術文化振興会

## 平成 26 事業年度業務実績報告書

平成 27 年 6 月 30 日発行

発行：独立行政法人日本芸術文化振興会（Japan Arts Council）

編集：総務企画部計画課

〒102-8656 東京都千代田区隼町 4 番 1 号

TEL：03-3265-7411（代表）／FAX：03-3265-8782

<http://www.ntj.jac.go.jp/>